

神原（2）遺跡

－ 県道小友板柳（停）線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

2013年3月

青森県教育委員会

神原（2）遺跡

－ 県道小友板柳（停）線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告 －

2013年3月

青森県教育委員会



遺跡遠景（南東から）



沢1完掘

(写真上が北)

口絵1



沢出土遺物



遺構内・遺構外出土遺物



小型土器（図 22 - 10）展開写真

撮影 小川 忠博



沢 1 出土
歯形跡が残る粘土塊（図 98 - 221）



遺構外出土弥生土器 赤色顔料塗布
（左から図 118 - 131 ~ 134）

口絵 2 遺物写真

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成23年度に県道小友板柳（停）線道路改良事業予定地内に所在する弘前市神原（2）遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代早期から晩期及び平安時代の遺構・遺物が発見されました。縄文時代では、前期中葉の捨て場が確認されたほか、中期から晩期にかけての住居跡、土坑などが発見され、各時期の集落の変遷・土地利用等を考える上で良好な集落であることが分かりました。平安時代では、丘陵縁辺部を巡ると考えられる溝跡等が発見され、調査区周辺に同時代の集落が広がっていることが分かりました。

本報告書は、平成23年度神原（2）遺跡発掘調査事業の調査成果をまとめたものです。この成果が今後、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、発掘調査の実施から出土品の整理、調査報告書の刊行にあたって御指導、御協力を賜りました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成25年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所長 柿崎隆司

例 言

- 1 本報告書は、青森県県土整備部道路課による県道小友板柳（停）線道路改良事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成23年度に発掘調査を実施した弘前市神原（2）遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は5,850㎡である。
- 2 神原（2）遺跡の所在地は、青森県弘前市大字小友字神原地内、青森県遺跡番号は、202281である。
- 3 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県県土整備部道路課が負担した。
- 4 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。
発掘調査期間 平成23年5月12日～10月26日
整理・報告書作成期間 平成24年4月1日～平成25年3月31日
- 5 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター鈴木文化財保護主幹、杉野森文化財保護主査、秦文化財保護主査、成田文化財保護主幹が担当し、文末に執筆者名を記した。依頼原稿については、文頭に執筆者名を記した。
- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については委託により実施した。

航空写真撮影	株式会社 シン技術コンサル
放射性炭素年代測定	株式会社 加速器分析研究所
遺物の写真撮影	シルバーフォト、フォトショップいなみ
石器の石質鑑定	調査員 山口義伸
土壌微化石分析	株式会社 バレオ・ラボ
樹種同定	株式会社 バレオ・ラボ
黒曜石産地同定	株式会社 バレオ・ラボ
土器の実測	株式会社 シン技術コンサル
石器の実測	株式会社 アルカ
- 7 発掘調査成果の一部は、発掘調査報告会において公表しているが、これと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれに優先する。
- 8 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 9 本書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、国土地理院発行の25,000分の1地形図「板柳」を複写・加工して使用した。
- 10 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
- 11 挿図中の方位は、すべて世界測地系の座標北を示している。
- 12 全体図等の縮尺は、調査区域図は1/2,500、遺構全体配置図は1/1,500、区割り図は1/250としたが、図ごとに適宜変更し、スケール等を示した。
- 13 遺構については、検出順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺構に使用した略号は、以

下のとおりである。

S I－竪穴住居跡、S K－土坑、S V－溝状土坑、S R－土器埋設遺構、S N－焼土遺構、
S B－掘立柱建物跡、S P－ピット、S D－溝跡、S X－性格不明遺構

屋外炉と捨て場を形成している沢は、略号を付けずに通し番号のみを付した。また、土器・石器
集中範囲も略号を付けず、遺物集中地点と呼称した。

- 14 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付した。
- 15 遺構実測図の縮尺は、原則として竪穴住居跡のカマド・炉跡、遺物出土状況等は1/30、竪穴
住居跡・土坑等は1/60とし、遺構の規模などにより適宜変更し、スケール等を付した。
- 16 遺構実測図に使用した網掛けの指示は、以下のとおりである。これ以外は図ごとに説明を付した。
焼土範囲  炭化物範囲  被熱範囲 
- 17 遺物分布図で使用している記号は下記の通りである。
土器：● 剥片石器：■ 礫石器：□ サンプル：▲
- 18 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。
- 19 基本土層・遺構内堆積土層の色調標記等には、『新版標準土色帖 2004・2005年度版』（小山正
忠・竹原秀雄）を使用した。
- 20 遺物は、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を付した。遺物に使用した略号は、以下の
とおりである。
P－土器 S－石器 C－炭化材
- 21 遺物実測図の縮尺は、原則として土器・土製品・礫石器は1/3、剥片石器は1/2に統一し、
挿図ごとにスケールを付した。
- 22 遺物実測図に使用した網掛けの指示は、図ごとに説明を付した。
- 23 遺物観察表・計測表に使用した略記号などについては、文章中または表中に指示内容を示した。
土製品・石器等の計測値は、長さ×幅×高さ（cm）・重さ（g）の順に表記したが、（ ）内の数値は
現存値である。
- 24 遺物写真には、遺物実測図と共通の図番号を付した。
- 25 遺物写真の縮尺は、不定である。
- 26 発掘調査及び整理・報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力・ご指導を得た（敬称
略、順不同。）

弘前市、弘前市教育委員会、長尾正義、三浦圭介、小笠原雅行、茅野嘉雄、藤澤珠織

目次

口絵	
序	
例言	
目次	
第1章 調査の概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の方法	1
1 発掘作業の方法	1
2 整理・報告書作成作業の方法	2
第3節 調査の経過	3
1 発掘作業の経過	3
2 整理・報告書作成作業の経過	4
第2章 遺跡周辺の地形及び地質について	8
第3章 検出遺構と出土遺物	19
第1節 検出遺構	19
1 竪穴住居跡	19
2 土坑	45
3 溝状土坑	77
4 土器埋設遺構	78
5 屋外炉・焼土遺構	78
6 掘立柱建物跡・ピット	78
7 性格不明遺構	80
8 溝跡	82
9 沢	86
第2節 遺構外出土遺物	134
第4章 理化学分析	156
第1節 放射性炭素年代測定	156
第2節 出土炭化材の樹種同定	160
第3節 花粉分析	165
第4節 プラント・オパール分析	167
第5節 珪藻化石群集	170
第6節 出土黒曜石製石器の産地推定	172
第5章 総括	176
引用・参考文献	181
遺構計測表	183
遺物観察表	188
写真図版	205
報告書抄録	

挿図目次

図1	遺跡位置図	6	図50	土坑出土遺物(2)	64
図2	調査区域図	7	図51	土坑出土遺物(3)	65
図3	地形分類図	9	図52	土坑出土遺物(4)	66
図4	枝谷1(沢1)土層	13	図53	土坑出土遺物(5)	67
図5	基本層序	13	図54	土坑出土遺物(6)	68
図6	遺構全体配置図	15	図55	土坑出土遺物(7)	69
図7	遺構配置図①	15	図56	土坑出土遺物(8)	70
図8	遺構配置図②	15	図57	土坑出土遺物(9)	71
図9	遺構配置図③	16	図58	土坑出土遺物(10)	72
図10	遺構配置図④	17	図59	土坑出土遺物(11)	73
図11	遺構配置図⑤	18	図60	土坑出土遺物(12)	74
図12	遺構配置図⑥	18	図61	土坑出土遺物(13)	75
図13	第1号竪穴住居跡	20	図62	土坑出土遺物(14)	76
図14	第2号竪穴住居跡(1)	21	図63	溝状土坑	77
図15	第2号竪穴住居跡(2)	22	図64	土器埋設遺構・屋外炉・焼土遺構	79
図16	第4号竪穴住居跡(1)	23	図65	掘立柱建物跡	81
図17	第4号竪穴住居跡(2)	24	図66	ピット	82
図18	第5号竪穴住居跡(1)	25	図67	掘立柱建物跡・ピット出土遺物	83
図19	第5号竪穴住居跡(2)	26	図68	性格不明遺構(1)	84
図20	第6号竪穴住居跡	28	図69	性格不明遺構(2)	85
図21	第7号竪穴住居跡(1)	30	図70	沢1	87・88
図22	第7号竪穴住居跡(2)	31	図71	沢1 土器出土状況	89
図23	第8号竪穴住居跡	32	図72	沢1 石器出土状況	90
図24	第9号竪穴住居跡	33	図73	沢2	91
図25	第12号竪穴住居跡(1)	35	図74	沢出土土器(1)	101
図26	第12号竪穴住居跡(2)	36	図75	沢出土土器(2)	102
図27	第12号竪穴住居跡(3)	37	図76	沢出土土器(3)	103
図28	第13号竪穴住居跡	38	図77	沢出土土器(4)	104
図29	第14号竪穴住居跡	41	図78	沢出土土器(5)	105
図30	第15号竪穴住居跡(1)	42	図79	沢出土土器(6)	106
図31	第15号竪穴住居跡(2)	43	図80	沢出土土器(7)	107
図32	第16号竪穴住居跡	44	図81	沢出土土器(8)	108
図33	土坑(1)	47	図82	沢出土土器(9)	109
図34	土坑(2)	48	図83	沢出土土器(10)	110
図35	土坑(3)	49	図84	沢出土土器(11)	111
図36	土坑(4)	50	図85	沢出土土器(12)	112
図37	土坑(5)	51	図86	沢出土土器(13)	113
図38	土坑(6)	52	図87	沢出土土器(14)	114
図39	土坑(7)	53	図88	沢出土土器(15)	115
図40	土坑(8)	54	図89	沢出土土器(16)	116
図41	土坑(9)	55	図90	沢出土土器(17)	117
図42	土坑(10)	56	図91	沢出土土器(18)	118
図43	土坑(11)	57	図92	沢出土土器(19)	119
図44	土坑(12)	58	図93	沢出土土器(20)	120
図45	土坑(13)	59	図94	沢出土土器(21)	121
図46	土坑(14)	60	図95	沢出土土器(22)	122
図47	土坑(15)	61	図96	沢出土土器(23)	123
図48	土坑(16)	62	図97	沢出土土器(24)	124
図49	土坑出土遺物(1)	63	図98	沢出土土製品、石器(1)	125

図99	沢出土石器 (2)	126
図100	沢出土石器 (3)	127
図101	沢出土石器 (4)	128
図102	沢出土石器 (5)	129
図103	沢出土石器 (6)	130
図104	沢出土石器 (7)	131
図105	沢出土石器 (8)	132
図106	沢出土石器 (9)	133
図107	遺物集中地点	140
図108	遺構外出土石器 (1)	141
図109	遺構外出土石器 (2)	142
図110	遺構外出土石器 (3)	143

図111	遺構外出土石器 (4)	144
図112	遺構外出土石器 (5)	145
図113	遺構外出土石器 (6)	146
図114	遺構外出土石器 (7)	147
図115	遺構外出土石器 (8)	148
図116	遺構外出土石器 (9)	149
図117	遺構外出土石器 (10)	150
図118	遺構外出土石器 (11)、土製品	151
図119	遺構外出土石器 (1)	152
図120	遺構外出土石器 (2)	153
図121	遺構外出土石器 (3)	154
図122	遺構外出土石器 (4)、石製品	155

写真目次

写真1	全景	205
写真2	基本順序・竪穴住居跡 (1)	206
写真3	竪穴住居跡 (2)	207
写真4	竪穴住居跡 (3)	208
写真5	竪穴住居跡 (4)	209
写真6	竪穴住居跡 (5)	210
写真7	竪穴住居跡 (6)	211
写真8	竪穴住居跡 (7)	212
写真9	竪穴住居跡 (8)	213
写真10	竪穴住居跡 (9)	214
写真11	竪穴住居跡 (10)・掘立柱建物跡	215
写真12	土坑 (1)	216
写真13	土坑 (2)	217
写真14	土坑 (3)	218
写真15	土坑 (4)	219
写真16	土坑 (5)	220
写真17	土坑 (6)	221
写真18	土坑 (7)	222
写真19	土坑 (8)	223
写真20	土坑 (9)	224
写真21	土坑 (10)・溝状土坑	225
写真22	土器埋設遺構・性格不明遺構 (1)	226
写真23	性格不明遺構 (2)・遺物集中地点	227
写真24	沢 1 (1)	228
写真25	沢 1 (2)	229
写真26	沢 1 (3)	230
写真27	沢 2 (1)	231
写真28	沢 2 (2)	232
写真29	竪穴住居跡出土遺物 (1)	233
写真30	竪穴住居跡出土遺物 (2)	234
写真31	竪穴住居跡出土遺物 (3)	235
写真32	竪穴住居跡出土遺物 (4)	236
写真33	竪穴住居跡出土遺物 (5)	237
写真34	土坑出土遺物 (1)	238
写真35	土坑出土遺物 (2)	239
写真36	土坑出土遺物 (3)	240

写真37	土坑出土遺物 (4)	241
写真38	土坑出土遺物 (5)	242
写真39	土坑 (6)、その他の遺構出土遺物	243
写真40	沢出土石器 (1)	244
写真41	沢出土石器 (2)	245
写真42	沢出土石器 (3)	246
写真43	沢出土石器 (4)	247
写真44	沢出土石器 (5)	248
写真45	沢出土石器 (6)	249
写真46	沢出土石器 (7)	250
写真47	沢出土石器 (8)	251
写真48	沢出土石器 (9)	252
写真49	沢出土石器 (10)	253
写真50	沢出土石器 (11)	254
写真51	沢出土石器 (12)	255
写真52	沢出土石器 (13)	256
写真53	沢出土石器 (14)	257
写真54	沢出土石器 (15)	258
写真55	沢出土石器 (16)、土製品	259
写真56	特殊な文様と施文原体 (1)	260
写真57	特殊な文様と施文原体 (2)	261
写真58	沢出土石器 (1)	262
写真59	沢出土石器 (2)	263
写真60	遺構外出土石器 (1)	264
写真61	遺構外出土石器 (2)	265
写真62	遺構外出土石器 (3)	266
写真63	遺構外出土石器 (4)	267
写真64	遺構外出土石器 (5)	268
写真65	遺構外出土石器 (6)	269
写真66	遺構外出土石器 (7)	270
写真67	遺構外出土石器 (8) ・土製品・石器 (1)	271
写真68	遺構外出土石器 (2)	272

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

一般県道小友板柳（停）線整備事業に係る周知の埋蔵文化財包蔵地の取扱いについては、平成22年8月に青森県県土整備部道路課（以下「道路課」）から青森県教育庁文化財保護課（以下「文化財保護課」）に照会があり、神原（2）遺跡及び神原（3）遺跡が路線内に存在することから、平成22年10月に文化財保護課による試掘調査が実施され、同年12月に、道路課、文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センターにより、神原（2）遺跡と神原（3）遺跡についての現地協議が行われた。

事業者側からの土木工事のための発掘に関する通知書は、平成23年1月に提出され、神原（3）遺跡は慎重工事、神原（2）遺跡は発掘調査が実施されることとなった。（中嶋）

第2節 調査の方法

1 発掘作業の方法

平成22年度に青森県教育庁文化財保護課が実施した試掘調査により、縄文時代の遺物と古代の遺構が確認されているため、縄文時代及び古代の遺構調査に重点をおいて、各時期の構造等が把握できるような調査方法を採用した。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕測量基準点と水準点については、本事業にあたり設定された用地幅杭を用い、調査区周辺に任意杭を増設して使用した。グリッドは世界測地系による公共座標値 $X = 78050.000$ 、 $Y = -36850.000$ を起点（AA-0）とし、1辺4mで設定した。各グリッドは南から北に算用数字、西から東にアルファベットを付けてその組み合わせで呼称し、その名称は南西隅で代表させた。

〔基本土層〕遺跡の基本土層については、表土から順にローマ数字を付けて呼称した。

〔表土等の調査〕平成22年度の試掘調査により、畑などの造成に伴う切盛土により地形変化が行われている場所が多く、さらに表土から縄文時代の遺物包含層上面までは遺物が希薄であり、縄文時代の包含層上に古代の遺構確認面が残存している場所が限られていることが確認されていたため、重機を併用して掘削の省力化を図った。出土した遺物は、適宜地区単位で層位毎に取り上げた。

〔遺構の調査〕検出遺構は、原則として確認順に種類別の番号を付して精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさに応じて、基本的に4分割または2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層は算用数字を付けた。遺構の平面図は、主に（株）CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成したが、遺構の堆積土層断面図や竪穴住居跡に伴う炉平面図、出土遺物の形状実測図等は、簡易遣り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物については、遺構単位で層位毎に又は堆積土一括で取り上げたが、床面（底面）や炉の出土遺物等については、トータルステーションや簡易遣り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションや簡易遣り方測量により、縮尺1/20・1/10のドットマップ図や形状実測図を作

成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。

〔写真撮影〕写真撮影には、原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルムおよびデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状況、遺構の検出状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。また、業者に委託して、ラジコンヘリによる遺跡及び調査区全体・遺構密集区域の空中写真撮影を行った。

2 整理・報告書作成作業の方法

平成23年度の神原(2)遺跡発掘調査では、調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡2棟、土坑157基、溝状土坑3基、土器埋設遺構1基、屋外炉・焼土遺構4基、ピット146基、性格不明遺構3基、捨て場2箇所、遺物集中地点1箇所、古代の溝3条、土坑1基が検出された。遺物は、縄文時代の土器段ボール123箱、石器40箱、古代の土器等1箱が出土した。縄文時代と古代の集落の時期・構造等を解明するため、竪穴住居跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の変遷、遺物包含層の形成過程等の検討に重点を置いて整理・報告書作成作業を進めた。

〔図面の整理〕遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したので、整理作業ではこれを原則として縮尺20分の1で図化し、簡易遣り方測量で作成した堆積土層断面図や炉等の付属施設の実測図や遺物出土状態図等との図面調整を行い、遺構配置図を作成した。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

〔写真の整理〕35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理してスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは遺構ごとのフォルダに整理して、H Dに保存した。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕遺物の注記は、遺物取り上げ時の遺物カードをもとに、調査年度、遺跡名、出土区、遺構名、層位、取り上げ番号を機械により略記した。土器細片や剥片石器等、直接注記できない遺物は、収納袋に注記し、カードとともに収納した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層等の整理をあわせて行った。

〔報告書掲載遺物の選別〕遺構に伴って使用または廃棄された資料、遺構の構築および廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く所属時代(時期)・型式・器種等が分かる代表的な資料、希少な資料、特異な資料等を選別した。

〔遺物の観察・図化〕個々の遺物を目視およびルーペで観察し、遺物の特徴を適切に分かりやすく表現するように図化した。掲載用に選別した遺物については観察表を作成した。

〔遺物の写真撮影〕実測図では表現しがたい、質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を適切に伝えられるように留意し、業者に委託して行った。

〔理化学的分析〕放射性炭素年代測定、土壌微化石分析、樹種同定、石器石材の産地同定を業者に委託して行った。石器の石質鑑定は調査員 山口義伸 氏に依頼して行った。

〔遺構と遺物のトレース・版下作成〕遺構・遺物の実測図やその他の挿図のトレースは、手作業と(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」、「トレースくん」、Adobe社製Illustratorを用いたデジタルトレースを併用した。実測図版・写真図版等の版下作成についても、手作業とAdobe社製

InDesignを用いてデジタルデータをパソコン上でレイアウトした。

〔遺構の検討・分類・整理〕遺構ごとに、種類と構造的特徴に分け、出土遺物の種類と数量、重複関係等に関するデータと調査時の所見を整理して、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕土器類・石器類に分け、時期・種類ごとに整理し、出土遺物全体の分類・器種組成などについて検討した。

第3節 調査の経過

1 発掘作業の経過

平成23年度の神原（2）遺跡発掘調査は、5,850㎡を対象として（図2）、5月12日から10月26日までの発掘作業期間で実施した。発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査指導員	村越 潔	国立大学法人 弘前大学名誉教授・故人（考古学）
調査員	上條 信彦	国立大学法人 弘前大学人文学部講師（考古学）
調査員	山口 義伸	青森県立浪岡高等学校教諭（平成24年3月退職）（地質学）
調査主体	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所長	松田 守正（平成24年3月退職）
	次長	成田 滋彦（平成24年3月退職、現文化財保護主幹）
	総務GM	木村 繁博（平成24年3月退職）
	調査第一GM	中嶋 友文
	文化財保護主査	鈴木 和子（発掘調査担当者）
	文化財保護主査	水谷 真由美（発掘調査担当者、平成24年3月退職）
	調査補助員	坂本 真由美 塩谷 龍平
		大谷 望 今村 圭佑

発掘作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

- 4月上旬 事業者、文化財保護課と調査前の打合せを行い、発掘作業の進め方等について再度確認した。調査区が東西に細長く、調査区周辺には十分な排土置き場が確保できないことから、調査区を西から順に3分割して調査を進め、調査終了部分を排土置き場として利用することとした。
- 4月下旬 試掘調査の結果、表土以下縄文時代の遺構確認面までは遺物の出土量がごく少ないことが確認されていたことから、まず約1,800㎡について重機による表土剥ぎを開始した。この時点で、調査区を南北に横断する沢が2か所に存在することが明らかとなった。
- 5月上旬 器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置などの事前準備作業を経て、5月12日に発掘器材等を現地へ搬入し、環境整備後、調査区域の西端部から発掘作業を開始した。
- 5月中旬 沢以外の約1,600㎡の遺構検出作業を進め、台地上では縄文時代中期から後期にかけての住居や土坑を確認した。併せて、表土剥ぎ後に存在が明らかとなった沢のトレンチ調査を実施し、範囲、深度、遺物包含状況の確認を行った。結果、2ヶ所の沢は、縄文時代前期中葉の遺物を主体とする捨て場として利用されていることが明らかとなった。
- 5月下旬 住居や土坑などの遺構精査を実施した。沢はトレンチ調査により範囲確認を行った。

- 6月上旬 住居・土坑の調査を終了し、沢の精査に取りかかった。沢からは、縄文土器や石器が段ボール86箱分出土した。土器はほぼ円筒下層a式で占められており、石器は剥片石器のうち、特に石匙が多く出土した。次調査区のトレンチ調査を実施し、遺物包含層の有無や包含層までの深度等を確認した。
- 7月上旬 沢以外の場所を排出土置き場とし、次地区(約1,350m²)の重機による表土剥ぎを開始し、その後、遺構検出作業を行った。住居や土坑、沢1条が確認され、順次精査作業を進めた。沢には縄文時代および古代の埋土はほとんど堆積していないことが明らかとなった。
- 8月上旬 山口調査員に依頼して地質の調査を行い、遺跡内の土層や沢1底面で検出した礫の供給源などについて指導を得た。沢の精査が終了し、次地区のトレンチ調査を実施し、遺物包含層の有無や包含層までの深度等の確認に取りかかった。
- 8月下旬 次地区(約2,700m²)の表土剥ぎを開始した。
- 9月上旬 次地区は北側部分が急傾斜面、南、東西部分が丘陵縁部にあたる緩斜面になっており、遺物包含層の調査、遺構検出作業を進めたところ、東側の緩斜面では土器と石器の集中地点、丘陵縁部を主体として住居や土坑が確認され、順次、精査を進めた。また、調査区東端は沢地形となっており、一部トレンチ調査を実施したところ、遺物はほとんど包含されず、急傾斜で沢へと落ちる地形であったため、沢の底面を確認せずに調査を終えた。
- 10月中旬 事業者側と安全対策のため発掘現場の埋め戻し箇所等についての打合せを行い、急傾斜部分の重機作業が困難な場所については人力により埋め戻し作業を行った。10月26日に発掘器材・出土品等を搬出した後、現地から撤収した。
- 11月上旬 11月に所轄の警察署に県文化財保護課から遺物発見届を提出した。天候が悪く、埋め戻し実施が遅れたが、12月には埋め戻しが終了し、事業者側へ現場の引き渡しを行った。

2 整理・報告書作成作業の経過

整理・報告書作成作業は平成24年4月1日から平成25年3月31日までの期間で行った。遺物の洗浄と注記作業は平成23年度内に終了している。

整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

文化財保護主幹	鈴木 和子 (報告書作成担当者)		
文化財保護主査	杉野森 淳子 (報告書作成担当者)		
文化財保護主査	秦 光次郎 (報告書作成担当者)		
文化財保護主幹	成田 滋彦 (報告書作成担当者)		
調査補助員	塩谷 龍平	今村 圭佑	
	能代谷 貴樹	川崎 僚大	
整理作業員等	岸田 美雪	名古屋 陽子	石戸谷 美智子
	田中 華	山脇 アキ代	太田 真輝
	高橋 久枝	村上 香織	

整理・報告書作成作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

- 4月 写真類と図面類、出土遺物の整理作業を行った。写真類は写真用アルバム等へ整理して収納した。図面類は、図面整理と図面修正を開始した。出土遺物は、遺構ごと、グリッドごと、層位ごとに重量の計測を行い、土器類は接合作業を開始した。
- 5月 土器の接合・復元作業を進めた。この間、石器・石製品類の報告書掲載遺物を選別し、また、炭化材や土壌サンプル等を整理して理化学分析を委託した。
- 7月 土器類の接合・復元作業が終了したので、報告書掲載遺物の選別作業を行った。
- 8月 出土土器と石器についての実測図作成業務をそれぞれ株シン技術コンサルと株アルカに委託した。委託しない土器・石器類についての実測を開始した。石器について黒曜石産地同定の委託を行った。
- 11月 遺構図のトレース、遺物の拓本、遺物図のトレースを開始し、図版作成作業に取り掛かった。また、調査成果を総合的に検討して、原稿作成作業を開始した。報告書掲載遺物について、土器類はシルバーフォト、石器類はフォトショップいなみに委託して写真撮影を行った。
- 1月 原稿・版下等が揃ったので、報告書の割付・編集を行い、入稿した。
- 3月 校正を経て報告書を刊行し、記録類・出土品を整理して収納した。

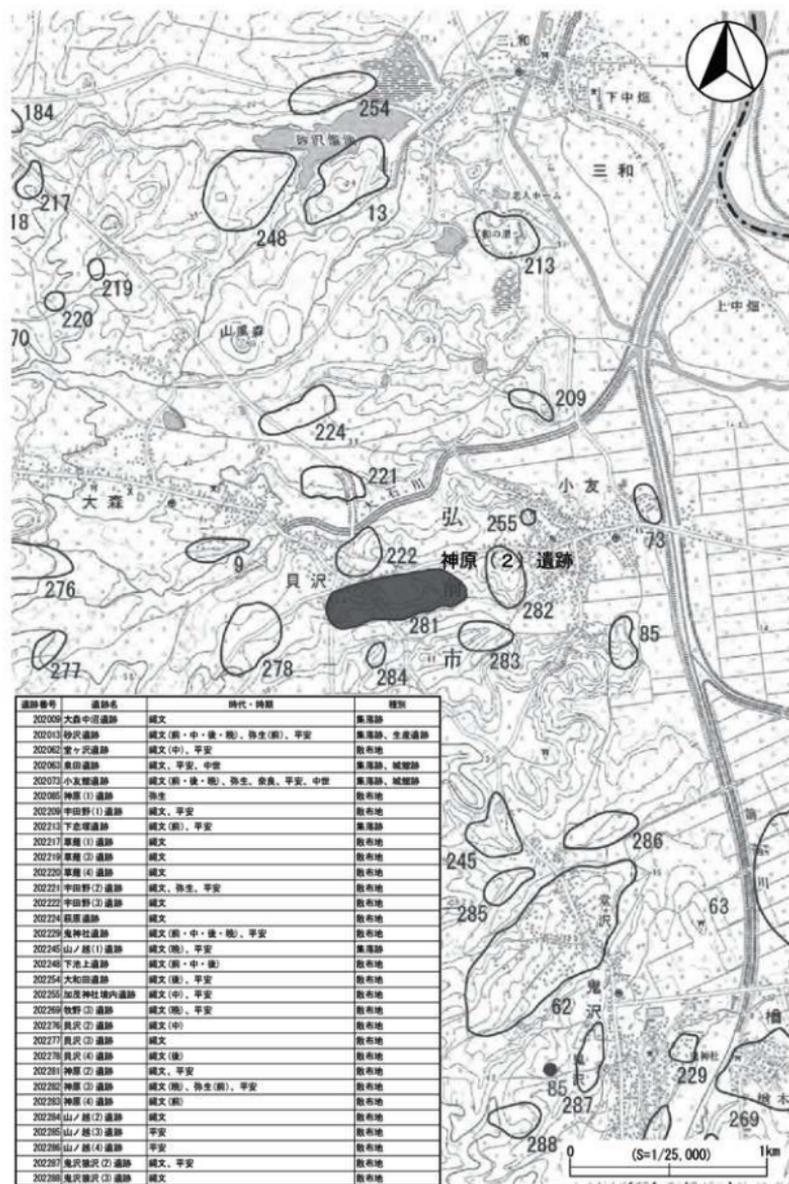


図1 遺跡位置図

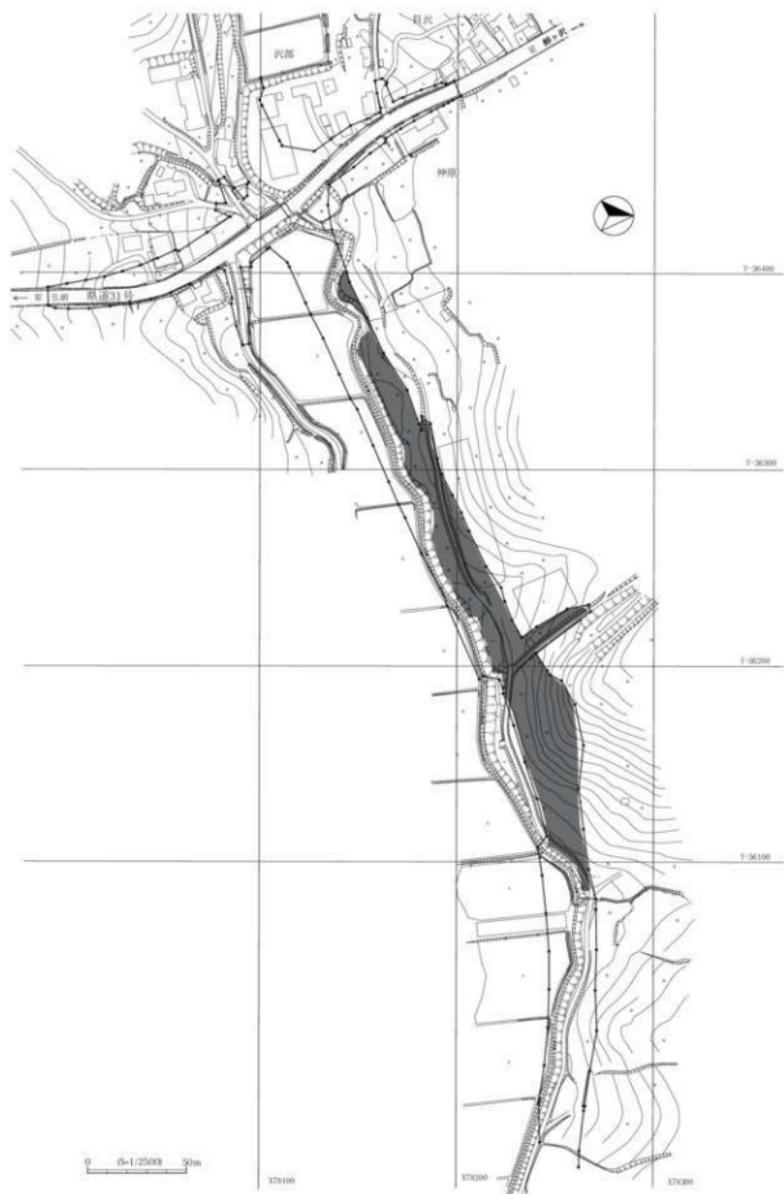


図2 調査区域図

第2章 遺跡周辺の地形及び地質について

調査員 山口 義伸

神原（2）遺跡は弘前市大字小友字神原地内に所在する。本遺跡は岩木山の北東麓にあって、大石川と前范川との間に分布する火山泥流堆積面上に立地している。

津軽富士と呼ばれる岩木山は、直径が約15～20kmの円錐形の活火山（標高1625m）である。山麓には西麓の黒森、南麓の森山、北東麓の例えば伝次森山・御月山・大森山など独立した小丘が林立し、特に北東麓の小丘群は十面沢小丘群と呼ばれている（一色・大沢，1967）。なお、東側から南側にかけては山麓を取り囲むように弧状に発達した丘陵が分布している。

北東麓の十面沢及び十腰内付近は岩木火山噴火史を知る上で、特徴的な地形が分布している。一つは前述の十面沢小丘群の存在であり、もう一つは火山泥流堆積物の分布である。十面沢小丘群は直径500m以下の円錐形をなす、輝石安山岩質溶岩及び同質火砕岩からなる単成火山である。小丘群は現岩木火山の噴火以前の、いわば先岩木火山の噴出物と考えられるが（塩原・岩木山団研，1980）、火山泥流による泥流丘群とする見解もある（一色・大沢，1967）。

火山泥流堆積物は一色・大沢（1967）の火山泥流に相当し、山頂付近に存在する浸食カルデラの形成に絡む岩層なだれ（青森県，2001）に起因すると思われる。現火山体の形成後、水蒸気爆発により山頂付近が崩壊し、その岩層が主に北東麓に流走した。本来水が関与しないこの岩層なだれ堆積物が山麓においては水の影響を受けて再堆積した可能性もある。十面沢小丘群の裾野部分を被覆したり流れ山をもった起伏に富む堆積面を形成したと考えられる。

さて、本遺跡周辺では図3に示したように、西方においては弧状に発達する丘陵が途切れ、北方には十面沢小丘群と、流れ山を含む起伏に富んだ火山泥流堆積面が分布している。ちなみに、本遺跡北方の比高20m強の山風森では巨礫が点在しているほかに、長さ7m以上の柱状の安山岩礫が露出している。礫岩表面には流走の際に受けた数多くの擦痕が認められることから、この小丘は岩屑の密集した岩塊相からなる流れ山と考えられる。なお、東方では岩木川が蛇行しながら北へ流れ、流域沿いには自然堤防や後背湿地が分布していて、自然堤防帯がりんご園、後背湿地が水田として利用されている。また、平野縁辺には約3.2万年前に流下した十和田一大不動火砕流堆積物が堆積し、平滑な火砕流堆積面として分布していて、大石川流域では宇田野（2）（3）遺跡が立地している。

本調査区域は北側の大石川と、前范川に注ぐ南側の小規模な浸食谷とに挟まれた火山泥流堆積面上にあって、浸食谷（以下本流と記す）に臨む南斜面に沿って東西約350mの帯状の範囲となっている。標高は調査区域EL～GLグリッド付近までが18～24mのやや緩やかな斜面であるが、GMグリッド以东は標高20～31mの流れ山の頂部からの急傾斜面となっている。なお、火山泥流堆積面は平頂な堆積面ではあるが、本流及び堆積面を刻む枝谷による開析で起伏に富みや丘陵化している。発掘調査後の地質調査では、火山泥流堆積物が砂礫層や砂泥互層に不整合に覆われ、また、火山泥流堆積物中に包含される礫岩が風化により脆弱化したりマンガンの皮膜で覆われていたりして水の影響を受けているのを確認できた。

口絵1には、枝谷3（沢3、中央の黒色部分）を中心とした遺跡遠景と西側に位置する枝谷1（沢1）の完掘状況を示している。調査区域内から検出された南北性の3条の枝谷は脆弱化した火山泥流

堆積物が著しく下刻されたことに起因していると思われる。調査区域GB～GFグリッドに位置する深い枝谷3は調査区域のほぼ中央部を南北に横断しており、おそらく流れ山の狭間を流れていると考えられる。遺構確認面から谷底までは2m以上もある深い谷ではあるが、谷内には腐植質土（第I～II層）が1m以上と厚く堆積し、また降下火山灰である黄褐色軽石層（第V層）も急傾斜な谷壁から斜面下方に向かって地形なりに厚く堆積している。現状では緩やかな谷地形を呈しているが、1万年以上前からの下刻作用により深い谷地形を呈していたと考えられる。また、調査区域西端のEQ～EXグリッドに位置する枝谷2（沢2）も枝谷3と同様な谷地形をなしている。枝谷2は蛇行する本流の湾曲部に注いでおり、谷の東西両端部には突堤状の張り出しが存在する。EV-25・26グリッドは東側の張り出し付近にあって、その構成物には安山岩質の垂角礫～垂門礫が数多く含まれ、下部が本流における氾濫性の堆積物であり、上部が流れ山からの崩落物である。この湾曲部は流路の攻撃斜面上にあたることから本流側に急崖で臨み、谷底には有機質泥層が厚く堆積している。現状ではりんご園として整備され、緩やかな谷状凹地となっている。

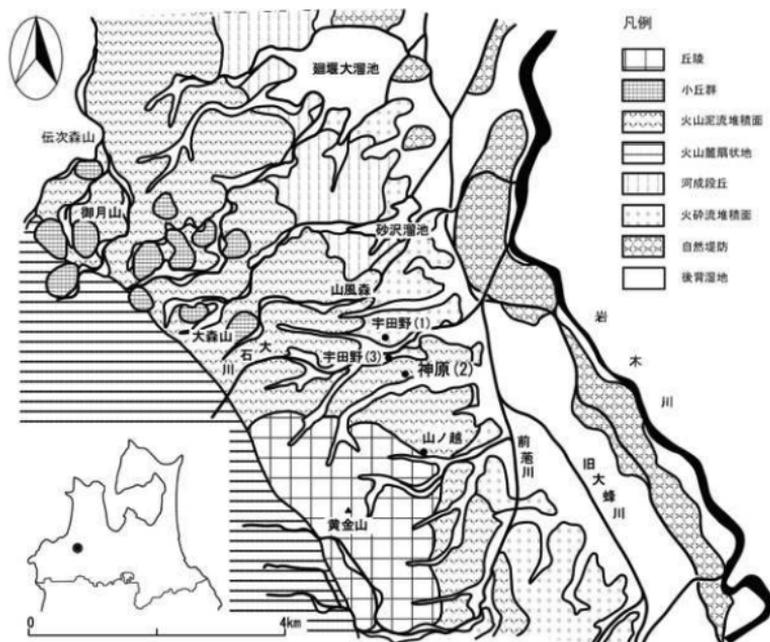


図3 地形分類図



本流に注ぐ谷1(右)、谷2(左)と手前のテラス状地形(南から)



合流点に展開するテラス状地形(南東から)

一方、調査区域FA～FGグリッドには2条の細かい枝谷が隣接して存在する（写真）。枝谷2・3と相違して、この2条の枝谷が本流に合流する箇所には突州と思われるテラス状の地形がみられ、枝谷から供給された大量の砂礫が要因で離水したと考えられる。この谷底内のテラス上からは縄文時代前期の捨て場遺構が検出されている。なお東側の枝谷を谷1、西側を谷2として、以下に検出状況を記載する。

①谷幅・壁高：図4のセクションに示したように、両谷とも谷幅が約4～5mと同規模であるが、谷底からの壁高は谷1が約150cm、谷2が約100mで、谷1が約50cm深い。

②本流との合流点：谷1の谷底は本流とほぼ連続しており、谷底にある大量の砂礫層が本流とほぼ連続して堆積している。一方、谷2は砂礫層が合流点の約3.0m付近で途切れており、さらに合流点では本流側の浸食により60cm以上の段差が認められる。

③覆土：谷1と谷2を覆う有機質の堆積土から判断してほぼ同時に機能していたと考えられる。ただ、谷2の谷底部分の堆積物が有機質であるのに対して、谷1では流水の働きにより有機質泥を基質とした砂礫層となっている。なお、谷2の覆土中からは縄文時代前期中葉の遺物が数多く出土し、また谷壁際の平坦面には縄文時代前期および中期の土坑が密集している。

以上から、この2条の枝谷に関しては岩塊相からなる流れ山上での谷の分岐が原因であると推察される。谷底に露出する岩石が新鮮で堅固な安山岩礫であったり風化した凝灰岩や砂岩等からなる礫岩であったり変化することから、枝谷の下刻作用に偏りが生じて流路を変更したものと考えられる。争奪した谷1は水量の増大により下刻作用がさらに進み、争奪された谷2は水量の減少により浅い谷地形として取り残される結果となった。

次に、調査区域内の基本層序については、遺跡南端を流れる本流の壁側に検出遺構が集中することから、FP-36グリッド（図5 a）での観察をもとに各層の層相を記述し、EV-25・26グリッド（図5 b）及びHH-48グリッド（図5 c）での層相を付記する。ただ、GMグリッド以東の流れ山の南側急傾斜面では黄褐色軽石層（第V層）以下に赤褐色ローム層が厚く堆積していた。

第I a層 黒褐色土（10YR 2/3）耕作土。やや固さはあるが脆い。乾燥すると黒灰色に変色する。

りんご園造成による攪乱層であり、平坦面ではローム質粘土のブロックや軽石粒などが混入し、GB～GFグリッドの深い谷沿い及び調査区東端の低地では造成のために厚く盛り土されている。

第I b層 黒色土（10YR 2/1）旧表土。粘性・湿性が多少あり、I a層よりは締まっていた。乾くと縦のクラックが発達する。ローム質粘土の粒子、軽石粒、炭化粒などの混入が目立つ。

I～III層の有機質土に関してはHH-48グリッド、GB～GFグリッドの深い谷沿い、そして調査区東端の低地では陸水の運搬作用等により厚く堆積している。

第II層 黒褐色土（10YR 2/2）粘性・湿性があり、多少締まりも認められる。ただ、全体的にはシルト質で、ソフトな感じがする。傾斜地や地形的な凹地では厚さ10cm程度で、砂質となり酸化の染みが認められるが、平坦面では欠如することが多い。宇田野（2）（3）遺跡同様に、本層中に苦小牧火山灰B-Tmがブロック状に堆積することが多い。

第III層 黒色土（10YR 2/1）粘性・湿性があり腐植質である。固く締まった感じがするが、乾くと縦状のクラックが発達する。本層は縄文時代前期～後期の遺物包含層であって、ローム質粘土の粒子や軽石粒、炭化粒などの混入が目立つ。特に、縄文時代前期の遺物を包含するEV-25・

26グリッドではローム質粘土がブロック状に混入し、2層に細分される。

第IV層 暗褐色土(10YR 3/3) 漸移層。粘性・湿性があり、固く締まっている。ローム質粘土や軽石粒(V層)のブロック及び粒子が多量に混入している。上部のIV a層は粒子状の混入が目立ち暗い色調だが、IV b層はブロック状の混入が多く、色調が黄褐色(10YR 5/8)と明るい。なお、EV-25・26グリッドでは8~10・12~18層が本層に相当し、腐植質土直下が急な谷壁となっていることから、流れ山からの崩落物が断続的に供給されていたと考えられる。このために腐植質土と粘土・砂礫等の混入層が互層をなし、10層に細分されている。

第V層 明黄褐色土(10YR 6/8) 緻密堅固な細粒軽石層で、白色軽石粒(径5~10mm大)もかなり多く含まれる。カレーパーミス(松山・岩木山団体研究グループ、1980)と称されている。黒木(1995)によれば、この軽石層は十和田一八戸火砕流堆積物に係る降下相の八戸軽石に相当する。本層は調査区域内の斜面上方では降下相としての細粒軽石層であるが、低地寄りでは全体的に酸化の染みが目立つ軽石質粘土と同質砂の薄い互層からなる湿地性堆積物であって再堆積の様相を呈している。調査区域東端に近いHH-48グリッドでも、第1~3層が本層に相当し、湿地性堆積物を呈している。第3層以下の各層はB区の基本層序にほぼ一致する。なお、GMグリッド以東の流れ山の南側急傾斜面では本層以下に赤褐色ローム層など岩木火山関連の噴出物が厚く堆積している。

第VI層 にぶい褐色土(7.5YR 5/4) 酸化したローム質粘土で、緻密堅固である。水成堆積相のV層直下に必ず堆積する。厚さは数~数十cmと大きく変化する。

第VII層 明褐色土(7.5YR 6/8) ローム質粘土で、湿地性の再堆積相を示す。層中に粘土化した細粒軽石層(VII b層)を挟むことから、VII a層、VII b層、VII c層と3層に細分される。

第VIII層 極暗褐色砂質粘土(7.5YR 2/3) 砂礫混じりの砂質粘土で、全体的に酸化の染みがみられる。本層以下の堆積物は砂質粘土と円礫を含む砂礫層との互層をなし、河川の氾濫によって形成されたと考えられる。また、これらの氾濫性の堆積物は側方への変化が著しく連続性が乏しく、また高所ほど砂礫層が欠落し軽石質粘土が厚くなる。低地側ほど礫の包含量が多くなるが、ただ包含量は場所によって濃淡がみられる。

第IX層 灰黄色砂泥互層(2.5Y 7/2) やや均質な粘土と淘汰不良で薄層の砂礫層との互層をなし、全体的に酸化の染みがみられる。

第X層 灰白色粘土(2.5Y 7/1) 上下の砂礫層中に挟在するやや均質な粘土で、境界部には酸化の染みがみられる。まれに円礫の安山岩質礫や粗粒砂のブロックを含む。

第XI層 黄灰色粘土(2.5Y 6/1) 淘汰不良の砂質粘土で、下半部には亜円礫~円礫の安山岩質礫(径20~200mm大)を含み、全体的に酸化している。EV-25・26グリッドでの第19層が本層に相当し、第19層以下は氾濫性の堆積物として砂質粘土と円礫を含む砂礫層との互層が100cm以上と厚く堆積している。なお、第78号土坑底面から検出された礫層は本層に相当すると考えられる。

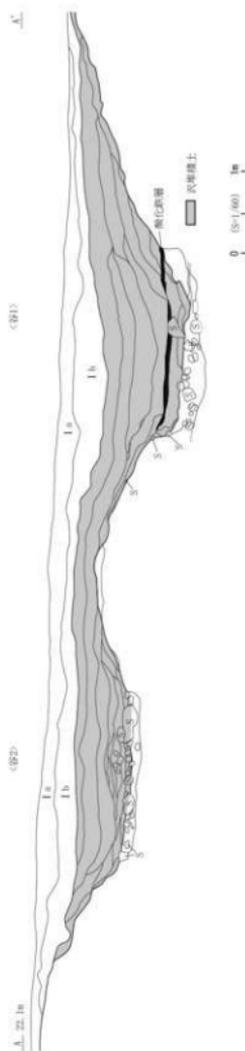


図4 枝谷1 (沢1) 土層 (FA~FC-29~31グリッド)

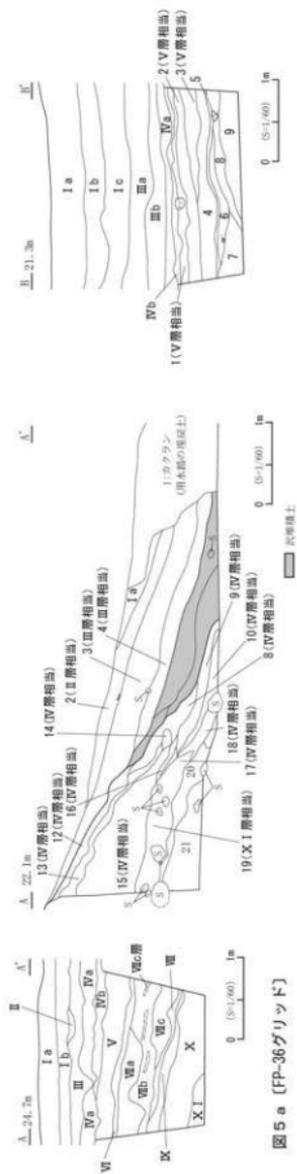


図5 a (FP-36グリッド)

図5 b 枝谷2 (沢2) (EV-25・26グリッド)

図5 c (HH-48グリッド)

図5 基本層序

引用・参考文献

- 大沢 穠 (1961) 5 万分の 1 地質図幅 弘前 (青森-第 28 号) 及び同説明書, 地質調査所。
- 東北地方第四紀研究グループ (1969) 東北地方における第四紀海水準変化, 日本の第四系, 地学団体研究会専報 15。
- 一色直記・大沢 穠 (1971) 岩木火山北東麓の泥流丘群, 火山 2。
- 鈴木隆介 (1972) 岩木山の変位, 地質学評論 45。
- 中川久夫 (1972) 青森県の第四系, 青森県の地質第二部, 青森県。
- 松山 力・岩木山団体研究グループ (1980) 岩木火山の形成 (その 1) 周辺の火山噴出物, 日本地質学会第 87 年学術大会講演要旨 204, 日本地質学会。
- 塩原鉄郎・岩木山団体研究グループ (1980) 岩木火山の形成 (その 2) 山体の構造と成立, 日本地質学会第 87 年学術大会講演要旨 205, 日本地質学会。
- 山口義伸 (1993) 平川流域での十和田火山起源の浮石流凝灰岩について, 年報市史ひろさき 2, 弘前市。
- 黒木貴一 (1995) 岩木山北麓の火山麓扇状地, 季刊地理学 47。
- 青森県教育委員会 (1997) 宇田野 (2) 遺跡・宇田野 (3) 遺跡・草薙 (3) 遺跡, 青森県埋蔵文化財調査報告書 217。
- 青森県教育委員会 (2000) 山ノ越遺跡, 青森県埋蔵文化財調査報告書 285。
- 青森県 (2001) 青森県史 自然編 地学。
- 山口義伸 (2001) 岩木火山発達史, 新編弘前市史通史編 1 (自然・原始), 弘前市。
- 工藤 崇 (2005) 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅) 十和田地域の地質, 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター。

図 5 b 土層注記

1a	10YR2/2	黒褐色土	表土, 10YR2/3 黒褐色土 10%, 10YR4/4 褐色粘土 ϕ 10-50mm ² ・7.5YR 4/6 褐色ローム (ϕ 5-40mm) 3%。
2 (I 層相当)	10YR2/1	黒色土	10YR3/4 暗褐色ローム (ϕ 40-60mm) 5%, 炭化物粒 ϕ 1mm 1%。
3 (II 層相当)	10YR1/1	黒色土	10Y2/2 暗褐色土 7%, 炭化物粒 ϕ 1mm 2%。
4 (III 層相当)	10YR2/1	黒色土	10YR7/8 暗褐色ローム粒 ϕ 1-5mm 3%, 鉄分 ϕ 2-3mm 2%, しまりあり。
8 (IV 層相当)	10YR2/5 黒褐色土と 10YR6/6 明黄褐色ローム	ブロック (ϕ ~300mm) との混合土 (8:2)	鉄分 ϕ 2-5mm 2%, 炭化物粒 (ϕ 2mm) 1%, 白色の植物繊維を散状に多く含む (サルク), 斜面崩落土。
9 (V 層相当)	10YR2/2 黒褐色土と 10YR5/4 に近い黄褐色土との混合土, 細中粒・下粒に酸化鉄屑。		
10 (VI 層相当)	10YR2/5 黒褐色土と 10YR4/6 明黄褐色土との混合土, 砂質泥炭, 酸化鉄が認められ赤色化し, 堅くなっている。		
12 (VII 層相当)	10YR2/5 黒褐色土と 13 粘粒土ブロック (ϕ ~15mm) との混合土 (7:3), ローム粒 (ϕ ~5mm) 7%, しまりあり。		
13 (VIII 層相当)	2.5Y/6.4	にに近い黄色土	ローム質, 15 粘粒土ブロック (ϕ ~30mm) 10%, 再堆積層。
14 (IX 層相当)	10YR6/4 に近い黄褐色土	10YR6/6 明黄褐色土, 15 粘粒土塊を多く含む粘土ブロック, 泥炭に酸化して明黄褐色化。	
15 (X 層相当)	2.5Y/7.2	灰黄色土	砂質ローム質, 礫 ϕ 10-30mm 40%, 川原石様の角の取れたもの主体。
16 (XI 層相当)	10YR6/6	明黄褐色土	15 粘粒土塊の粘土ブロック (酸化している) を主体とし, 斜面下位では 15 粘粒土を起源とする, 10YR3/3 暗褐色土 20% と互層になる, しまりあり。
17 (IV 層相当)	10YR3/1	黒褐色土	9 粘粒土を起源とする 2.5Y7/4 浅黄褐色粘土粒 (ϕ ~10mm) 15%, 鉄分を針状に散入, 植物繊維が白色の散状に多く含まれる, 鉄分 ϕ 3mm 3%, しまり強い。
18 (IV 層相当)	10YR3/1	黒褐色土	11 粘粒土を起源とする 2.5Y7/4 浅黄褐色粘土粒 (ϕ ~10mm) 15%, 鉄分を針状に散入, 植物繊維が白色の散状に多く含まれる, 鉄分 ϕ 3mm 3%, しまり強い。
19 (XII 層相当)	2.5Y/7.2	灰黄色土	緻密な粘土層 (シラス), 土粒 10-15cm は酸化して 10YR6/4 に近い黄褐色土 10YR6/6 明黄褐色土, 鉄分が針状に浸透。
20	2.5Y/6.3	にに近い黄色土	粘り質土, 礫 ϕ ~200mm 均質に 15% (角のあるもの), 鉄分 (点状・針状), しまり強い。
21	5Y/4/1	灰色土	砂質粘土, 礫 ϕ ~100mm 20%, 鉄分浸透せずグライ化, しまり強い。

図 5 c 土層注記

1a	10YR2/2	黒褐色土	盛り土層, 10YR5/8 黄褐色土粒 ϕ 1-3mm 2%, 草の根を多く散入, 乾きやすく白化化する, しまりなし。
1b	10YR2/2	黒褐色土	表土, 10YR5/8 黄褐色土粒 (ϕ ~1mm) 1% 未満, 草の根を多く散入, 乾きやすく白化する, しまりややあり。
1c	10YR2/1	黒色土	即表土, 10YR5/8 黄褐色土粒 (ϕ ~1mm) 1% 未満。
2a	10YR1/1	黒色土	10YR5/8 黄褐色土粒 (ϕ ~2mm) 1% 未満, 縄文時代の包含層。
2b	10YR1/1	黒色土	10YR5/8 黄褐色土粒 (ϕ ~2mm) 1%, 縄文時代の包含層。
2c	10YR2/1	黒色土	凝結層, 10YR5/8 黄褐色土 10%。
2d	10YR3/3 暗褐色土と 10YR5/8 黄褐色土との混合土 (6:4)		凝結層, 10YR2/2 黒褐色土 10%, 10YR5/8 黄褐色土粒 ϕ 1-3mm 3%。
3 (I 層相当)	10YR5/8	黄褐色土	粘土層, しまりあり。
2 (II 層相当)	10YR5/8	黄褐色土	粘土層, しまりあり。
3 (III 層相当)	10YR4/6	褐色土	粘土層, しまりあり。
4	10YR6/6	明黄褐色土	砂質粘土層。
5	7.5YR5/8 明褐色土と 酸化土との混合層 (7:3)。		
6	2.5Y/7.2	灰黄色土	砂質凝結りの粘り土層, 酸化した 7.5YR5/8 明褐色土 20% と互層になり凝結を促す。
7	2.5Y/1	灰白色土	7.5YR5/8 明褐色土 20%, 礫 ϕ 5-20mm 10% (丸礫が多く層下部に多い), しまり強い。
8	2.5Y/1	灰白色土	7.5YR5/8 明褐色土 10%, 礫 ϕ 10-200mm 5% (丸礫が多く散在), しまり強い。
9	2.5Y/1	灰白色土	7.5YR5/8 明褐色土 20%, 礫 ϕ 20-200mm 15% (丸礫が多く散在) 層下部に多い, しまり強い。

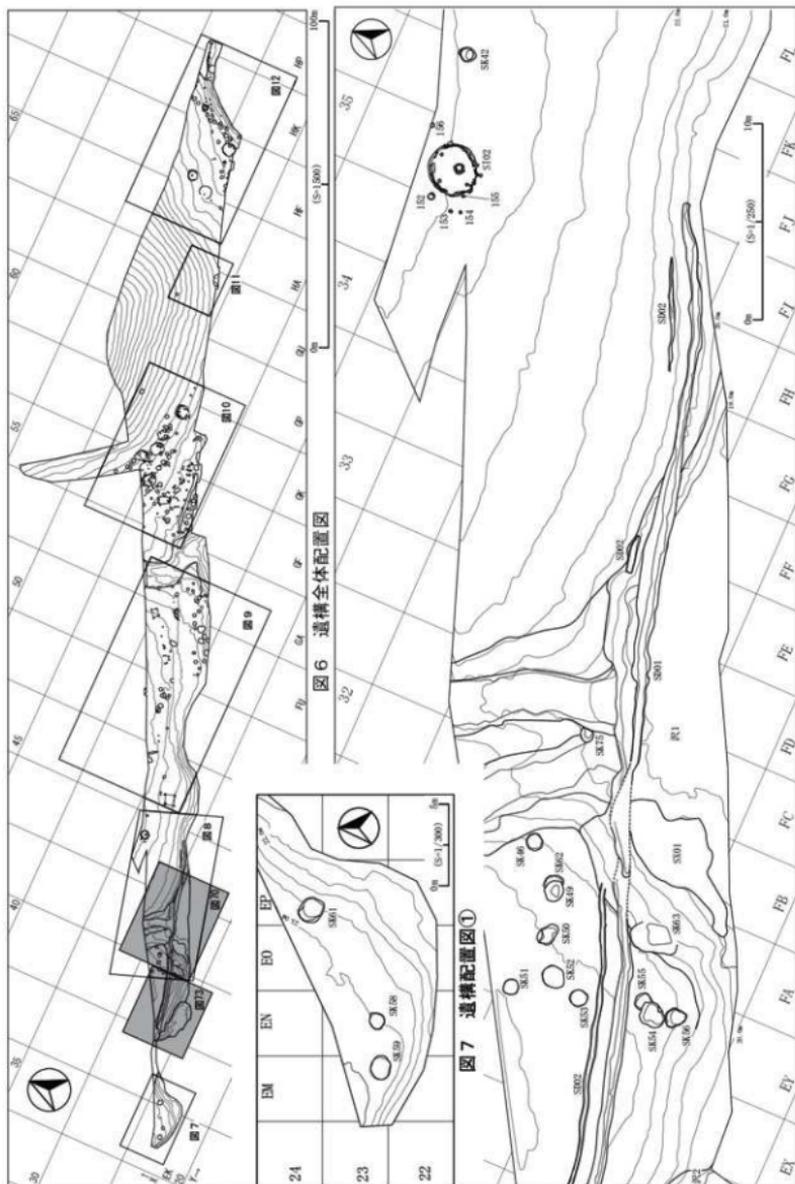


図8 遺構配置図②

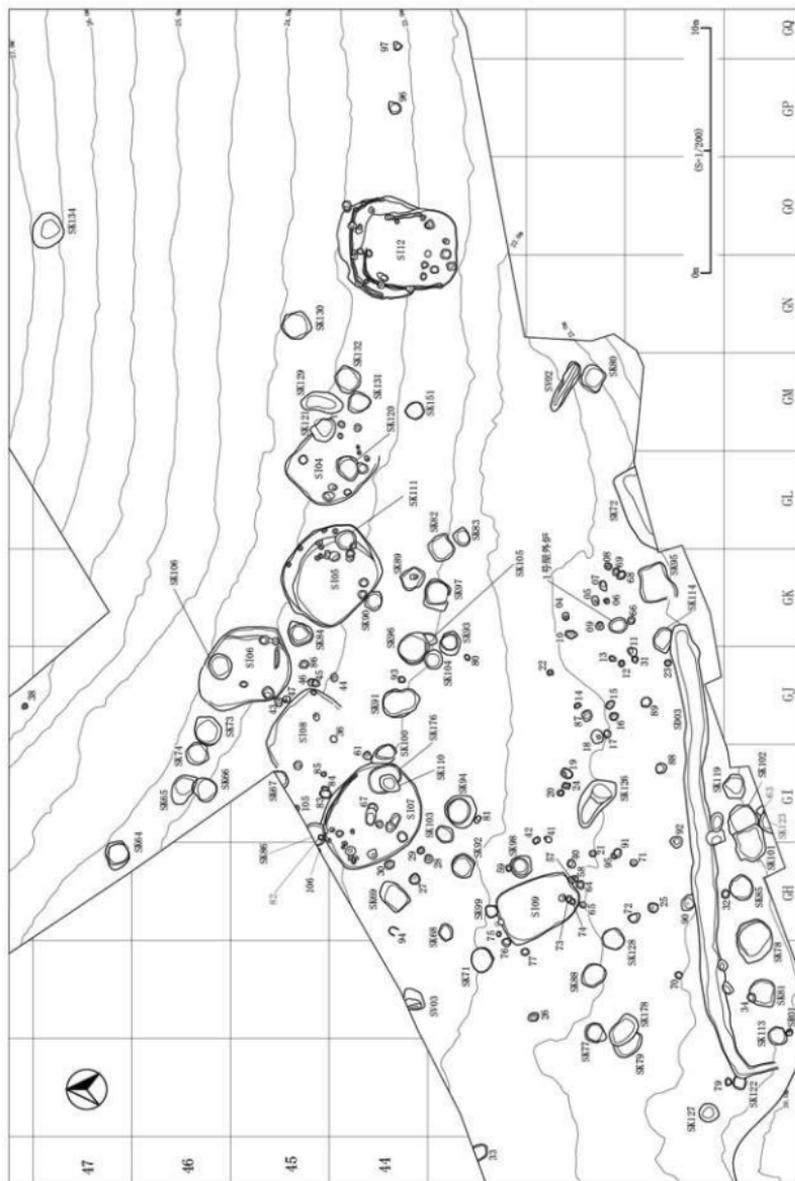


図10 遺構配置図④

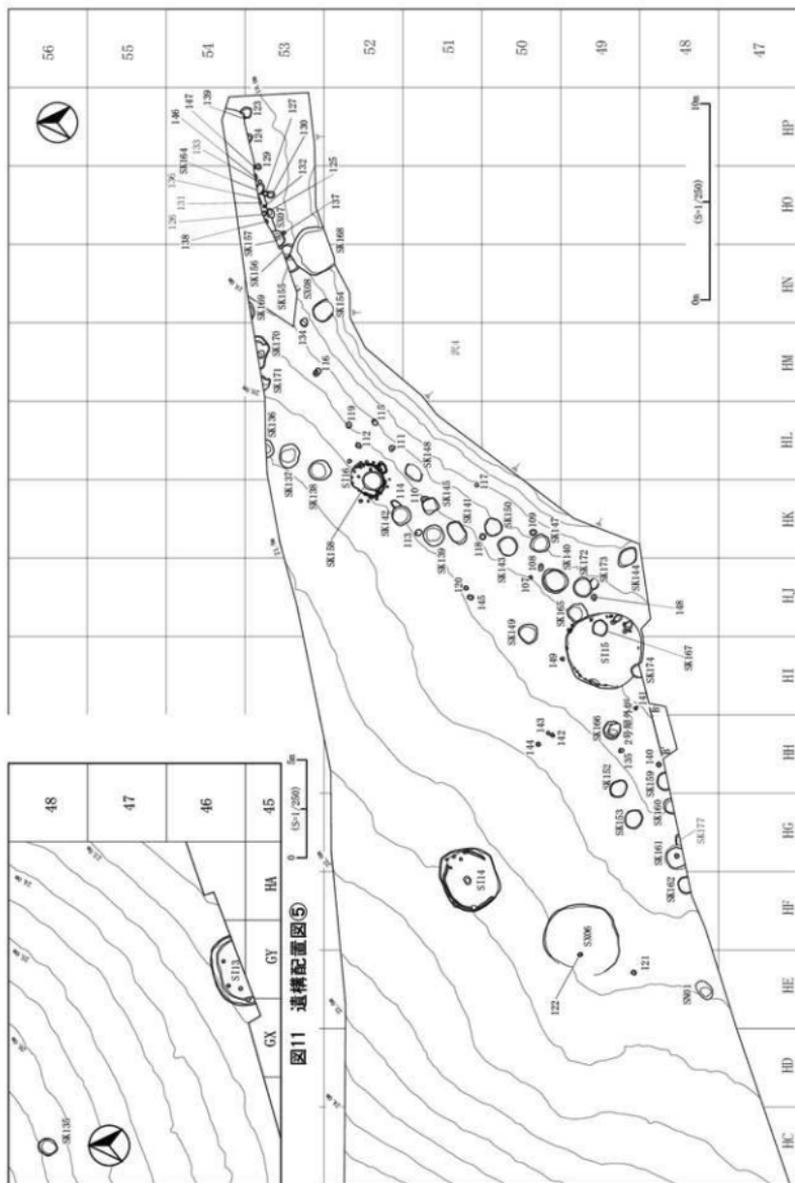


図11 遺構配置図⑤

図12 遺構配置図⑥

第3章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

1 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡 (SI-01) (図13)

[位置・確認]FY・GA-38グリッドに位置する。第V層上面で黒色土のプランを確認した。南東側は近年の畑造成などにより削平されていた。

[重複]重複はない。

[平面形・規模]削平により平面形・規模は不明である。残存する床面積は約2.2㎡である。

[堆積土]黒色土を主体とした4層に分層した。4層は壁周溝の堆積土である。

[壁・床面]壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は高いところで約35cmである。第V層を床面とし、ほぼ平坦で、全体的にやや硬化している。

[柱・付帯施設]床面で、幅約10cm、深さ約10cmの壁面に沿って巡る壁周溝を確認した。また、床面から17基のピットを検出したが、主柱穴に相当するピットやその配置は不明である。ピットは径14～29cm、床面からの深さは9～22cmである。炉は確認していない。

[出土遺物]土器と石器が出土している。床面出土遺物はなく、1層及び2層からの出土が多い。1は波状口縁の内外面に粘土紐を貼り付け、粘土紐に縄文を押圧しており、Ⅲ群E類と考えられる。その他、口唇部に燃系圧痕を押圧する土器(2)や、ヘラ状工具による刻みを施す土器(4・5)、沈線による方形区画と磨り消しがみられる土器(7)など縄文時代中期中葉と後期初頭の土器片が出土している。石器は磨り石・蔽き石が2点出土している(8・9)。

[小結]出土土器から、縄文時代中期中葉から後期初頭の可能性が高い。

第2号竪穴住居跡 (SI-02) (図14・15)

[位置・確認]FI-33グリッドに位置する。第V層上面で黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複]重複はない。

[平面形・規模]平面形は、長軸275cm、短軸約240cmのほぼ円形を呈する。床面積は約4.2㎡である。

[堆積土]黒褐色土および褐色土を主体とする19層に分層した。層中にはローム粒やロームブロックが含まれており、人為堆積の可能性が高い。

[壁・床面]壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は斜面上方となる北側の高いところで約56cmである。南東側の壁は削平により残存しない。床面は平坦で堅くしまっている。

[柱・付帯施設]床面で、浅く断続的な壁周溝と壁柱穴を確認した。壁周溝は幅約10cm、深さ約5cmの規模である。壁柱穴は壁溝内または壁際から密に検出しており、直径6～20cm、床面からの深さ3～28cmで、概ね不整形を呈する。その他、床面上で8基のピットを検出した。このうち、Pit 1・2・7・9は主柱穴と考えられ、直径約15～20cm、床面からの深さ42cm～50cmである。南東側のPit 3・Pit 6の内側は、粘土が貼り付けられて堅くしまっており、住居の出入り口部分にあたると思われる。Pit 8は床下から検出した。炉は、中央からやや南東に寄った場所で地床炉1基を検出した。床面を長軸40cm、短軸35cmの範囲でほぼ円形に掘り込み、炉としている。掘り込み部分の周囲は若

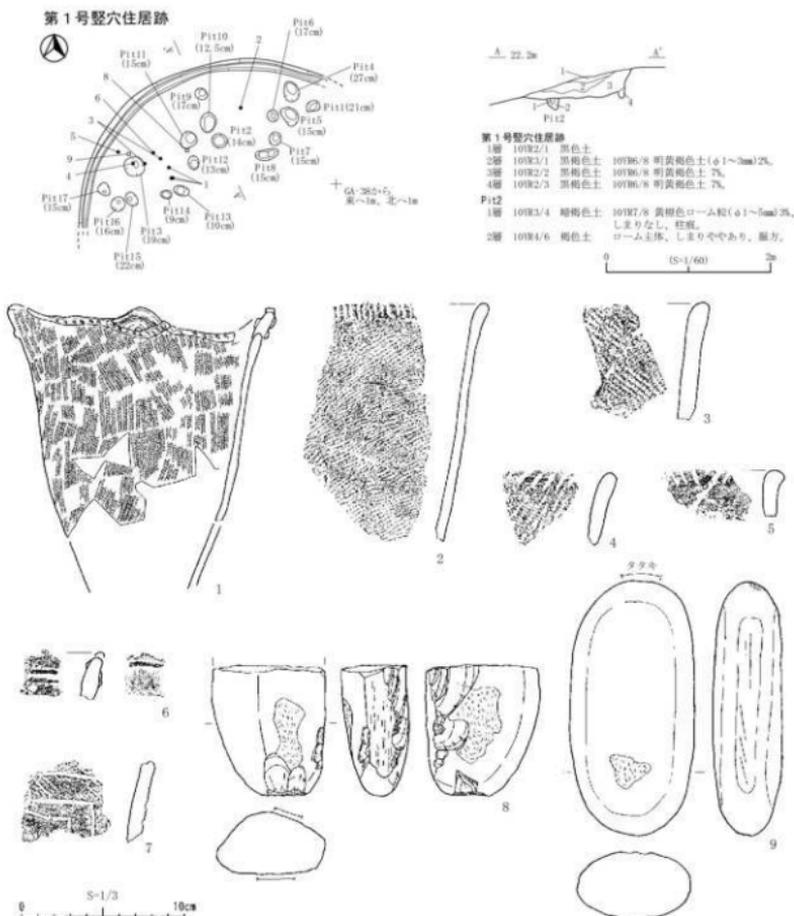


図13 第1号竪穴住居跡

干高く、周堤状となっている。中央部は被熱して硬化している。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は床面直上から出土した遺物である。口縁部には隆沈線による弧状・渦巻文、胴部には沈線による縦位弧状文がみられ、IV群B類と考えられる。石器は、堆積土中から搔器(2)・くさび形石器1点・剥片1点、床面直上から敲き石(3)が出土した。

[小結]出土土器から、縄文時代後期前葉の可能性が高い。

第4号竪穴住居跡 (SI-04) (図16・17)

[位置・確認]GL・GM-44・45グリッドに位置する。第V層上面で黒褐色土のプランとして確認した。

[重複]第120号土坑、第121号土坑と重複し、本住居跡は、第120号土坑より新しく、第121号土坑より

り古い。

[平面形・規模]平面形は、長軸345cm以上、短軸296cmである。床面積は約7.7㎡である。

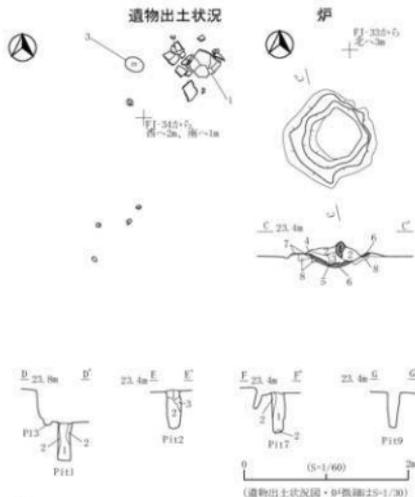
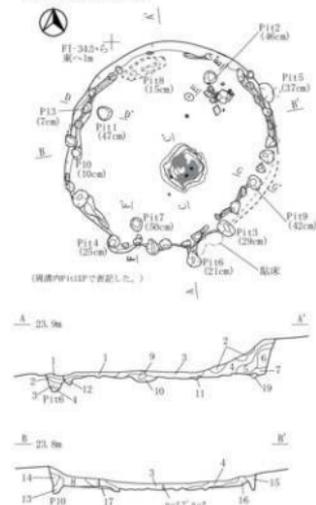
[堆積土]黒褐色土を主体とする3層に分層した。自然堆積と考えられる。

[壁・床面]壁高は斜面上方となる北側で高く約35cmで、床面から緩やかに開いて立ち上がる。南東側の壁は削平により残存しない。V層を床面としており、明瞭な硬化面は確認できなかった。

[柱・付帯施設]床面から8基のピットを検出した。このうち、Pit 1・3・6・7が主柱穴と考えられる。ピットの径は38~45cm、床面からの深さは11~54cmである。炬は確認出来なかった。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は、Pit 1上部から潰れた状態で出土した土器で、波状口縁をもち、口縁部は無文、胴部上半に方形文を施す。2は床面に近い堆積土中から出土した土器で、

第2号竪穴住居跡



第2号竪穴住居跡

1層	10YK2/2	黒褐色土	10YK5/8黄褐色土2%。
2層	10YK2/3	黒褐色土	10YK5/8黄褐色土ローム粒2%。 10YK6/6明黄褐色浮石(φ1~2mm)1%。
3層	10YK3/3	暗褐色土	10YK6/6明黄褐色浮石(φ1~2mm)2%。 10YK5/8黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)2%。 10YK5/8黄褐色土ロームブロック主体。
4層	10YK3/4	暗褐色土	10YK5/8黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)2%。
5層	10YK4/4	褐色土	10YK5/8黄褐色土ロームブロック2%。しりりあり。
7層	10YK5/6	黄褐色土	10YK5/8黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)2%。しりりありなし。
8層	10YK4/6	褐色土	10YK5/8黄褐色土ロームブロック2%。しりりあり。
9層	7.5YR4/4	褐色土	5YR4/8赤褐色土(φ5~10mm)10%。 6Rの散在した粘土ブロック(φ1~2mm)。
10層	7.5YR2/3	暗褐色土	5YR4/8赤褐色土(φ1~2mm)3%。 砂堆積土(砂3~4層)。
11層	10YK2/2	黒褐色土	しりりなし。
12層	10YK4/4	褐色土	10YK5/8黄褐色土ローム粒(φ1~2mm)10%。しりりありなし。 硬河原堆積土。
13層	10YK3/3	暗褐色土	10YK5/8黄褐色土ローム粒(φ1~2mm)1%。 炭化粒粒(φ5mm)1%。しりりありなし。 硬粒穴(硬粒、伊10層積土)。
14層	10YK5/6	黄褐色土	ロームブロック主体。しりりありなし。 伊10層積土)。
15層	10YK5/6	黄褐色土	しりりありなし。硬粒穴堆積土。
16層	10YK5/8	黄褐色土	しりりあり。しりりあり。
17層	10YK2/2	黒褐色土	10YK5/8黄褐色土2%。しりりあり。
19層	10YK1.7/1	黒色土	しりりなし。(伊18 4層)。

1層	7.5YK4/6	黒褐色土	5YR4/8赤褐色土(φ5~10mm)10%。砂の混入した粘土ブロック。
2層	7.5YK2/2	黒褐色土	10YK2/1黒色土2%。5YR4/8赤褐色土(φ2mm)2%。 10YK7/8黄褐色土ローム粒(φ2mm)1%。炭化粒粒(φ5mm)1%。
3層	7.5YK2/3	暗褐色土	5YR4/6赤褐色土の混合土。5YR4/8赤褐色土(φ1~5mm)7%。
4層	7.5Y2/2	暗褐色土	5YR4/8赤褐色土(φ5~10mm)10%。10YK5/4暗褐色土2%。
5層	10YK2/2	黒褐色土	粘土粒(φ5mm)7%。10YK5/4粘土小ブロック(φ15mm)2%。 しりりあり。
6層	2.5YK4/8	赤褐色土	7.5YR4/4褐色土20%。土面は堅くしりり。黄変箇所あり。
7層	10YK5/8	黄褐色土	10YK5/8黄褐色土ローム土塊。10YK4/3高い黄褐色土2%。
8層	10YK4/3	褐色土	粘土粒(φ10mm)5%。炭化粒粒・硬土粒2%。
Pit1	1層	10YK4/4	暗褐色土
	2層	10YK4/6	褐色土
Pit2	1層	10YK4/6	褐色土
	2層	10YK2/2	黒褐色土
Pit3	1層	10YK4/6	褐色土
	2層	10YK2/2	黒褐色土
Pit4	1層	10YK5/8	黄褐色土
	2層	10YK5/6	黄褐色土
	3層	10YK4/6	褐色土
	4層	7.5YK4/6	褐色土
Pit7	1層	10YK4/6	褐色土
	2層	10YK5/8	黄褐色土

図14 第2号竪穴住居跡(1)

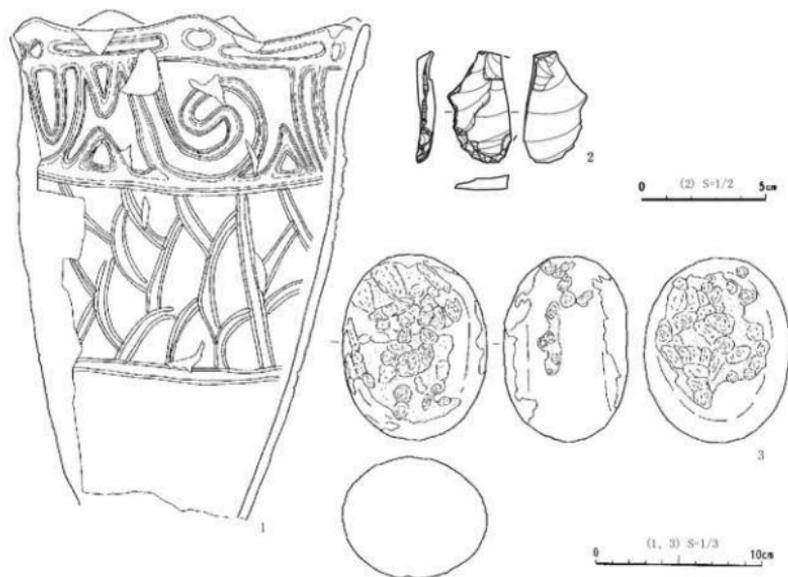


図15 第2号竪穴住居跡 (2)

無文で外面に削りがみられる。1・2ともにIV群A類と考えられる。その他、中期末葉から後期初頭の土器が出土している。石器は台石片1点が出土している。

[小結]出土遺物及び堆積土の状況から、後期初頭の可能性が高い。

第5号竪穴住居跡 (SI-05) (図18・19)

[位置・確認]GK・GL-44・45グリッドに位置する。第V層上面で、暗褐色土のプランとして確認した。

[重複]第111号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模]平面形は、長軸407cm、短軸346cmの楕円形を呈する。床面積は約7.9㎡である。

[堆積土]暗褐色土を主体とする9層に分層した。層中にはロームブロックや炭化物が含まれており、人為堆積の可能性が高い。

[壁・床面]壁の立ち上がりは斜面上方にあたる北東側では明瞭に確認できたが、斜面下方では不明瞭であった。壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は斜面上方となる北西側40cmである。北東側では、床から約30cmの高さのところで幅約40cmのテラス状の平坦面を確認した。南西側にテラス状の平坦面があったかどうかは、削平のため不明である。V層を床面としており、床面はほぼ平坦である。明瞭な硬化面は確認できなかった。

[柱・付帯施設]床面から15基のピットを検出したが、主柱穴やその配置状況は不明である。ピットは径20～34cm、床面からの深さは8～38cmである。炉は、住居ほぼ中央で土器埋設炉1基を検出した。床面を長軸約46cm、短軸約40cmの範囲でほぼ円形に掘り込み、土器を埋設して炉としている。炉体土器内部の上層には焼土層が形成されている。土器埋設炉に隣接して、床面を長軸75cm、短軸

60cmの範囲でほぼ円形に掘り込み、掘り込み部分にローンを貼っている場所を確認した。上面には台石が置かれていた。炉体土器と台石の間には、炉に伴うやや硬化した焼土の広がりを確認した。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は炉体土器で、全面を縄文で施文後、体部上位に浅い胸骨沈線文を施す。2は床面近くから出土した土器で、波状口縁をもち口唇部に燃系圧痕、波状部分の口縁部に円形のボタン状の貼り付けがみられる。1・2ともにⅢ群E類である。その他、弧状の粘土紐の圧痕を施すもの(11)、連続した刺突文が施されるもの(10)、胴部に粘土紐による胸骨文を施すもの(3)、口縁部に横位の粘土紐貼り付けを施すもの(7)、口唇部に連続した燃系圧痕を施すもの(5・8・9・12)など、Ⅲ群B類～E類に分類される土器片が出土している。17は炉に隣接した場所で検出した台石である。その他、磨り石(14・15)、半円状扁平打製石器(16)、台石片1点、石鏝(18・19)、剥片9点が出土している。

[小結]炉に用いられた土器の年代から、縄文時代中期中葉の可能性が高い。

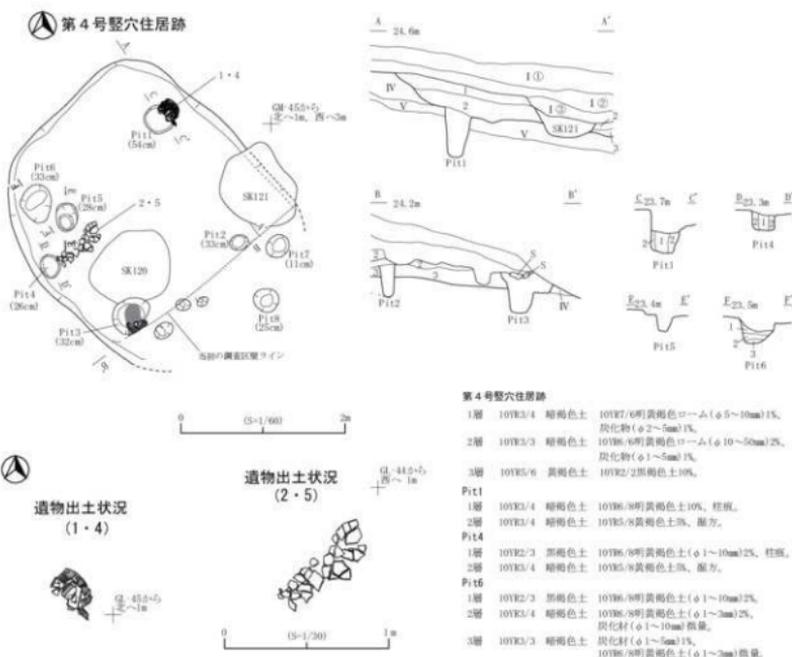


図16 第4号竪穴住居跡(1)

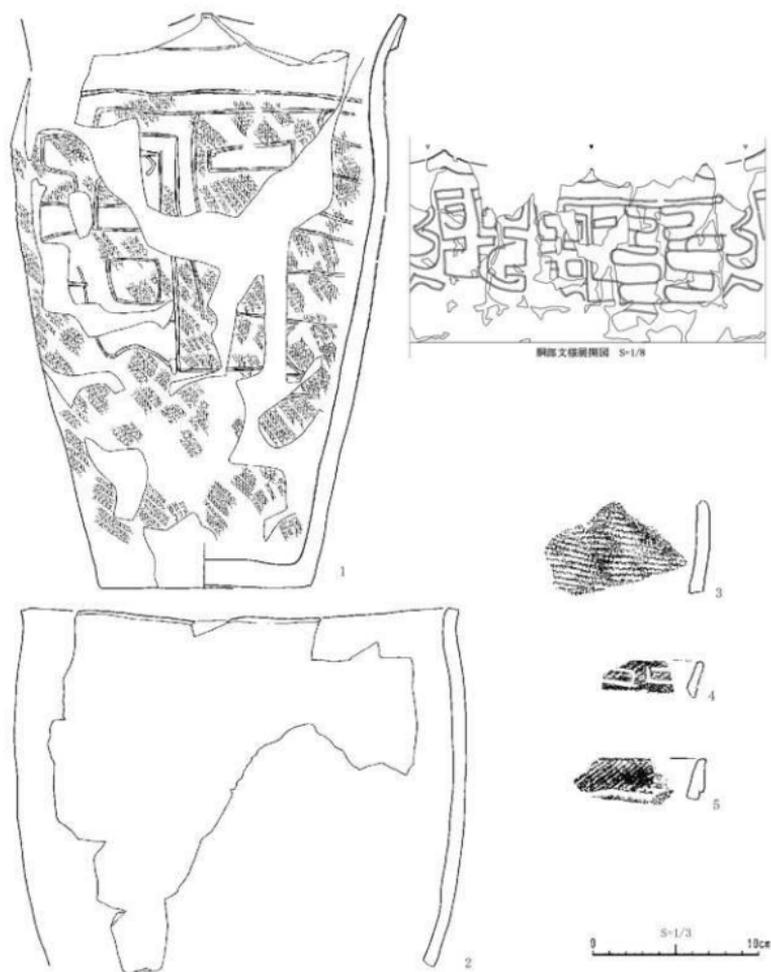


図17 第4号竖穴住居跡 (2)

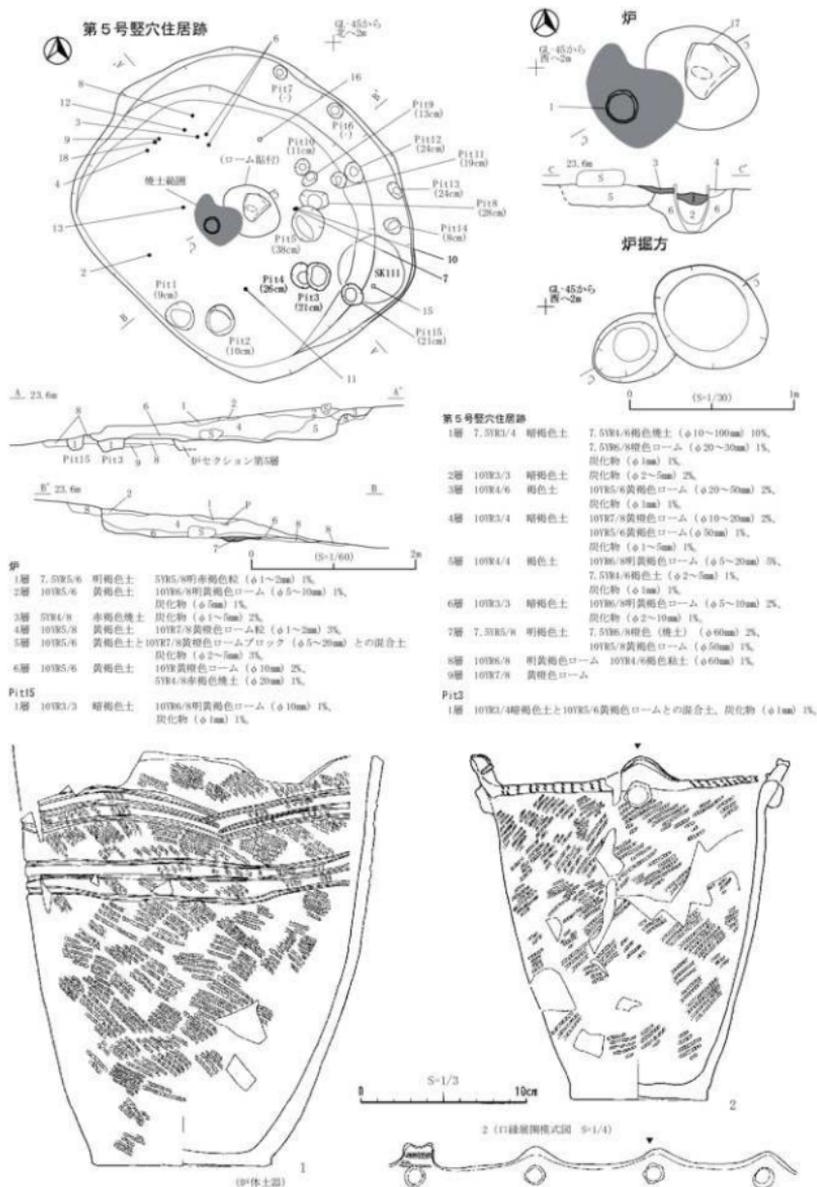


図18 第5号竪穴住居跡 (1)

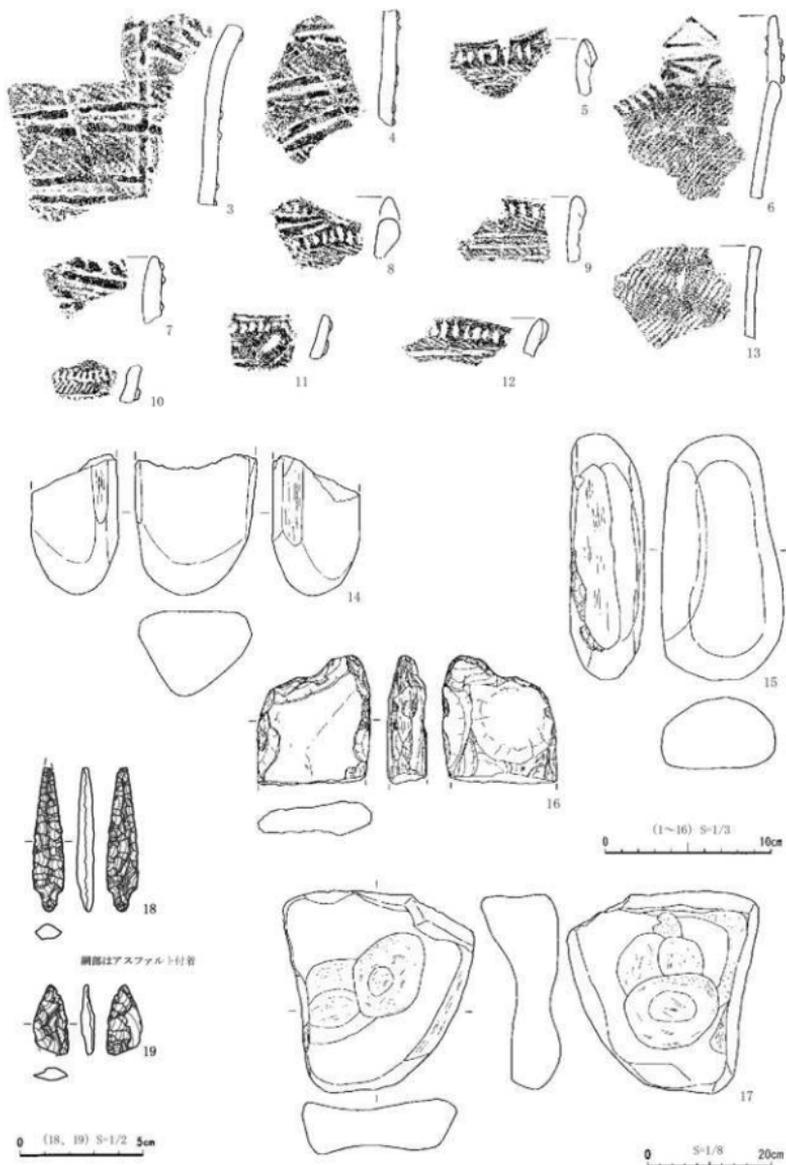


図19 第5号竪穴住居跡 (2)

第6号竪穴住居跡 (SI-06) (図20)

[位置・確認]GJ・GK-45・46グリッドに位置する。第V層上面で、暗褐色土のプランとして確認した。

[重複]第106号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模]平面形は、長軸393cm、短軸318cmの楕円形を呈する。床面積は7.6㎡である。

[堆積土]暗褐色土を主体とする6層に分層した。

[壁・床面]壁の立ち上がりは、斜面上方にあたる北側と東側では明瞭に確認できたが、斜面下方では不明瞭であった。壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は斜面上方となる西側で約30cmである。東側では、床から約10cmの高さのところで幅約25cmのテラス状の平坦面を確認した。V層を床面としており、床面はほぼ平坦である。明瞭な硬化面は確認できなかった。

[柱・付帯施設]床面から4基のピットと溝1条を検出した。主柱穴やその配置状況は不明である。ピットは径20～53cm、床面からの深さは15～42cmで、溝1は長軸66cm、短軸18cm、床面からの深さは約17cmである。炉は南西隅で石囲炉1基と、ほぼ中央で地床炉1基を検出した。石囲炉は、床面を長軸約100cm、短軸約75cmの範囲で不整形に掘り込み、側面に長さ20～30cmほどの石を6個並べて炉としている状態を確認した。石は全面が被熱していた。地床炉は、長軸約50cm、短軸約40cmの楕円形状に床面が浅く窪み、その部分に焼土の広がりを確認した。炉1と炉2の時間関係は不明である。

[出土遺物]土器が出土している。1はPit 1から出土した土器である。IV群D類と考えられる。2は、口縁部に二又状突起をもち、口縁部に横位の沈線と連続刺突を施しており、V群A類と考えられる。その他、中期中葉から後期にかけての土器片(3～6)などが出土している。なお、床面近くから炭化材が出土しており、樹種同定の結果エノキ属と同定され、放射性炭素年代測定の結果、縄文時代後期初頭の年代が得られた(第4章第1・2節)。

[小結]Pit 1出土土器及び堆積土出土土器から、縄文時代後期後葉から晩期初頭の可能性が高い。

第7号竪穴住居跡 (SI-07) (図21・22)

[位置・確認]GH・GI-44・45グリッドに位置する。第V層上面で、暗褐色土のプランとして確認した。

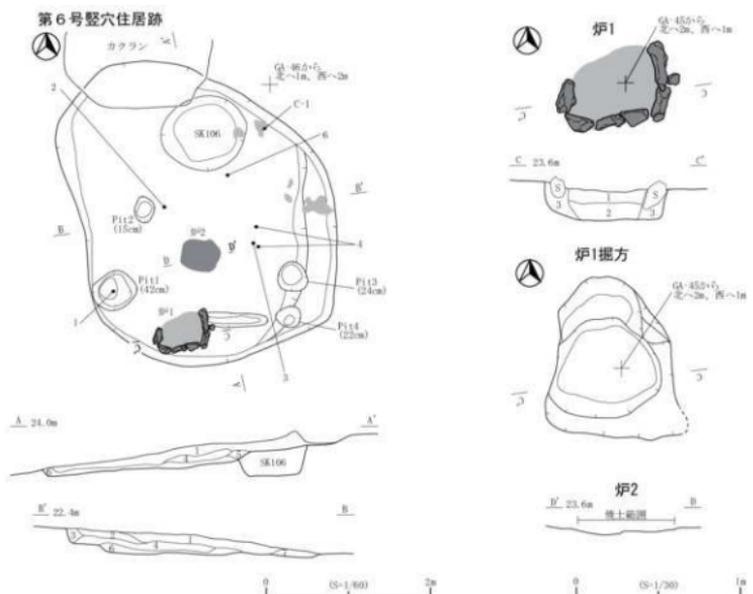
[重複]第86号・第100号・第110号・第176号土坑、第67号ピットと重複し、4基の土坑より本住居跡が古く、第67号ピットより本住居跡が新しい。

[平面形・規模]平面形は、長軸427cm、短軸366cm楕円形を呈する。床面積は約11.3㎡である。

[堆積土]暗褐色土を主体とする4層に分層した。

[壁・床面]北東の一部で、幅約12cm、深さ約10cmの壁周溝を確認した。壁の立ち上がりは、斜面上方にあたる北東側では、ほぼ垂直に立ち上がる様子を確認したが、南西側では不明瞭であった。壁高は高いところで約36cmである。V層を床面としており、床面は中央部がやや低くなるがほぼ平坦で、明瞭な硬化面は確認できなかった。

[柱・付帯施設]床面から15基のピットを検出した。主柱穴やその配置状況は不明である。ピットは径15～45cm、床面からの深さは10～35cmである。炉はほぼ中央で土器埋設炉1基を検出した。床面を長軸140cm、短軸80cmの範囲で楕円形に掘り込み、掘り込みの片側に寄せて口縁部と底部を欠いた土器を埋設し炉としている。炉体土器の内部には別個体の土器片が充填されており、一部は激しく比熱



第6号竪穴住居跡

- 1層 10YK2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~30mm) 2%, 10YR5/6黄褐色ローム(φ2~10mm) 2%, 10R4/8赤褐色粒(φ2~5mm) 1%,
 2層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ2~5mm) 2%, 10YR9/1灰白色粒(φ1~2mm) 1%, 炭化物(φ2~5mm) 1%,
 3層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ20~50mm) 10%, 炭化物(φ1~5mm) 2%,
 4層 10YK3/4 暗褐色土 炭化物(φ5~10mm) 2%, 10YR4/6褐色ローム(φ5mm) 1%,
 5層 10YK3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ1~5mm) 2%, 炭化物(φ1~2mm) 1%,
 6層 10YK3/4 暗褐色土と10YR4/4褐色土との混合土 炭化物(φ1~2mm) 1%,
 7層 10YK7/8 黄褐色ローム 10YK2/2黒褐色土5%.

炉1

- 1層 10YK2/3 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム(φ2~5mm) 1%, 炭化物(φ2mm) 1%,
 2層 10YK2/3黒褐色土と10YR3/4暗褐色土との混合土 炭化物(φ1~2mm) 1%,
 3層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色ローム(φ5~10mm) 2%, 炭化物(φ2mm) 1%.

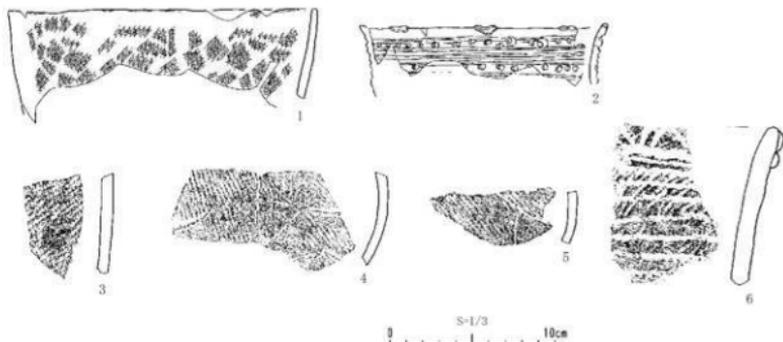


図20 第6号竪穴住居跡

していた。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は、床面近くから出土した土器で、口唇部に燃糸圧痕を施す。2は炉体土器で、胴部に粘土紐を縦位に貼り付けている。1・2ともにⅢ群E類と考えられる。3・4は炉体土器の内部に充填されていた土器で、縄文施文がみられる。Ⅲ群D類と考えられる。10は北東側の壁面近くの床面近くから出土した小型の壺で、縄文地文に方形・山形文による区画を行い、区画内部に人形状の文様を施す。Ⅲ群F類と考えられる。その他、中期中葉から後葉と考えられる土器片（5～9）などが出土している。石器は、削器（11）、石筥（12）、微細剥離痕のある剥片1点、剥片3点、台石（13）が出土している。12の石筥は刃部に光沢がある。

[小結]炉に用いられた土器の年代から、縄文時代中期中葉の可能性が高い。

第8号竪穴住居跡（SI-08）（図23）

[位置・確認]GI・GJ-44・45グリッドに位置する。遺構検出作業時に、V層上面でわずかな暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複]重複はない。

[平面形・規模・堆積土・壁・床面]暗褐色の落ち込みを掘削したところ、浅い壁の立ち上がりを確認したが、その時点では遺構の堆積土はほとんど残存しておらず、遺構の規模や堆積土の状況などは不明である。V層を床面としていたと考えられるが、明瞭な硬化面は確認していない。

[柱・付帯施設]住居範囲と考えられる場所で3基のピットを検出した。主柱穴やその配置状況は不明である。炉も確認していない。

[出土遺物]土器と石器が出土している。縄文時代前期中葉の土器片（1・2）、中期と考えられる土器片（3）などが出土している。石器は半円状扁平打製石器（4）、床面から剥片3点が出土した。

[小結]出土遺物から縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

第9号竪穴住居跡（SI-09）（図24）

[位置・確認]GG・GH-42・43グリッドに位置する。第V層上面で、黒褐色土のプランとして確認した。

[重複]第99号土坑、第57号・第73号・第74号ピットと重複し、第73号・第74号ピットより本住居跡が新しく、第99号土坑、第57号ピットより本住居跡が古い。

[平面形・規模]平面形は、長軸331cm、短軸220cmの楕円形を呈する。床面積は約6.0㎡である。

[堆積土]黒褐色土を主体とする4層に分層した。層中にはロームブロックや炭化物が含まれており、人為堆積と考えられる。

[壁・床面]床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は斜面上方となる北側で高く、約50cmであり、斜面下方となる南側は立ち上がりは不明瞭である。V層を床面としており、床面は平坦で、明瞭な硬化面は確認していない。

[柱・付帯施設]床面から2基のピットを検出しており、この2基が主柱穴と考えられる。Pit 1は直径約30cm、床面からの深さは39cmである。Pit 2は直径約25cm、床面からの深さは約79cmと深く、住居内側に向かって大きく内傾して掘り込まれている。炉は確認出来なかった。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は床面近くから出土した土器で、口縁部に縦位と横位の粘

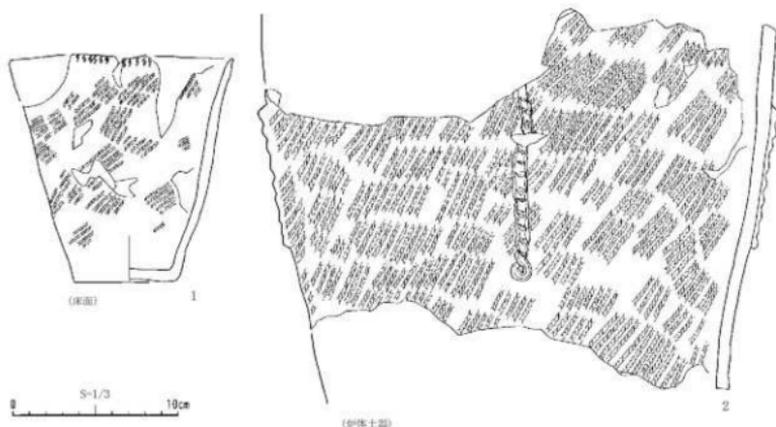
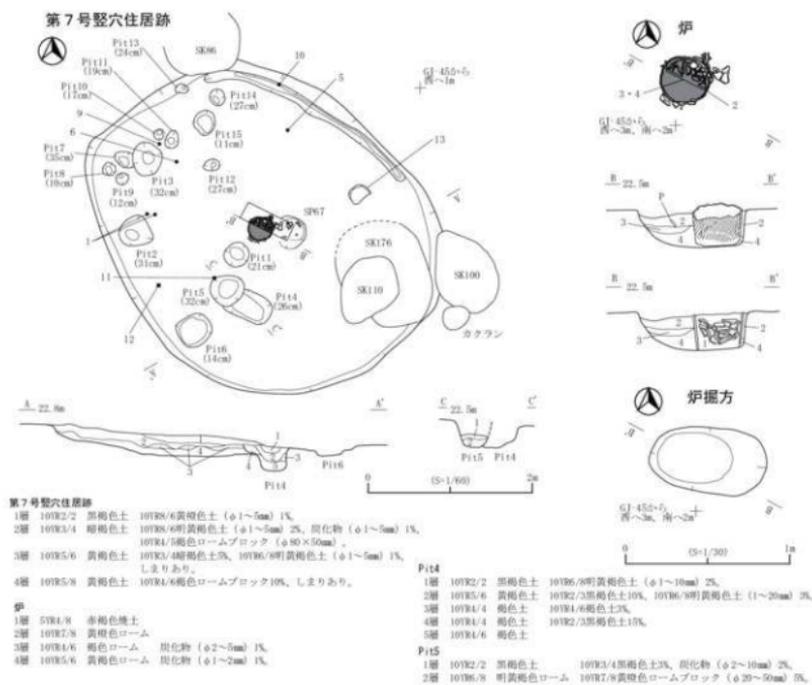


図21 第7号竪穴住居跡 (1)

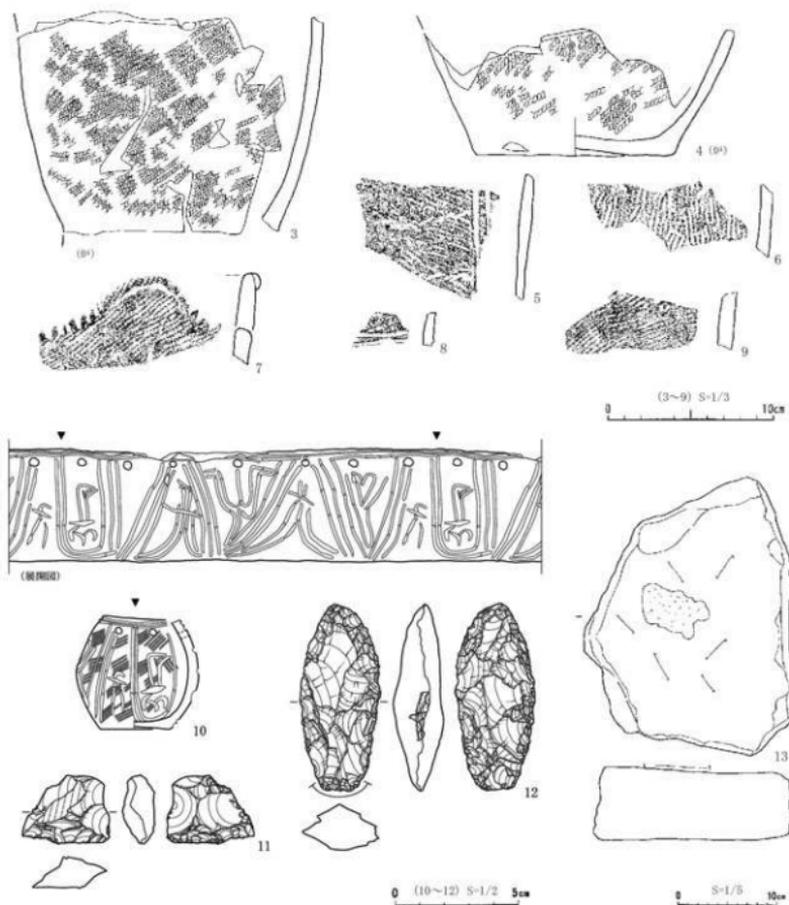


図22 第7号竪穴住居跡(2)

土紐貼り付けと弧状の燃糸圧痕がみられる。2は口縁部に粘土紐貼り付けとC字状原体圧痕がみられる。ともにⅢ群B類である。その他、Ⅰ群A類に分類される貝殻腹縁文、沈線と円形文による施文や、貝殻条痕がみられる土器(3・5)、Ⅱ群D類に分類される口縁部に燃糸圧痕を施した前期の土器(7)などが出土している。石器は堆積土中から削器(9・10)、剥片1点、半円状扁平打石器の未製品(8)が出土している。

[小結]出土遺物から、縄文時代中期前葉の可能性が高い。

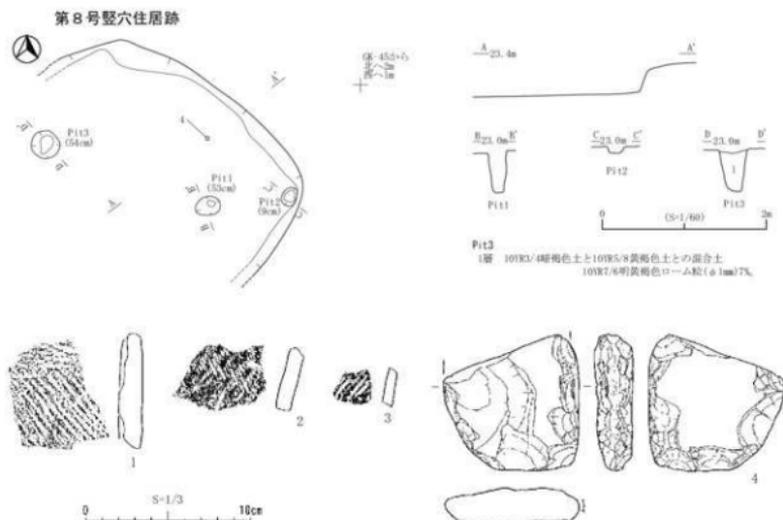


図23 第8号竪穴住居跡

第12号竪穴住居跡 (SI-12) (図25~27)

[位置・確認]GN・GO-44グリッドに位置する。第V層上面で、黒褐色土のプランとして確認した。当初、土層の観察から重複の状況が確認できず、北側部分にテラス状の段差をもつ1つの住居跡として精査を進めた。精査の結果、テラス部のPit26に円筒上層c式土器、住居本体のPit25に円筒上層e式の土器が埋設されており、埋設された土器に時期差があることから、2軒の重複が明らかとなった。さらに、テラス部と同様に住居本体にも壁周溝が巡る点と、テラス部と住居本体の主軸方向が異なる点、住居本体北側の炭化材と焼土の分布がテラス部に及んでいない点から、2軒の住居跡が重複していた可能性が高いと判断し、調査時に住居本体部分と扱った範囲を12-A、テラス部とした範囲を12-Bと分離して報告する。

12-A

[重複]12-Bより新しい。その他の遺構とは重複しない。

[平面形・規模]長軸390cm、短軸331cmの楕円形を呈する。床面積は約10.1㎡である。

[壁・床面]壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は東西側で約28cmである。V層を床面としており、床面は多少凹凸がみられるがほぼ平坦で、部分的に硬化面を確認した。

[柱・付帯施設]壁際から壁周溝と壁柱穴を確認した。壁周溝は幅約20cmで、深さは約5~15cmである。壁柱穴は長軸20~35cmである。柱穴の配置状況と埋設土器の位置から、Pit22およびPit 1が主柱穴である可能性が高いが、その他の規則的な配置は認められない。12-Bに伴うPit26と重複するPit14も本住居跡に伴うと考えることができるが、その場合Pit 8・10~12も本住居跡への帰属が想定される。一方、炬は確認出来なかったものの、Pit25から埋設された土器が出土している。ま

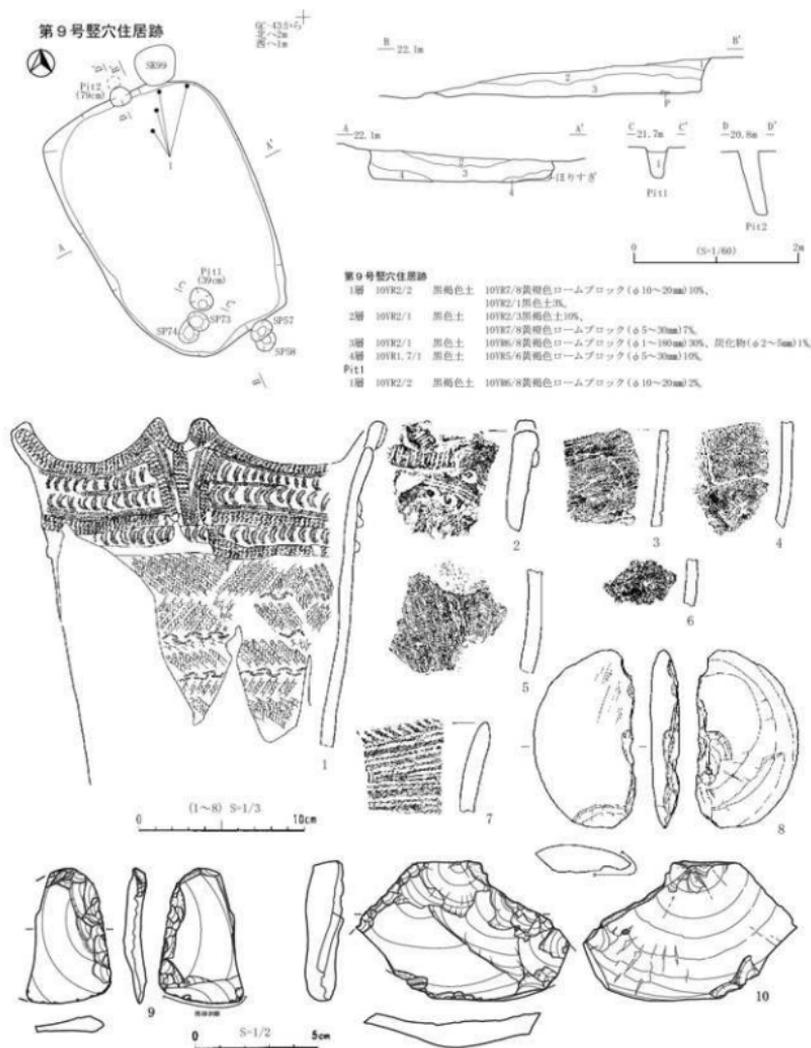


図24 第9号竪穴住居跡

た、住居北側部分の床面に近い場所から、炭化材や焼土がまとまって出土している。炭化材は樹種同定の結果からクリと同定され、縄文時代中期中葉の年代が放射性炭素年代測定の結果得られた(第4章第1・2節)。

[出土遺物]土器と石器が出土している。2はPit25に埋設されていた土器である。縄文施文後に沈線による胸骨文を施文しておりⅢ群E類である。6・7・9は口唇部に燃糸圧痕、または連続する刻目を施すもので、4・5は口縁部にボタン状突起と胸骨文がみられ、Ⅲ群E類である。石器は、堆積土中から石鏃(14)・石核(15)・剥削剥離痕のある剥片・二次加工のある剥片・北海道式石冠3点(16~18)・凹み石(20)・台石(21)が、Pit10から半円状扁平打製石器(19)が出土している。

[小結]出土遺物から、縄文時代中期中葉の可能性が高い。

12-B

[重複]12-Aより古い。その他の遺構とは重複しない。

[平面形・規模]長軸418cm、短軸308cm以上で、楕円形を呈すると考えられる。

[壁・床面]壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は斜面上方の北側で約25cmである。V層を床面としている。

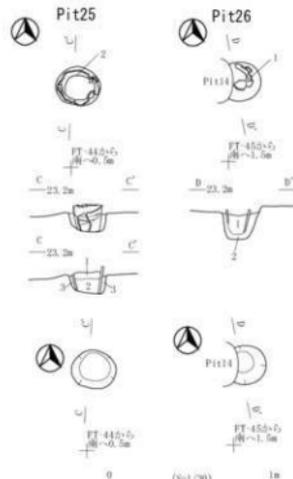
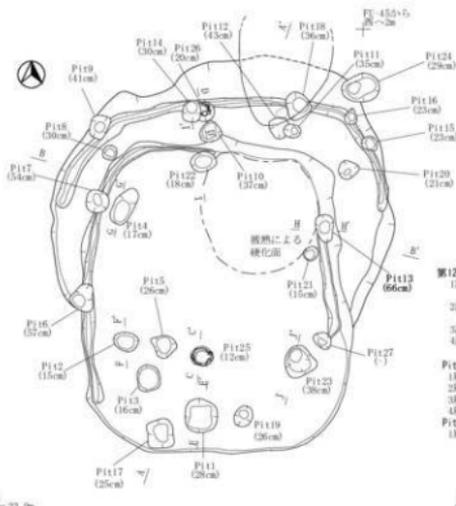
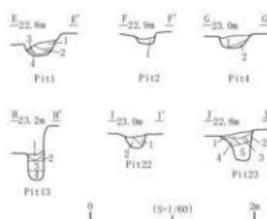
[柱・付帯施設]壁際から壁周溝と壁柱穴を確認した。壁周溝は幅約20cmで、深さは約5~10cmである。壁柱穴は長軸15~30cmである。Pit26から埋設された土器が出土している。残存部が少なく、その他の状況は不明である。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1はPit25に埋設されていた土器で、縦位と横位の粘土紐貼り付けと爪形状の燃糸圧痕により施文しており、Ⅲ群B類である。その他、Ⅲ群E類の土器片(10・11)が北壁側から出土しており、本住居跡が12-B構築時には窪地の状態であった可能性も考慮される。石器は石鏃(13)が出土している。

[小結]Pit26に埋設された土器から、縄文時代中期前葉の可能性が高い。

なお、現場段階では、12-Aと12-Bを1つの住居として精査したため、所属不明な遺物もあり、図示した8・12も所属遺構は不明である。ただし、8はⅣ群D類と考えられることから、縄文時代後期まで窪地の状態であった可能性がある。

第12号竪穴住居跡



第12号竪穴住居跡

- | | | | |
|------|---------|---------------------------|---|
| 1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1mm以下)1%, 焼土粒(φ1mm以下)1%, 塵りあり。 |
| 2層 | 10YR3/1 | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~2mm以下)3%, 焼土粒(φ1mm以下)2%, 灰化物(φ1mm以下)1%。 |
| 3層 | 10YR7/6 | 黄褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土(9:1) | |
| 4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~2mm)2%, 焼土粒(φ1mm以下)1%, 灰化物(φ1mm以下)1%。 |
| P11 | 10YR2/3 | 黒褐色粘土 | ローム粒(φ1mm以下)2%, 焼土粒(φ1mm以下)1%, 塵りあり。 |
| 2層 | 10YR3/2 | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~2mm)2%, ややしまりあり。 |
| 3層 | 10YR3/3 | 暗褐色粘土 | |
| 4層 | 10YR4/5 | 褐色土 | ややしまりあり。 |
| P12 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | ローム粒(φ1~2mm)3%, ややしまりあり。 |
| P14 | 1層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 2層 | 10YR2/2 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ローム(φ~10mm)1%。 |
| P113 | 1層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 2層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ~5mm)微量。 |
| 3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ~5mm)微量。 |
| 4層 | 10YR2/3 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ~5mm)微量。 |
| P122 | 1層 | 10YR2/2 | 暗褐色土 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 灰化物多量。 |
| 3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ~10mm)1%。 |
| P123 | 1層 | 10YR2/2 | 暗褐色土 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黄褐色ロームブロック(φ~10mm)微量。 |
| 3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黄褐色ロームブロック(φ~5mm)5%。 |
| 4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黄褐色ロームブロック(φ~5mm)微量。 |
| 5層 | 10YR2/3 | 暗褐色土 | 黄褐色ロームブロック(φ~10mm)微量。 |
| P125 | 1層 | 10YR2/2 | 暗褐色土 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ~20mm)50%。 |
| 3層 | 10YR5/8 | 黄褐色ローム | 10YR2/2黒褐色土微量, 塵り。 |
| P126 | 1層 | 10YR2/2 | 暗褐色土 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ~10mm)10%。 |

図25 第12号竪穴住居跡(1)

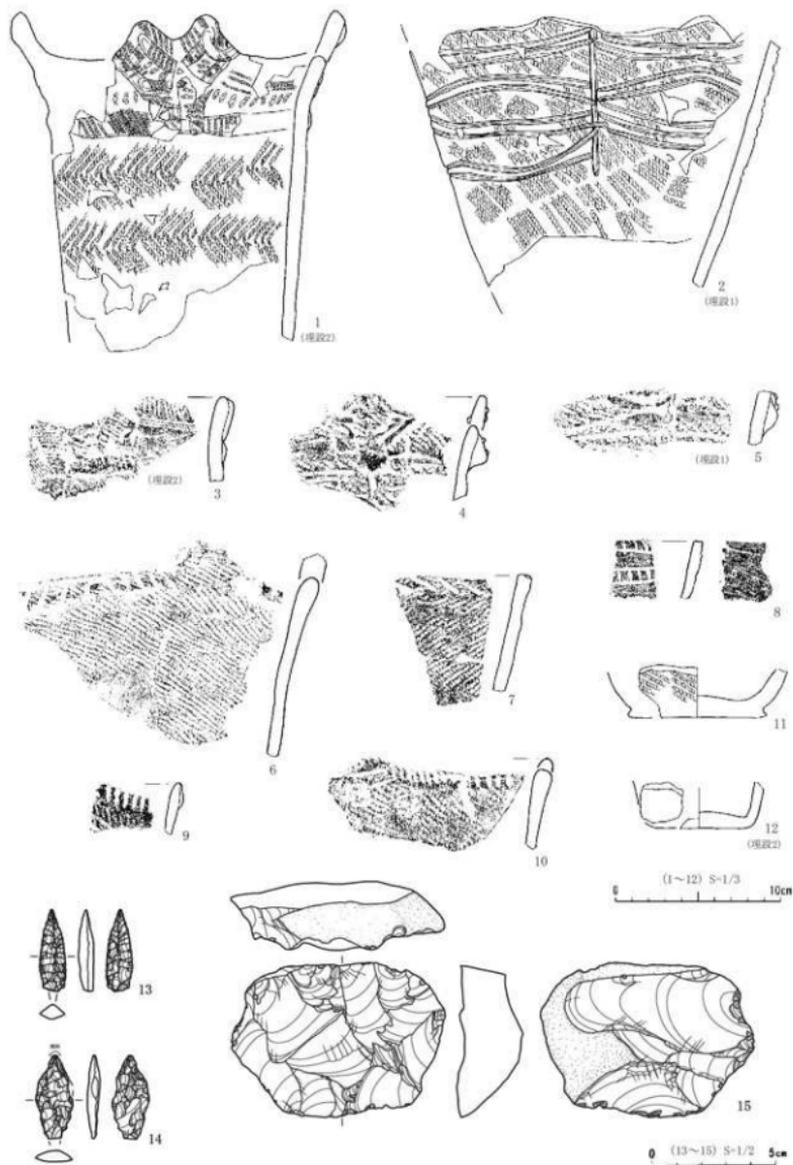


図26 第12号竖穴住居跡(2)

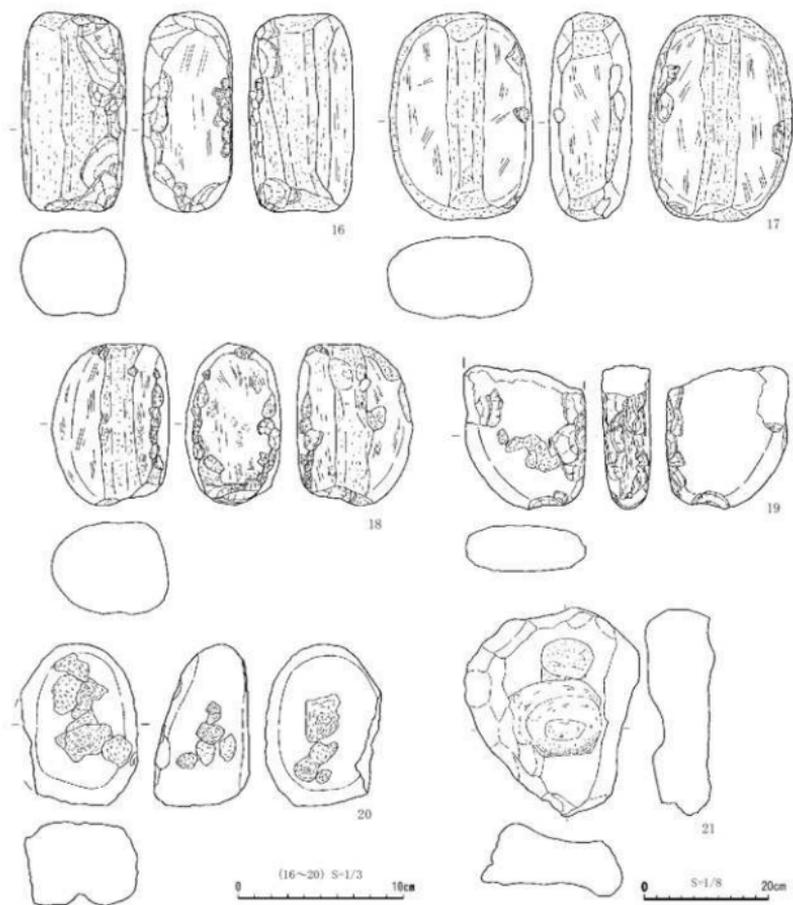
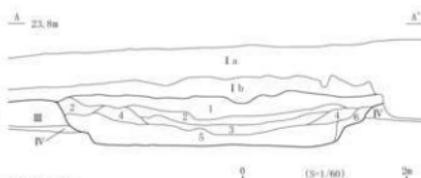
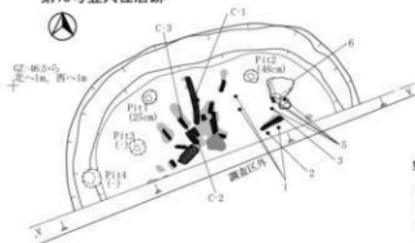


図27 第12号竖穴住居跡(3)

第13号竪穴住居跡



第13号竪穴住居跡

- 1層 10IR3/2 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒1%
- 2層 10IR2/3 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒1%
- 3層 10IR2/2 黒褐色土 10IR5/8黄褐色ローム粒1%、焼土粒・炭化物粒1%
- 4層 10IR3/1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒1%
- 5層 10IR3/2 黒褐色土 7.0IR5/8明褐色焼土粒ブロック (φ~20mm) 5%、炭化物2%、10IR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 1%、焼土ブロック・砂礫あり。
- 6層 10IR5/8黄褐色ローム土と10IR3/2黒褐色土との混合土 10IR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 1%

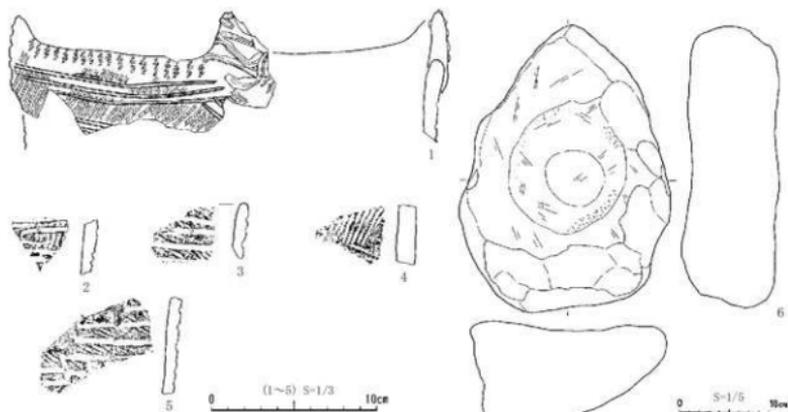


図28 第13号竪穴住居跡

第13号竪穴住居跡 (SI-13) (図28)

[位置・確認]GX・GY-45・46グリッドに位置する。第V層上面で、黒褐色土のプランとして確認した。

[重複]重複はない。

[平面形・規模]調査区壁際に位置しており、半分以上が調査区南側へ延びているため、全体形や規模は不明である。調査区内で検出した東西長は370cmである。確認部分の床面積は約2.9㎡である。

[堆積土]黒褐色土を主体とする6層に分層した。自然堆積である。

[壁・床面]壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、床面から15~20cmの高さのところでは幅約25cmのテラス状の平坦面を持ち、そこから上部はややなだらかに立ち上がる。調査区壁の土層で確認した壁高は約55cmである。V層を床面とし、床面はほぼ平坦で、明瞭な硬化面は確認していない。

[柱・付帯施設]底面で柱穴4基を確認したが、主柱穴やその配置状況は不明である。Pit 4は住居内側に向かってやや内斜傾している。炉は確認出来なかった。

[出土遺物]土器と石器が出土している。土器は、Ⅲ群E類に分類される横位、斜位の沈線文をもつ土器 (1~3・5)、横位の燃糸圧痕をもつ土器 (4) などが出土している。石器は、東壁近くの床面

上から台石（6）、確認面から剥片1点が出土している。床面直上で炭化材がまとまって出土した。炭化材は、樹種同定の結果クリで、放射性炭素年代測定の結果、縄文時代中期中葉の年代が得られた（第4章第1・2節）。

[小結]出土遺物及び堆積土の状況、放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代中期中葉の可能性が高い。

第14号竪穴住居跡（SI-14）（図29）

[位置・確認]HF・HG-50・51グリッドに位置する。第V層上面で黒褐色土のプランとして確認した。

[重複]重複はない。

[平面形・規模]平面形は、長軸326cm、短軸285cmの楕円形を呈する。床面積は約6.0㎡である。

[堆積土]黒褐色土を主体とする9層に分層した。層中にはロームブロックや炭化物が含まれており、人為堆積の可能性が高い。

[壁・床面]床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は斜面上方となる北側で高く約30cmであり、斜面下方の南側は立ち上がり不明瞭である。V層を床面としており、床面はほぼ平坦で、明瞭な硬化面は確認していない。

[柱・付帯施設]床面でピット5基を確認したが、支柱穴やその配置状況は不明である。これらのピットは、直径は約10～30cmで、床面からの深さは14～29cmである。炉はほぼ中央で土器埋設炉1基を検出した。床面を長軸43cm、短軸30cmの範囲で楕円形に掘り込み、掘り込みのほぼ中央に底部を欠いた土器を埋設して炉としている。炉体土器の内部には焼土や炭化物混入土が堆積し、最下層で礫1点を確認した。

[出土遺物]土器、土製品、石器が出土している。1は炉体土器で、胴部上位に粘土紐の貼り付けがみられ、Ⅲ群D類である。その他、堆積土中から縄文時代中期中葉の土器片（2～5）が出土している。8は無文の有孔土製品である。石器は、石鏃（6・7）、両極剥片1点、剥片5点、1cm以下の碎片71点、台石（9）が出土している。

[小結]炉体土器の年代から、縄文時代中期中葉と考えられる。

第15号竪穴住居跡（SI-15）（図30・31）

[位置・確認]HI・HJ-48・49グリッドに位置する。第V層上面で、黒褐色土のプランとして確認した。中央部が風倒木により大きくカクランを受けている。

[重複]第165号・第167号・第174号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模]平面形は、長軸396cm、短軸351cmの楕円形を呈する。床面積は約11.2㎡である。

[堆積土]黒褐色土を主体とする17層に分層した。層中にはロームブロックや炭化物が含まれており、人為堆積の可能性が高い。7層の焼土層と直下の層で炭化材で構成される13層が面的に広がっている状況を確認した。

[壁・床面]床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は最大で約43cmである。V層を床面としており、床面はほぼ平坦で、部分的にロームを貼った貼床を確認した。

[柱・付帯施設]床面で壁際に沿って並ぶ壁柱穴を検出した。壁柱穴の規模は、直径約7～15cm、床面からの深さは約2～23cmで、小規模である。住居内部に向かって内傾するものが多い。その他、南

東部で比較的規模が大きいPit 2とPit17を検出した。長軸約45cm、床面からの深さ約40cmで、Pit17に隣接した場所では、硬化面が確認できた。出入口施設に伴う柱穴と考えられる。炉はほぼ中央で土器埋設炉1基を検出した。炉は、床面を長軸50cm、短軸40cmの範囲で不整形に掘り込み、南東寄りに口縁部を欠いた土器を埋設して炉としている。炉体土器内の上層部には焼土層が形成されており、炉体土器周辺で焼土面の広がりを確認した。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は堆積土から出土した平底の無文土器で、底部から胴部上方に向かって反り返るように立ち上がる形態である。2は炉体土器で、平底の無文土器である。ともにⅣ群C類と考えられる。その他、中期前葉から中葉の土器(3・4・7)、後期初頭の土器(5・6)などが出土している。石器は、凹石(9・11)、磨り石(10)、敲き石(12・13)、台石(14)、二次加工のある剥片1点、剥片6点(玉髓製2、珪質頁岩製4)が出土している。13層から出土した炭化材2点について樹種同定を行ったところ、樹種はコナラ属コナラ節とサクラ属であった。このうち、サクラ属の炭化材について放射性炭素年代測定を行った結果、縄文時代後期中葉の年代が得られた(第4章第1・2節)。

[小結]炉体土器の年代および放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代後期中葉の可能性が高い。

第16号竪穴住居跡(SI-15)(図32)

[位置・確認]C区のHK・HL-52グリッドに位置する。第V層上面で、黒褐色土のプランとして確認した。

[重複]SK158と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模]平面形は、長軸186cm、短軸145cmの楕円形を呈する。床面積は約1.9㎡で、非常に小規模である。

[堆積土]黒褐色土を主体とする14層に分層した。層中にはロームブロックや炭化物が含まれており、人為堆積の可能性が高い。

[壁・床面]床面からほぼ垂直に立ち上がり、壁高は最大で約26cmである。第158号土坑と重複する部分はロームを貼って床とし、重複がない場所はV層を床面としている。中央部がやや低く、明瞭な硬化面は確認できなかった。

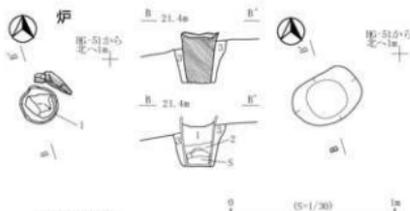
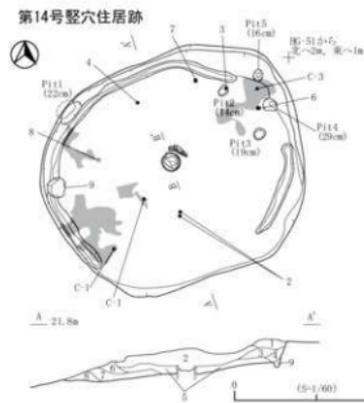
[柱・付帯施設]床面の壁際から密に並ぶ壁柱穴と、壁周溝を部分的に検出した。壁柱穴は直径約10～20cm、床面からの深さは約4～47cmである。壁柱穴は住居内側に向かって内傾するものが多い。壁周溝は幅約8cm、深さ約10cmの規模である。その他のビットは、長軸約10～20cm、床面からの深さは約10～25cmであり、主柱穴やその配置状況は不明である。炉はほぼ中央で土器埋設炉1基を検出した。炉は、床面を直径24cmの範囲でほぼ円形に掘り込み、掘り込み底部に礫1点を置き、その上に土器を埋設して炉としている。一方、住居南東側には周溝を方形に巡らせた張り出し部分が確認でき、出入口施設と考えられる。

[出土遺物]土器と石器が出土している。1は炉体土器で、Ⅲ群E類と考えられる。2は口唇部に燃糸圧痕がみられ、1と同じくⅢ群E類と考えられる。石器は床面から石槍の未製品の破片1点、堆積土から二次加工のある剥片2点・剥片2点が出土している。

[小結]炉に用いられた土器の年代から、縄文時代中期中葉の可能性が高い。

(鈴木)

第14号竪穴住居跡

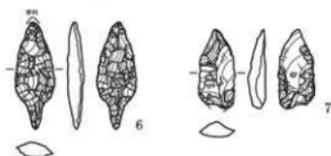


第14号竪穴住居跡

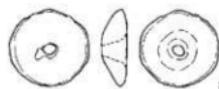
- | | | |
|----|--------------|--|
| 1層 | 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 1% |
| 2層 | 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 20%
焼土粒・炭化物粒少量 |
| 3層 | 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 1%
炭化物粒少量 |
| 4層 | 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 3%
炭化物粒少量 |
| 5層 | 10YR2/1 黒色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 1%
炭化物 |
| 6層 | 10YR3/4 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~10mm) 1%
炭化物粒少量 |
| 7層 | 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR5/8黄褐色土との混合土 |
| 8層 | 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~20mm) 1% |
| 9層 | 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR5/8黄褐色土との混合土(均質) |
| 1層 | 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~20mm) 20%
焼土粒・炭化物粒少量 |
| 2層 | 10YR3/4 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色ロームブロック (φ~20mm) 20%
焼土粒・炭化物粒少量 |
| 3層 | 10YR2/2黒褐色土 | 10YR5/8黄褐色ローム土との混合土 |



(9) 埴土器



0 (9) S-1/5 10cm



0 (6~8) S-1/2 5cm

0 (1~5) S-1/3 10cm

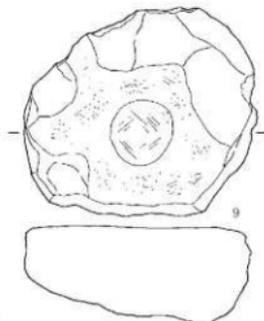
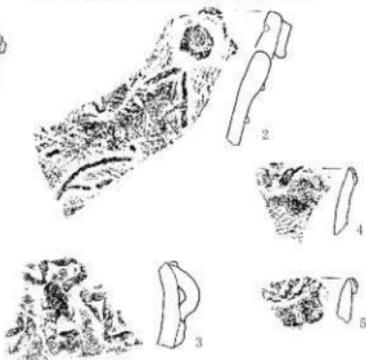
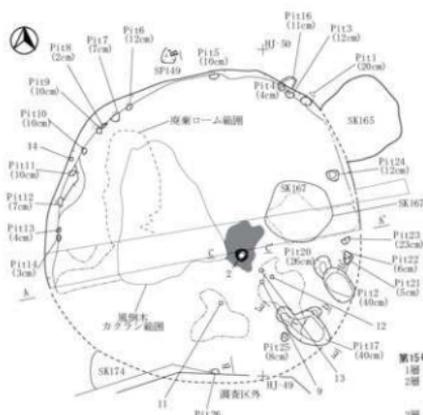
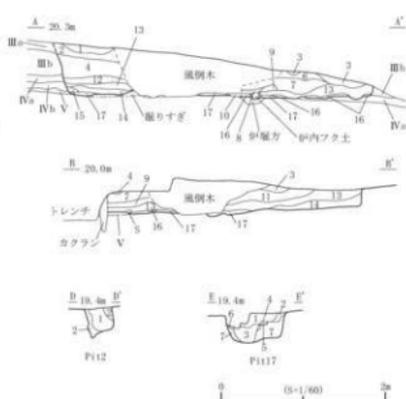
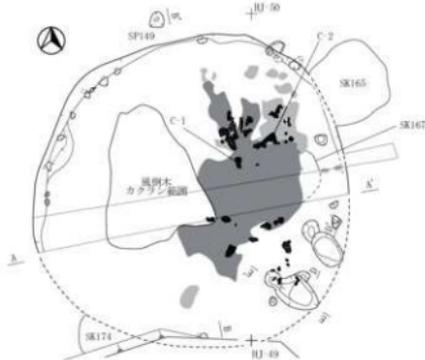


図29 第14号竪穴住居跡

第15号竪穴住居跡



- P12**
- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒 (φ3mm) 7%, しまりあまりなし。
 - 2層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒 (φ1~10mm) 15%, しまりややあり。
- P17**
- 1層 10YR1.7/1 黒色土と10YR2/2黒褐色土との混合物 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~5mm) 12%, ロームブロック (φ30mm) 7%, しまりあまりなし。
 - 2層 10YR3/1 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~10mm) 20%, 10YR1.7/1黒色土7%。
 - 3層 10YR6/8 明黄褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~3mm) 2%, しまりあり。
 - 5層 10YR3/8 黄褐色土 ロームブロック主体, 10YR3/1黒褐色土粒 (φ10mm) 2%, しまりあり。
 - 6層 10YR7/2 に近い黄褐色粒土, しまりあり。
 - 7層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック主体, 10YR3/1黒褐色土12%, しまり・層性あり。
- 竪**
- 1層 10YR5/6 黄褐色ローム 炭化物・炭化材 (φ1~2mm) 2%, しまりあり。
 - 2層 10YR2/1 黒色土 炭化物粒 (φ1~2mm) 2%, しまりややあり。
 - 3層 10YR3/4 黒褐色土 ロームブロック, 炭化した炭塊のローム層。
 - 4層 7.5YR2/3 暗褐色土 炭化した赤色土, しまりあり。
 - 5層 10YR3/2 赤褐色土 10YR5/6黄褐色土粒 (φ3mm) 2%, しまりなし。
 - 6層 10YR5/6 黄褐色土 ローム主体, 10YR3/3暗褐色土7%, 10YR3/2黒褐色土3%, しまりあまりなし。

- 第15号竪穴住居跡**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 炭化物 (φ1~2mm) 1%, しまりあり。
 - 2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土10%, 炭化物 (φ2~5mm) 2%, 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ2~5mm) 1%, 7.5YR5/8明褐色粒土1%, しまりあり。
 - 3層 10YR1.7/1 黒色土 7.5YR5/8明褐色粒土2%, 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~2mm) 1%, しまりあり。
 - 4層 10YR1.7/1 黒色土 炭化物 (φ2~5mm) 2%, ややしまりあり。
 - 5層 10YR1.7/1 黒色土 7.5YR5/8明褐色粒土2%, ややしまりあり。
 - 6層 7.5YR2/3 暗褐色土 7.5YR5/8明褐色粒土20%, 炭化物 (φ1~2mm) 2%, ややしまりあり。
 - 7層 7.5YR5/6 明褐色土 7.5YR2/3暗褐色土1%, 炭化物 (φ5~15mm) 2%, ややしまりあり, 塊土層。
 - 8層 10YR2/1 黒色土 炭化物・炭化材 (φ5~15mm) 30%, しまりあり。
 - 9層 7.5YR2/2 黒褐色土 7.5YR5/8明褐色粒土1%, 炭化物 (φ1~2mm) 3%, ややしまりあり。
 - 10層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~10mm) 10%, 10YR3/1黒褐色土1%, 炭化物粒 (φ5mm) 7%, しまりなし。
 - 11層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~5mm) 7%, しまりあり。
 - 12層 10YR1.7/1 黒色土 10YR3/4暗褐色ローム粒 (φ5~10mm) 2%, 炭化物 (φ2~5mm) 1%, しまりあり。
 - 13層 10YR2/1 黒色土 炭化物・炭化材 (φ5~20mm) 15%, 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ2~5mm) 5%, しまりあり。
 - 14層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ2~30mm) 10%, 炭化物 (φ2~5mm) 2%, しまりあり。
 - 15層 10YR2/2 暗褐色土 10YR5/6黄褐色ロームブロック (φ30mm) 20%, しまりあり。
 - 16層 10YR6/8 明黄褐色ロームと10YR2/2黒褐色土との混合物 (φ1~6) 炭化物 (φ5mm) 2%, しまりあり, 炭泥層。
 - 17層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ1~20mm) 12%, しまりあり, 炭泥層。

図30 第15号竪穴住居跡(1)

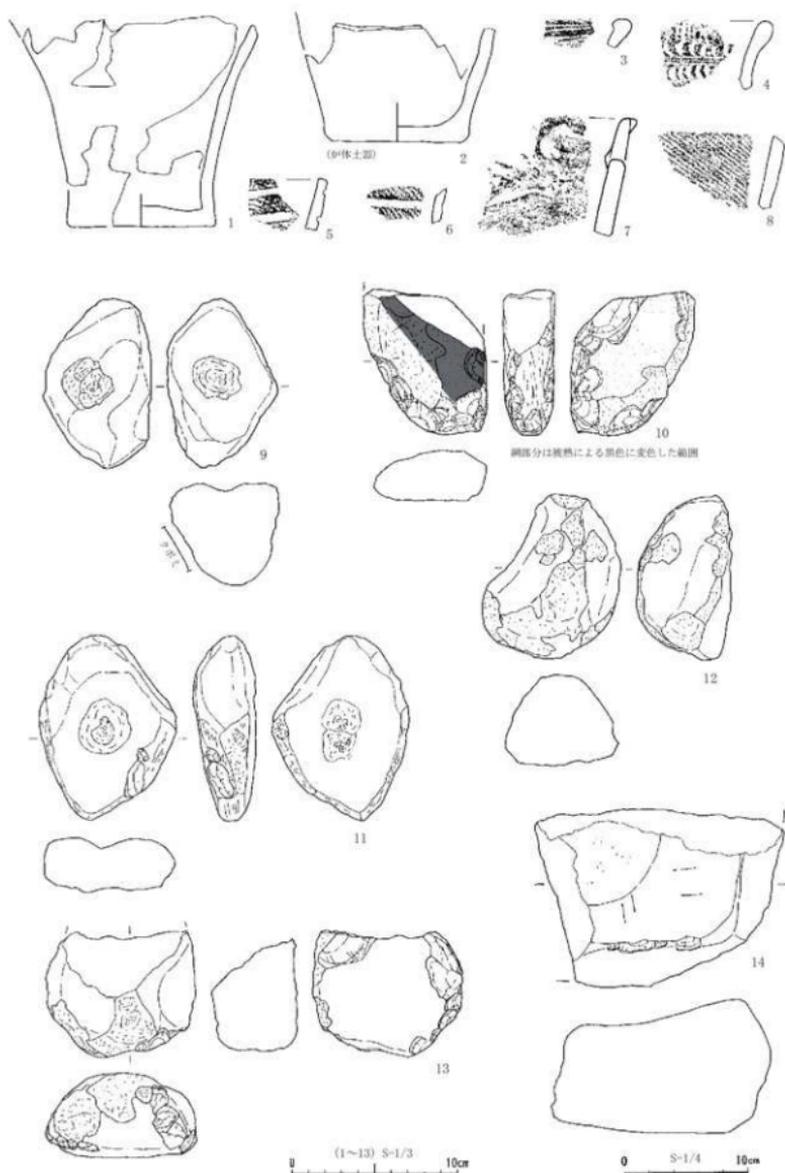
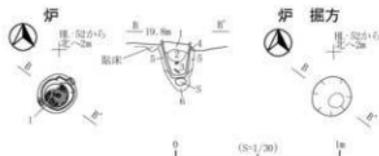
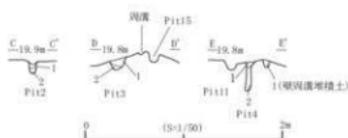
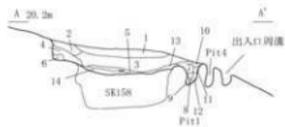
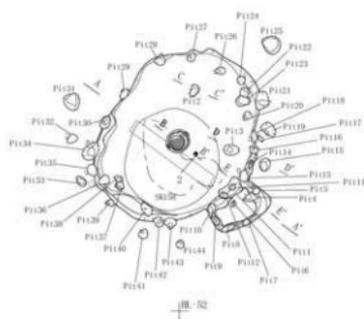


図31 第15号竪穴住居跡(2)

第16号竪穴住居跡



P11番号	深さ (cm)	P11番号	深さ (cm)
P111	20	P1123	4
P112	14	P1124	26
P113	19	P1125	8
P114	32	P1126	24
P115	27	P1127	13
P116	9	P1128	22
P117	13	P1129	17
P118	14	P1130	28
P119	9	P1131	15
P1110	16	P1132	12
P1111	17	P1133	9
P1112	14	P1134	21
P1113	24	P1135	24
P1114	9	P1136	47
P1115	8	P1137	30
P1116	16	P1138	6
P1117	17	P1139	9
P1118	13	P1140	23
P1119	41	P1141	22
P1120	21	P1142	15
P1121	12	P1143	11
P1122	18	P1144	9

第16号竪穴住居跡

- 109K2/1 黒色土
- 109K2/2 黒褐色土
- 109K2/1 黒色土
- 109K2/2 黒褐色土
- 109K1.7/1 黒色土
- 109K6.8 明黄褐色土ロームブロック主体、109K2/2黒褐色土1%、109K3/4暗褐色土7%
- 109K2/2 黒褐色土と109K6.8明黄褐色土ロームとの混合土(7:3) しまりありなし。
- 109K3/4 暗褐色土 109K5.6黄褐色土ローム(φ2~5mm) 7%、炭化物粒(φ1mm) 1%、しまりなし、P111(住居)。
- 109K5.6 黄褐色土 109K2/1黒色土1%、しまりありなし。
- 109K5.6 黄褐色土 109K2/2黒褐色土1%、しまりあり、P111(住居)。
- 109K3/4 暗褐色土 109K5.6黄褐色土ローム(φ2~5mm) 2%、炭化物粒(φ1mm) 1%、P111(住居)。
- 109K6.8 明黄褐色土 109K2/1黒色土1%、炭化物粒(φ1mm) 1%、P111(住居)。
- 109K4/4 褐色土 109K2/2黒褐色土1%、しまりあり、陥没。
- 109K5.6 黄褐色土 109K2/2黒褐色土7%、しまりあり、陥没。
- 109K2/2 黒褐色土 109K6.8明黄褐色土ローム(φ1~3mm) 2%、炭化物粒(φ5mm) 2%。
- 7.53K3/4 暗褐色土 59K4.9赤褐色焼土粒(φ1~2mm) 10%、炭化物粒(φ2mm) 1%、堆土。
- 109K2/2 黒褐色土 109K6.8明黄褐色土ローム(φ1~2mm) 1%、しまりあり。
- 7.53K2/2 黒褐色土 59K4.9赤褐色焼土粒(φ5~10mm) 10%、7.53K6.8暗褐色土ローム(φ10mm) 2%。
- 109K2/1 黒色土 109K6.8明黄褐色土ローム(φ1~2mm) 1%、炭化物粒(φ5mm) 1%、しまりあり。
- 109K1.7/1 黒色土 109K5.6黄褐色土ローム(φ1mm) 1%、P111(住居)。
- 109K2/2 黒褐色土 109K1/4褐色土ローム(φ5mm) 10%、109K2/2黒褐色土1%。
- 109K2/2 黒褐色土 109K6.8明黄褐色土ローム(φ5~30mm)との混合土。
- 109K5.6 黄褐色土 109K6.8明黄褐色土ローム(φ1mm) 1%、109K5.6黄褐色土ロームブロック主体。
- 109K2/3 黒褐色土 109K6.8明黄褐色土ローム(φ1mm) 1%。
- 109K3/4 暗褐色土 109K5.6黄褐色土ローム(φ2~5mm) 10%。

図32 第16号竪穴住居跡

2 土坑

総数158基の土坑を検出した。ここでは、土坑の分布状況や時期、形態、規模、堆積などについての全体的な傾向と、特徴的な事柄の記載を行う。個別の規模や重複関係等、出土遺物の概要は、巻末の遺構計測表と遺物観察表にまとめた。

土坑は調査区のほぼ全域で検出したが、沢1に面した西側丘陵上、FV～GCグリッドの丘陵縁辺および沢3に面した西側丘陵上、GG～GNグリッドの丘陵緩斜面および丘陵南側縁辺部、HF～HPグリッドの丘陵縁辺部に分布のまとまりが見られる。このことから、全体としては、遺跡が立地する浸食谷に面する南側斜面の丘陵縁辺部、または浸食谷に合流する枝谷である沢に面した場所に多く分布する傾向があるといえる。分布が見られる範囲の標高は約20～24mである。

これらの土坑からは、縄文時代前期前葉から古代にかけての土器・石器等が出土している。このうち、最も出土量が多い時期は縄文時代中期中葉の円筒上層d・e式であり、その他、縄文時代前期前葉、縄文時代後期初頭の時代の遺物もやや出土量が多い。ただし、完形あるいは略完形土器を伴う遺構は少なく、多くは破片資料か、または遺物を伴わない傾向があり、時期決定ができる有意な状況をもつ遺構は限られているといえる。なお、第161号土坑からは、縄文時代の土器と古代の土師器とが混在して出土しており、遺構の時期は古代以降と考えられる。第161号土坑を除くその他の土坑からは土師器は出土しておらず、検出層位や状況、出土遺物等から判断して、縄文時代の土坑であると考えられるが、第161号土坑のように、その他の時代の遺構が混在している可能性もある。

平面形は、円形78基、楕円形34基、方形1基、不整形18基、他の遺構との重複や調査区外へ延びていることから全体の形態が不明なもの27基である。円形のものが最も多く、円形と楕円形の円形基調のものが全体の約7割である。

規模は様々で、長軸は約50～250cm、短軸は約40～220cmのものがみられる。円形の土坑は、径70～110cmほどの規模のものが多くみられ、円形全体の7割程度を占める。ただし、規模が小さいものの中には、土坑として精査を行ったが、本来、ピットに分類されるべき遺構も含まれている可能性がある。楕円形のもの、長軸約90～130cmほどの規模のものが多くみられる。方形のものは、長軸116cmである。不整形のものは全体的に規模の差異が大きいが、長軸約90～170cmに収まるものが多い。

断面形は、フラスコ状を呈するもの45基、底面が平坦で底面から開口部に向かって緩やかに外傾して立ち上がる逆台形状を呈するもの43基、底面が平坦で底面から開口部に向かってほぼ垂直に立ち上がる箱形状を呈するもの21基、底面が丸みを持ち深さがあるU字状を呈するもの6基、底面が丸みを持ち浅い皿状を呈するもの31基、不整形を呈するもの10基、ほぼ底面で検出したため断面形が不明なもの1基である。深さは約10～120cmと様々であるが、20～60cmのものが多い。

堆積土は、第Ⅲ層を起源とする黒色土及び黒褐色土を主体とした自然堆積土のものと、第Ⅴ層を起源とする黄褐色ロームを主体とした人為堆積土のものが、後者が多い。これら人為堆積による埋め戻しを行っている土坑の中には、底面や堆積土中、あるいは上部に礫を伴っているものが多く確認できた。

礫を底面および底面付近に伴う土坑は16基（第3・49・50・62・63・82・85・94・95・144・148～150・152・165・166号土坑）、検出面上面及び堆積土上位層に伴う土坑は6基（第54・77・

91・96・97・106号土坑)、堆積土中位層から下位層に伴う土坑は8基(第71・137・109・159・160・162・164・167号土坑)、堆積土中に散在する土坑ものは5基(第49・53・55・143・154号土坑)である。これら堆積土中に礫を伴う土坑の断面形態や規模は様々で、それらとの相関関係はないものと考えられる。

また、堆積土中に一定の範囲で厚みをもったローム主体土または焼土主体土の堆積が確認できる土坑がある(第53・132・140・161・162・174号土坑)。底面中央に小ビットをもつ土坑もある(第89・161号土坑)。

底面や底面近くで完形または略完形土器が出土している土坑としては、第23・119・153・174号土坑がある。出土状況から、すべて横位の状態で底面に廃棄されたと考えられる。SK23から出土した土器は、波状口縁で波状部にボタン状の貼り付けを行っており、Ⅲ群E類と考えられる(図52-4)。SK119から出土した土器は、胴部上位に連続した刺突が施される特徴からⅢ群C類と考えられる(図56-10)。SK153から出土した土器は、平口縁の無文土器で、Ⅳ群B類と考えられる(図59-3)。SK174から出土した土器は、口唇部に燃糸圧痕、胴部に羽状縄文を施しており、Ⅲ群D類と考えられる(図62-9)。

堆積土の上位層や検出面上で、正位で土器が出土した土坑としては第90号土坑があり、倒置で土器が出土した土坑としては115号土坑がある。第90号土坑からは横位の粘土紐貼り付けと羽状縄文を施すⅢ群D類の土器(図54-2)、第115号土坑からは沈線による胸背文を施すⅢ群E類の土器(図56-6)が出土している。

土器破片が密集して出土した土坑としては第161号土坑がある。土器は、底部近くで面的に広がって出土したが、先に記載したように縄文時代中期中葉から後期、弥生時代の土器と古代の土師器が混在して出土している(図60・61)。土器の上部には、焼土主体の堆積が確認でき、人為的に埋め戻していると考えられる。第15号土坑からは縄文時代中期前葉から後葉の土器が多く出土している(図50、51-1・2)。

その他、第104号土坑からは台石3点がまとまって出土している(図55-1~3)。第105・116・149号土坑から北海道式石冠(図55-5、図56-8、図58-9)、第100号土坑からは磨製石斧(図54-24)、第107号土坑からは石冠の未製品(図55-6)が出土している。

時期ごとの分布をみると、縄文時代前期の遺物を包含する土坑は、縄文時代前期に捨て場として利用した沢1に面した西側丘陵上と、沢3の比較的遺構が密集するGG~GJグリッドに点在する。縄文時代中期から後期の土器を包含する土坑は調査区全域に広く分布する。縄文時代晩期の土器を包含する土坑は、調査区中央付近のGH-42・43グリッドに位置する第98号土坑1基である。弥生時代の遺物を包含する土坑は調査区東寄りのHG-48グリッドに位置する第161号土坑であり、この土坑は縄文時代から古代の遺物が混在して出土している土坑である。

用途については不明なものが多い。底面に小ビットをもつ土坑は、落とし穴の可能性が考えられる。また、覆土中に比較的大きな礫、ローム主体土、焼土主体土が入っている土坑は、人為的な要素が強いと考えられ、何か特殊な性格・用途があったと考えることもできる。(鈴木)

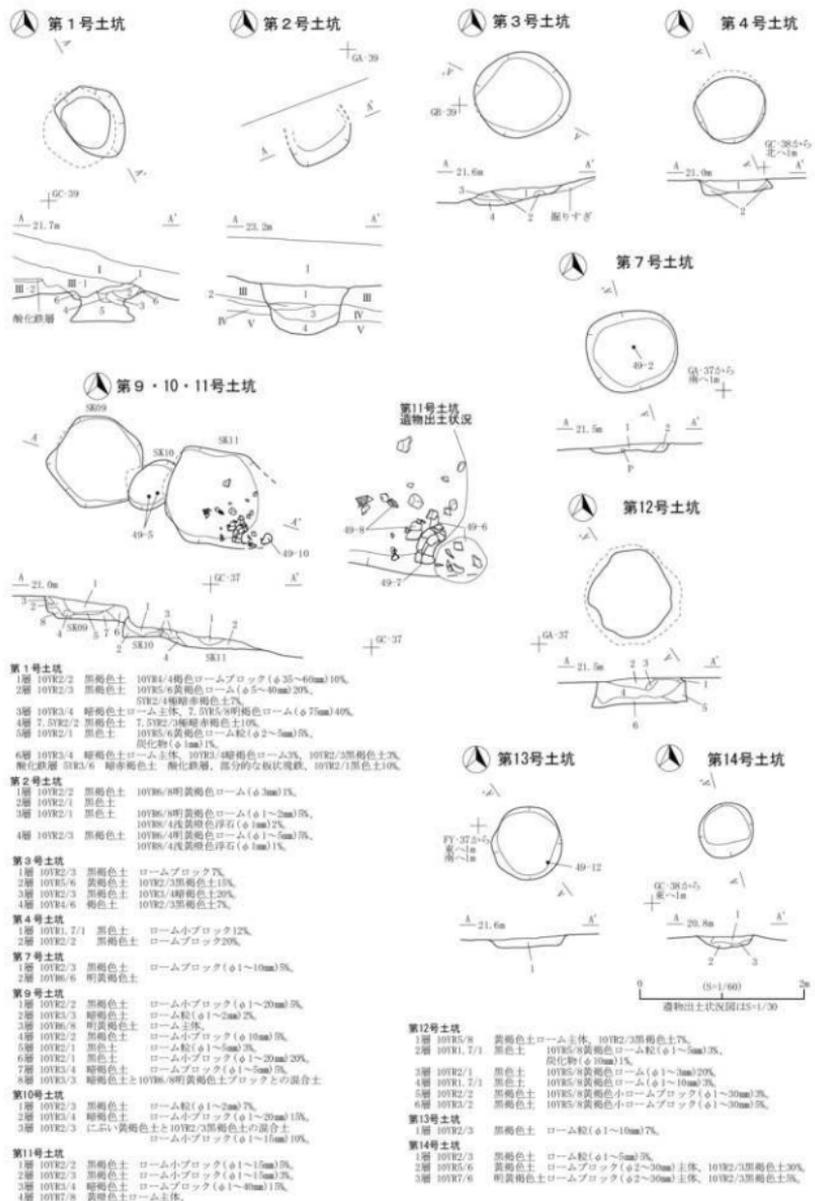


図33 土坑(1)

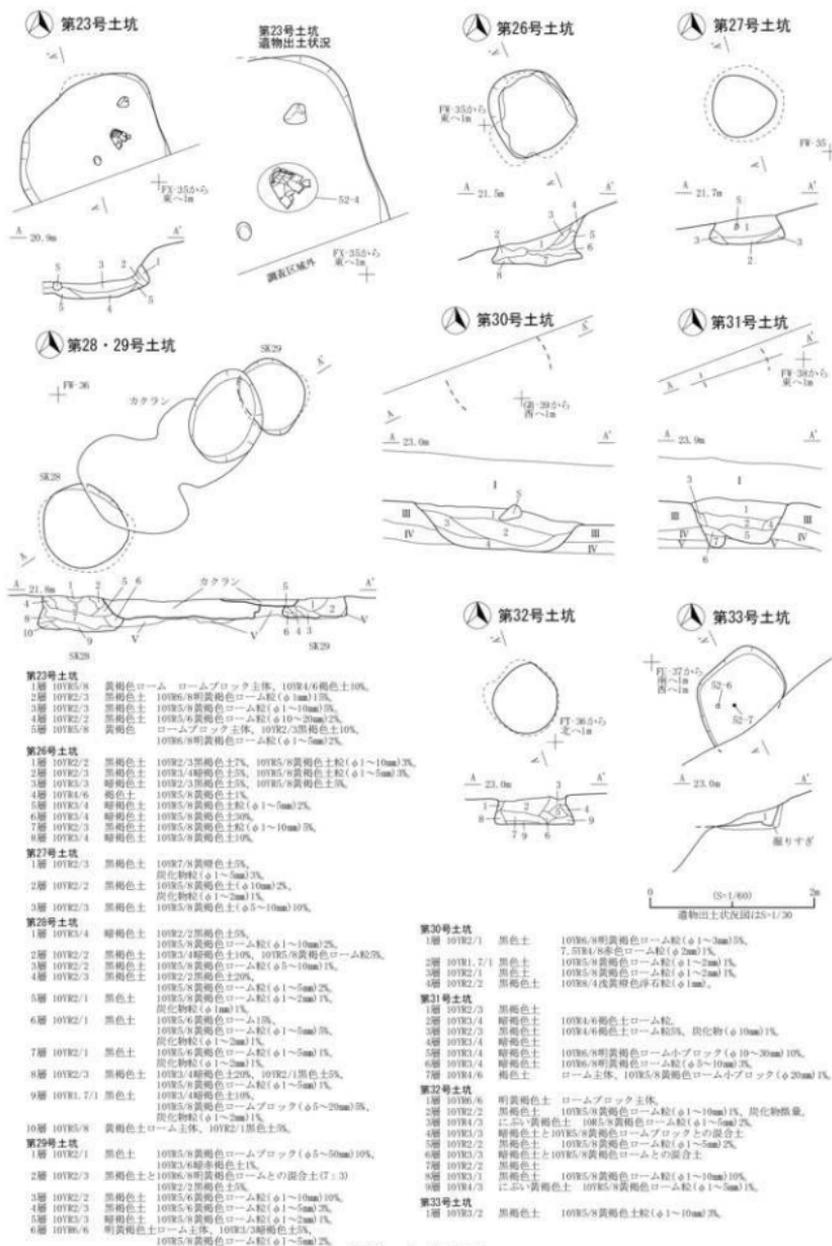


図35 土坑(3)

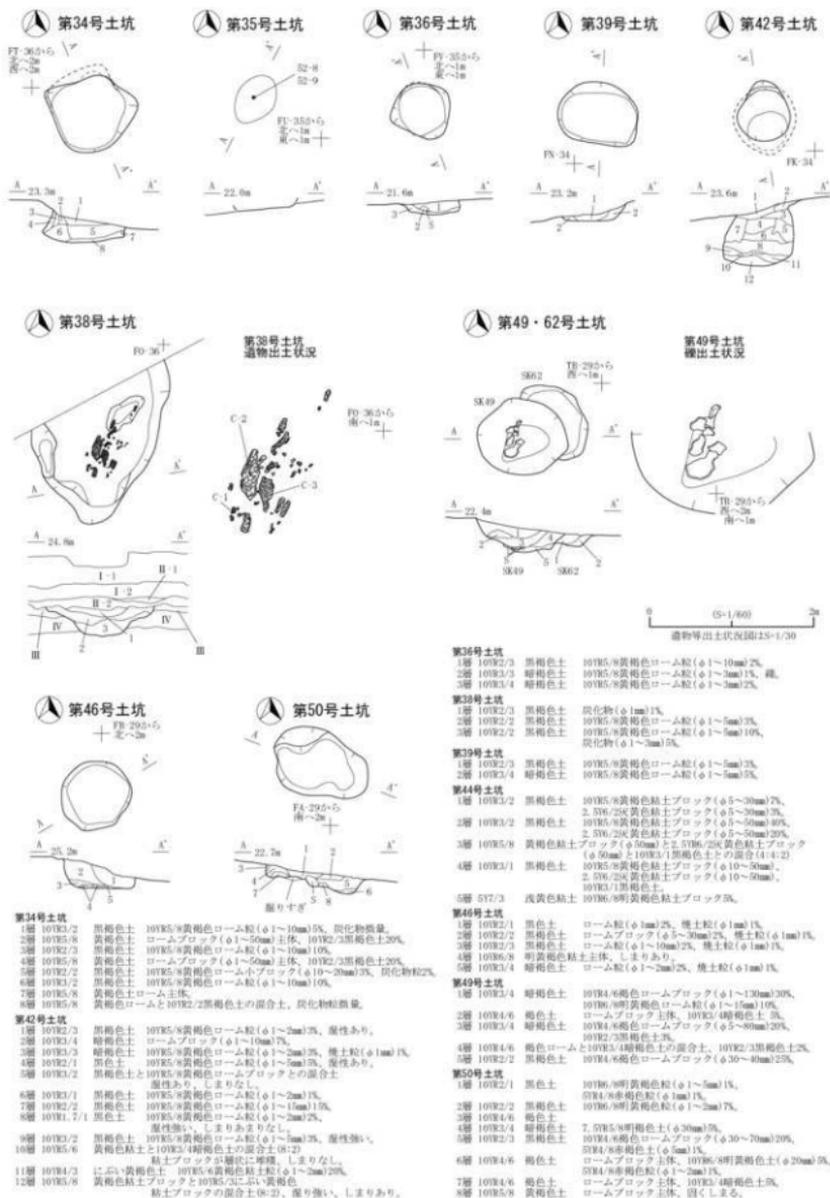


図36 土坑(4)

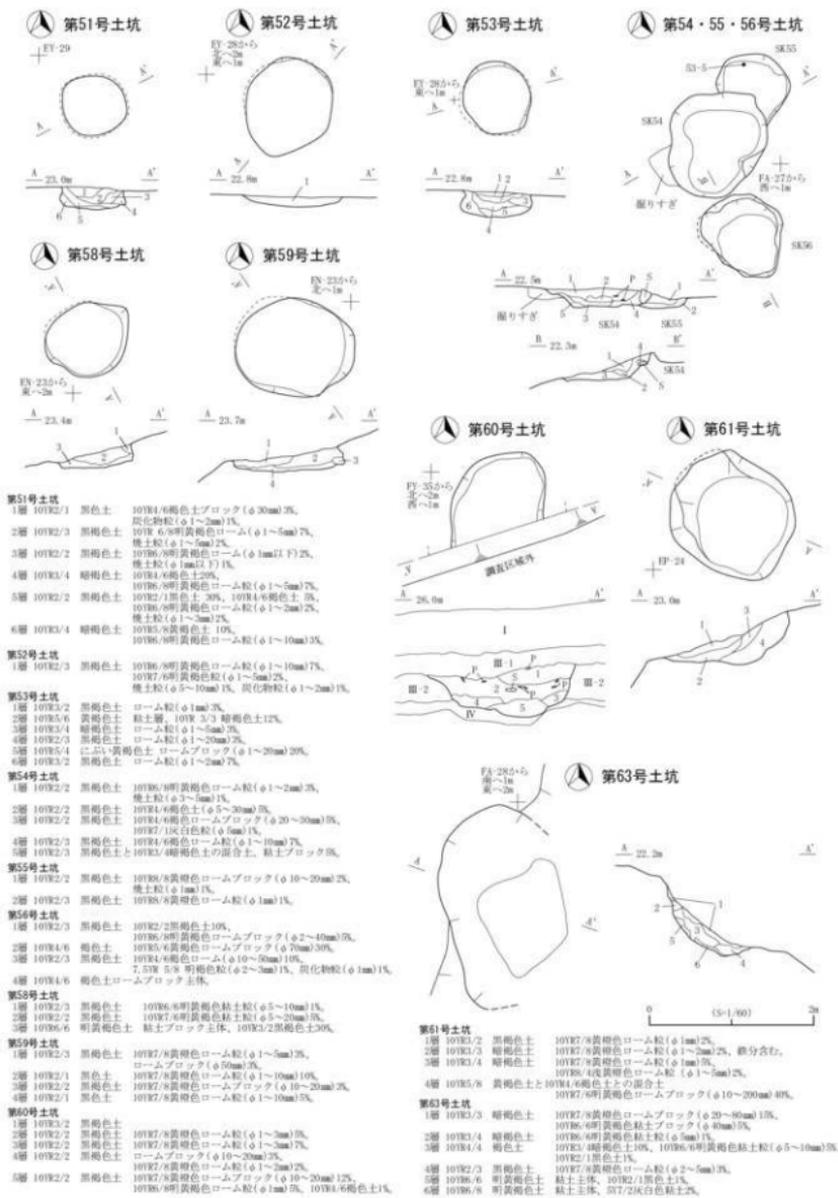
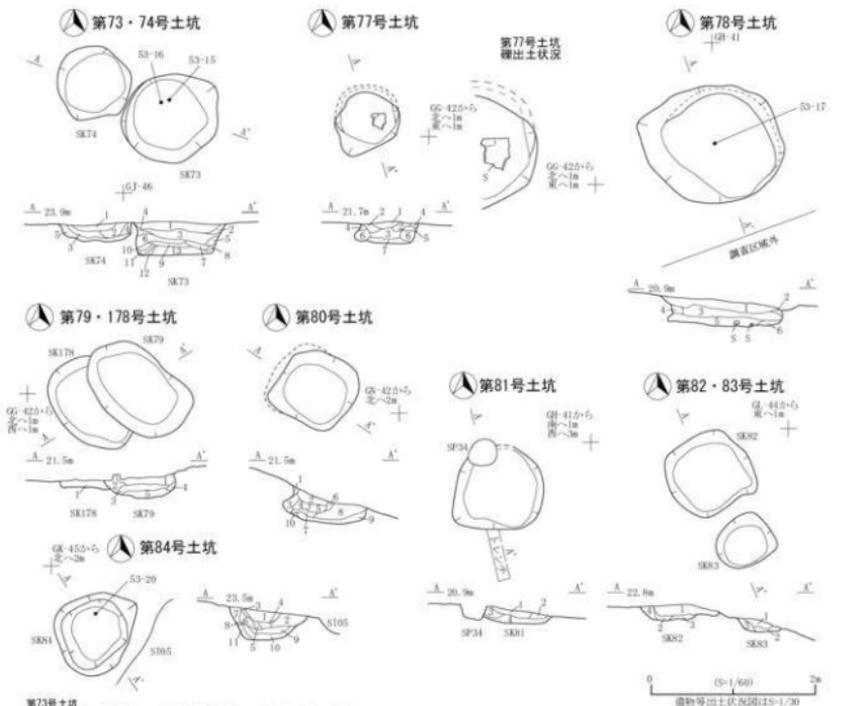


図37 土坑(5)



第73号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/4 褐色土
- 5層 10YR3/4 暗褐色土
- 6層 10YR2/3 黒褐色土
- 7層 10YR3/4 暗褐色土
- 8層 10YR6/8 明黄褐色土
- 9層 10YR3/4 暗褐色土
- 10層 10YR4/4 褐色土
- 11層 10YR2/3 黒褐色土
- 12層 10YR5/6 黄褐色土
- 13層 10YR2/3 黒褐色土

第74号土坑

- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)10%
- ローム土体
- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)10%
- 10YR2/3 黒褐色土20%, 10YR6/8 明黄褐色ロームブロック20%
- 10YR6/8 明黄褐色ロームブロック1%
- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)7%, 炭化物2%
- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)3%, ローム土体
- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%, ローム土体, 10YR2/3 黒褐色土1%
- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1mm)2%
- ローム土体, 10YR2/3 黒褐色土2%
- 10YR7/6 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%, 炭化物2%

第77号土坑

- 1層 10YR4/3 にごり黄褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR4/4 褐色土
- 4層 10YR4/4 褐色土
- 5層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)7%
- 6層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%
- 7層 10YR4/4 褐色土
- 8層 10YR3/4 暗褐色土
- 9層 10YR4/6 褐色土
- 10層 10YR5/6 黄褐色土

第77号土坑
掘出土状況



第78号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土との混合土
- 4層 10YR4/4 褐色土
- 5層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)7%
- 6層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%
- 7層 10YR4/4 褐色土
- 8層 10YR3/4 暗褐色土
- 9層 10YR4/6 褐色土
- 10層 10YR5/6 黄褐色土

第79・178号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第80号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第81号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第82・83号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)7%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第84号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第73号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第74号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第77号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第80号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第81号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第78号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第79号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第82号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第83号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

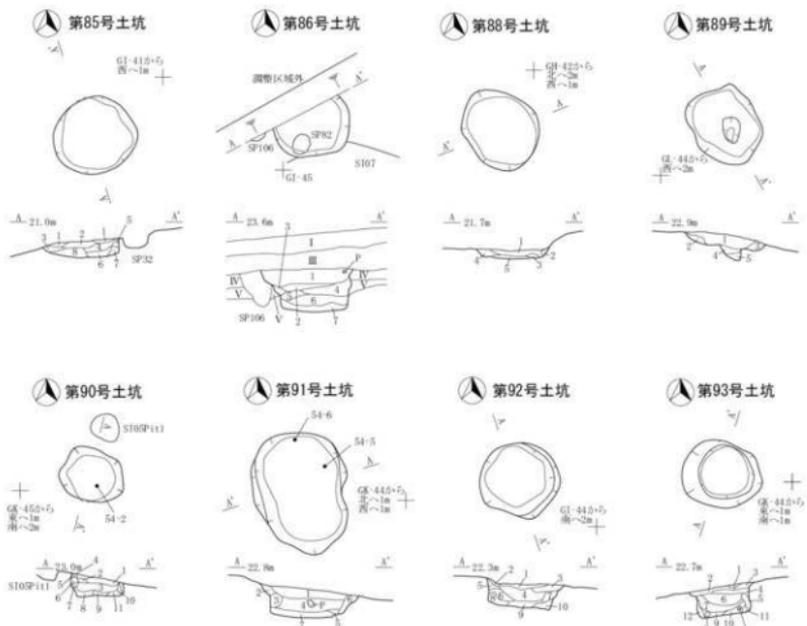
第84号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR2/3 黒褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR4/4 褐色土

第178号土坑

- 1層 10YR2/3 黒褐色土

図39 土坑(7)



第85号土坑

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~3mm)2%
- 2層 10YR2/3 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~3mm)1%
- 3層 10YR1/4 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ロームブロックの混合土(体:φ)
- 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~5mm)2%
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~5mm)10%
- 6層 10YR2/3 暗褐色土 10YR2.2暗褐色土13%
- 7層 10YR4/6 褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~3mm)2%
- 8層 10YR2/1 黒色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~3mm)12%

第86号土坑

- 1層 10YR2/3 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ2~5mm)2%, 炭化物粒(φ1~2mm)1%
- 2層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ2mm)1%
- 3層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ロームブロック(φ30mm)1%
- 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ2~5mm)5%, 炭化物粒(φ2mm)1%
- 5層 10YR2/1 黒色土 10YR7.9明黄色色ロームブロック(φ20mm)1%
- 6層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.9明黄色色ロームブロック(φ5~30mm)10%, 炭化物粒(φ2~5mm)1%
- 7層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ5~10mm)1%

第88号土坑

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~3mm)5%
- 2層 10YR6/8 明黄色色ロームブロックと10YR2/1黒色土との混合土(体:φ)
- 3層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~5mm)15%
- 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~3mm)7%

第89号土坑

- 1層 10YR2/3 暗褐色土 10YR3.6黄褐色ロームブロック(φ40mm)1%, 炭化物粒(φ2mm)1%
- 2層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ1~2mm)1%
- 3層 10YR1/4 暗褐色土 10YR7.9明黄色色ローム粒(φ1~5mm)1%
- 4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR7.9明黄色色ローム粒(φ1~5mm)1%
- 5層 10YR5/6 暗褐色土ロームブロック主体、10YR2/4暗褐色土3%

第90号土坑

- 1層 10YR2/3 暗褐色土 10YR7.9明黄色色ローム粒(φ1~5mm)1%, 炭化物粒(φ1~2mm)1%
- 2層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.9明黄色色ローム粒(φ2~10mm)2%
- 3層 10YR2/2 暗褐色土 10YR3.1灰白色土粒(φ1~5mm)1%
- 4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ2~5mm)2%
- 5層 10YR4/6 褐色土と10YR3/3暗褐色土との混合土
- 6層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ2~5mm)2%
- 7層 10YR6/8 明黄色色ロームブロック主体、10YR2/3暗褐色土2%
- 8層 10YR3/3 暗褐色土と10YR3.6黄褐色ローム土との混合土(7:3)
- 9層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ2~10mm)2%
- 10層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ2mm)1%
- 11層 10YR5/6 黄褐色土ロームと10YR2/3暗褐色土との混合土(5:5)

第91号土坑

- 1層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~5mm)5%, 炭化物粒1%
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ1~10mm)12%
- 3層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~5mm)10%, 10YR6.8明黄色色ロームブロック(φ20mm)3%
- 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物粒1%
- 5層 10YR2/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~3mm)1%
- 6層 10YR2/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~3mm)1%
- 7層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ロームブロック(φ1~3mm)5%

第92号土坑

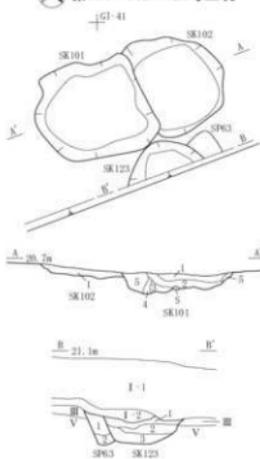
- 1層 10YR2/3 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~10mm)10%, 炭化物粒1%
- 2層 10YR2/1 黒色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~2mm)3%
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ1~2mm)10%, 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~2mm)3%, 炭化物粒1%
- 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~2mm)7%, 10YR4.6褐色土ローム粒(φ20~50mm)3%, 炭化物粒1%
- 5層 10YR2/1 黒色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ20~50mm)3%, 炭化物粒1%
- 6層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~10mm)1%
- 7層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~3mm)3%, 10YR6.9明黄色色ロームブロック(φ20mm)1%
- 8層 10YR2/1 黒色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ1~10mm)10%, 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~2mm)3%
- 9層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ロームブロック(φ20~50mm)10%, 炭化物粒1%
- 10層 10YR2/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~3mm)3%, 10YR6.9明黄色色ロームブロック(φ40mm)1%

第93号土坑

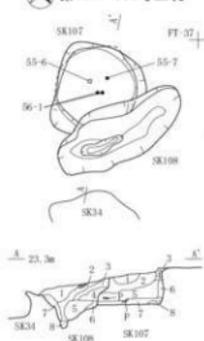
- 1層 10YR4/6 褐色土ロームブロック主体、10YR7.6明黄色色ローム粒(φ1~5mm)2%
- 2層 10YR2/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~10mm)1%
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6.8明黄色色ローム粒(φ1~10mm)1%
- 4層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ1~2mm)10%, 10YR6.9明黄色色ローム粒(φ1~2mm)5%, 炭化物粒1%
- 5層 10YR6.8 明黄色色ロームブロック主体、草屑落土
- 6層 10YR2/1 黒色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ10~20mm)1%
- 7層 10YR2/1 黒色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ1~2mm)3%, 10YR6.9明黄色色ロームブロック(φ10~40mm)3%
- 8層 10YR3/6 明黄色色土ロームブロック主体、暗褐色土10%
- 9層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ1~5mm)10%
- 10層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6.9明黄色色ロームブロック(φ10~20mm)5%
- 11層 10YR1.7/1 黒色土 10YR4.6褐色土ローム粒(φ1~5mm)20%
- 12層 10YR6.8 明黄色色土ローム主体、ややしりりなし。

図40 土坑 (8)

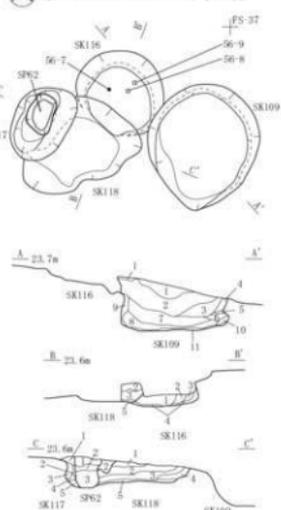
▲ 第101・102・123号土坑



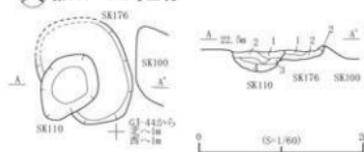
▲ 第107・108号土坑



▲ 第109・116・117・118号土坑



▲ 第110・176号土坑



第101号土坑

- 1層 101R2/3 黒褐色土 101R7/8黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%, 酸化鉄粒1%, 2層 101R2/1 黒土 7.5R5/8明黄色ローム粒(φ2~3mm)1%, 3層 101R2/2 黒褐色土 101R4/6褐色ロームブロック(φ5~50mm)5%, 4層 101R4/4 褐色土 ロームブロック(φ50mm)主体, 101R3/4暗褐色土2%, 5層 101R4/4 褐色土 ロームブロック主体, 101R3/4暗褐色土10%.

第102号土坑

- 1層 101R2/2 黒褐色土 101R4/6褐色ロームブロック(φ5~50mm)5%.

第123号土坑

- 1層 101R2/2 黒褐色土 101R7/8明黄色ロームブロック(φ1~10mm)1%, 2層 101R2/2 黒褐色土 101R7/8明黄色ローム, 3層 101R3/3 暗褐色土 101R4/6褐色土ブロック(φ1~20mm)10%, 炭化物1%.

第63号ピット

- 1層 101R3/2 暗褐色土 小粒1%
- 2層 101R2/2 黒褐色土

第107号土坑

- 1層 107R2/2 暗褐色土 ローム粒(φ2~2mm)2%, 焼土粒(φ1mm)1%, 2層 107R2/1 黒土 ローム粒(φ1~2mm)1%, 焼土粒(φ1mm)1%, 3層 107R2/3 暗褐色土 101R7/8明黄色ローム, 4層 107R2/3 暗褐色土と101R5/9黄褐色ロームブロックとの混合土(7:3)ローム粒(φ1~2mm)1%, 5層 107R1/1, 7/1 黒土 ローム粒(φ1~2mm)1%, 焼土粒(φ1mm)1%, 6層 107R2/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~2mm)1%, 7層 107R1/1, 7/1 黒土 ローム粒(φ1~2mm)1%, 焼土粒(φ1mm)1%, 産性あり, 8層 107R2/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~15mm)2%.

第108号土坑

- 1層 108R2/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)15%, 2層 108R2/2 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)15%, 産性あり, 3層 108R2/1 黒土 ロームブロック(φ5~50mm)7%, 4層 108R5/6 黄褐色土ローム主体, 101R3/4暗褐色土2%, しまりあり, 5層 108R3/2 暗褐色土 ロームブロック(φ5~25mm)10%, しまりなし, 6層 108R1/1, 7/1 暗褐色土 ローム粒(φ1~2mm)1%, 産性あり, 7層 108R1/1, 7/1 暗褐色土 ロームブロック(φ5~20mm)15%, 8層 108R6/6 明黄色土ロームブロック主体, しまりなし, 産性強い.

第109号土坑

- 1層 109R2/1 黒土 101R6/8明黄色ローム粒, 炭化物粒(φ1~5mm)1%, 2層 109R2/3 暗褐色土 101R8/9明黄色ローム(φ1~20mm)1%, 炭化物(φ1~10mm)1%, 3層 109R2/2 暗褐色土 101R6/8明黄色ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~3mm)1%, 4層 109R2/3 暗褐色土 101R6/8明黄色ローム(φ1~20mm)10%, 5層 109R2/2 暗褐色土 101R6/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)1%, 6層 109R2/3 暗褐色土 101R8/9明黄色ローム粒(φ1~15mm)1%, 炭化物(φ1~3mm)1%, 7層 109R2/1 暗褐色土 101R6/8明黄色ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物(φ1~3mm)1%, 8層 109R1/1, 7/1 黒土 101R6/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)2%, ロームブロック(φ100mm)1%, 9層 109R2/2 暗褐色土 101R8/9明黄色ローム粒(φ1~3mm)1%, 褐色土ロームブロック主体, 101R2/2暗褐色土17%, 11層 109R5/6 黄褐色土ロームブロック主体, 101R2/2暗褐色土15%, しまりあり.

第116号土坑

- 1層 101R1/1, 7/1 黒土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)1%, しまりあり, 2層 101R2/1 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)1%, 3層 101R2/1 黒土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)1%, 4層 101R5/6 黄褐色土 ロームブロックと101R2/1暗褐色土との混合土(5:5)

第117号土坑

- 1層 101R3/4 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~2mm)2%, 焼土粒(φ1mm)1%, 2層 101R2/3 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~2mm)2%, 3層 101R2/2 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~2mm)2%, 4層 101R3/6 褐色土と101R3/3暗褐色土との混合土(8:4), 5層 101R5/6 黄褐色土 101R4/4褐色土との混合土(8:2) しまりあり.

第62号ピット

- 1層 101R5/6 黄褐色ロームブロックと101R3/3暗褐色土との混合土(7:3) 101R2/6明黄色ロームブロック(φ10~30mm)2%, 2層 101R2/3 暗褐色土 101R3/3暗褐色土との混合土(5:5) 101R6/6黄褐色ローム(φ5~20mm)20%, 焼土粒(φ1mm)1%, 3層 101R5/6 黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)7%, しまりあり.

第118号土坑

- 1層 101R3/3 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)2%, 2層 101R2/3 暗褐色土 101R5/8明黄色ロームブロック(φ10~30mm)2%, 3層 101R2/2 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)2%, 4層 101R2/3 暗褐色土 101R5/8明黄色ローム粒(φ1~5mm)2%, 5層 101R2/1 焼土粒(φ1mm)1%, しまりなし, 6層 101R5/6 黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)7%, しまりあり.

第110号土坑

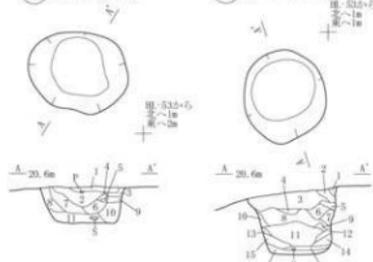
- 1層 101R3/4 暗褐色土 101R8/9明黄色ロームブロック(φ30mm)1%, 炭化物粒(φ1~2mm)1%, 2層 101R2/3 暗褐色土 101R8/9明黄色ローム粒(φ2~10mm)1%, 炭化物粒(φ1~5mm)1%, 3層 101R4/6 褐色土 7.5R5/8明黄色ロームブロック(φ20~30mm)15%, 101R2/3暗褐色土2%, 炭化物粒(φ1~2mm)1%, 4層 101R2/3 暗褐色土 101R5/6黄褐色土ロームブロック(φ5~50mm)5%, 炭化物粒(φ1~5mm)1%.

第176号土坑

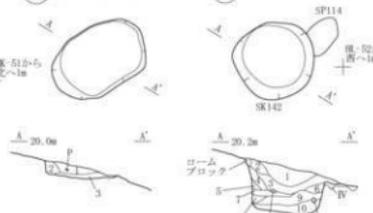
- 1層 101R3/3 暗褐色土 101R6/8明黄色ローム粒(φ2~5mm)1%, 2層 101R2/3 暗褐色土 101R7/8明黄色ローム, 3層 101R2/2 暗褐色土 101R5/6明黄色土ロームブロック(φ5~20mm)2%.

図42 土坑(10)

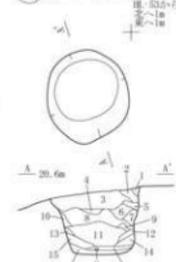
▲ 第137号土坑



▲ 第141号土坑



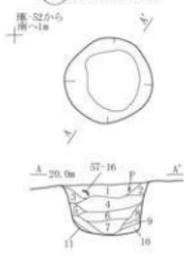
▲ 第138号土坑



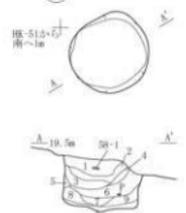
▲ 第142号土坑



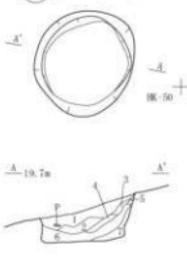
▲ 第139号土坑



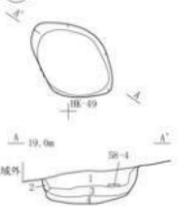
▲ 第143号土坑



▲ 第140号土坑



▲ 第144号土坑



第137号土坑

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%, 炭化植物(φ2~5mm)1%
- 2層 10YR1/7/1 黒色土
- 3層 10YR4/6 褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土5%, 硝落土
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1mm)2%, 炭化植物(φ2~5mm)1%
- 5層 10YR4/6 褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土5%
- 6層 10YR2/1 黒色土 炭化植物(φ2~5mm)1%
- 7層 10YR2/1 黒色土
- 8層 10YR2/1 黒褐色土 10YR7/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%, 10YR2/2黒褐色土10%
- 9層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ10mm)3%
- 10層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒・ロームブロック(φ5~50mm)20%
- 11層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ2~5mm)7%

第138号土坑

- 1層 10YR5/6 黄褐色ロームと10YR2/2黒褐色土との混合土(7:3)
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%
- 3層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)2%, 10YR8/4黄褐色粘土(φ3mm)1%
- 4層 10YR1/7/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土10%, 炭化物(φ5mm)1%
- 5層 10YR6/4 明黄褐色ロームと10YR2/2黒褐色土との混合土(8:2)
- 6層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ2~50mm)10%
- 7層 10YR1/7/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ロームとの混合土(6:4)
- 8層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%
- 9層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)10%
- 10層 10YR2/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土5%
- 11層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)5%, 10YR2/2黒褐色土10%
- 12層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%
- 13層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5~50mm)と10YR2/2黒褐色土との混合土(6:4)、10YR2/1黒色土2%
- 14層 10YR6/4 黄褐色ロームブロック(φ50~30mm)と10YR2/2黒褐色土との混合土(6:4)、10YR2/1黒色土1%, 炭化物(φ5mm)1%
- 15層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)15%, 炭化物(φ5mm)1%
- 16層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6明黄褐色ロームブロック(φ30mm)2%, 炭化物(φ5mm)1%
- 17層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ロームブロック(φ20~30mm)2%, 炭化物(φ5mm)1%

第139号土坑

- 1層 10YR1/7/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%
- 2層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5mm)2%
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)3%, 10YR2/2黒褐色土2%
- 4層 10YR2/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土(φ2~30mm)2%, 炭化物(φ2~5mm)1%
- 5層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%, 10YR2/2黒褐色土1%
- 6層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5~20mm)1%, 10YR2/2黒褐色土1%, 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5~10mm)10%, 炭化物(φ2~5mm)1%
- 7層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)10%, 炭化物(φ2~5mm)1%
- 8層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/6明黄褐色ロームブロック(φ20~50mm)との混合土(5:5)
- 9層 10YR2/1 黒色土と10YR2/2黒褐色土との混合土
- 10層 10YR2/1 黒褐色土と10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5~15mm)7%, 10YR2/2黒褐色土と10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ50~100mm)との混合土(6:4)10YR2/1黒色土2%
- 11層 10YR6/4 明黄褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土10%

第140号土坑

- 1層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ2~5mm)1%, しまりあり。
- 2層 10YR4/6 褐色褐色土 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ5~50mm)20%, 10YR2/2黒褐色土10YR1/7/1土質土質(φ20~40mm)5%, 炭土粒(φ3mm)1%
- 3層 10YR2/2 褐色褐色土 10YR4/6褐色土ローム粒(φ2~5mm)10%, 褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土20%
- 4層 10YR4/6 褐色褐色土と10YR4/6褐色土ロームブロック(φ10~30mm)との混合土(7:3)10YR2/2黒褐色土2%, 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5~20mm)7%
- 5層 10YR5/6 黄褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土5%

第141号土坑

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%, 炭化物粒(φ1~2mm)1%
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%, 炭化物(φ5mm)1%
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%, 炭化物(φ5mm)1%
- 4層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~10mm)2%, 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ80mm)1%, 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%
- 5層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%, しまりあり。
- 6層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%, しまりあり。
- 7層 10YR1/7/1 明黄褐色ロームと10YR2/1黒色土との混合土(6:4)
- 8層 10YR1/7/1 明黄褐色ロームと10YR2/1黒色土との混合土(6:4)
- 9層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%
- 10層 10YR1/7/1 明黄褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土5%
- 11層 10YR2/1 黒色土と10YR5/6明黄褐色土との混合土(6:4)
- 12層 10YR1/7/1 明黄褐色土ローム粒(φ5~20mm)2%, 10YR6/4明黄褐色粘土粒(φ5mm)1%, 炭化物(φ10mm)1%
- 13層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)3%

第142号土坑

- 1層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ロームブロック(φ80mm)1%, 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%, しまりあり。
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%, しまりあり。
- 4層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)5%, しまりあり。
- 5層 10YR1/7/1 明黄褐色ロームと10YR2/1黒色土との混合土(6:4)
- 6層 10YR1/7/1 明黄褐色ロームと10YR2/1黒色土との混合土(6:4)
- 7層 10YR1/7/1 明黄褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土5%
- 8層 10YR2/1 黒色土と10YR5/6明黄褐色土との混合土(6:4)
- 9層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色土ローム粒(φ5~20mm)2%, 10YR6/4明黄褐色粘土粒(φ5mm)1%, 炭化物(φ5mm)1%
- 10層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)3%

第143号土坑

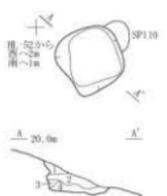
- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ2~5mm)3%, 炭化植物(φ2~5mm)1%, 焼土粒1%
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土ロームブロック(φ2~80mm)5%, 10YR7/7/1黒色土5%, 炭化物(φ2~10mm)2%, 焼土粒(φ3mm)1%
- 3層 10YR1/7/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土5%
- 4層 10YR2/1 黒色土と10YR5/6黄褐色土ロームブロック(φ50~60mm)との混合土(5:5)
- 5層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色土ローム粒(φ5~10mm)10%
- 6層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6黄褐色土ローム粒(φ5~10mm)10%, 炭化植物(φ1mm)1%
- 7層 10YR2/1 黒色土
- 8層 10YR6/4 明黄褐色土ロームブロック主体、10YR2/2黒褐色土20%, 炭化物(φ3mm)1%
- 9層 10YR6/4 明黄褐色土ロームブロックと10YR2/2黒褐色土との混合土、炭性あり。
- 10層 10YR6/4 明黄褐色土ローム主体、10YR4/6褐色土10%, 10YR2/2黒褐色土5%, 炭性あり。

第144号土坑

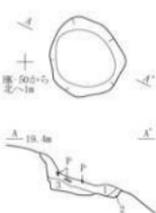
- 1層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色土ローム粒(φ1~2mm)3%
- 2層 10YR2/1 黒褐色土 10YR7/6明黄褐色土ローム粒(φ1~2mm)10%
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色土ローム粒(φ1~2mm)1%
- 4層 10YR1/7/1 黒色土 炭性あり。

図45 土坑 (13)

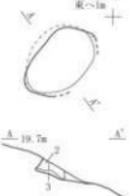
第145号土坑



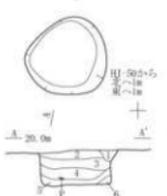
第147号土坑



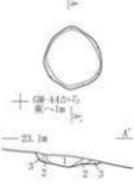
第148号土坑



第149号土坑



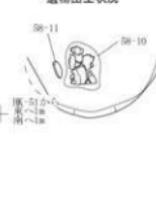
第151号土坑



第150号土坑



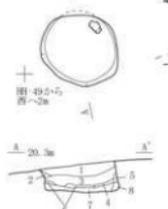
第150号土坑
遺物出土状況



第152号土坑



第153号土坑

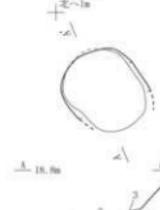


第153号土坑
遺物出土状況

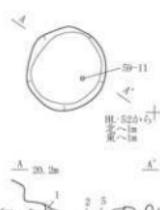


遺物出土状況図(25-1/30)

第154号土坑



第158号土坑



第145号土坑

- 1層 10YR2/3
- 2層 10YR2/2
- 3層 10YR2/4
- 4層 10YR2/2

- 黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%, 10YR2/黒色土12%
- 10YR2/黒色土
- 10YR7.8/黄褐色ローム粒(φ2~20mm)10%, 10YR2/黒色土5%

第147号土坑

- 1層 10YR2/1
- 2層 10YR2/2
- 3層 10YR2/2

- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ロームブロック(φ5~15mm)3%
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ5~15mm)7%

第149号土坑

- 1層 10YR2/3
- 2層 10YR4/6
- 3層 10YR2/1

- 暗褐色土
- 10YR2.2/黒褐色土3%, 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ2~5mm)2%, 炭化物粒1φ2mm1%
- 褐色ロームブロックと10YR2.4/暗褐色土との混合土(6:4)
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ5~10mm)5%
- 黒色土と10YR4.6/褐色ロームとの混合土(6:4)

第149号土坑

- 1層 10YR2/1
- 2層 10YR1.7/1
- 3層 10YR2/2
- 4層 10YR2/3
- 5層 10YR1.7/1
- 6層 10YR1.7/1

- 黒色土と10YR3.2/黒褐色土との混合土(5:5)
- 黒色土
- 10YR1.8/黄褐色ローム粒
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒10%, 炭化物粒1%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒10%, 炭化物粒・焼土粒1%
- 黒褐色土
- 炭化物粒1%
- 黒色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム20%

第150号土坑

- 1層 10YR1.7/1
- 2層 10YR2/2
- 3層 10YR2/1

- 黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ2~10mm)3%, 炭化物粒(φ1~2mm)1%
- 黒褐色土と10YR6.8/黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)との混合土(5:5)
- 黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ2~10mm)1%

第151号土坑

- 1層 10YR2/2
- 2層 10YR2/3
- 3層 10YR4/6

- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)10%, 暗褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)20%, 褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)10%

第152号土坑

- 1層 10YR2/2
- 2層 10YR2/1
- 3層 10YR2/1
- 4層 10YR2/2
- 5層 10YR2/1
- 6層 10YR2/3

- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒1%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒1%, 炭化物・焼土粒1%
- 黒色土と10YR5.8/黄褐色ロームとの混合土
- 黒褐色土
- 焼土粒1%以下
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム10%

第153号土坑

- 1層 10YR2/3
- 2層 10YR2/3
- 3層 10YR2/2
- 4層 10YR2/2
- 5層 10YR2/1
- 6層 10YR2/2
- 7層 10YR2/1
- 8層 10YR2/1

- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒10%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒40%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒・炭化物・焼土粒1%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒1%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒1%
- 黒褐色土
- 焼土粒1%以下
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム10%

第154号土坑

- 1層 10YR2/2
- 2層 10YR2/3
- 3層 10YR2/3
- 4層 10YR5/8

- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ1~3mm)2%, 炭化物2%, 10YR5.8/黄褐色ロームブロックとの混合土(7:3)
- 黄褐色ロームブロックと10YR2.2/黒褐色土との混合土(6:4)

第158号土坑

- 1層 10YR2/3
- 2層 10YR4/6
- 3層 10YR2/2
- 4層 10YR2/1

- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%, 褐色土ロームブロック主体
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%
- 黒褐色土
- 10YR5.8/黄褐色ローム粒(φ3~10mm)3%

第158号土坑

- 1層 10YR2/2
- 2層 10YR1.7/1
- 3層 10YR2/1
- 4層 10YR2/1
- 5層 10YR2/1
- 6層 10YR2/1
- 7層 10YR2/2

- 黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1mm)1%
- 黒褐色土
- 10YR1.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~1mm)2%
- 10YR2/1/黒色土10%
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%
- 黄褐色土ロームブロック主体
- 10YR2.2/黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~3mm)7%, しまりあり
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%, ロームブロック(φ30mm)1%

第158号土坑

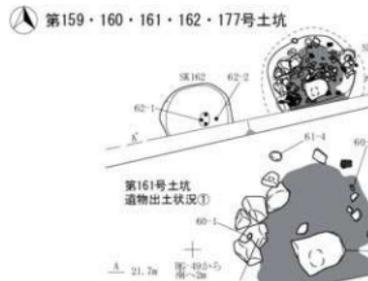
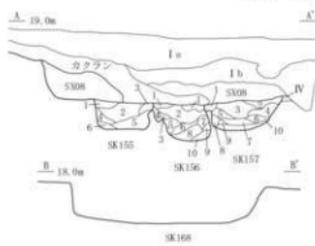
- 1層 10YR2/1
- 2層 10YR1.7/1
- 3層 10YR2/1
- 4層 10YR2/1
- 5層 10YR2/1
- 6層 10YR2/1
- 7層 10YR2/2
- 8層 10YR5/8
- 9層 10YR2/2
- 10層 10YR6/8
- 11層 10YR1.7/1
- 12層 10YR5/8
- 13層 10YR3/4

- 黒褐色土
- 炭化物・炭化物(φ5~30mm)10%
- 黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~1mm)2%
- 10YR2/1/黒色土10%
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%
- 黄褐色土ロームブロック主体
- 10YR2.2/黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~3mm)7%, しまりあり
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%, ロームブロック(φ30mm)1%
- 明黄褐色土ローム主体
- 10YR2/1/黒色土10%
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%, しまりあり
- 黒褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%, 黄褐色土ローム主体
- 10YR2/1/黒色土10%
- 暗褐色土
- 10YR6.8/黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%

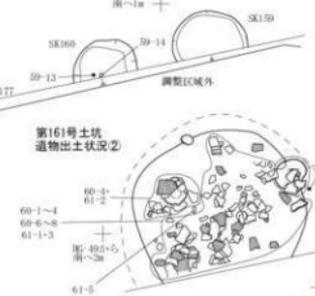
図46 土坑(14)



第155・156・157・168号土坑



第159・160・161・162・177号土坑



- 第155号土坑**
- 1層 10YR3/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/2 黒褐色土

- 第156号土坑**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR6/6 黄褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/2 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土

- 第157号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第158号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第159号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第160号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第161号土坑 遺物出土状況①**
- 60-1-4
 - 60-6-8
 - 61-1-3
 - 61-5

- 第161号土坑 遺物出土状況②**
- 60-1-4
 - 60-6-8
 - 61-1-3
 - 61-5

- 第162号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

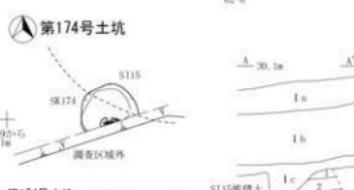
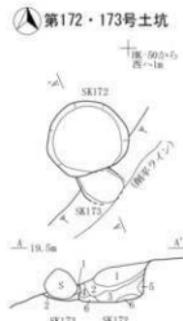
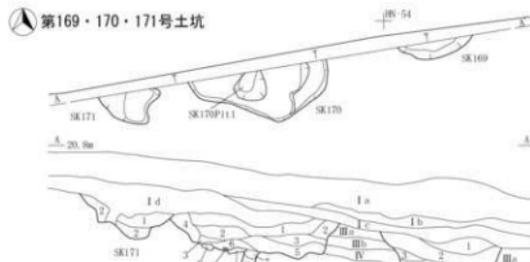
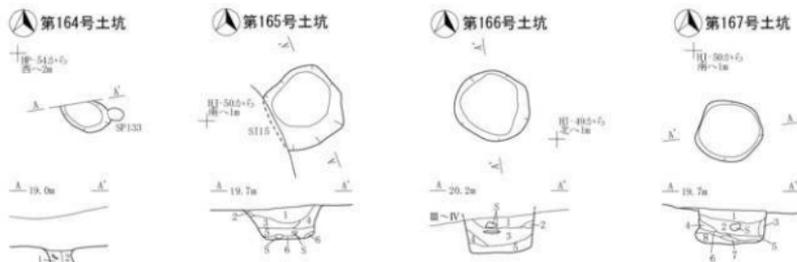
- 第163号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第164号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第165号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

- 第166号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土
 - 6層 10YR2/1 黒褐色土
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土
 - 9層 10YR2/1 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒褐色土

図47 土坑 (15)



第174号土坑 遺物出土状況

- 第164号土坑**
- 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%, 炭化物粒(φ2mm)1%, しまりなし。
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%, 炭化物粒(φ1~5mm)2%。
 - 3層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%, 炭化物粒(φ1~5mm)5%, しまりあり。

- 第165号土坑**
- 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒・焼土粒(φ1mm)1%, 2層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ロームブロックとの混合土(5:3)
 - 3層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%, 4層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)2%, 5層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%, 中型焼土, 6層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)との混合土(7:3)

- 第166号土坑**
- 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%, 2層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%, 3層 10YR1.7/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム粒(φ5mm)5%, しまりありなし, 塑性あり。
 - 4層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~50mm)1%, 5層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ2~10mm)5%, しまりありなし, 塑性あり。

- 第167号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR2/3黒褐色土+ブロック(φ20mm)2%, 焼土粒(φ5mm)1%, しまりあり。
 - 2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム粒(φ3~10mm)2%, しまりなし。
 - 3層 10YR4.6 褐色土 10YR3/1黒褐色土との混合土(6:4) しまりなし, 4層 10YR1.7/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム粒(φ5mm)5%, しまりありなし, 塑性あり。
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土 10YR4/6褐色ローム粒(φ3~20mm)2%, 6層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~20mm)20%, しまりややあり, 塑性あり。
 - 7層 10YR2/1 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~10mm)5%, しまりややあり, 塑性あり。
 - 8層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~10mm)15%, しまり, 塑性あり。

- 第169号土坑**
- 1層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物1%, 2層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物1%, 3層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物1%, 4層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色ローム粒(φ~5mm)1%, 5層 10YR4.4 褐色土 黒褐色土, 6層 10YR2/1 黒色土 黄褐色ローム粒(φ~5mm)1%, 7層 10YR3/3 黒褐色土 黒褐色土, 8層 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色ローム粒(φ~5mm)1%, 9層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム土との混合土

- 第170号土坑**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色ローム, 炭化物1%, 2層 10YR2/1 黒褐色土 黒褐色土, 3層 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土, 4層 10YR3/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームとの混合土(8:2)
 - 5層 10YR2/1 黒褐色土 炭化物1%, 焼土, 6層 10YR3/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームとの混合土(6:4), 7層 10YR3/3 黒褐色土 黄褐色ロームブロック(φ~10mm)15%以下, 8層 10YR3/3 黒褐色土 黄褐色ロームブロック(φ~30mm)15%以下。

- 第171号土坑**
- 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ロームとの混合土(6:4)
 - 2層 10YR3/8 黄褐色ローム+10YR2/2黒褐色土との混合土(7:3)

- 第172号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ10mm)1%, しまりあり, 2層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~5mm)10%, 3層 10YR1.7/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~5mm)10%, 塑性+しまりあり。
 - 4層 10YR3/1 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~5mm)20%, 10YR1.7/1褐色土+ブロック2%, しまりあり。
 - 5層 7.0YR2/3 緑褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3~5mm)10%, 6層 10YR2/1 黒褐色土 10YR1.7/1褐色土+ブロック2%, しまりありなし。

- 第173号土坑**
- 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土15%, 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ3mm)1%, 塑性あり, しまりなし。
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ロームブロックとの混合土(7:3) 粘性+塑性あり, しまりありなし。

- 第174号土坑**
- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR4/6褐色ローム粒(φ1mm)1%, 2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%, 3層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明赤褐色焼土粒(φ1~3mm)2%, 4層 5YR5.8 明赤褐色土 10YR1/6褐色ローム粒(φ1~3mm)1%, 5層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8明赤褐色焼土(φ1~30mm)2%, 6層 10YR1.7/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%, 7層 10YR1.7/1 黒色土 10YR5/8明赤褐色焼土+炭化物粒(φ~3mm)1%, 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%。

図48 土坑 (16)

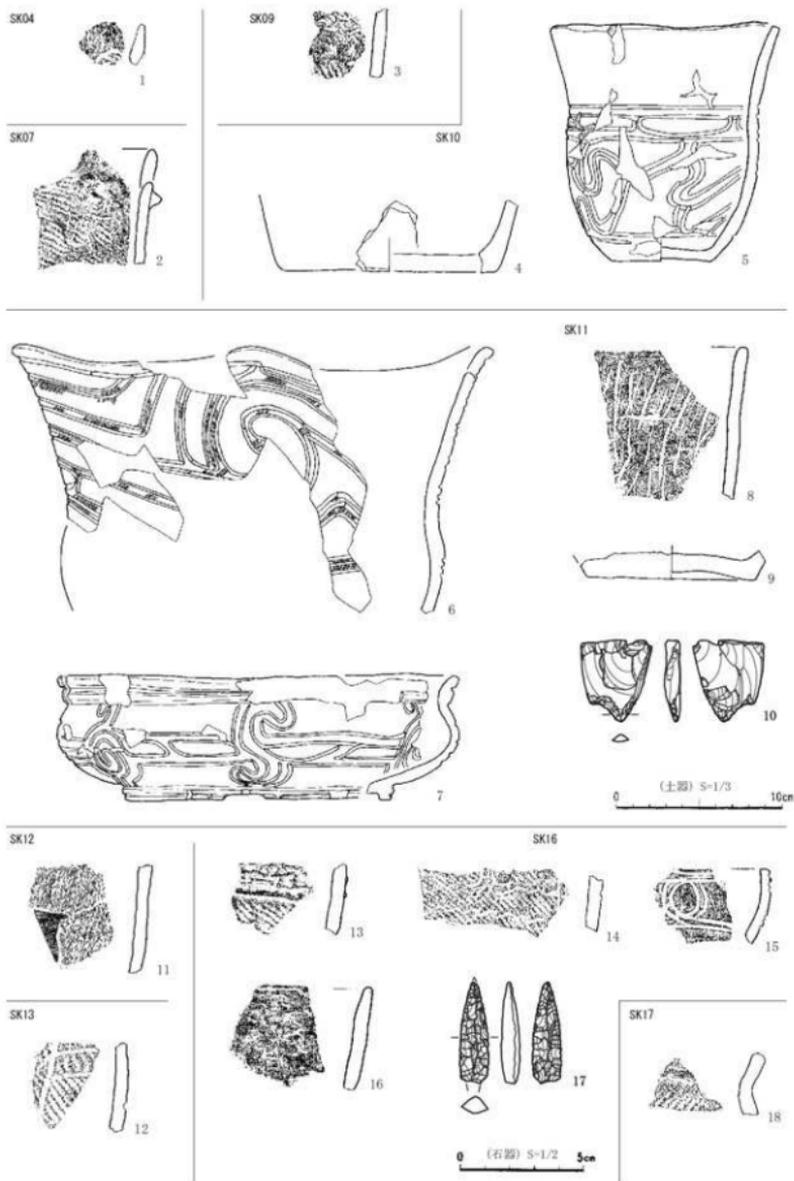


図49 土坑出土遺物 (1)

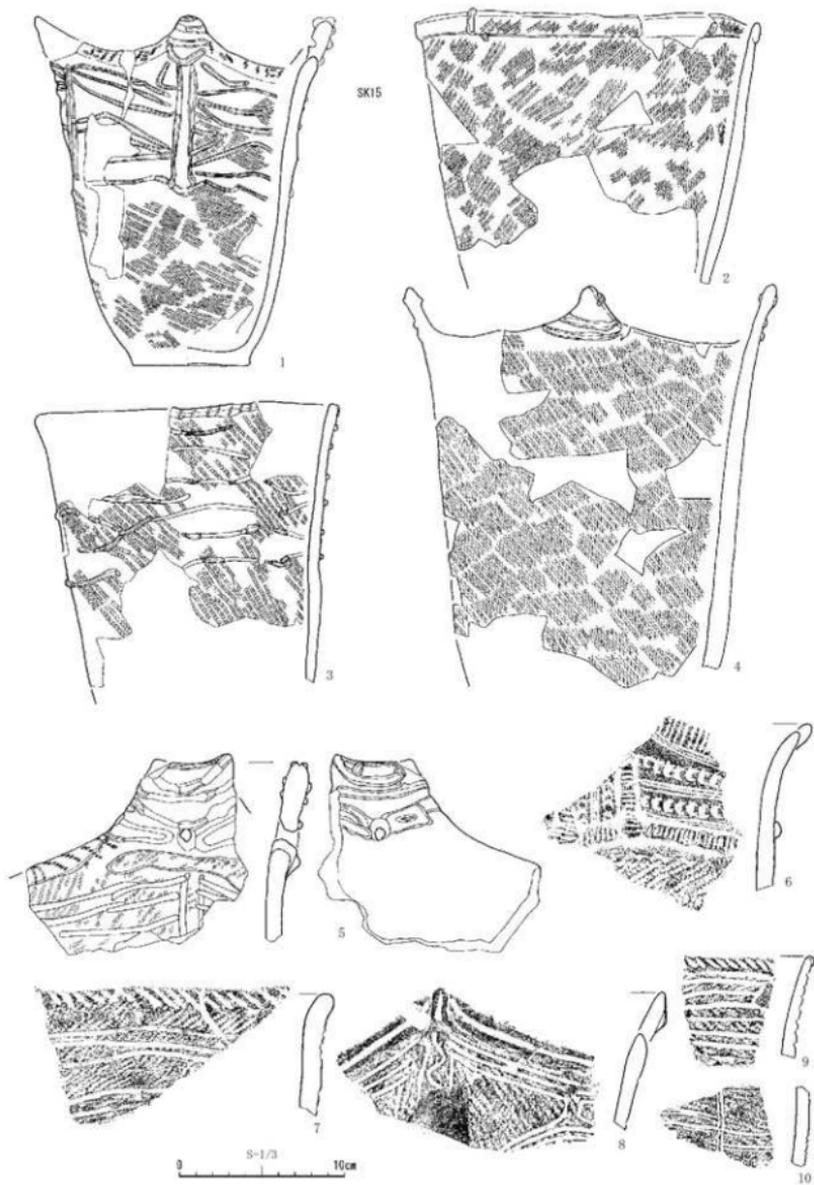


图50 土坑出土遺物 (2)

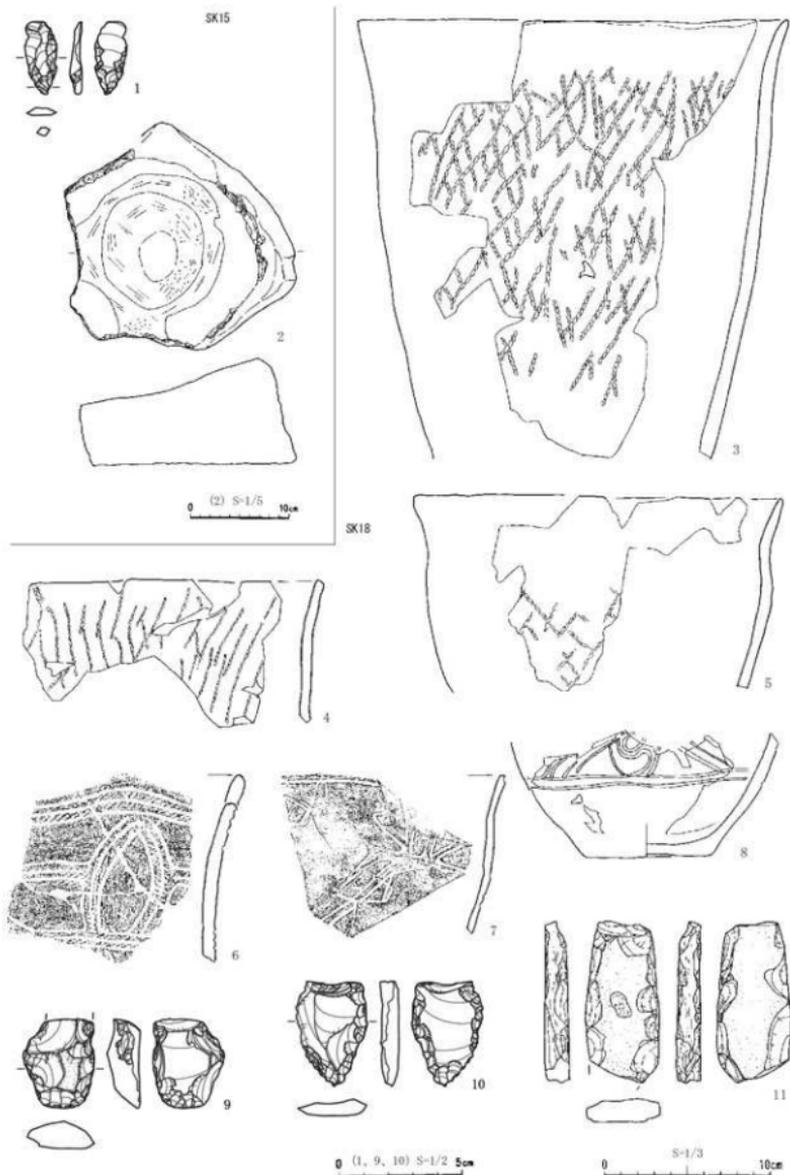


図51 土坑出土遺物（3）

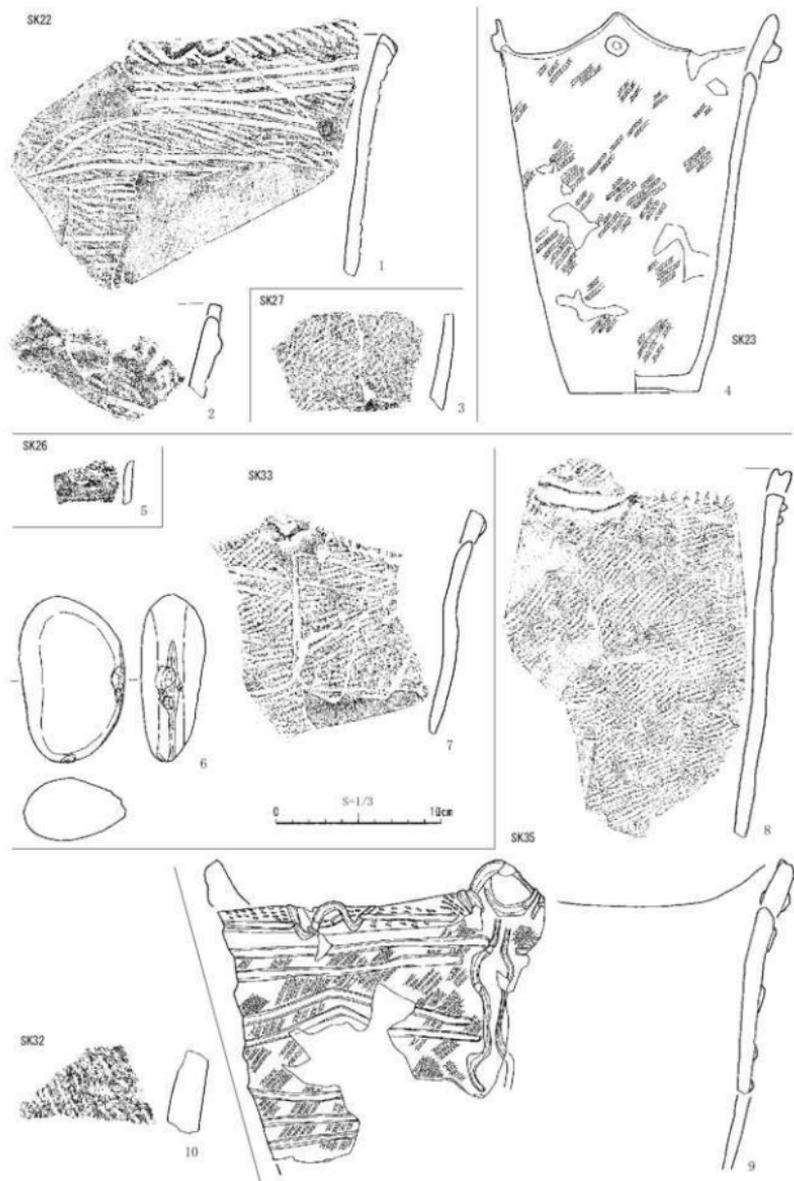


图52 土坑出土遺物(4)

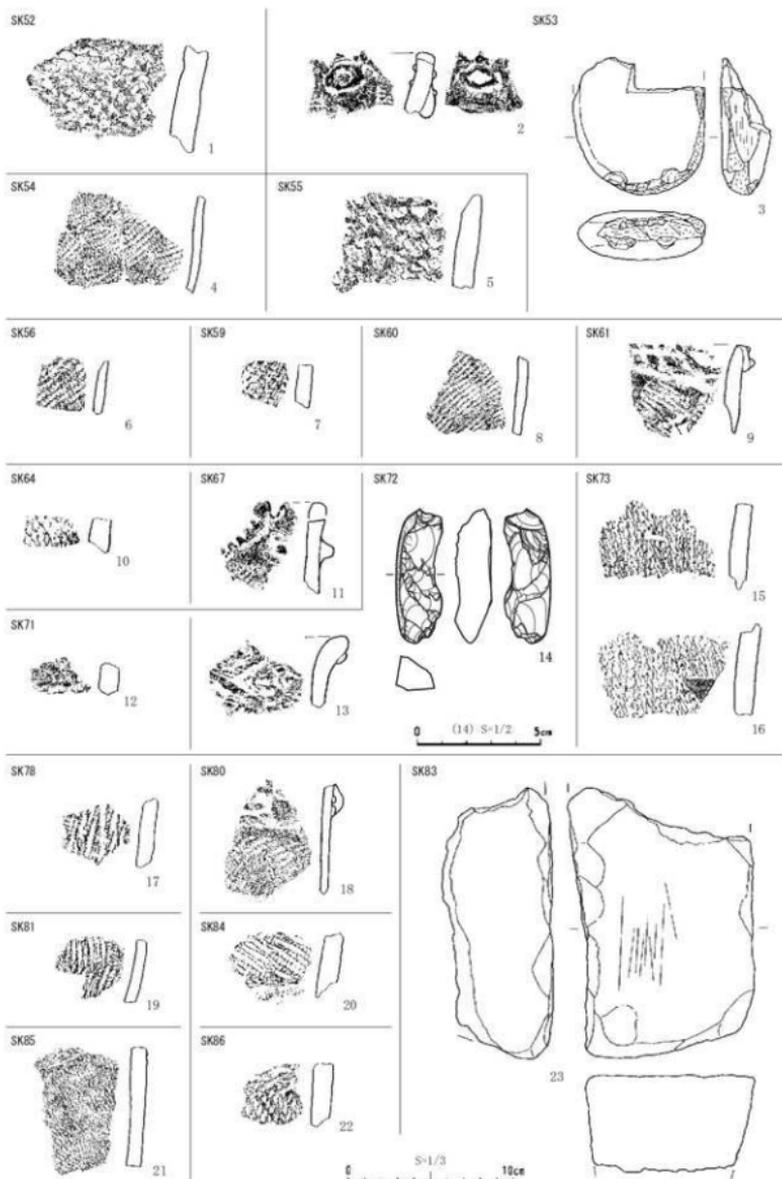


図53 土坑出土遺物(5)

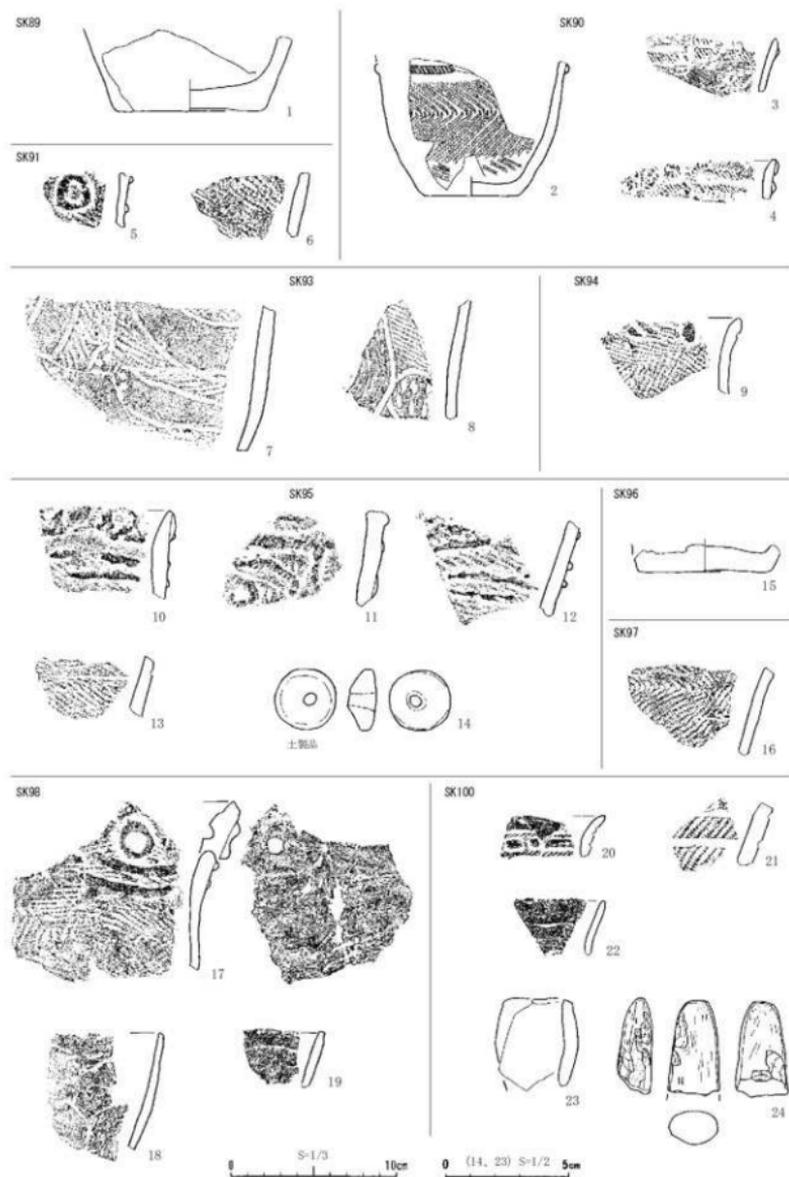


图54 土坑出土遺物 (6)

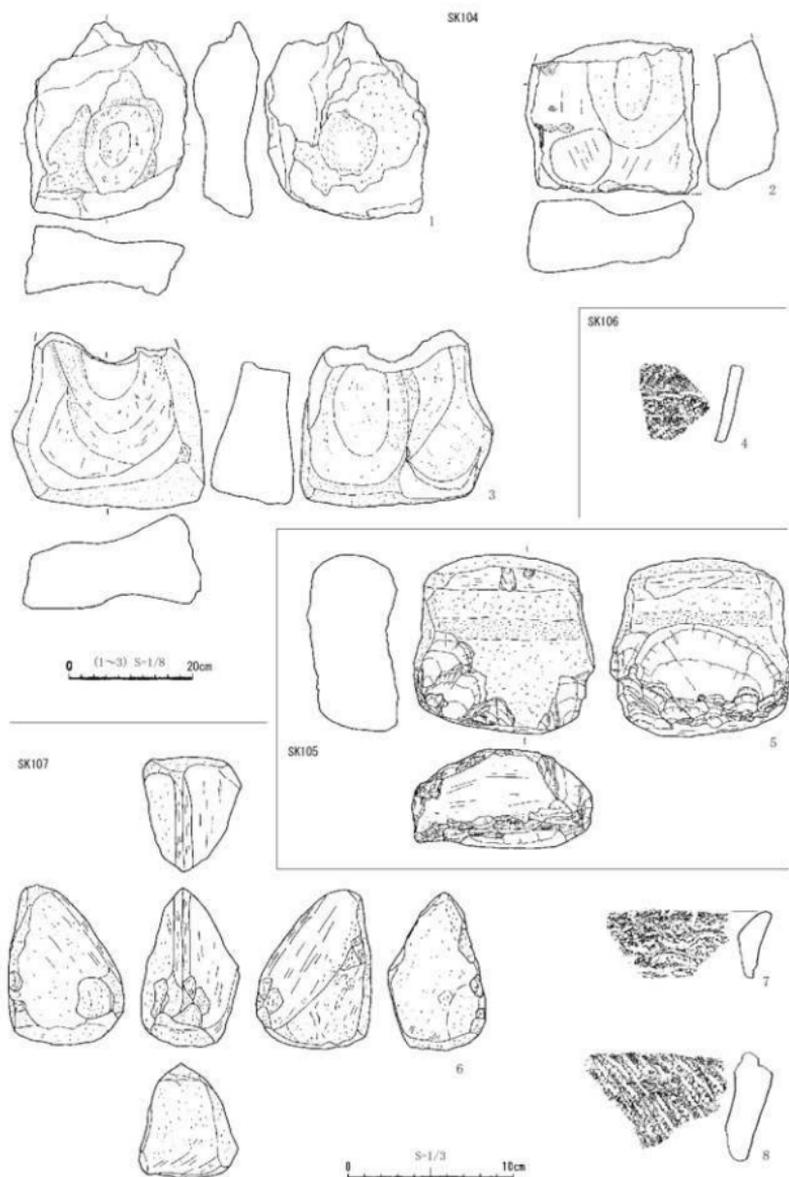


図55 土坑出土遺物 (7)

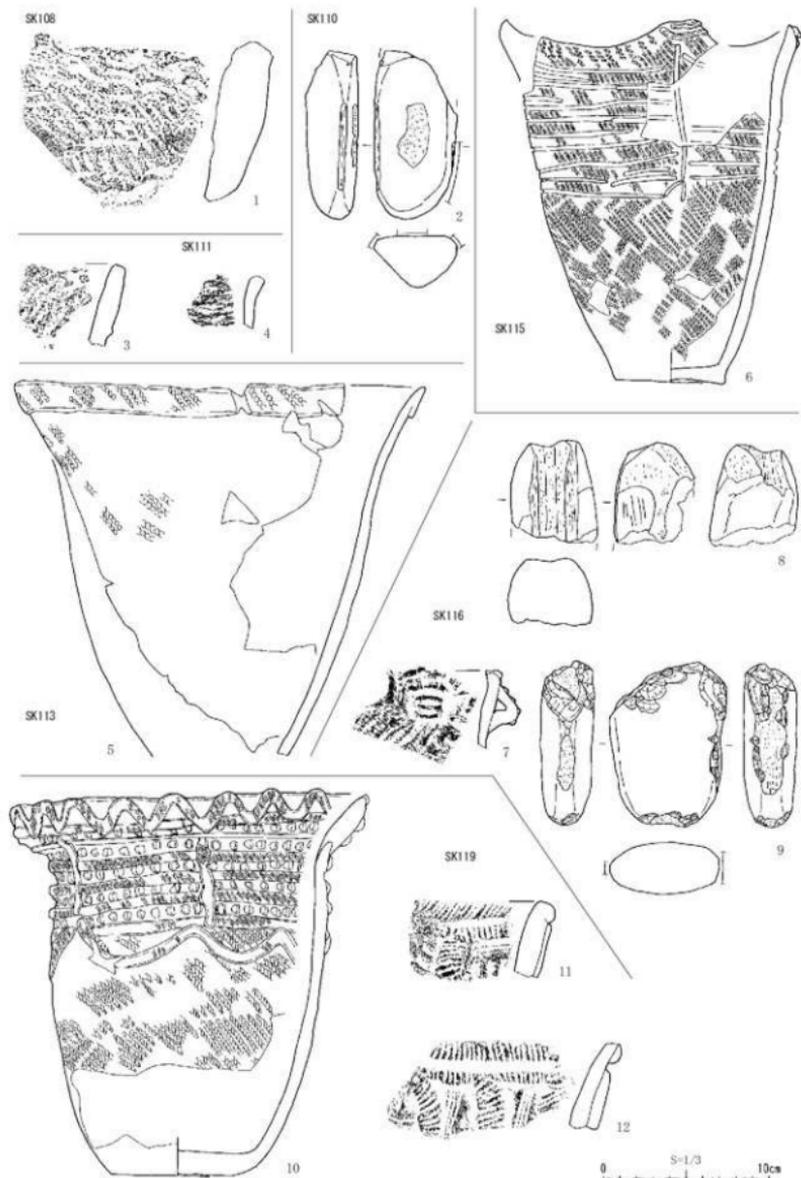


图56 土坑出土遺物 (8)

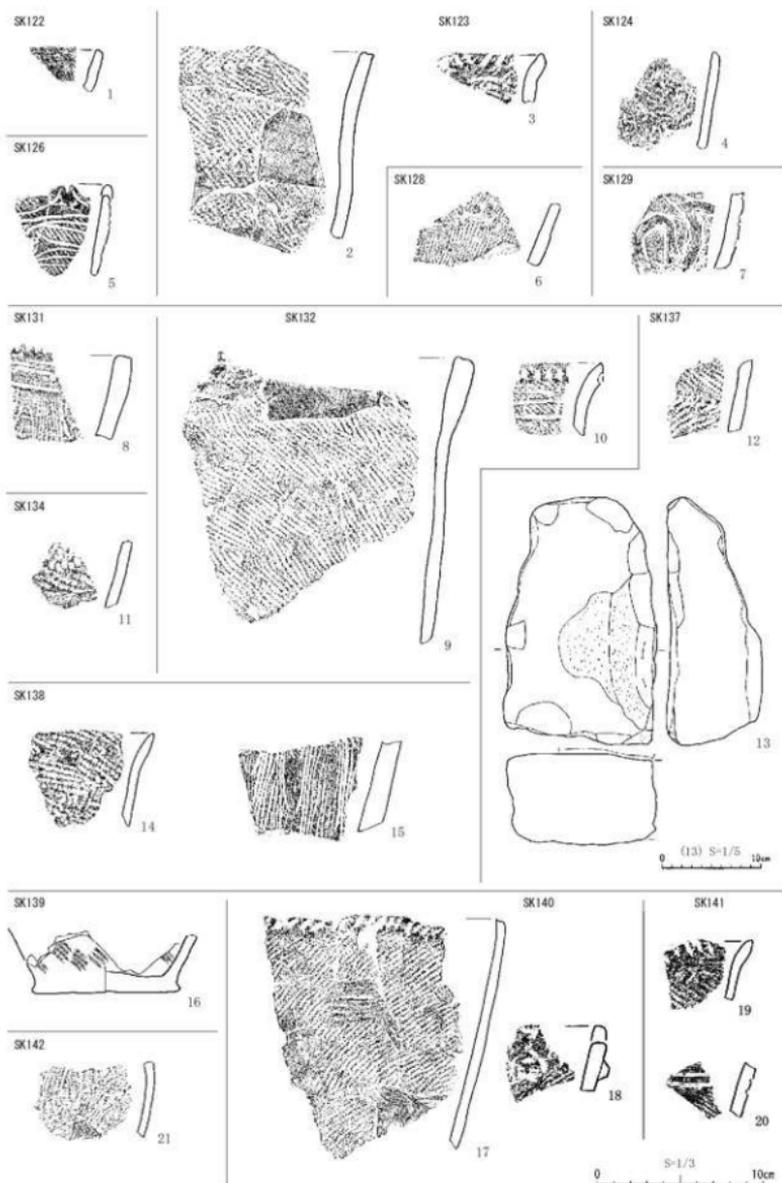


図57 土坑出土遺物 (9)

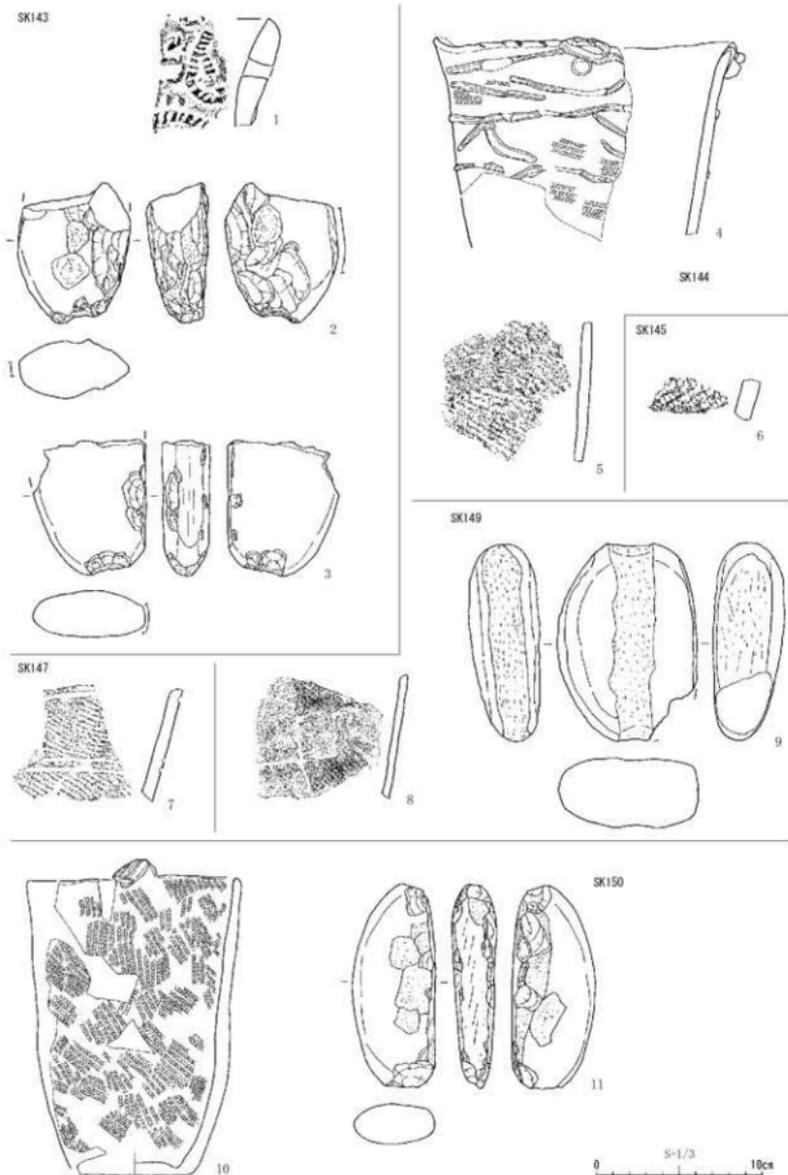


图58 土坑出土遺物(10)

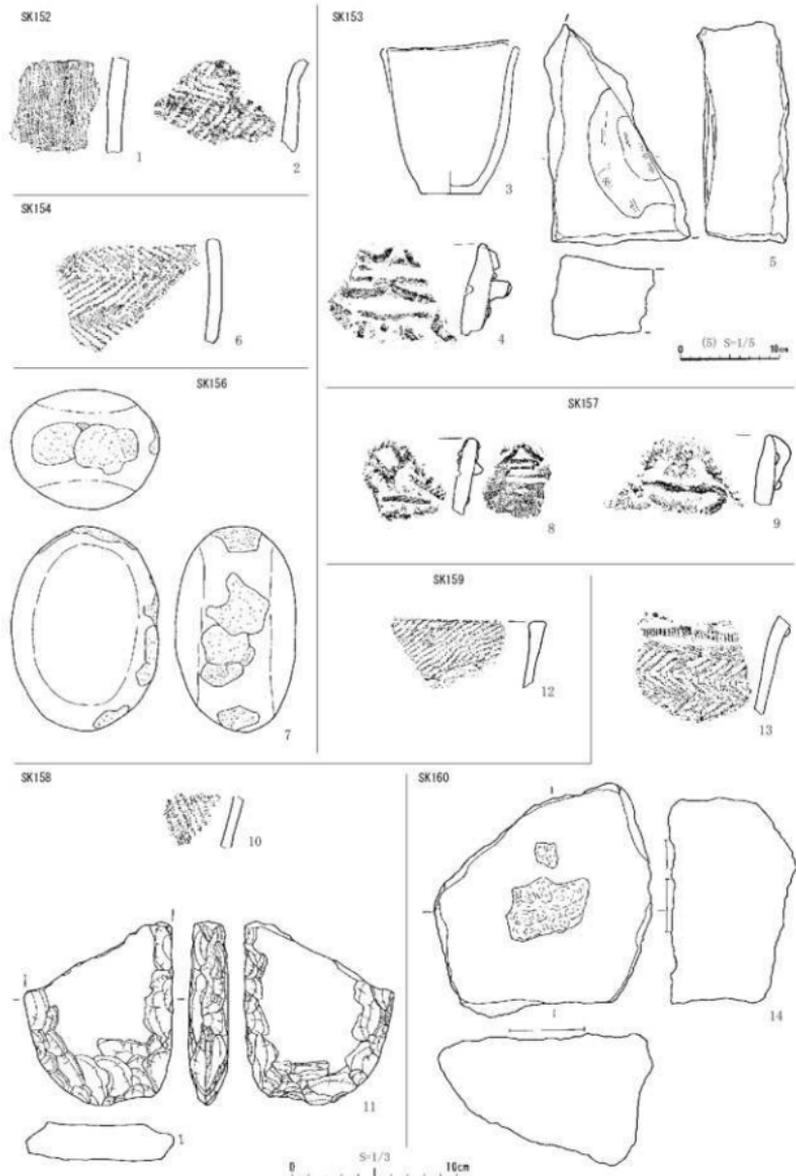


図59 土坑出土遺物 (11)

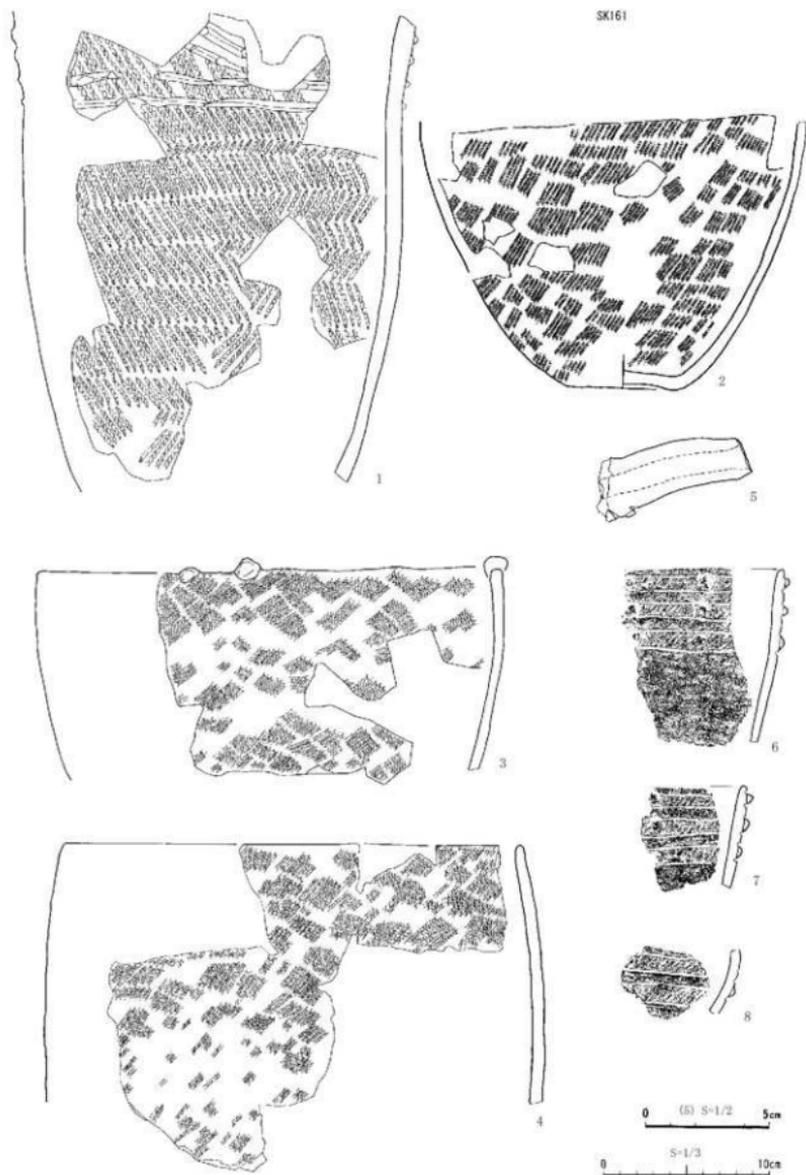


図60 土坑出土遺物(12)

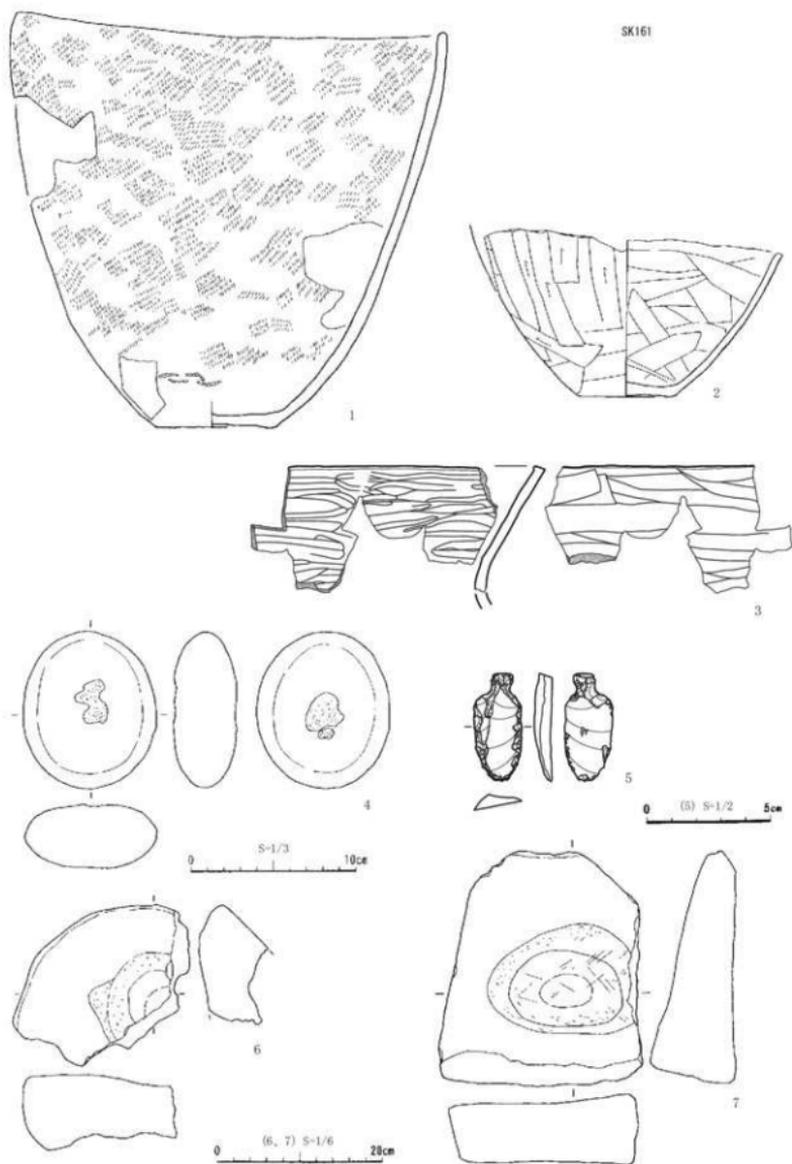
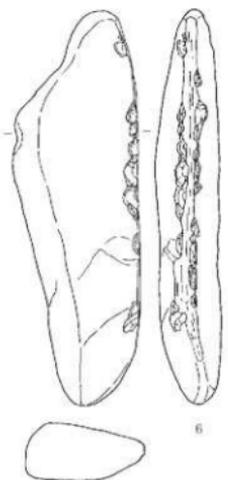


図61 土坑出土遺物 (13)

SK162



SK170

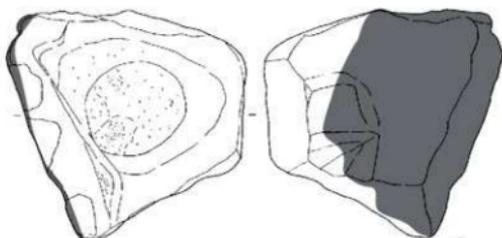
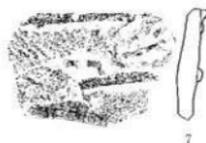


S-1/3
0 10cm

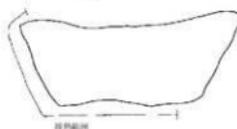
SK164



SK172



銅5・7部正統形組図



正統形組

SK174

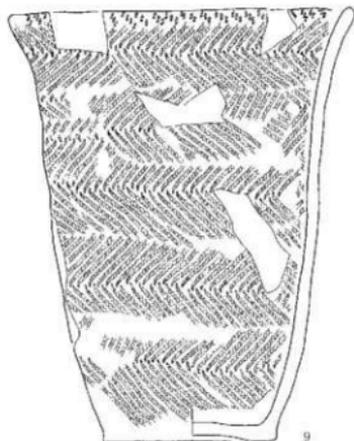


图62 土坑出土遺物 (14)

3 溝状土坑 (図63)

3基検出した。それぞれ単独で検出しており、全て調査区の境界付近で検出しているため、周辺に同遺構のまとまりがあるのかどうかは不明である。

第1・2号溝状土坑は、開口部が直線的に伸びる細長い平面形で、開口部の長軸・短軸は、第1号溝状土坑は286cm・66cm、第2号溝状土坑は217cm・58cmである。第1号溝状遺構は、短軸方向の断面形は底面直上から反転するV字状で、検出面からの深さは97cmである。第2号溝状遺構は、上部は削平されているが、残存部の短軸方向の断面形はU字状で、検出面からの深さは37cmである。第3号溝状土坑は、調査区外へ延びていることから全体の形状は不明である。断面形は、上部が大きく開き、下部は直立気味に立ち上がっていると考えられる。主軸方位は丘陵斜面に直交気味である。

3基とも堆積土は黒色土あるいは黒褐色土主体で、自然堆積により埋まったと考えられる。

出土遺物は、第2号溝状土坑から縄文時代後期の土器片(1)、第3号溝状土坑から台石(2)が出土している。各遺構とも、検出した層位や遺構の性格から縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。(鈴木)

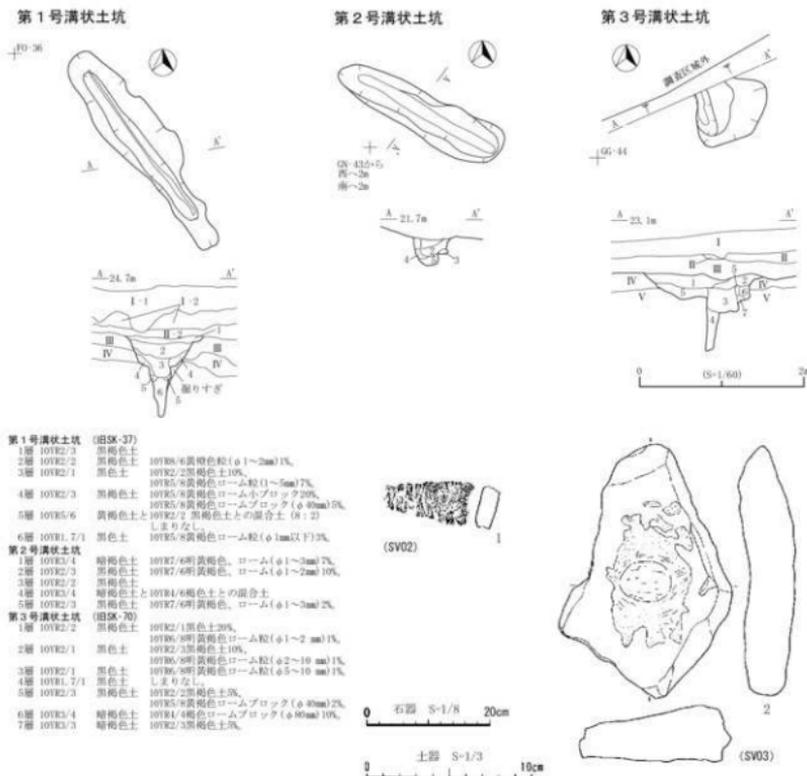


図63 溝状土坑

4 土器埋設遺構 (図64)

沢3に面した丘陵縁のGF-40グリッドで1基検出した。土器が逆位に埋設されている。底部は削平によるものか、欠損している。東側に自然礫を入れている。掘方は長軸27cm、短軸24cmの円形で、埋設された土器の直径よりやや大きく、深さは19cmである。堆積土は黒色土とロームが混合している。遺構の堀方および埋設土器内から、その他の遺物は出土していない。埋設された土器は、平口縁で口縁部に横位五条の燃糸圧痕、胴部に多軸絡条体が施され、Ⅱ群D類と考えられる(1)。構築時期は、埋設土器の年代から縄文時代前期後葉と考えられる。(鈴木)

5 屋外炉・焼土遺構 (図64)

被熱した礫を伴う焼土遺構を屋外炉とし、礫を伴わないものを焼土遺構として区別して調査を行った。

屋外炉は3基検出しており、調査区内に単独で散在する。第1号屋外炉はGK-42グリッドに位置し、V層上面で検出した。長軸73cm、短軸62cmで浅い掘り込みを持ち、掘り込みの中央部に近い場所に焼土層が形成されていた。掘り込み部分の南側で、地面に埋め込まれた炉石1点を検出した。堆積土中からⅢ群H類に分類される磨消縄文を施す土器片(2)が出土している。

屋外炉2はHH-49グリッドに位置し、Ⅲ層の掘削中に検出した。Ⅲ層を掘り込むように作られており、直下に第166号土坑が位置する。長軸70cm、短軸55cmで浅い掘り込みをもつ。掘り込み部分の底面から壁面に沿った場所に焼土層が形成されていた。掘り込み部分の南東側で、地面に埋め込まれた炉石2点を検出した。炉石に台石(3)を転用している。その他の遺物は出土していない。検出した層位から縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

屋外炉3はFL-33グリッドに位置し、V層上面で検出した。直径約35cmのほぼ円形の浅い掘り込みと2列に並んだ炉石から構成される。炉石は被熱が確認できたが、炉の火床面は確認できなかった。遺物は出土していない。検出した層位から縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。

焼土遺構は1基検出した。HE-48グリッドに位置する。周辺は、急斜面から緩斜面へ移行する地形となっており、Ⅲ層が比較的厚く堆積する場所で、Ⅲ層を掘削中に確認した。長軸102cm、短軸68cmの楕円形プランで、Ⅲ層中を掘りこむように作られている。遺物は、出土していない。検出した層位から縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。(鈴木)

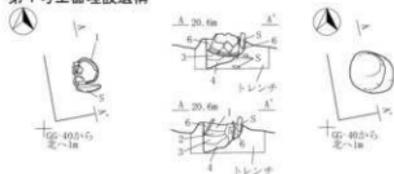
6 掘立柱建物跡・ピット (図65~67)

調査区全体で146基のピットを検出した。ピットの分布は、概ね竪穴住居跡や土坑などその他の遺構の分布と重なる。

ピットから復元できた建物跡は2棟のみである。建物跡に帰属すると判断したピットは、建物跡のピット番号として遺構番号を振り直し、その他のピットと区別した。なお、今回の報告書では、検出したピットにSPの略号を用い、竪穴住居跡および掘立柱建物跡に帰属するピットにはPitの略号を用いている。

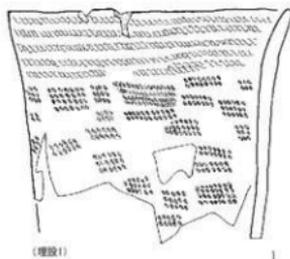
ここでは、各ピットについての個別の記載は行わず、ピットから復元できた掘立柱建物跡と遺物が

第1号土器埋設遺構

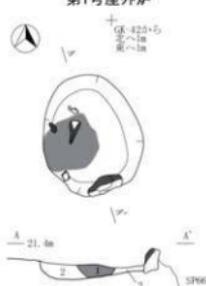


第1号土器埋設遺構

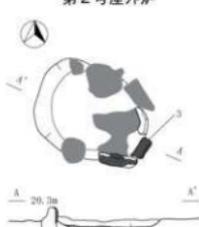
- 1層 10YR2/1 黒色土 しまりなし。
- 2層 7.5YR4/6 褐色ロームと10YR5/3(こぶ)・黄褐色粘土(φ100mm)との混合土(6:4)
- 3層 10YR1/7/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム1%。
- 4層 10YR4/4 褐色ロームと10YR2/2黒褐色土との混合土(5:5)
- 5層 10YR5/6 黄褐色ローム主体、10YR2/2黒褐色土混。
- 6層 10YR4/6 褐色土ローム主体、10YR2/2黒褐色土2%、混方。



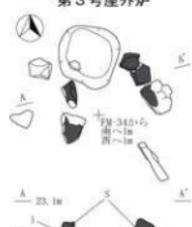
第1号屋外炉



第2号屋外炉



第3号屋外炉



第1号屋外炉

- 1層 5YR5/8 明赤褐色 焼土層。
- 2層 10YR5/6 黄褐色土 10YR3/3黄褐色土混、炭化物(φ2~5mm)1%。

第2号屋外炉

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、しまりあり。
- 2層 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土層、しまりややあり。

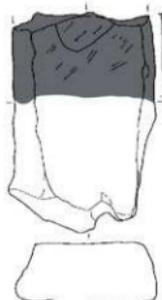
第3号屋外炉

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム(φ1mm)1%。
- 2層 10YR5/8 黄褐色土 10YR7/8黄褐色ローム(φ1mm)1%。
- 3層 10YR4/6 褐色土 10YR7/8黄褐色ローム(φ1mm)1%。



(第1号屋外炉)

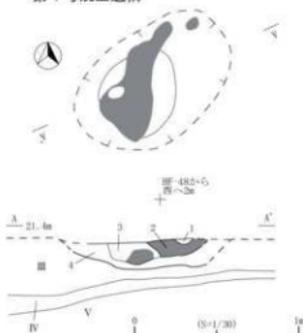
(土器) S-1/3
0 10cm



(第2号屋外炉)

焼熱
鋼かけ部は
焼熱による
特色化した範囲
0 S-1/5 10cm

第1号焼土遺構



第1号焼土遺構

- 1層 7.5YR2/1 黒色土 7.5YR5/8明褐色焼土粒(φ1mm)1%、しまりあり。
- 2層 7.5YR5/8 明褐色焼土 しまりややあり。
- 3層 7.5YR2/2 黒褐色土 7.5YR7/8黄褐色土粒(φ1~20mm)2%、しまりあり。
- 4層 7.5YR2/1 黒色土 7.5YR5/8明褐色焼土粒(φ1mm)2%、しまりあり。

図64 土器埋設遺構・屋外炉・焼土遺構

出土したピットのみ平面図と断面図を掲載し、報告を行う。規模、重複関係等については、巻末の遺構計測表にまとめた。

掘立柱建物跡1はFL・FM-32・33グリッドに位置し、Pit 1～Pit 6で構成される。北側に位置する柱穴Pit 3とPit 4、およびPit 5とPit 6が重複するが、南側の柱穴では重複は確認できなかった。1間×1間の建物跡で、柱間寸法は東西約3.1m、南北約2.8mである。主軸方位はN-19°-Wで、周辺の等高線が示す傾斜方向にほぼ一致する。Pit 5底面近くで胴部に羽状縄文を施す縄文時代中期中葉と考えられる土器片(1)が出土している。

掘立柱建物跡2はFX・FY-39・40グリッドに位置し、Pit 1～Pit 4で構成される。1間×1間の建物跡で、柱間寸法は東西約2.3m、南北約1.7mである。主軸方位はN-35°-Wで、周辺の等高線が示す傾斜方向とは一致しない。Pit 1の柱痕の上面で中期中葉と考えられる土器(2)が出土している。

遺物が出土したピットは8基のみで、ピット全体の中では非常に少ない。出土遺物の時期は様々で、第66号・第68号ピットからは縄文時代前期の土器片(5・8)が出土している。第42号・第67号・第127号・第132号ピットからは縄文時代中期の土器(3・6・9～11・13)が出土している。第132号ピットでは、ピットの上部近くから正位で出土しており、上部が欠損しているが、ピット内に1個体が埋められていた可能性が高い。第130号ピットからは縄文時代後期の土器片(12)が出土している。石器は第71号ピットから剥片2点、第36号ピットから磨り石1点が出土している。(鈴木)

7 性格不明遺構(図68～70)

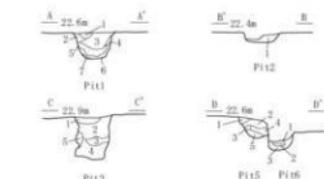
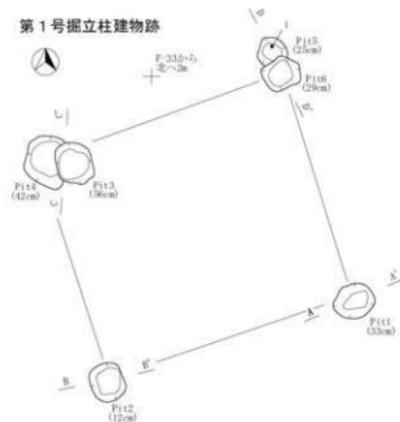
性格不明遺構は4基検出した。

第1号性格不明遺構は、FA・FB-26～28に位置し、沢1の底面で検出した。10～25cmほどの礫が集積し、礫の下層および周辺に炭化物が広がる状態を確認した。礫は被熱が確認できたものもある。炭化物について放射性炭素年代測定を行っており、縄文時代早期後葉から末葉の年代が得られた(第4章第1節)。遺物は出土していない。沢1は縄文時代前期中葉の捨て場として利用されていることに加え、放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代早期後葉から前期中葉の遺構と考えられるが、性格は不明である。

第6号性格不明遺構は、HE・HF-49・50に位置する。付近は急斜面から緩斜面へ移行する地形で、Ⅲ層が厚く堆積する場所であり、Ⅲ層の比較的上層部分で、面的に炭化材が広がる状態を確認した。上層で炭化材、その下層で炭化物や焼土粒が含まれる土層を確認したが、土層観察の結果、人為的な掘り込みと判断できる壁の立ち上がりが確認できなかった。遺物は、土器と石器が出土している。1は波状口縁で口唇部寄りに燃糸圧痕、胴部に縄文を施しており、Ⅲ群E類と考えられる。2は平口縁で、口縁部は無文、胴部に縄文を施しており、Ⅳ群C類と考えられる。その他、縄文時代中期中葉と晩期と考えられる土器(3・4)が出土している。石器は二次加工剥片2点(5)、石核(6)、微細剥離痕のある剥片1点、剥片1点、砕片5点、磨り石(7)、凹み石(8)が出土している。

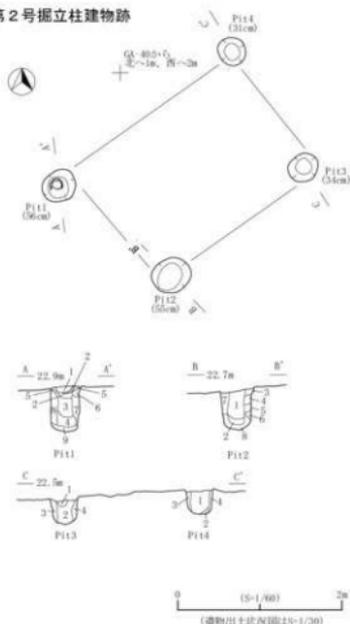
第7号・第8号性格不明遺構は、それぞれHO-53、HN・HO-53グリッドに位置する。ともに調査区壁の断面で確認し、その後、平面で遺構の広がりを確認したが、その時点では遺構の堆積土はほとんど残存しておらず、遺構の範囲を確認することができなかった。遺構の性格を特定できる情報

第1号掘立柱建物跡



- Pit1**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒混入(φ1mm)2%
 - 2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)2%
 - 3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒混入(φ1~5mm)3%
 - 4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)3%
 - 5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)3%
 - 6層 10YR4/4 褐色土と10YR6/6明黄褐色土との混合土
 - 7層 10YR5/6 黄褐色土
- Pit12**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)3%
- Pit13**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~2mm)1%, 浮石(φ1mm以下)微量
 - 2層 10YR2/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土3%, ローム粒(φ1~3mm)2%
 - 3層 10YR3/6 黄褐色土 10YR5/8黄褐色土3%, ローム粒(φ1~5mm)2%
 - 4層 10YR2/1 黒色土 10YR3/4暗褐色土・10YR5/8黄褐色土0%
 - 5層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~10mm)2%, 粘土塊(φ10~30mm), 10YR1/8褐色土3%, 10YR3/9黄褐色土3%, ローム粒(φ1~3mm)2%
- Pit15**
- 1層 10YR6/6 明黄褐色土ブロックと10YR3/3暗褐色土との混合土(7:3), シルト質
 - 2層 10YR3/2 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)2%, 焼土粒混入(φ1mm)1%
 - 3層 10YR6/8 明黄褐色土ブロックと10YR3/3暗褐色土との混合土(7:3)
 - 4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)2%, 焼土粒混入(φ1mm)1%
 - 5層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)2%
- Pit16**
- 1層 10YR2/3 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~5mm)2%
 - 2層 10YR2/2 暗褐色土と10YR6/8明黄褐色土との混合土(5:5), 腐性あり
 - 3層 10YR2/2 暗褐色土 ローム粒混入(φ1~2mm)2%, 腐性あり
 - (1~2層:柱痕, 3層:釧方)

第2号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡

Pit1遺物出土状況



- Pit1**
- 1層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1mm)微量, しまりなし
 - 2層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)2%, しまりなし
 - 3層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~20mm)2%, しまりなし
 - 4層 10Y1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~20mm)7%, しまりなし
 - 5層 10YR6/3 にごり黄褐色粘土層 しまりあり
 - 6層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~5mm)2%, 粘土
 - 7層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)10%, しまりあり
 - 8層 10Y1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)2%, しまりあり
 - 9層 10YR1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)2%, しまりあり
 - (1~8層:柱痕, 9~9層:釧方)
- Pit2**
- 1層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)10%, しまりなし
 - 2層 10YR2/1 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)2%, しまりあり
 - 3層 10Y1/4/4 褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~5mm)2%, しまりあり
 - 4層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)2%, しまりあり
 - 5層 10YR1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~60mm)20%, しまりあり
 - 6層 10YR3/4 明黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)10%, しまりあり
 - 7層 10YR2/1 明黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~60mm)7%, しまりあり
 - 8層 10YR1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)3%, しまりあり
 - (1~2層:柱痕, 3~4層:釧方)
- Pit3**
- 1層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~5mm)2%, しまりなし
 - 2層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)10%
 - 3層 10YR1/7/1 黒色土 7.5YR4/8 黄褐色土(φ1~30~50mm)1%, しまりあり
 - 4層 10YR1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)3%, しまりあり
 - 5層 10YR1/7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~20mm)3%, しまりあり
 - (1~2層:柱痕, 3~4層:釧方)
- Pit4**
- 1層 10YR2/2 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)7%, しまりなし
 - 2層 10YR2/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)10%, しまりなし
 - 3層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)1%, しまりあり
 - 4層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~10mm)2%, しまりあり
 - (1~2層:柱痕, 3~4層:釧方)

図65 掘立柱建物跡

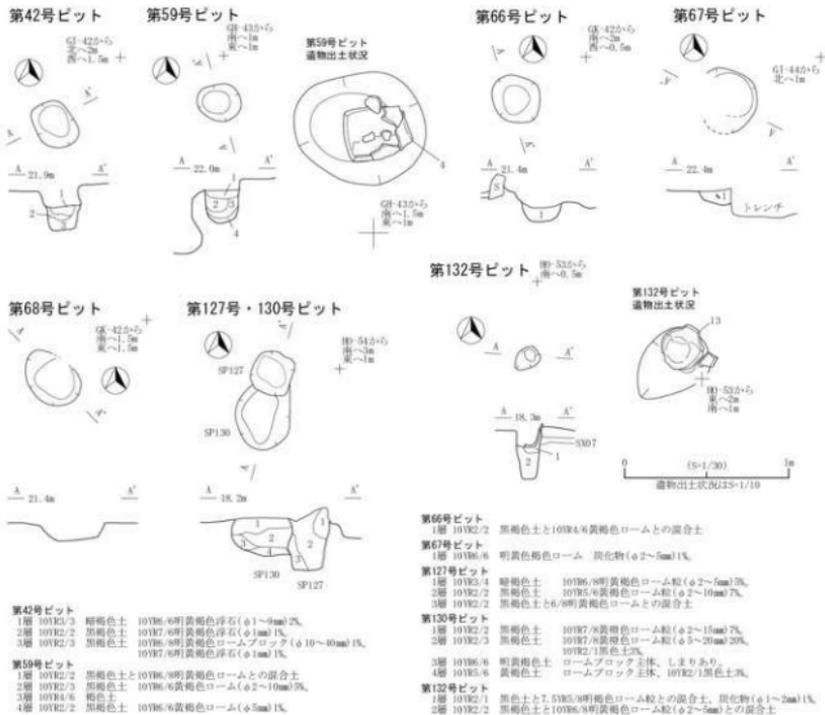


図66 ピット

がほとんどなかったことから、性格不明遺構とした。遺物は出土していない。壁断面で確認した遺構の掘り込み面と他の遺構との重複関係から、縄文時代の遺構と考えられるが、詳細な時期は不明である。(鈴木)

8 溝跡(図6・8・10)

第1号溝跡はET~FI-26~30、第2号溝跡はEU~FJ-26~30に位置する。2条の溝跡は、ほぼ平行して丘陵縁辺部を東西に延びる。第3号溝跡はGF~GK-40・41に位置し、第1号・第2号と同様、丘陵縁辺部を東西に延びる。これらの溝跡から出土した遺物は縄文土器の破片、磨製石斧の基部片1点、剥片8点であるが、第1号溝跡は、沢1の土師器を包含する堆積土上層で検出したことから、構築時期は古代以降と考えられる。さらに、調査区内で出土している土器の年代が縄文時代から平安時代であることから、古代の遺構の可能性が高いと考えられる。第2号は第1号溝跡に平行して延びることから、第1号溝跡と同時期の遺構と考えられ、第3号溝は第1号・第2号溝跡と丘陵縁辺部に沿って東西に延びる形態が同じであることから、やはり同時期の遺構と考えられる。(鈴木)

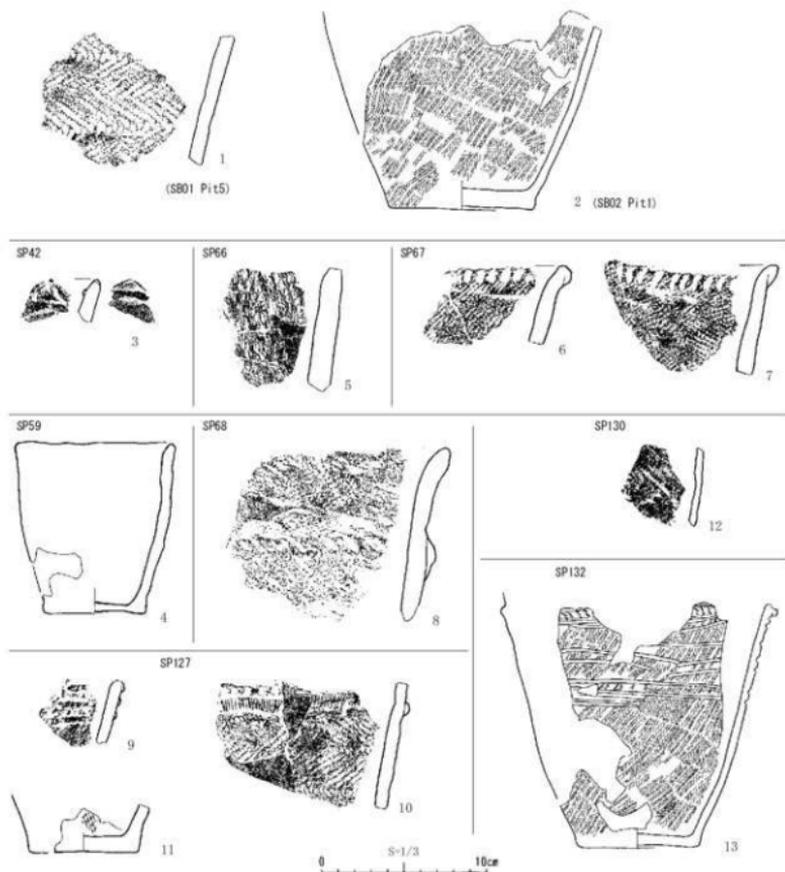
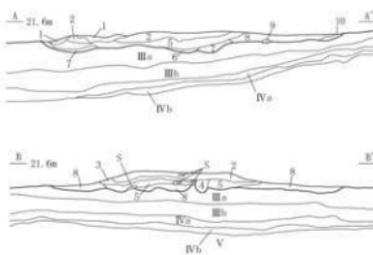
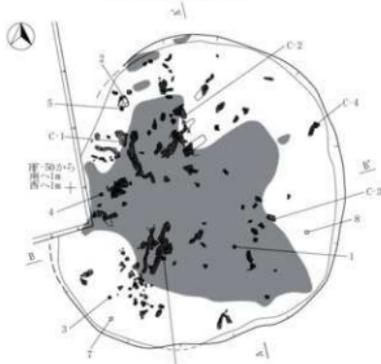
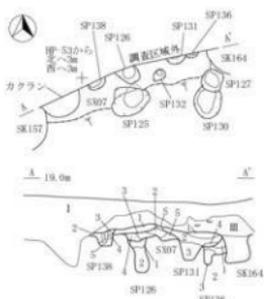


図67 掘立柱建物跡・ピット出土遺物

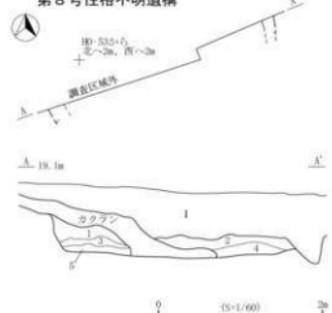
第6号性格不明遺構



第7号性格不明遺構



第8号性格不明遺構



- 第6号性格不明遺構**
- 1層 7.5YR3/2 黒褐色土 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~2mm)7%
 - 2層 7.5YR3/6 明褐色焼土 7.5YR3/4暗褐色土との混合土(7:3) 炭化物・炭化材17%
 - 3層 10YR2/2 黒褐色土 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~1.5mm)7%, 炭化物粒2%
 - 4層 7.5YR2/4 暗褐色土 7.5YR3/6明褐色土(φ1~5mm)との混合土(7:3) 炭化物・炭化材10%
 - 5層 7.5YR2/2 黒褐色土 炭化物・炭化材11%, 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~10mm)10%
 - 6層 7.5YR2/1 黒色土 7.5YR3/6明褐色焼土ブロック(φ20~30mm)10%, 炭化物粒2%
 - 7層 7.5YR2/1 黒褐色土 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~2mm)2%, 炭化物粒2%
 - 8層 10YR2/1 黒褐色土 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~5mm)3%, 炭化物粒2%
 - 9層 7.5YR2/2 黒褐色土 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~10mm)7%
 - 10層 10YR2/1 黒色土 7.5YR3/6明褐色焼土粒(φ1~10mm)7%
- 第7号性格不明遺構**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム(φ1~2mm)5%, 10YR3/3暗褐色土1%
 - 2層 10YR6/8 明黄褐色ローム主体、10YR2/2黒褐色土1%, しまり強い、しまりなし
 - 3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR3/6黄褐色ローム(φ5~20mm)5%, 10YR2/2黒褐色土1%, しまりあり
 - 4層 10YR6/8 明褐色土 ローム主体、10YR2/2黒褐色土1%, しまり強い、しまりなし
 - 5層 10YR4/4 褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム(φ1~2mm)7%, 炭化物(φ1~2mm)1%

- 第8号性格不明遺構**
- 1層 10YR1/7 灰土 10YR6/6黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%
 - 2層 10YR2/1 黒褐色土 炭化物(φ5~15mm)5%, 10YR6/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%
 - 3層 10YR6/6 明黄褐色土 炭化物粒2%, 10YR6/6黄褐色ローム(φ1mm)2%
 - 4層 10YR3/1 黒褐色土と10YR6/6明褐色土との混合土(5:5)
 - 5層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物粒2%, 10YR6/6黄褐色ロームブロック(φ~50mm)2%
- 第126号ピット**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/6黄褐色ローム粒(φ2~5mm)1%
 - 2層 10YR1/6 黒褐色土と10YR6/6明黄褐色ローム(φ1~10mm)との混合土 10YR2/2黒褐色土, 明黄褐色ロームブロック(φ100mm)1%, しまりなし
 - 3層 10YR1/6 黒褐色土 10YR6/6黄褐色ローム(φ1~10mm)5%
 - 4層 10YR1/6 暗褐色土 10YR6/6黄褐色ローム粒(φ1~20mm)12%, ロームブロック(φ60mm)1%, 10YR2/2黒褐色土
 - 5層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/6褐色土5%, 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ2~10mm)3%
 - 6層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~80mm)との混合土
- 第136号ピット**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%, 炭化物粒(φ2mm)1%
 - 3層 10YR6/8 明黄褐色土 明黄褐色ロームと10YR4/6褐色土との混合土(8:2), しまりなし
- 第138号ピット**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土, 10YR6/6明黄褐色ローム(φ2~10mm)2%, しまりなし
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%
 - 3層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック主体、10YR2/3黒褐色土10%, しまりあり
 - 4層 10YR3/4 暗褐色土
 - 5層 10YR6/8 明黄褐色土ローム主体、しまりあり

図68 性格不明遺構 (1)

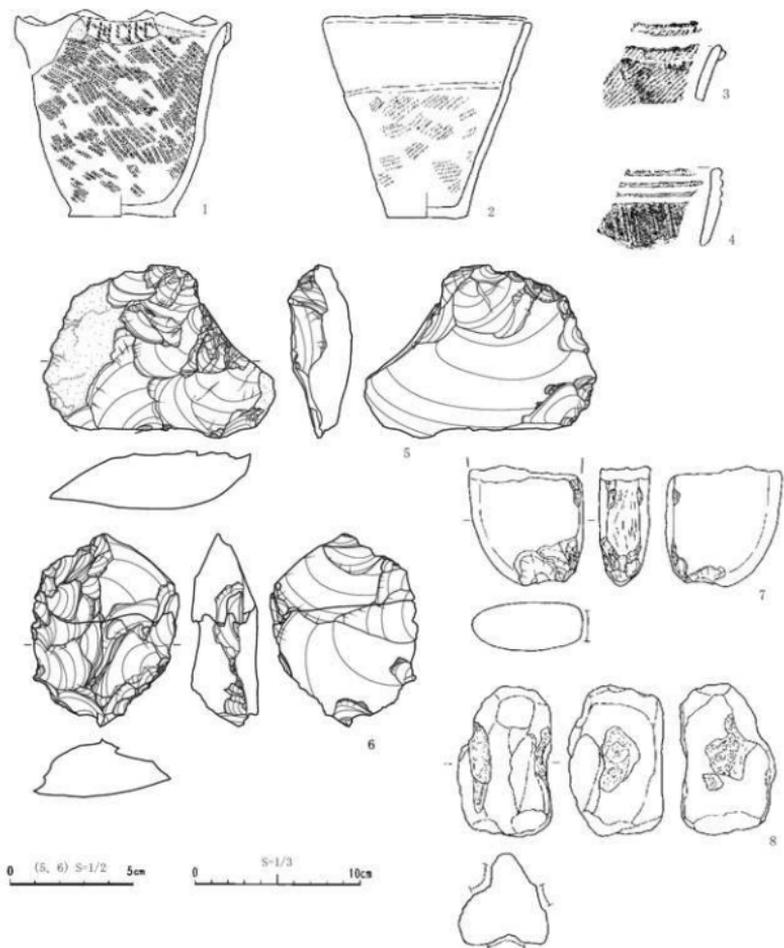


図69 性格不明遺構 (2)

9 沢 (図70~106)

調査区内では、沢1~沢4の4つの沢を検出した。これらの沢は、遺跡南側にある浸食谷に合流する枝谷であり、調査区を横断するように南北方向に延びていた。これらの沢および沢周辺の地形や谷の形成要因、形成過程については第2章に詳細が報告されているため、ここでは省略する。

調査の結果、沢1・沢2は縄文時代前期中葉の遺物を多量に包含しており、当該期には捨て場として利用されていることが明らかとなった。一方、沢3・沢4では、遺物はほとんど包含されていなかった。

沢1はFA~FG-26~30に位置する。2条に分かれて延びる枝谷がFB~FD-28グリッドで合流し、その南側で流路を広げて本流へ合流しており、2条の枝谷が合流する地点以南であるFA~FG-26~28グリッドに捨て場が形成されていた。

土層は調査区北壁1カ所と、捨て場を横断する土層観察用のベルト2カ所で確認した。土層番号は、遺物に注記した層番号との整合性を図ることを重視し、調査時の番号のまま報告書に掲載している。なお、遺物の取り上げは、土層観察用に設定したトレンチ2を除き、B-B'で使用した土層番号で取り上げを行っている。B-B'の1層は基本土層I層に対応し、2・3層は基本土層II層、18層は基本土層IV層に対応し、この4層を除く層が沢の堆積土である。なお、調査開始当初は、沢の堆積土を縄文時代の包含層であるIII層と認識して遺物の取り上げを行っており、遺物の注記が沢ではなく基本層序III層となっている遺物もあり、これについては沢2も同様である。6層より上層では縄文時代前期から平安時代の遺物が混在して出土しており、縄文時代前期中葉以後、古代になるまで遺物の流れ込みがあるような状況であったことが分かる。9層・10からは縄文時代前期中葉の土器が多量に出土した。また、沢の岸近くに堆積が確認できた15層および16・17層からも比較的多くの遺物が出土した。C-C'の1層は基本土層I層、1層以外は沢の堆積土である。2層および3層に遺物が多く包含されており、出土遺物と土層の観察から、B-B'の9・10層がC-C'の2・3層に対応すると考えられる。

出土遺物は、総重量で、土器約393.5kg、剥片石器約10kg、礫石器約47.9kgである。出土した土器の多くは、同一個体の識別が困難な状態で、土器たまりのようにまとまって出土している。個体識別が可能であったものは、横転して潰れた状態で出土したものが多く、立位、倒立状態で出土したものもある。

沢2はEQ~EX-22~26に位置する。沢2に形成された捨て場の範囲は、ET~EX-24・25である。土層は、捨て場を縦に横断する土層観察用ベルト1カ所で確認した。沢1と同様、土層番号は調査時の番号のまま報告書に掲載した。沢の堆積土は5・6・11層で、1層は近年のカクラン、2層は基本層序II層、3・4層は基本層序III層、8~10・12~18が基本層序IV層、19層がXI層、20・21層はXI層以下層に相当する。5・6層から縄文時代前期中葉を主体とする土器が多く出土した。出土遺物は総重量で、土器約134.1kg、剥片石器約175.5g、礫石器約8.2kgである。

なお、特に遺物が多く出土した沢1の6・9・10層と、沢2の3~6層は土質が非常に似ており、土層観察用ベルトから離れた地点では層位の識別が困難な場所もあった。このため、現場では原則として層位ごとに遺物の取り上げを行っているが、報告書では、層位ごとではなく、土器・土製品は分類別、石器は器種別に図示・報告を行う。

(鈴木)

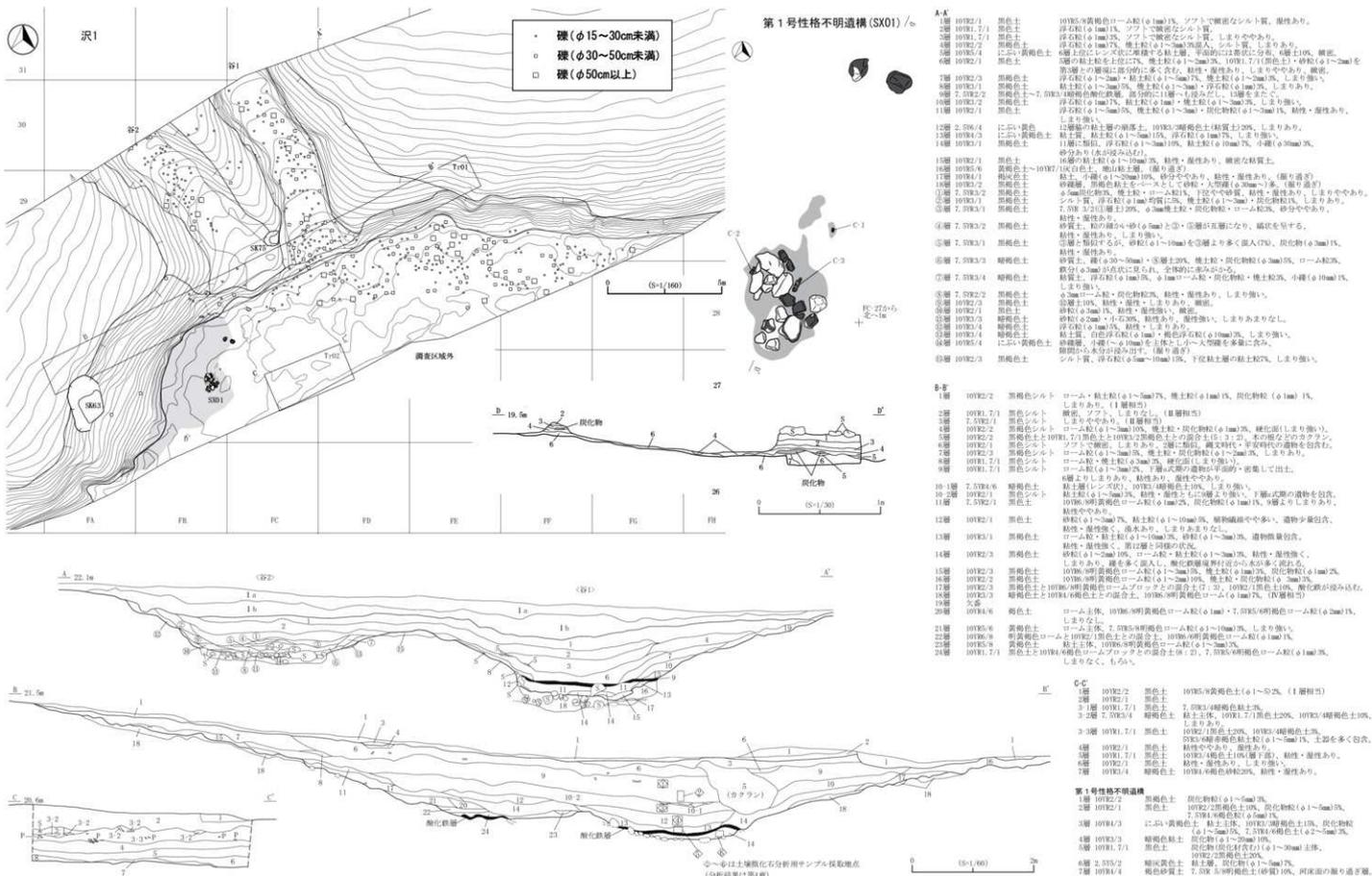


図70 沢1

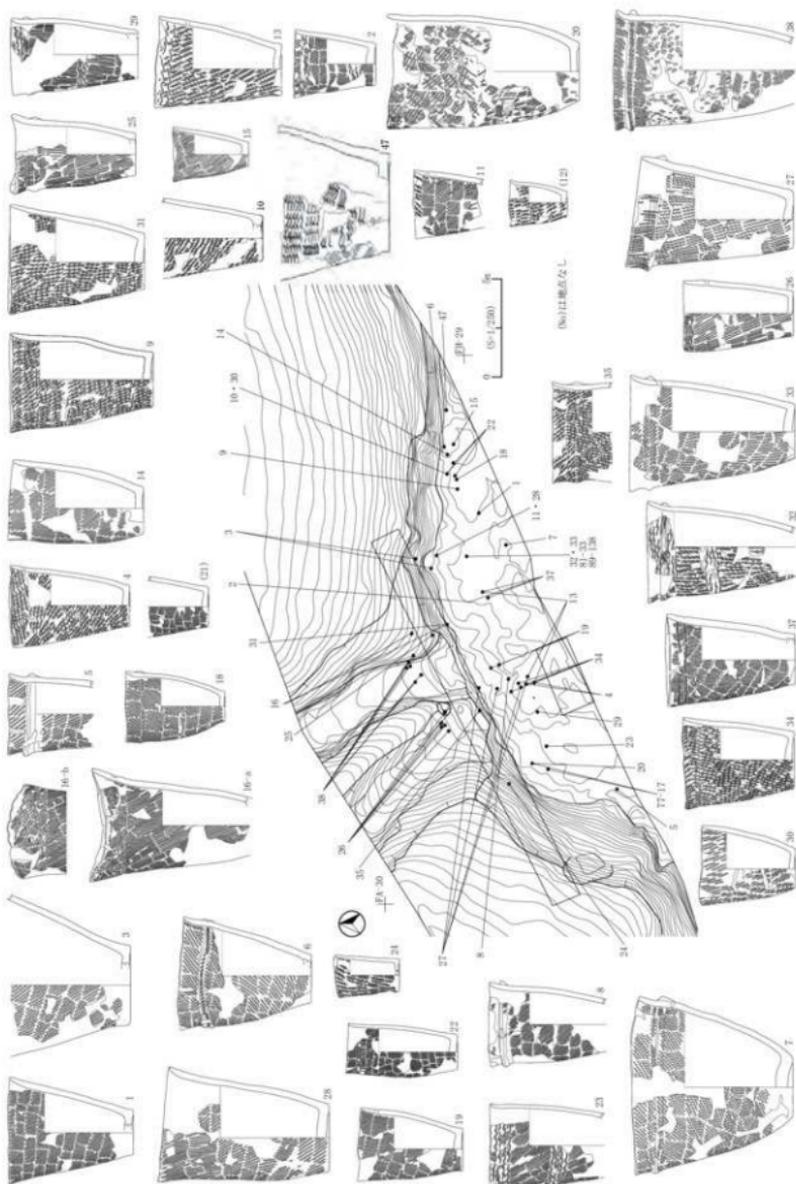


図71 沢1 土器出土状況

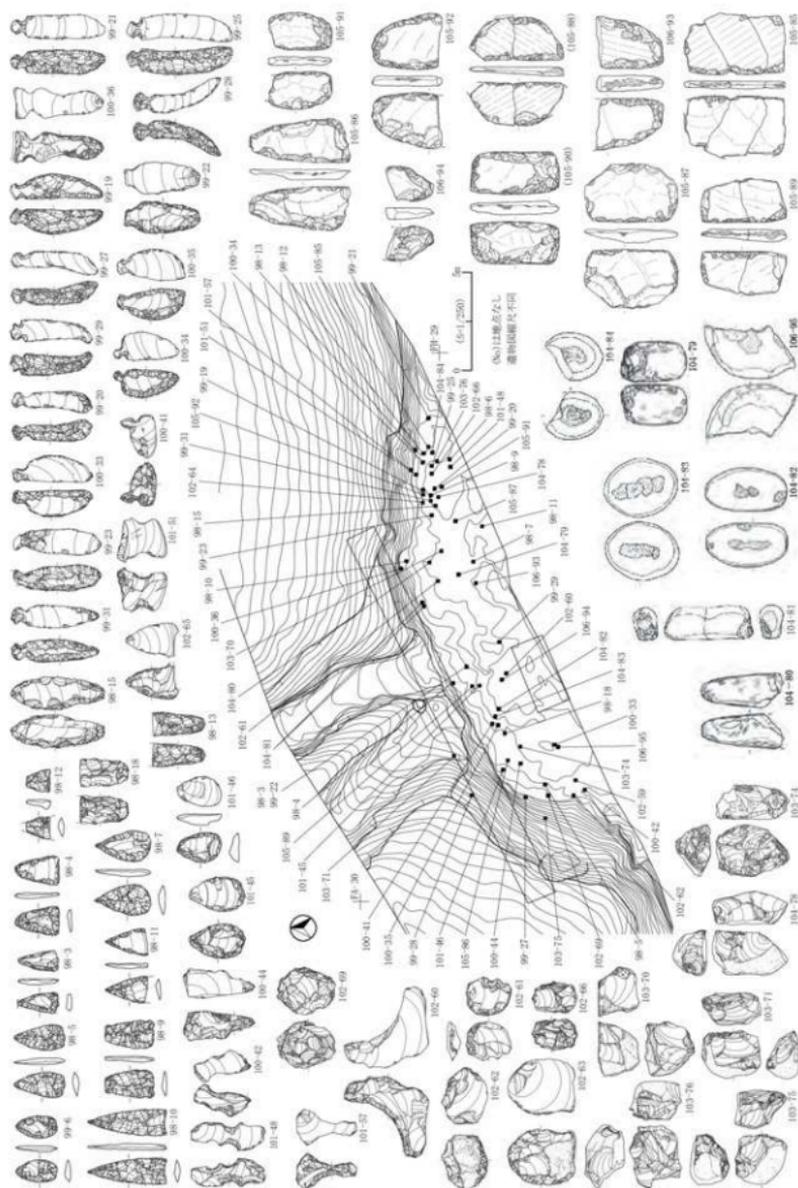


図72 沢1 石器出土状況

1. 土器

[沢1]

縄文時代早期から晩期、古代の土器が出土している。主体をなすのは5層以下、とりわけ9層に集中する円筒下層a式土器であるが、5～10層では出土土器の内容に層位的な変化が見られない。層位間の接合も散見されるため、沢1・2各層を一括して取扱い、以下の分類ごとに記述を行う。

第I群土器 縄文時代早期の土器	第II群土器 縄文時代前期の土器
第II群A類…縄文時代前期前葉の土器	第II群B類…円筒下層a～b式に相当する土器
第II群C類…円筒下層c～d ₂ 式に相当する土器	第III群土器 縄文時代中期の土器
第IV群土器 縄文時代後期の土器	第V群土器 縄文時代晩期の土器

また、観察表においては以下の略称を用いた。

○Aを絡げた単軸絡条体第B類→A単絡B ○AをBに絡げた附加条→A附加条B ○Aを結んだ結節回転文→A結回 ○隆帯とその上に施文されたA→隆帯(A) ○直前段合燃り→直合 ○前々段合燃り→前合 ○前々段附加条→前附 ○結束第A種→結A ○竹管状工具による刺突→竹刺 ○棒状工具による刺突→棒刺 ○爪形刺突→爪刺 ○指頭状の刺突圧痕→指刺

第I群土器は9・10層と16層から各1点出土した。図83-48は、折り返し状の口縁に斜方向からの刺突列、下に細い縄の側面圧痕による区画文様が施された破片である。繊維や粗砂を含まない比較的堅緻なつくりである。49は縦方向に貝殻腹縁圧痕を施してから極細の工具による刺突を配置した胴部破片である。内外面に横方向の条痕が認められる。50は波状口縁の波頂部から波状沈線が垂下し、両側に羽状をなす条痕と波状沈線が展開される破片である。

図83-51・52は、並列する斜行沈線を外面文様とする胴下半部の破片である。51の沈線は幅広かつ浅めに施されている。ムシリI式周辺に見られる文様構成であるが、胎土に繊維を多く含有している点で異なり、第II群A類に分類した。

第II群B類土器は沢1出土遺物の大多数を占めるものである。主に縄文の施文方向によって以下のように細分した。

- II群B1類…地文の条が主に斜行、または横走する土器
- II群B2類…地文の条が主に縦走する土器
 - II群B2類a…単軸絡条体で縦位施文されたもの
 - II群B2類b…単軸絡条体以外の縄文原体で斜位施文されたもの
- II群B3類…隆帯や口縁末端以外に密な刺突様文様が面的かつ密に施される土器

図74-1～図79-24、図82-39～44・46、図83-47・53～図85-91は6～10層出土の第II群B1類に分類される土器である。器形全体が把握できるものでは、底部から口縁まで直線的に立ち上がるバケツ形(1・2・4)、胴部中位から下位にカーブがあり、わずかに張りを持つもの(6～

9・12~20)と、器高に比して口径・底径が小さい筒形(22~24)が少数観察できる。16は特殊な扁平器形である。底部は直立、または若干横に張り出すもの(2~4・9・12~15・17~19・24・39・42・43・46)が多い。底面においても明瞭に上げ底・または上げ気味となる例(1~4・6・7・9・10・12~14・17~22・24・39・41・42・44)が大多数で、平底と見做せる例(15・40)が少ない。口縁部形状は平縁が大多数を占め、緩く不規則な波状(12・15・18~20・23・24)、例外的に2波状のもの(16)が少数認められる。23は口縁末端に爪形の刺突列が施され、結果小波状を呈している。隆帯には、縁辺の下側が消失して上辺が上方に張り出す、または被さるような入れ子状の外観を呈するもの(隆帯A類:5・7・8・53~61)、施文によって両縁辺が消えかけた低いもの(隆帯B類:6・18・62~64・69・70)、両縁辺が明瞭または不明瞭でも高さがあるもの(隆帯C類:65~68)が見られる。隆帯A類は器体の輪積み成形の段階から土台が用意され、そこから接合面の傾斜が反転する場合がある。隆帯上には胴部の地文が被さることが多いが、別に横走る太い沈線(58・59)、単軸絡条体第1類の横位回転施文(62)、地文使用原体の押圧(6)、棒状・竹管状工具による刺突列が施される例(60・68~70)がある。うち、刺突列が施される例では全て口縁上端にも同様の刺突が施されている。文様に使用される縄文原体は直前段反振り(1・2・9・11・12・24・40・43・44・53・58~60・69・70・72・74・77~80・82・83・88)と正燃3段(11・17・39・41・42・46・47・54~57・61~63・65~67・73・81・84~86・89~91)が大勢を占め、他に単軸絡条体第1類(4・15・16・23・62・71・72・75)、正燃2段(14・18~22・87)、結節(2・10・13・16・23・47・71~76)、前々段附加条(3・5~7・20・64)、稀に結節と正燃1段の撚り合わせ(68)、附加条(20)、単軸絡条体第3類(91)が見られた。前々段附加条としたものは、先ず2段の縄を閉端部側に扱いてコイル状にしたのち、間隔が若干疎になるよう抜き戻したものをさらに正に撚ったものと推定できる。結節には正燃1段の他に、正燃2段(10・13・23・71)、直前段反振りを結んだと思われる例(72~74)がある。2・23は口縁部と同じ結節を胴部中ほどにも回転する例である。9は原体末端が別条で結縛されている例である。文様構成は地文のみ(1・4・9・12・14・15・19・24)が多い。4は地文の条が斜行・横走するもので、本類の中でも古い特徴を有している。10は全面に結節を斜位回転した例である。口縁部文様帯は総じて明瞭な区画がなされず、隆帯が巡る個体においても胴部から地文が連続し、独立した文様帯が形成されない(5・7・8・18)。例外的に、胴部と同種・逆撚りの原体で口縁部文様の別がつけられる例(57・60)が存在するが、その境界と隆帯位置にはズレが生じていることが多い。隆帯上に単軸絡条体第1類の横位回転施文がなされる例(62)と、隆帯と口縁の幅が狭いもので隆帯直上に無文帯(63)が認められる例が各1点出土しているが、これらの口縁部には胴部と同様の地文が施文されている。5は隆帯直下で地文がナゲ消され無文帯が形成されているが、その上下で地文に変化はない。口縁部文様が結節回転(2・13・16・23・71~76)や縄の側面圧痕(6・17・22・77・78・81)などで別に施される例でも、胴部から連続する地文を重ねており、やはり明瞭かつ独立した区画をなしていない。11は胴部に正燃3段、口縁部に直前段反振りと口縁部文様が分かれているかのように見えるが、胴部中ほどまで口縁部文様のはみ出す部分がある。22は地文と同種の原体によって口縁部に2条の平行線、その直下に連続するU字形のモチーフを押圧したものである。16は結節回転によって口縁部に鋸歯状の文様モチーフが描かれた例である。底面の文様は正燃3段(4・28・39・

42・44)、直前段反燃(9・12・24)、単軸絡条体第1類(13・15・27・47)、附加条(20)、前々段附加条(7)、結節(10・13)などがあり、胴部と同種の原体が用いられる傾向があるが、例外的に口縁部に用いた原体で施文する例(13・20)、筥描きによる斜格子文様(40)、連続短沈線(41)、胴部・口縁部に用いられない原体が施される例(4)もある。本類には少数ながら、内面に条痕が認められる例(43・59・73・81)がある。図示しなかったが小型土器の底部片も少量出土している。これらは胴部下半と底面に直前段反燃りを施文するか、無文のものである。底面は平底・上げ底ともに見られるが、上げ底となるものは中型以上の個体に比べて上げ幅が大きく、高台様になっている。

図79-25～図80-29、図81-36、図82-45、図85-92～図86-99は7～16層出土の第Ⅱ群B2類aに分類された土器片である。器形はバケツ形(26・27・31)、胴が僅かに張るもの(25・28・29・36)がある。口縁部形状は平縁主体で、小波状(96)、末端の刻み(28)が僅かに認められる。底部は上げ底(27・28)がB1類に比して少なく、上げ幅も小さい。隆帯はA類(92・93)、B類(25・27・94)とC類(29)が確認でき、直上には胴部から連続する地文に加え、単軸絡条体第1類の回転・押圧(29・94)が施される例がある。25・27は、隆帯上も含めて地文で覆われており、口縁部文様が未分化である。29は単軸絡条体1類の施文方向を隆帯Bで変えており、第Ⅱ群B1類では不明瞭だった口縁部文様帯の区画が指摘できる例である。隆帯を欠く26も同様の文様構成であるが、口縁部の横位施文と胴部の斜位施文の重複範囲が広く、口縁部を明瞭に区画していない。92は、単軸絡条体第1類が横位回転された隆帯A類の直上に、無文帯、あるいは幅の広い沈線が施されている。36は縦位の単軸絡条体、同原体の横位、直前段反燃の側面圧痕の順で施文されたものである。内面には口縁付近で横方向、以下に縦方向の条痕が施されている。28は胴部中ほどから別種の原体に切り替えて施文が成される例であるが、その境界が曖昧である。また、図示しなかったが小型土器の口縁・底部片が各1点出土している。底面片底面は外縁が高台状かつ外側に張り出しており、単軸絡条体第1類が底面と胴部下に施文される。口縁は隆帯を伴わず、縦位の単軸絡条体第1類のみ施されている。

図80-30～図81-35、図82-37、図86-100～105・107は9・10層出土の第Ⅱ群B2類bに分類された土器である。器形はバケツ形で、胴部に僅かに張りを持つ(30・32・33・34・37)例が観察できる。口縁部形態は平縁のみが認められた。34は平口縁の先端に爪形の刻みが配された例である。底部が観察できるものでは上げ気味(30・31・37)と上げ底(33・34)が認められた。文様は胴部・口縁部ともに直前段反燃(30～32・34・35・100・104・105・107)によるものが多く、正燃3段によるもの(33・102・103)は比較的少数となる。口縁部文様には、別に結節回転(32・101)、直前段反燃・合燃の側面圧痕(34・37)が施される例がある。隆帯はA類(32)・B類(33・35)・C類(100)が認められた。32は口縁部から隆帯直下にかけて、胴部中央・下に結節回転が横位施文されている。101は胴部と口縁部で異なる結節が重複施文されている。34は燃系圧痕の、33・35・104は隆帯の前後で地文の施文方向が変わり、口縁部文様の差別化が認められるもののその区画が曖昧な例である。30の地文は条が主に縦走するが、口縁の一部と胴部下位では斜行している。106も直前段反燃が施された胴部片で、内面に条痕が認められる。

図82-38、図86-108～図87-124は6・7・9・10層出土の第Ⅱ群B3類土器である。隆帯や口縁末端以外にも、長さ6～12mmの刺突様圧痕が面的かつ密に施文されるものである。各刺突

の形状には楕円形・ラグビーボール形(109~111) = 廻転刺突文A類、半月形・三日月形・爪形(38・108・112~124) = 廻転刺突文B類が見られる。個体内で爪形⇄半月と漸移的に変化している例もあるため、施文具の違い以外に施文の深さ・角度等によっても形状が変化する可能性も考えられる。刺突A類の内部は総じて凹凸が少なく、繊維の痕跡も明瞭ではない。刺突B類の中で、半月形のものの内部にはリング様の同心円文が残る例が少数ある。断面形状は刺突A類が緩く浅いU字形、B類の半月型がレ字形、三日月・爪形がVまたはL字形をとることが多い。各刺突の配列は、他型式の刺突文に比べてもかなり乱雑である一方、刺突の向きは切り合いも含めて揃っている。また、A類では刺突を繋ぐ条らしき痕跡が認められる場合がある。この刺突の集合が単位をなす場合、施文方向は刺突の長軸と同一で、幅30mm程、長さ50mmまでの施文単位となり、胴部片では斜位または横位、口縁部では横位(117・120)のものが認められることになる。これらの器形は38のような口縁がやや外反して胴部に僅かなふくらみをもつものが含まれるが、多くは比較的粗厚・粗大な器形であったと思われる。文様構成の特徴としては、刺突のみで地文を構成する個体が多いことが挙げられる。38は胴部に廻転刺突文Bを有するが、それ以外ではⅡ群B1類に分類されるべき特徴を持つ個体である。123は外傾接合の接合部分で割れた破片で、幅4~5cmの粘土帯を積み上げていることが解る個体である。

図87-125~130は、2・3・6・9層から出土した第Ⅲ群土器である。125は円筒上層c式の口縁から胴部にかけての破片である。鋸歯状、直線状、弧状の貼付帯で区画された内部に、角棒状の工具による刺突列が充填される。口縁部の橋状把手は穴を成していない。126~128は円筒上層e式土器の口縁部破片である。126・127は口縁部突起の破片で、内外面に貼付文様が施される。129は椀林式の口縁部破片である。断面が三角形に肥厚する口縁末端に太い沈線が巡り、口縁突起には穴を有していたと思われる。130も椀林式と見られ、肥厚する口縁末端に燃系圧痕がなされる。

図87-131は第Ⅳ群に分類される土器で、後期前葉の十腰内Ⅰ群にあたる土器である。口縁は緩い波状をなしており、沈線文様が描かれた外面には、内面同様丁寧な磨きが施されている。図87-132は弥生前期に位置付けられる鉢形土器の胴部破片である。橙灰色に発色し、内外面とも丁寧に磨かれている。

[沢2]

縄文時代早期から晩期、古代の土器片が出土しているが、主体をなすのは3~6層、とりわけ5層に集中する円筒下層式土器である。

図88-133~図92-154、図93-162・164・167~図94-174・179~図96-202・図97-220は3~6層から出土した第Ⅱ群B1類土器である。器形・底部形状は沢1出土の同類土器とほぼ同様であるが、胴が大きめに膨らむ器形(134・135・140)や、筒形の底部が絞られ口縁が外反するもの(133)が含まれる。口縁部形状は平縁が多く、他に不規則な波状(142・146)刺突による小波状(137・152)が認められる。特に隆帯をもつ個体において、口縁上端に指頭状(137・188・193)、爪形(189・152)の刺突列、胴部地文に用いた原体の側面圧痕(182)が刻まれることが多い。口縁上端には他に、胴部と同種の地文が回転される例がある(141・153・196)底部は上げ底・上げ気味になるもの(134~137・139・140・142-144・146・147・152・154・162・164・167・

172～174・220) が大多数で、直立または横に張り出すもの(133・134・140・143・146・152・169・170)が含まれる。隆帯はA類(133・134・179～189・220)、B類(135～137・171)が巡る。隆帯上には口縁末端と同じ刺突・側面圧痕が刻まれる例が多いが、138は例外的に無文となる。施文原体には直前段反摺(134～138・140・145・147・148・151・171・172・183・186～188・191・194)、正摺3段(133・139・142～144・152・167～170・179・181・182・184・189・190・192・198・199・201・220)の縄が主に使われ、他に正摺2段(141・146・162・164・180)、単軸絡条体第1類(189・193)、直前段合摺(200)、前々段附加条(149・195・196)、附加条(150、173・174・202)、結節(147・193)の回転施文がわずかに認められる。また、まれに原体間端部の別条による結縛が明瞭に残る例(148)がある。回転以外の施文手法としては、胴部と同種の原体を用いた側面圧痕がある。135は口縁部から隆帯をまたいで波状の押圧が、133・145・152は口縁部に2条の平行する側面圧痕がなされた例である。第Ⅱ群B類土器全体で単軸絡条体第5類による文様は認められないが、本類の附加条においては202のような単軸絡条体第5類と同様の巻き方をした例がある。文様構成においても沢1と同様、口縁部を明瞭に区画して異なる施文がなされる例はない。隆帯Aの間隙で地文が途切れる傾向はあるが、施文原体の種類・施文方向は同一かつ連続している。136は隆帯Bの中心ラインから上下に胴部と同種逆摺りの原体を展開している例、151は口縁部付近で施文方向が変化する例である。区画は明瞭でないが、口縁部文様帯成立の過渡的段階の資料といえる。134・137は胴部を縦に区画するような磨り消しによる無文帯が形成され、148・149では胴部下半に範囲不明瞭な弱いナデ消しが認められる。底面では胴部と同種の原体が回転され、更に施文→ナデ(→ミガキ)の順で施文をつぶす例(139・143・164)がある。140は胴部と同種逆摺りの原体で底部施文された例である。181は、沢2の本類で唯一内面条痕が認められた例である。小型土器も少量出土し、うち1点を図示(図97-220)した。器形はバケツ形・上げ底で隆帯Aが巡る。胴部には正摺3段が施文される。

図92-155・156、図94-175・176、図96-203～210は主にⅢ・5層から出土した第Ⅱ群B2類aに分類された土器である。器形全体を把握できる資料に乏しいが、バケツ形(156)や胴部がやや膨らみ口縁が外反気味となるもの(155)が含まれるようである。底部は上げ気味で胴部と同じ地文が施されるもの(155・176)が見られた。隆帯はA類(204)、B類(205)、C類(155)が含まれる。文様構成は地文のみのもの(156)、隆帯を持たずに胴部と同種の単軸絡条体が横位施文されるもの(203)、隆帯付近から方向を変えて施文されるもの(155・205)、隆帯A直上に無文帯を形成するもの(204)、胴部地文に重ねて同じ原体の側面圧痕を2条巡らすもの(175)が見られた。

図92-157・158、図97-211～213は第Ⅱ群B2類b土器である。器形はやや不整形なバケツ形(157)と隆帯から口縁が外反するもの(158)が認められる。隆帯はA類(158)のみ認められる。施文原体では条を交差して巻く附加条(213)、軸縄の撚りと逆方向一重巻きの附加条(212)、正摺3段(157)、直前段反摺(158・211)、直前段合摺(158)が認められる。158は隆帯Aを境に、205は隆帯の直下から地文の施文方向が変化する例である。

図92-159～図93-161・163・165・166、図97-214～219は第Ⅱ群B3類土器である。器形は大ぶりのものが多く、中型以下のものにはバケツ形(159・163)や底部が張り出すもの(165)が含まれる。刺突形状はA類(160・165・166・214・215・217)、B類(159・161・163・216・

218・219)が認められ、縦位・斜位に施文される。163は口縁末端部に別種の刺突が施され、結果小波状の口縁を呈している。160・217はⅡ群B1類の胴部に縦位の廻転刺突がなされる例である。共に施文幅・方向が観察でき、この種の刺突文が回転体によるものであることを端的に示す例として挙げられる。161・165・166は底面にこの種の刺突が施された例である。166の底面は施文後に磨き潰されている。

図94-177・178は第Ⅲ群に分類された土器である。177は単節斜縄文の地文上に肋骨様の貼付文様が施されており、円筒上層d式に比定できる個体である。178は、結束第1種の羽状縄文をもつ個体の胴下半部である。円筒上層式のいずれかに位置付けられるものと思われる。(秦)

2. 土製品

A 中央部に貫通孔がある有孔土製品 (図98-226)

有孔土製品は1点出土した。残存部から推定すると菱形を呈すると思われる。中央部に円形の穿孔がみられ無文である。製作時期は縄文時代前期である。

B ミニチュア土器 (図98-227~230)

ミニチュア土器は4点出土した。底面が平底のものと、上げ底のものがみられる。227は平口縁で深鉢形を模したものと考えられる。製作時期は縄文時代前期である。

C 歯形跡が残る粘土塊 (図98-221)

形態は平べったい粘土塊で1点出土した。長さ3.95cm・幅2.3cm・厚さ1.25cmを測る小型なものである。平坦な端に上下に歯形の痕跡が確認され、その大きさから幼児が噛んだのち焼成したものと推定される。製作時期は縄文時代前期である。

D 土偶 (図98-222)

土偶は1点出土した。粘土板を二段重ねて製作しており、十字型土偶の脚部の残存部である。表面には、地文縄文地に方形で区画し縦位に短沈線を充填しており、左右にかぎ状及び弧状文を施文している。なお方形文は女陰を表したものと思われる。裏面は地文縄文地に二条を一単位とした曲線文を横位方向に施文している。底辺部には長径0.3cm・深さ0.6cmの浅いくぼみがみられる。津軽地域では出土例が少ない土偶であり、縄文時代中期の榎林式期に製作されたと考えられる。類似資料枝としては、青森市山田(2)遺跡(青森県2011)で出土している。

E 土器片を利用した土製品 (図98-223~225)

土器片を利用した土製品は沢1から10点出土した。すべて縄文時代前期の時期である。深鉢形土器片を用いており、223は口縁部破片で口唇部を一部残して周辺を打ち欠いている。この一口唇部を残存して打ち欠く技法は、縄文時代前期にみられる特徴であり、東道ノ上(3)遺跡(青森県2006)の土製品にもみられる。225は周縁を打ち欠いており、224は打ち欠き後に一部磨っている。

F 粘土塊

粘土塊は沢1から23点出土したが実測はしていない。大きさは2~8cmで厚さは1.5cmを測る。形態は不整形で手づくねの粘土塊で無文であり、焼成は不良なものが多い。時期は縄文時代前期である。(成田)

3. 石器

[沢1]

剥片石器・礫石器とも主に9層から出土した。剥片石器総数1000点(10.0kg)、礫石器総数115点(47.9kg)が出土した。

剥片石器

石鏃(図98-1~12)

14点出土した。無茎凹基3点、無茎平基6点、無茎円基2点、破損により形状不明のもの3点である。長さ5cm以下のものは平面形が三角形を呈する。5cmをこえるものは2点のみである(9・10)。いずれも器面は押圧剥離による剥離調整で覆われているが、小型のものほど縁辺にのみ調整があり、主要剥離面が残る。2・3は先端が摩耗し、2の表面には光沢がある。10は器面全面に押圧剥離による連削した平行剥離が施され、他の石鏃に比べ調整は丁寧である。使用石材は珩質頁岩・メノウ・玉髄である。

石槍(図98-13)

基部のみのものが1点あり、両面に直接打撃による急角度の調整が施されている。断面形は蒲鉾状を呈する。

石篋(図98-14~18)

5点出土している。16と17は同一個体で、個体数は4点にある。刃部には連続した調整が施され、刃部角は急角度となる。14・15の刃部には光沢がある。17・18は破損面を打面として再加工が施されている。刃部が残存し、ある程度の長さがあれば破損しても再利用していたことが想定される。

石錐(図100-42~44)

4点出土した。縦長剥片の端部に両面からの剥離調整で尖状の刃部を作出している。先端部の断面形は三角形を呈する。42・43の刃部は強く摩滅し、先端部は丸みを帯びる。44は他の2点に比べ摩滅度合いは小さい。

石匙(図99-19~図100-41)

41点出土した。剥片石器の中で主要となる器種である。縦型37点(19~40)、横型1点(41)があり、破損により区分不明のもの3点である。完形のもの23点を図化した。縦型は素材剥片の打点側に摘み部を作出するものと末端側に作出するものがある。素材剥片にはおおむねまっすぐな縦長のものを使用しているが、大きく弓なりに湾曲するもの(19・27・31・36)や捻れたもの(23・26・31)も用いられている。横長剥片を素材とする縦型もわずかにみられる(19・38・40)。側縁の整形は押圧剥離により、表面全体を覆うものが多い。裏面を加工したものは少なく、19・37は周縁を、20・31は先端部のみに調整がある。先端部は左右どちらかに大きく湾曲し、平面形が三日月状に近い。41の横型は、横長剥片またはやや幅広の縦長剥片を素材とする。いずれも表面の稜上に摩耗もしくは光沢が、裏面の片側縁辺部または先端部にも光沢が認められるものが多い。33は角度の鋭利な表面左側縁に摩耗がみられ、右側縁の連続する剥離面には光沢がある。右側縁を基部、左側縁を刃部として使用したものと考えられる。先端が尖状をなすものの多くは先端に摩耗(19・28・31)や光沢があり(30)、このうち28と31は先端を錐として使用した可能性がある。表裏面下位に黒色物が斑状に付着するものも2点ある(34・35)。使用石材は珩質頁岩のほか黒曜石(37)、鉄石英(38)、

緑色片岩(26)が各1点ある。

スクレイパー(図101-45~図102-65)

刃部の形状により3つに区分した。

A類:刃部の角度が急なものの。搔器に相当する。5点出土し2点図化した(45・46)。5点とも5cm以下と小型で、平面形は拇指形である。刃部は丸味を帯びる。

B類:刃部に顕著な挟りがあるもので、挟入石器に区分されるものを一括した。30点出土し、14点図化した(47~60)。剥片石器の中で、石匙の次に多く出土している器種である。側縁に明瞭な挟りを有するのが特徴である。挟り部は側縁のほぼ中央に位置する。挟りは片側のみ、両側縁につくもの半々である。刃部の角度は60~80度と比較的急角度なものが多い。石匙と同様、湾曲したものや歪んだ剥片も素材として使用している。

C類:刃部が直線的または曲線的なもの。23点出土し5点図化した(61~65)。61~63は両側縁に調整が施され、比較的剥離面の幅が広く刃部が急角度となる側を基部、連続する細かい二次調整が施された側を刃部としている。

両面調整剥片(図102-66~69)

5点出土した。縁辺が鋸歯状を呈する。66以外は器体に厚みがあり側縁は急角度である。断面形が三角形となる。66~68は縁辺に潰れた部分がみられる。69は刃部未完成形である。

石核(図103-70~図104-78)

22点(1585.7g)出土した。石核は7cm以下と小振りであり、いずれも原礫面が残る。打面は複数面あり、礫を90度回転させながら転位している。打面から剥離作業面に向け縁辺に沿って連続した剥離が施されている。これらから素材は10cm台の小さい礫と推定され、得られる剥片は小さく幅広のものが想定される。72は剥離面の稜に潰れがあり、原礫面にも敲打痕があることから、石核から敲き石に転用したものと思われる。

二次加工のある剥片

定形石器・スクレイパー類の道具として機能しないものを一括した。定形石器の欠損品または未製品が31点、挟りのあるもの9点、刃部未完成のもの11点、部分的に加工があるが刃先が整っていないものが147点である。

微細剥離痕のある剥片

二次加工は施されていないが、鋭利な縁辺に微細な剥離痕が連続するものが36点出土した。これらはスクレイパーとして使用された可能性が高い。

剥片

616点(3058g)あり、長さ4~8cmの剥片が6割を占める。2cm以下の破片が3割あり、8cm以上の大きめの剥片はごくわずかである。使用石材は珪質頁岩が9割を占める。ほかには玉髓39点、黒曜石15点、玉髓質珪質頁岩14点、シルト岩3点、緑色岩2点、鉄石英1点である。黒曜石は5cm以下が主要で、1cm未満の破片が5点ある。このうち7点を産地推定分析し、産地は出来島・八森山・赤井川産と同定されている(第4章第6節参照)。

礫石器

磨製石斧(図104-79・80)

5点出土した。擦り切りと研磨により整形されている。79は破損面を打面として再整形されたものである。石材は緑色片岩である。80は青色片岩製の石斧で、裏面と左側面に部分的にざらつく箇所がある。このほか緑色片岩製で破損し刃部のみのものが3点出土した。

磨り石・蔽き石・凹み石(図104-81~84)

磨り石は側面を使用したものが2点出土した。蔽き石は7点あり、図104-81のように角柱礫を素材とし端部を使用したものが3点、やや球状の珪質頁岩・凝灰岩を素材としたものが4点である。凹み石は12点出土している。8~13cmの扁平な円礫を素材とする。使用石材は凝灰岩11点、安山岩1点である。器面には複数の深い凹みがあり、両面使用が多い(図104-84)。82・83は器面のほか、側面を磨り石および蔽き石として利用している。

半円状扁平打製石器(図105-85~図106-94)

86点出土した。完形品は3点のみ(86・87・90)で、ほとんどが破損している。このうち接合したものは図化した3点(85・88・89)と少ない。石材は安山岩78点、凝灰岩8点である。多くは厚さ1.3~2.0cmの扁平な安山岩を素材とし、素材の縁辺を直接打撃により形を作り、刃部を整えている。おおむね刃部は直線的に、基部は弧状となる。半円状に整えられたものは半数で、次いで端部が直線的で形状が長方形を呈するものがあり(85・89・90)、85・89のように端部を整形していないものもある。大きさは残存状況から復元すると、最も小さいものは91で長さ13×幅6cm、最大は92で推定長20cmを超える。刃部には部分的に磨り面が残り、磨り面の幅は2~5mmの小さいものが多く、1cmを超えるもの(85・89・93)は少ない。刃部の角度は約30~60度と鋭利である。90は基部側にも刃部同様の調整が施され直線的であり、磨り面も見受けられる。両側面を刃部として使用したものと考えられる。93は側面に幅1~1.5cmのざらつく磨り面があり、刃先が残存していないことから、使用頻度の高さが窺える。94はやや厚みのある凝灰岩を素材とする。刃部には階段状剥離があり、刃部の角度が約75度であることから製作途中と考えられる。図化していない72点の破片は、形状と大ききで2つに区分される。ひとつは大きさ6cm以上で刃部と基部があり概ね形状と幅がわかるもの54点である。もう一方は6cm未満の刃部または基部のみが残存するもの18点である。これらの接合状況からは、3分割に破損した中央部が欠落する割合が高いことが指摘される。いずれも破損場所が刃部のほぼ中央にあり、割れ方に規則性が認められる。

台石・石皿類は1点(図106-95)のみで、両面を使用している。表面と側面を成形している。

このほか、加工のある礫片2点が出土した。

[沢2] (図106-96~100)

剥片石器は石核2点(54.7g)、二次加工のある剥片9点(134.7g)、剥片28点(175.5g)出土した。使用石材は珪質頁岩35点、玉髓4点である。

礫石器は磨り石5点、蔽き石4点、凹み石1点、半円状扁平打製石器3点、台石片2点の計15点(8263.1g)出土した。このうち礫石器5点を図化した。図106-96の蔽き石は破損した棒状の凝灰岩を素材とする。上面の破損面も蔽き石として使用している。99は角柱状の流紋岩を素材とした蔽き石で、器面と上下面の縁辺を利用している。100の半円状扁平打製石器は凝灰岩製で、長軸と短軸の比率が等しく、方形の形状を呈する。沢1から出土した同器種に比べ大型である。

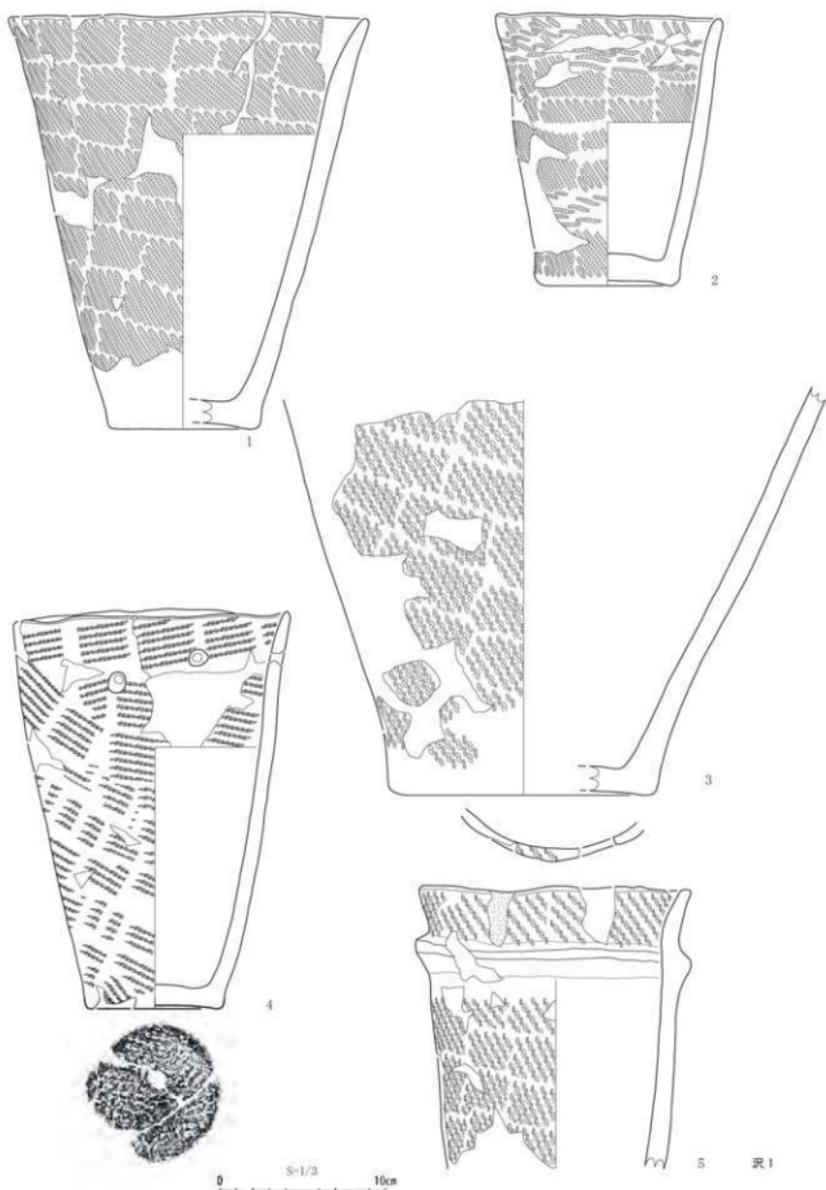


图74 沢出土土器(1)

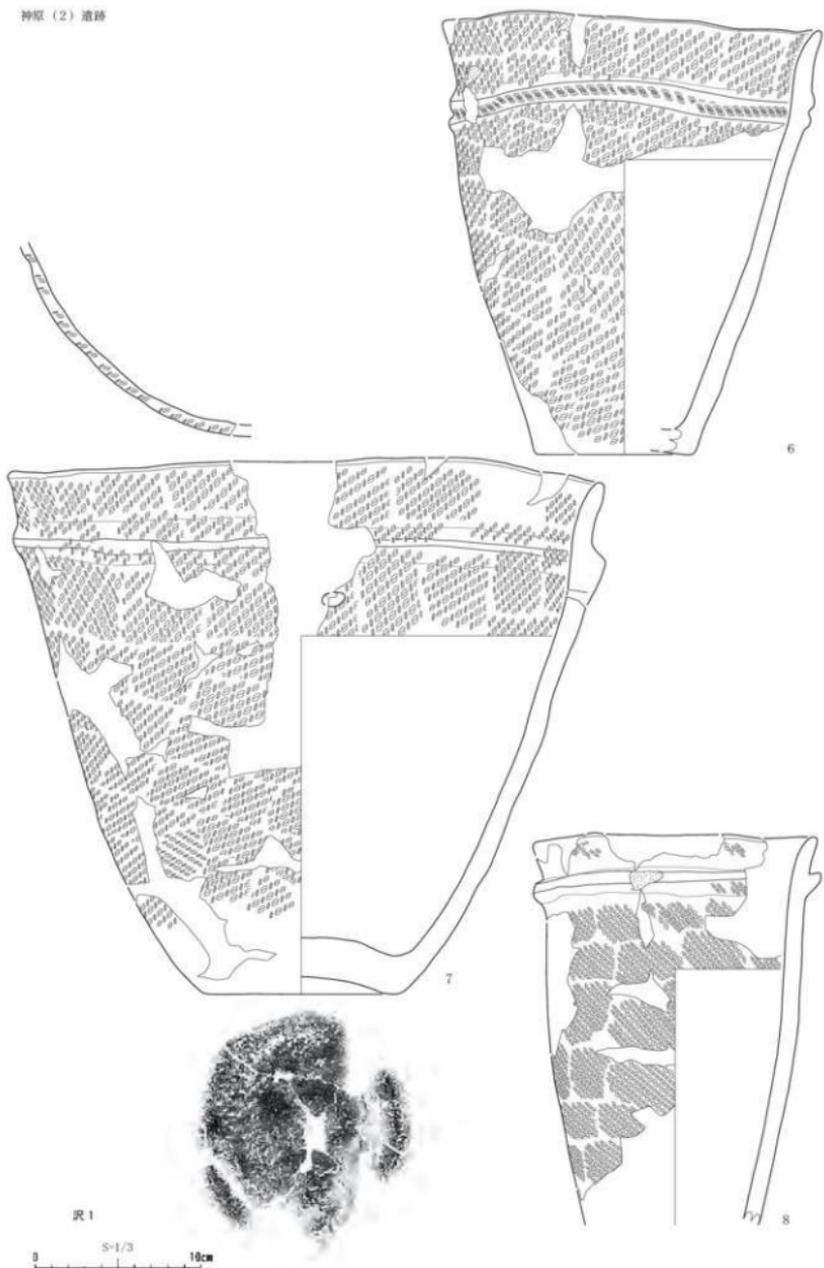


图75 沢出土土器 (2)

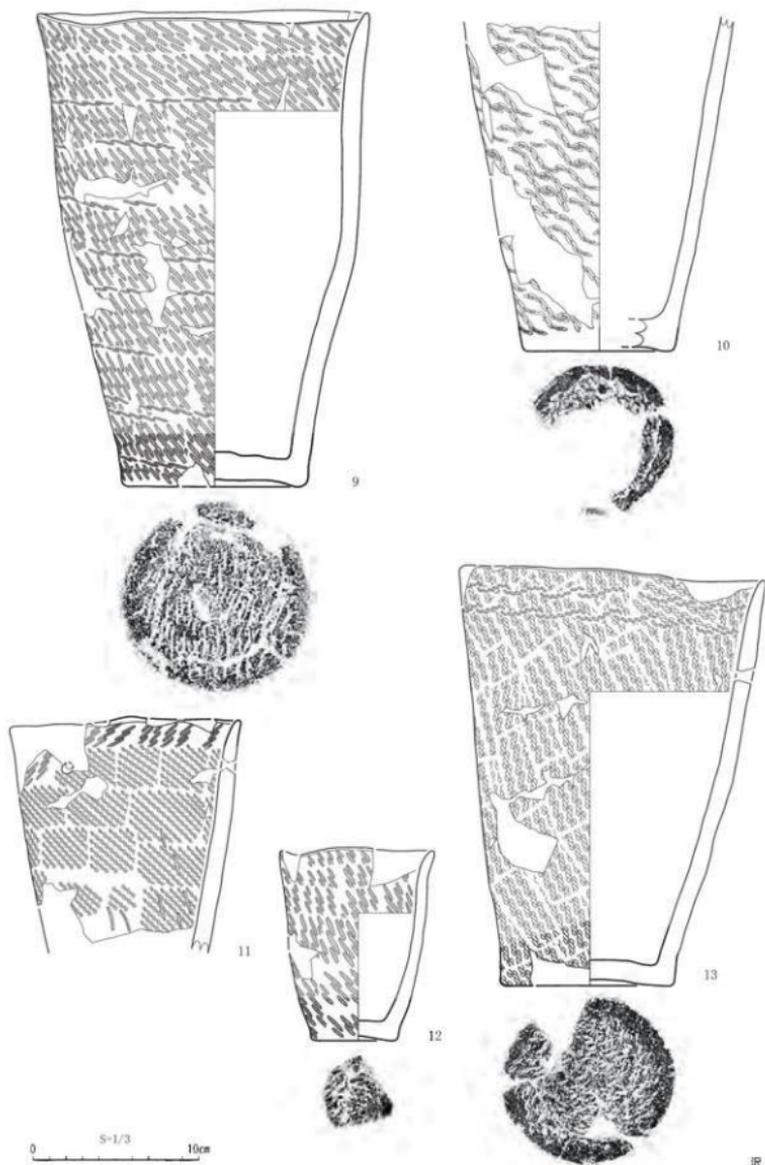


図76 沢出土土器（3）

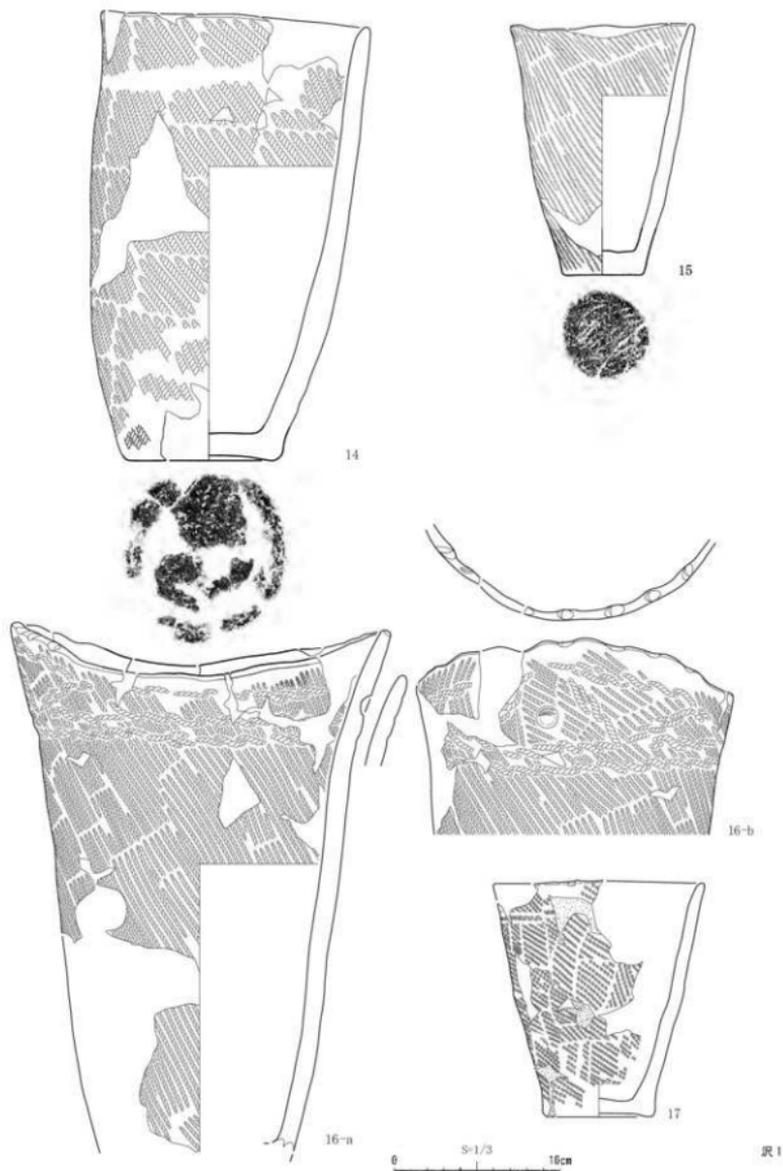


图77 沢出土土器(4)

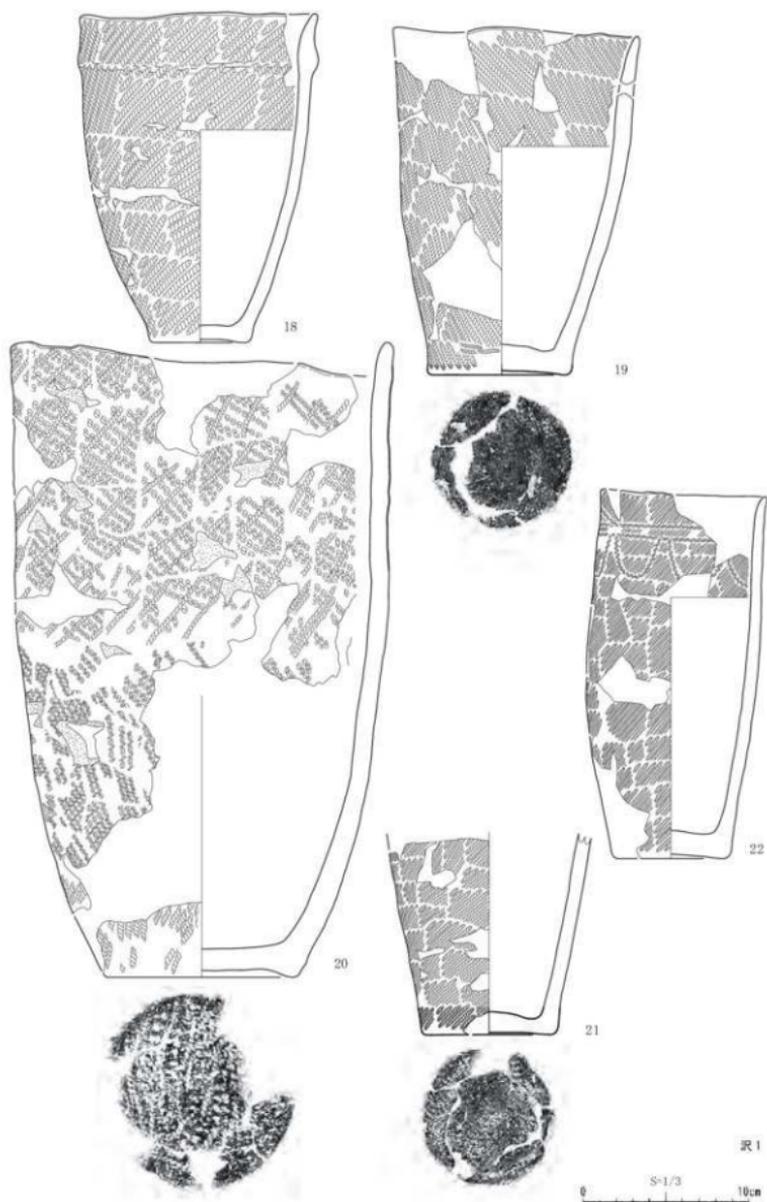


図78 沢出土土器(5)

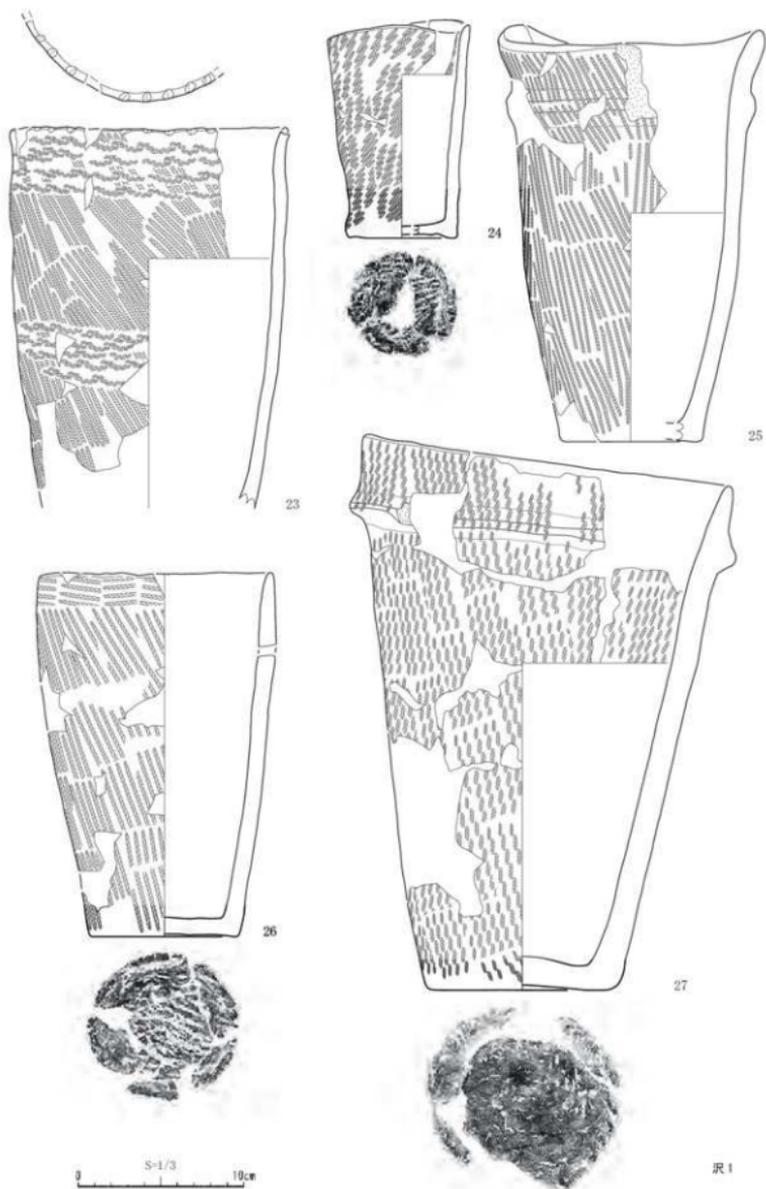


図 79 沢出土土器 (6)

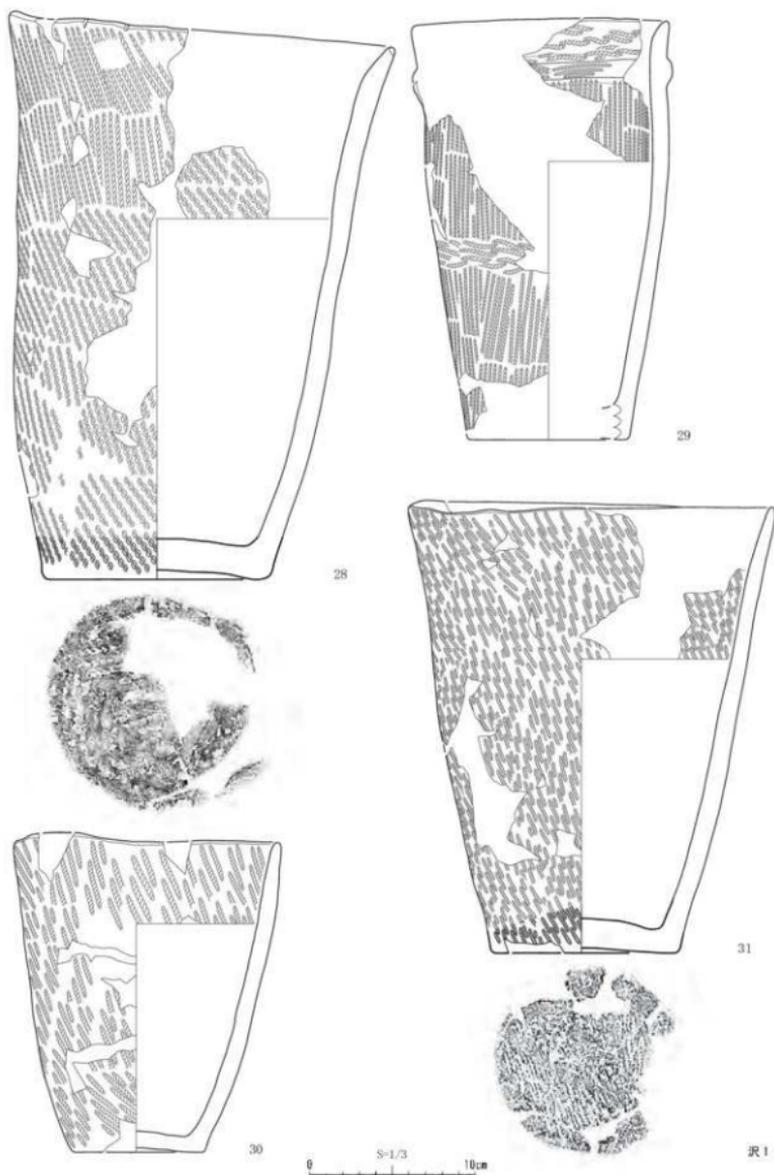


図80 沢出土土器（7）

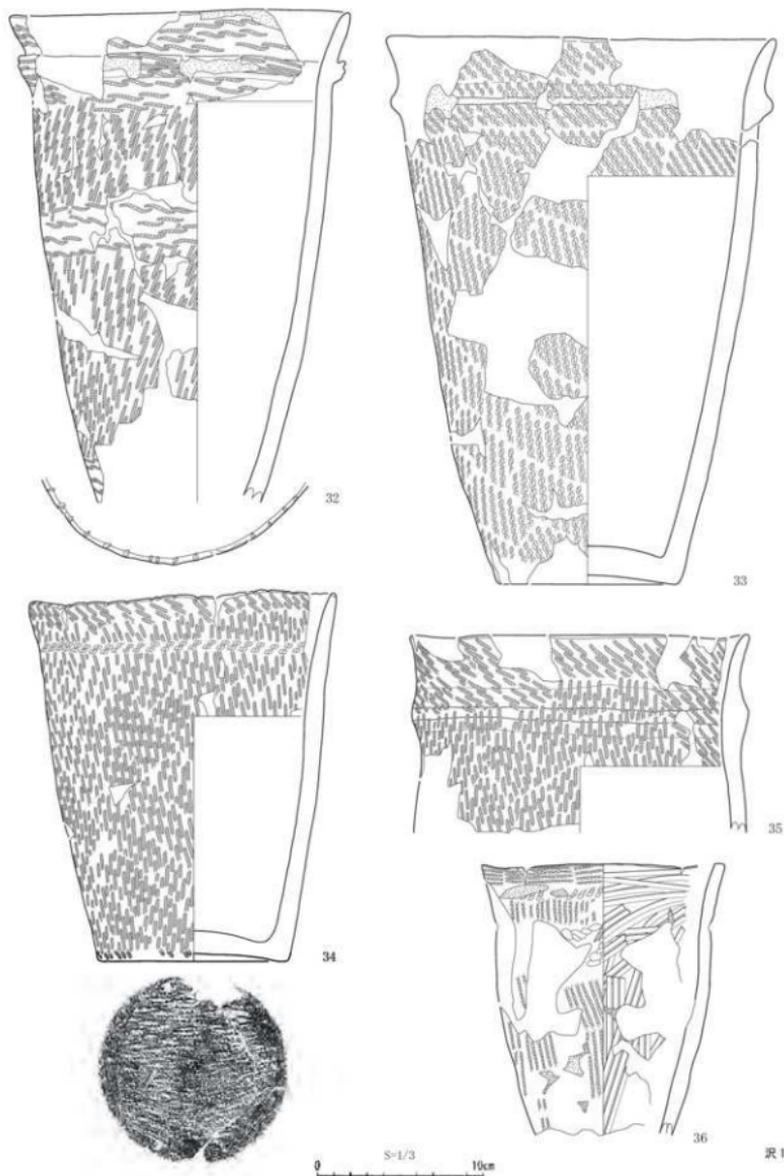


图81 沢出土土器(8)

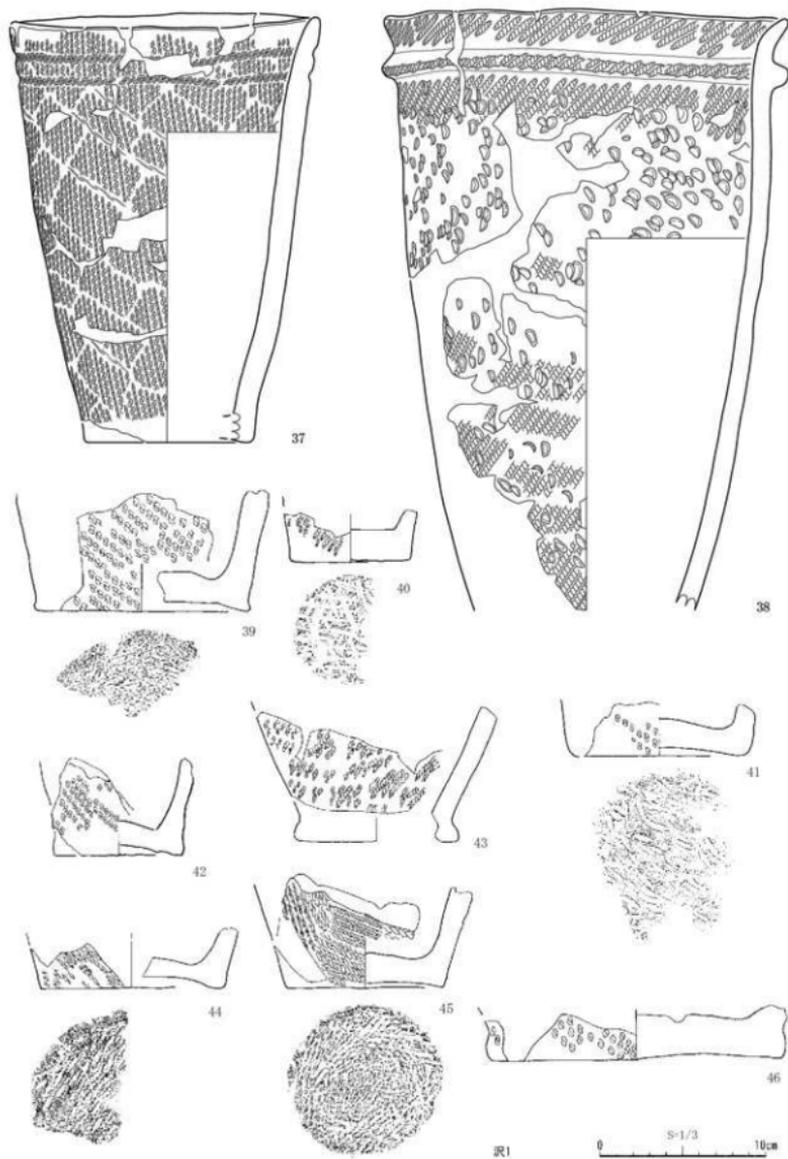


図82 沢出土土器(9)

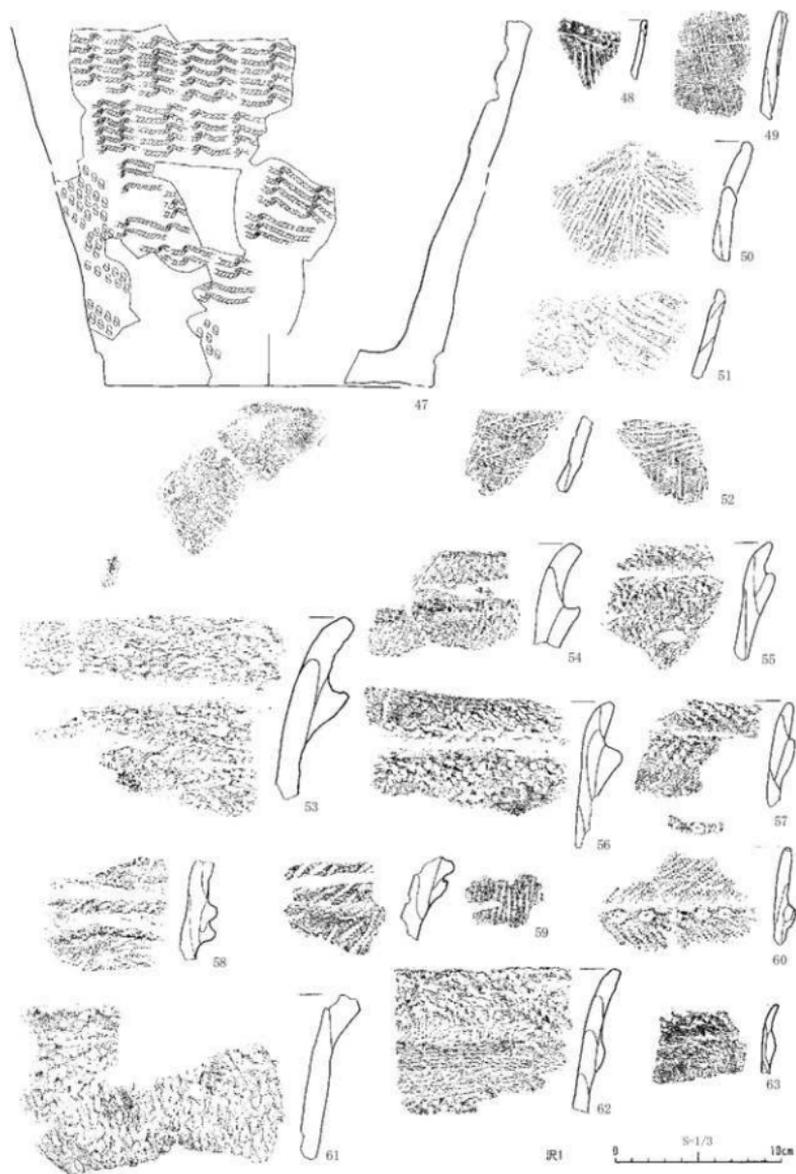


图83 沢出土土器 (10)

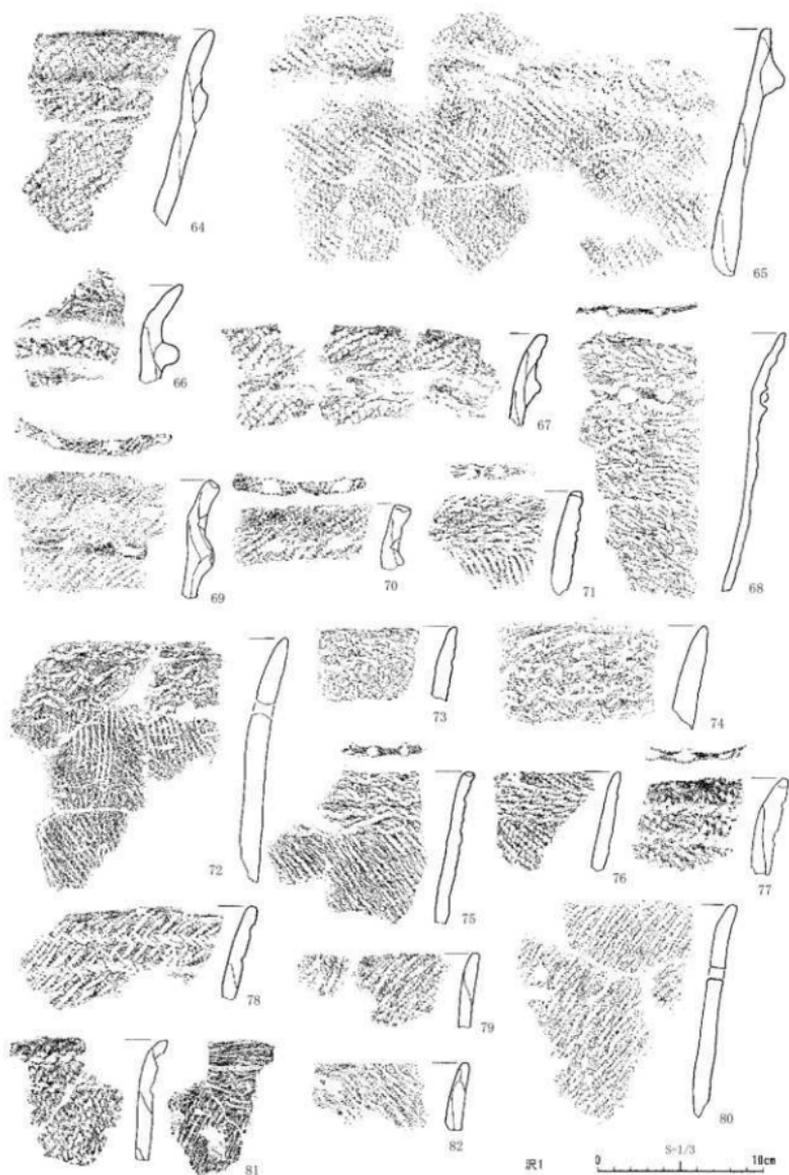


図84 沢出土土器 (11)



図85 沢出土土器(12)

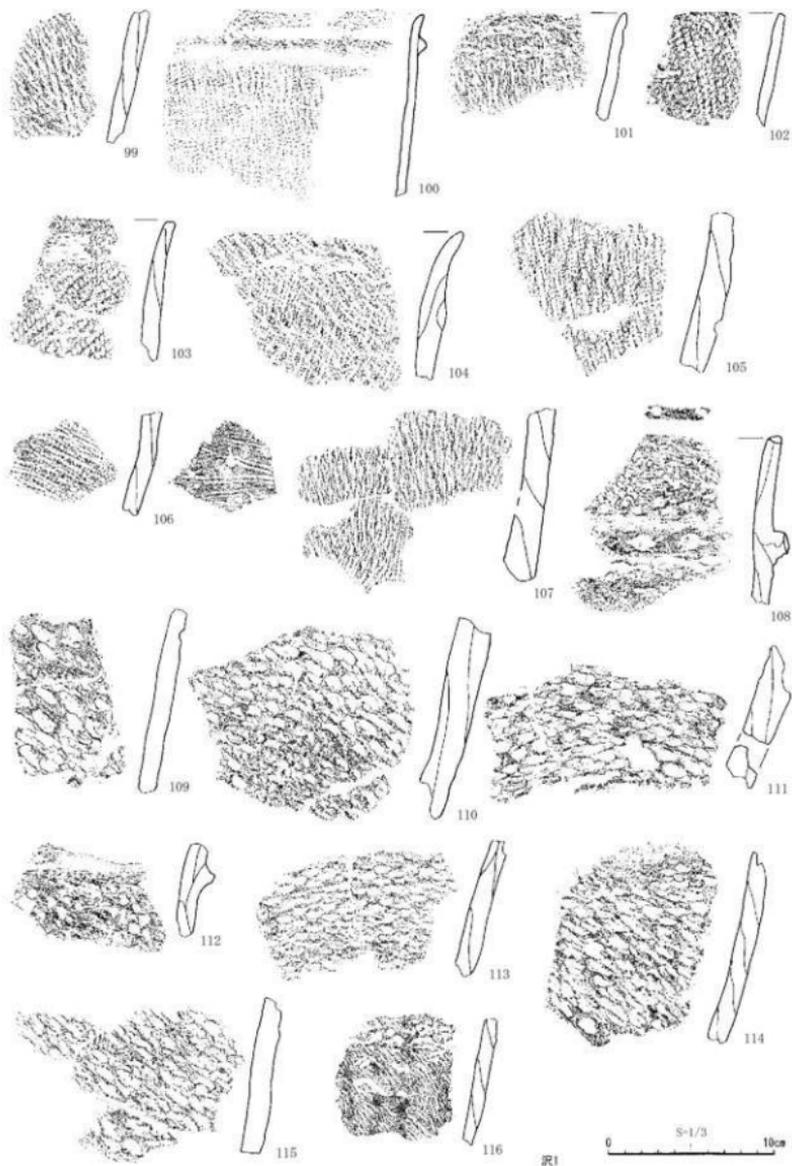


図86 沢出土土器 (13)

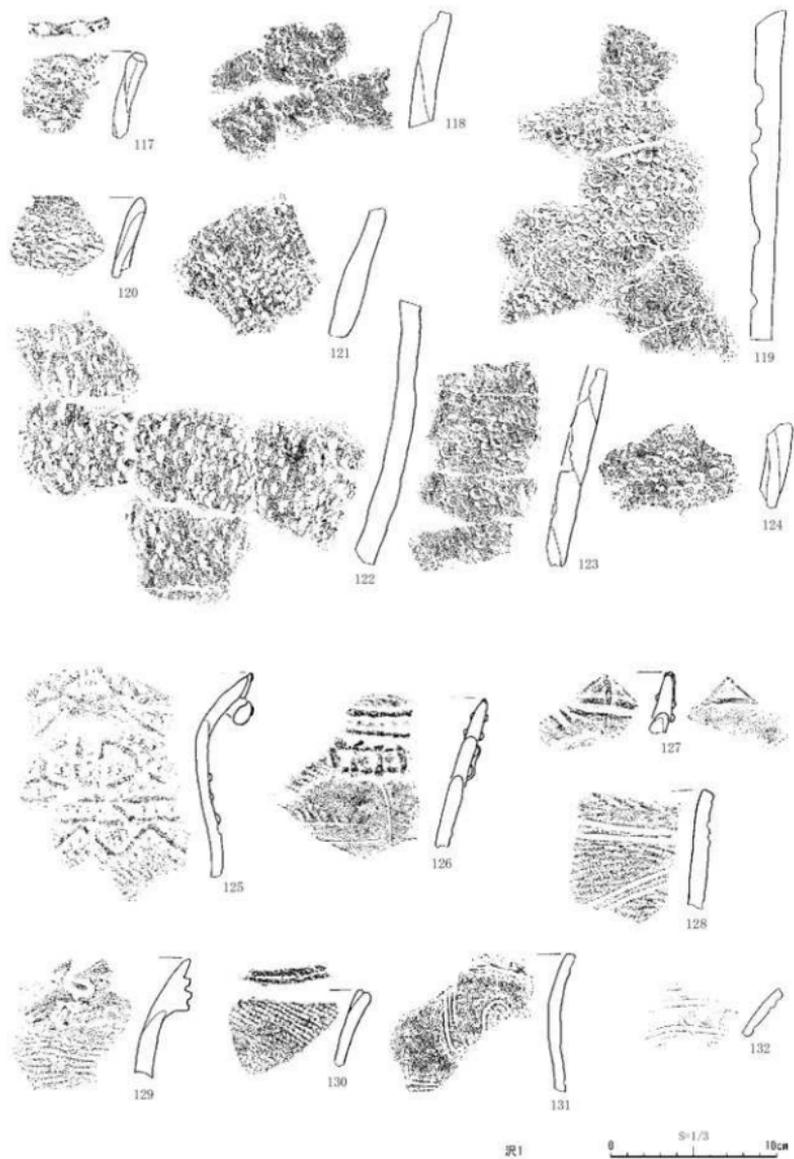


図87 沢出土土器(14)

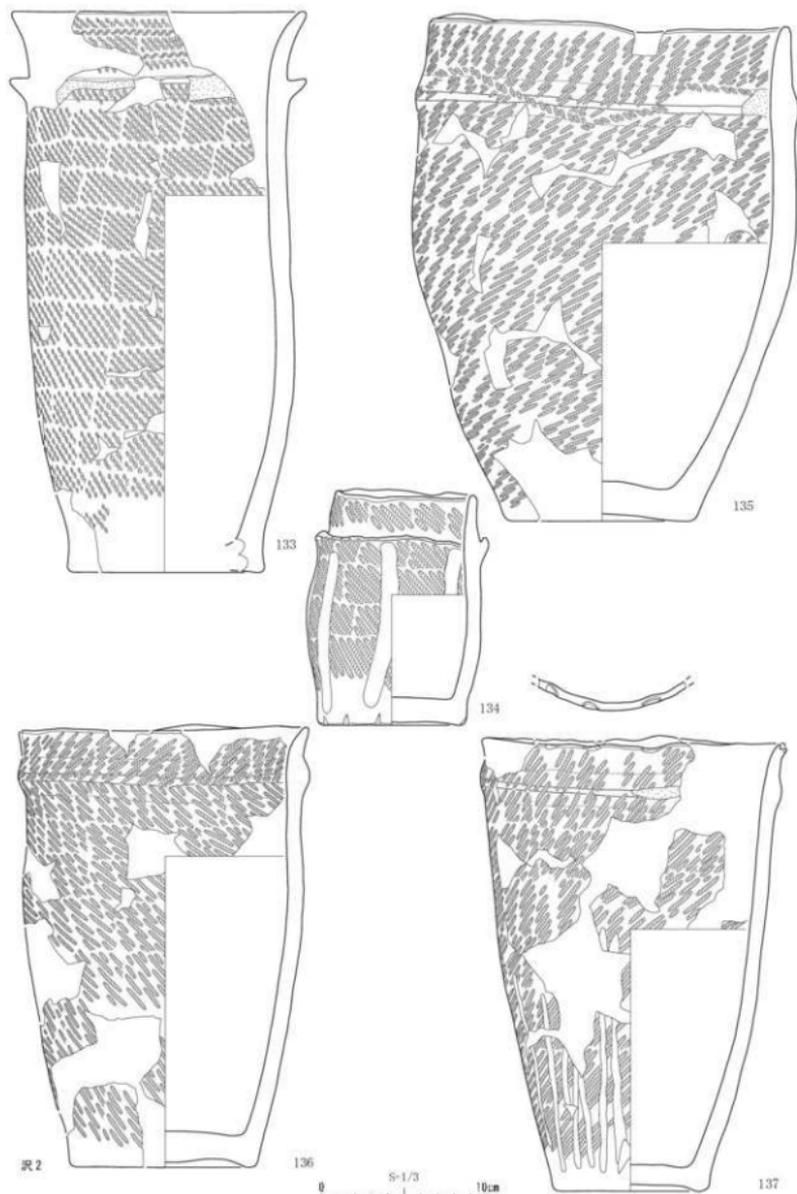


図88 沢出土土器 (15)

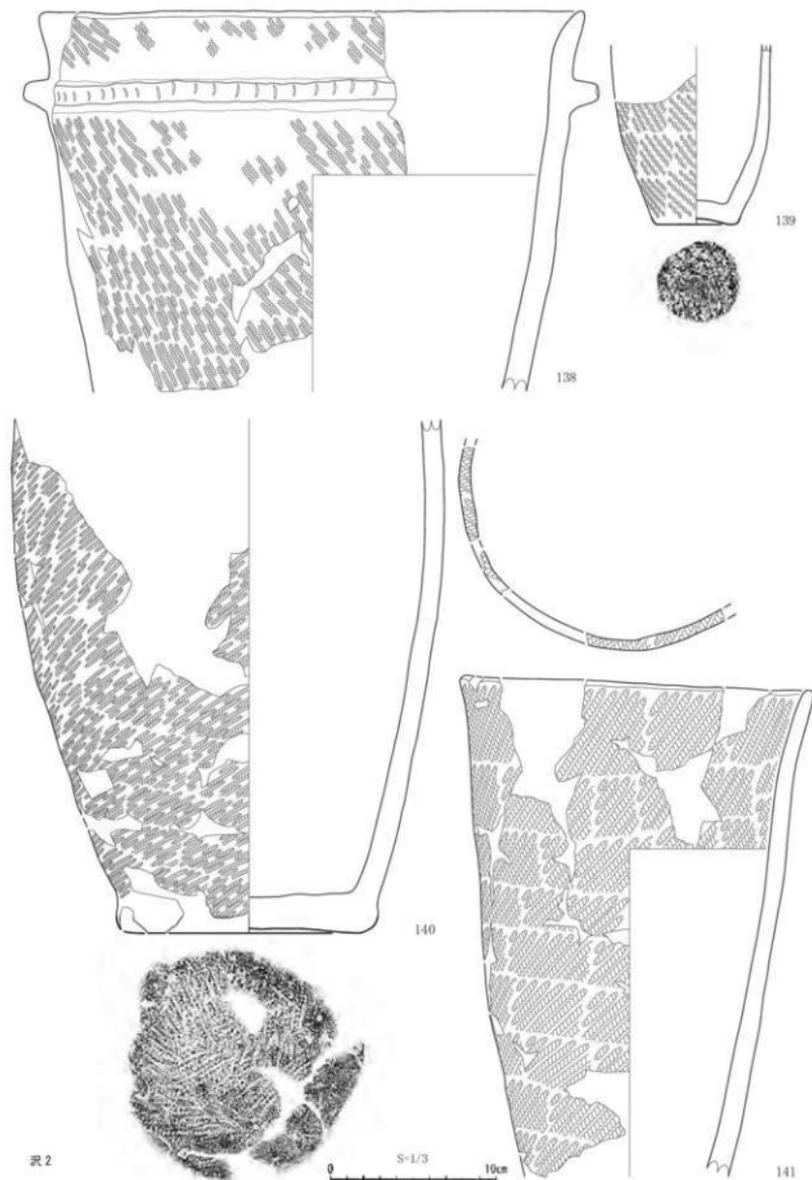


图89 沢出土土器 (16)



図90 沢出土土器 (17)

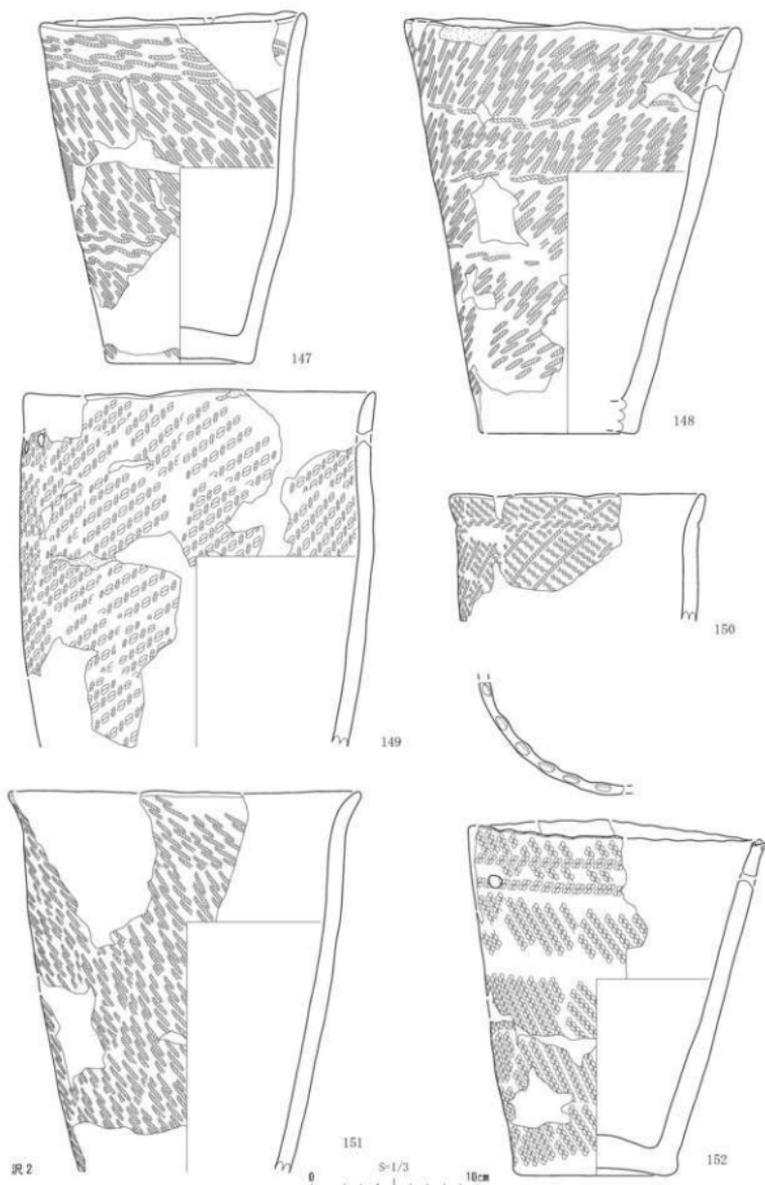


図91 沢出土土器(18)

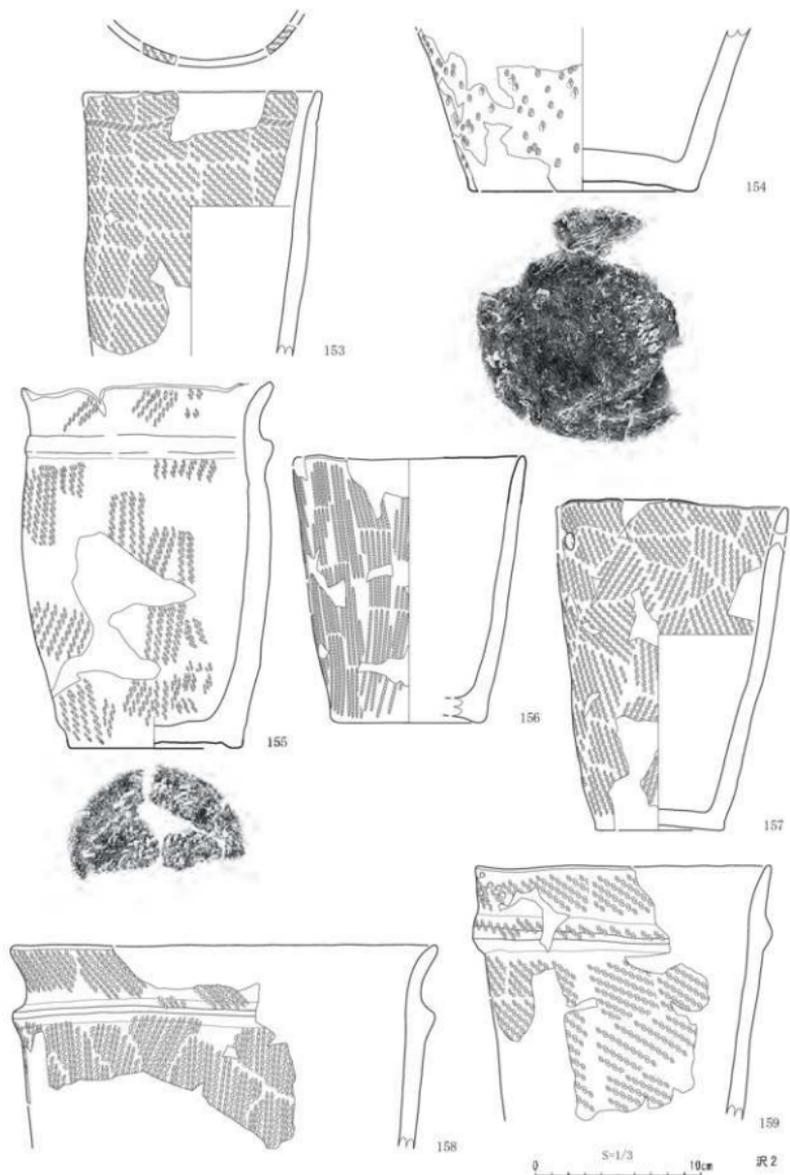


図92 沢出土土器 (19)

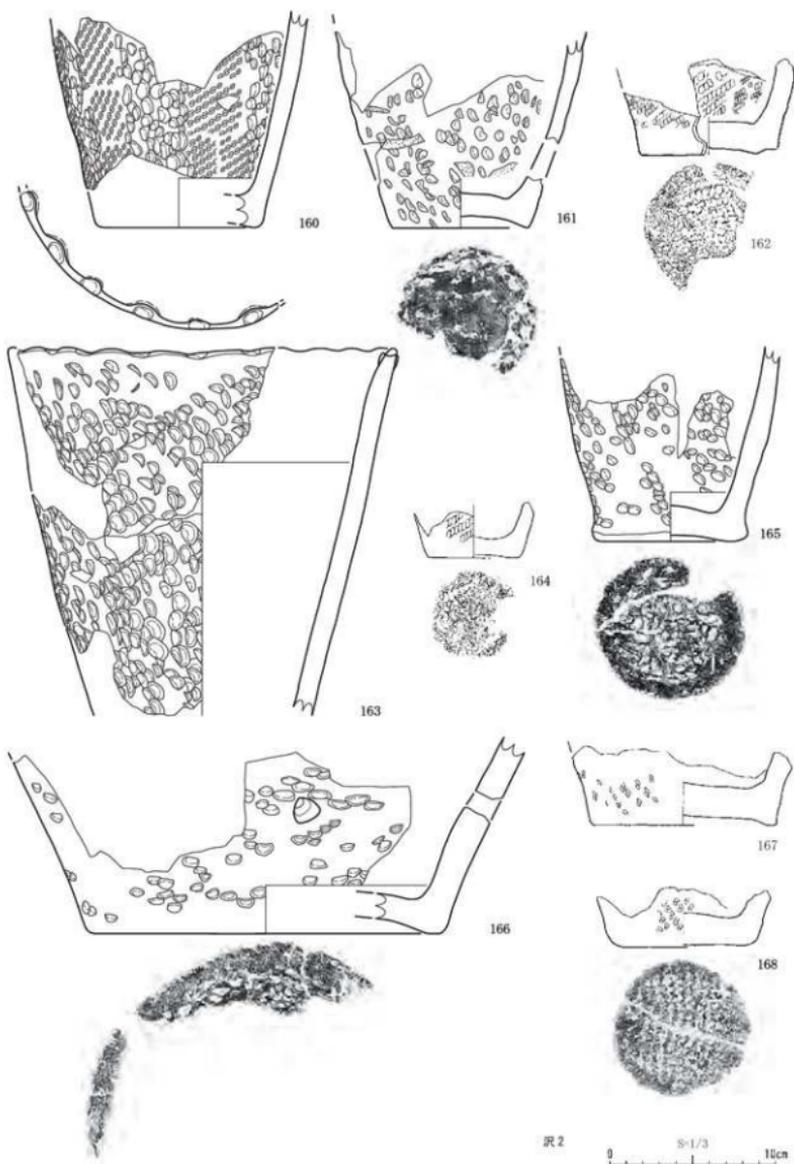


图93 沢出土土器(20)

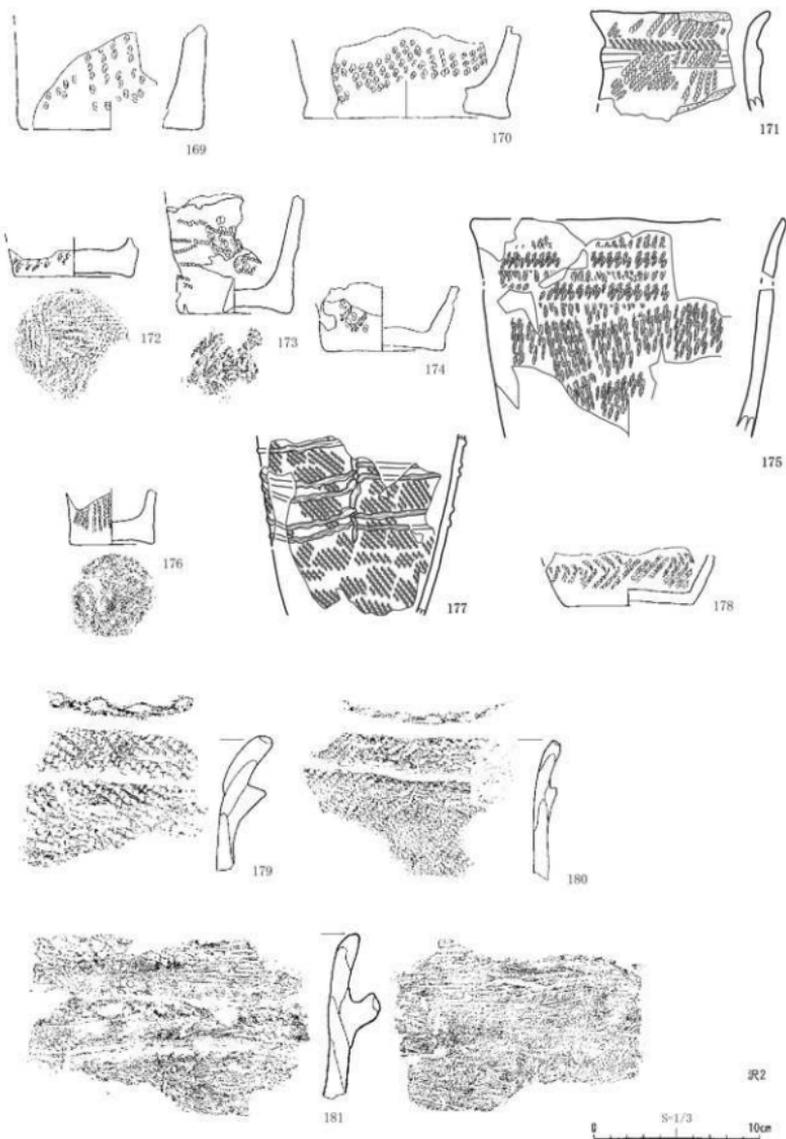


図94 沢出土土器 (21)

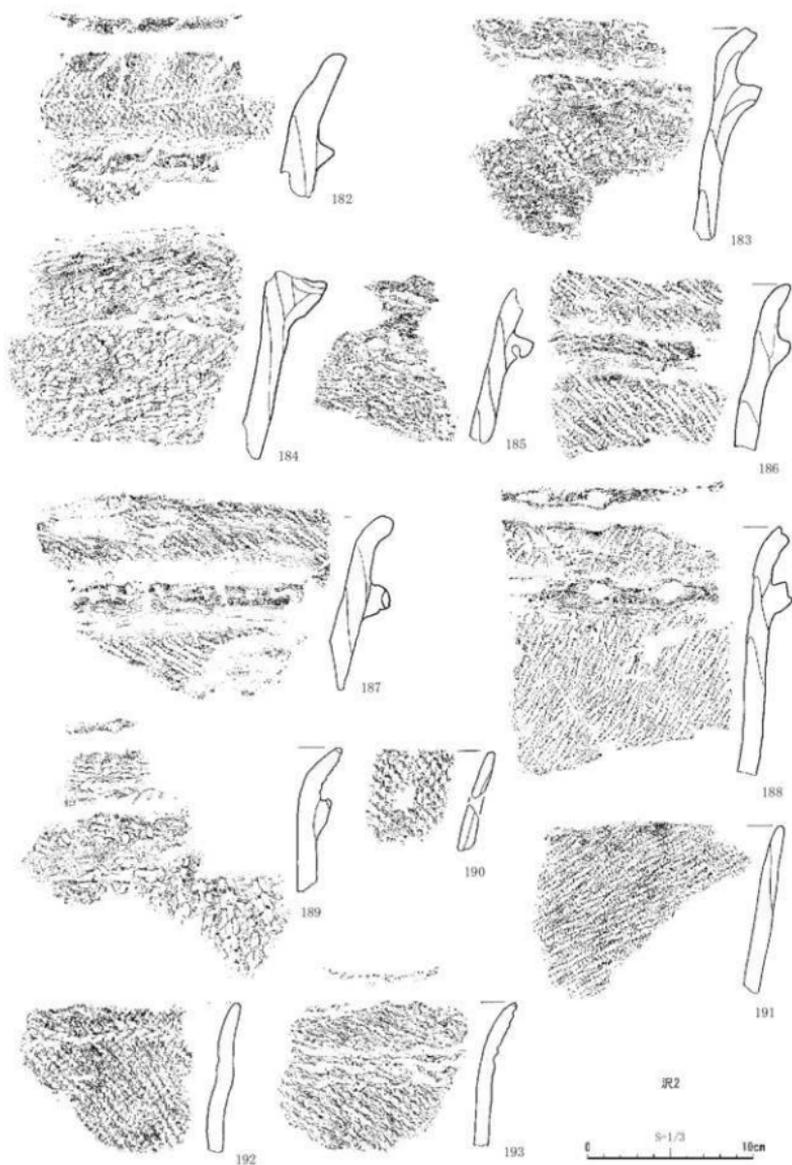


图95 沢出土土器(22)

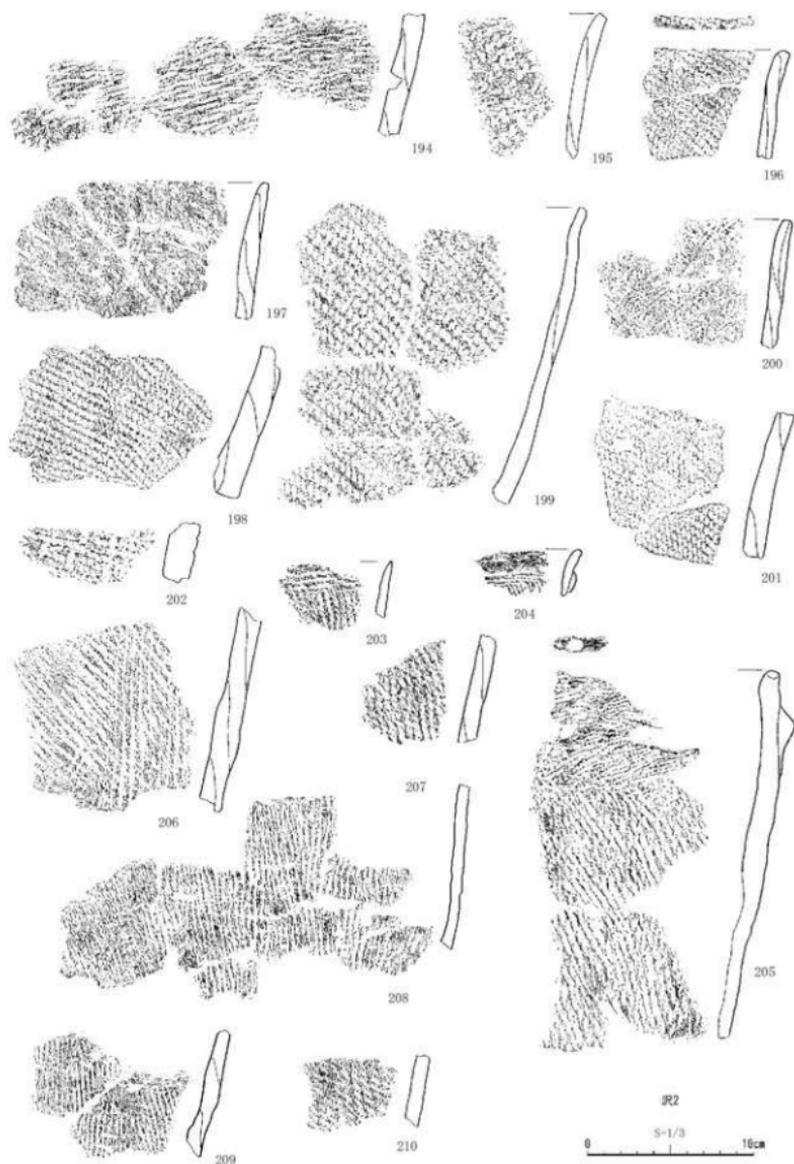


図96 沢出土土器 (23)

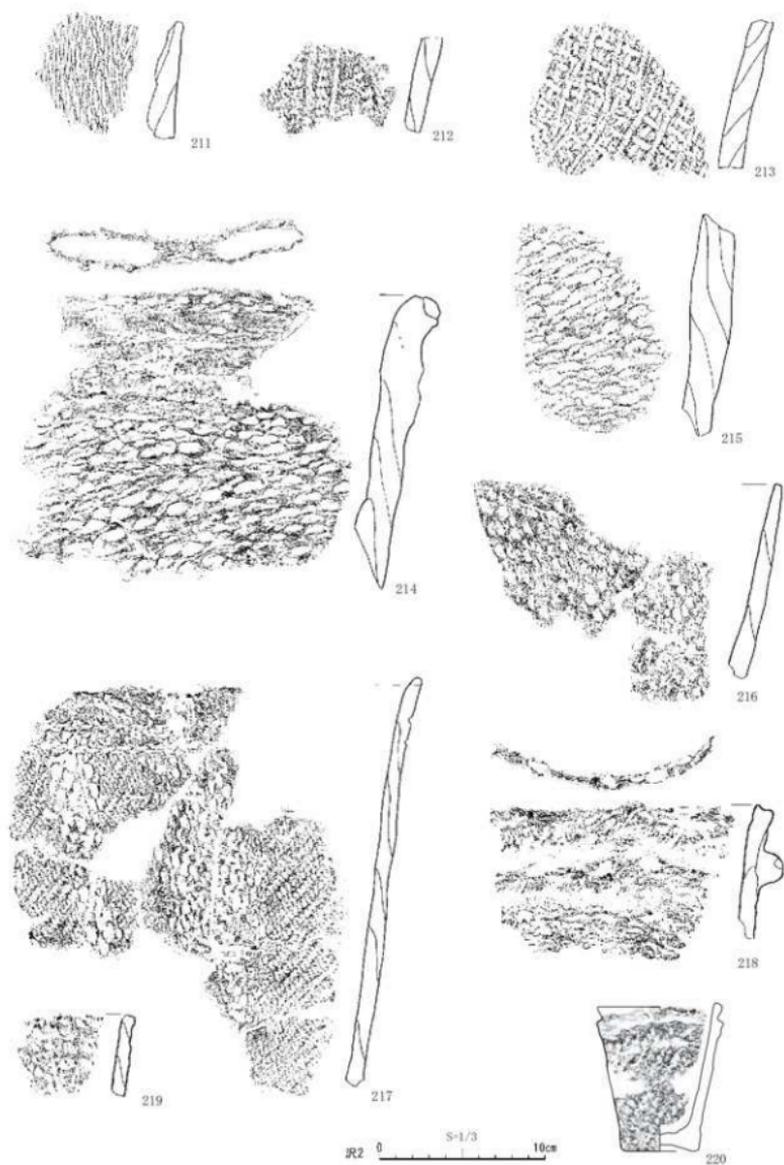


图97 沢出土土器 (24)

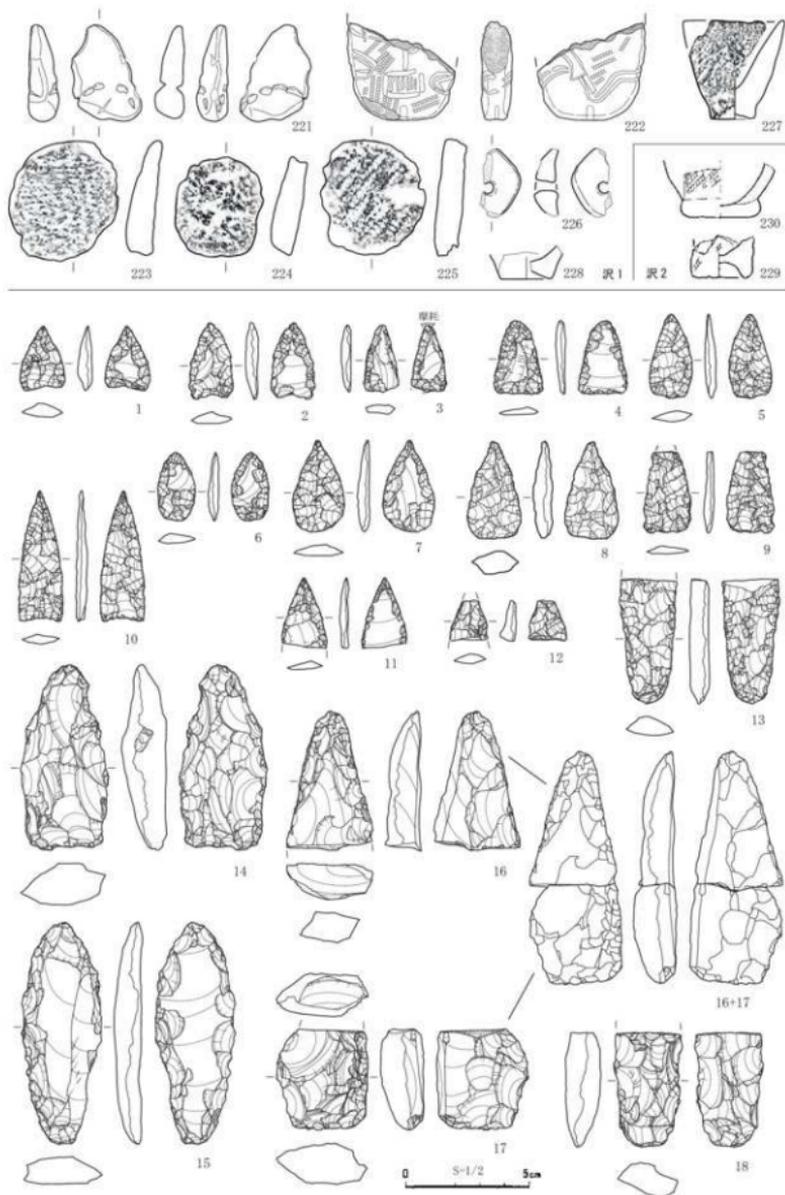


図98 沢出土土製品、石器（1）

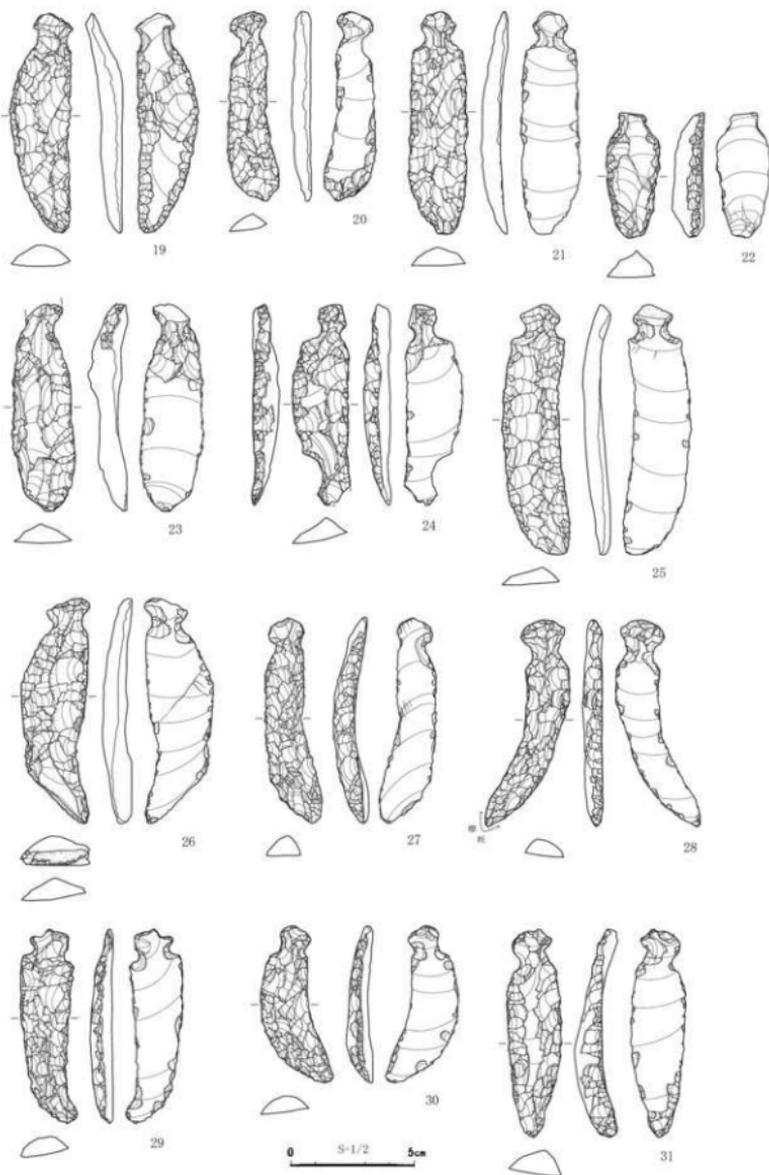


图99 沢出土石器(2)

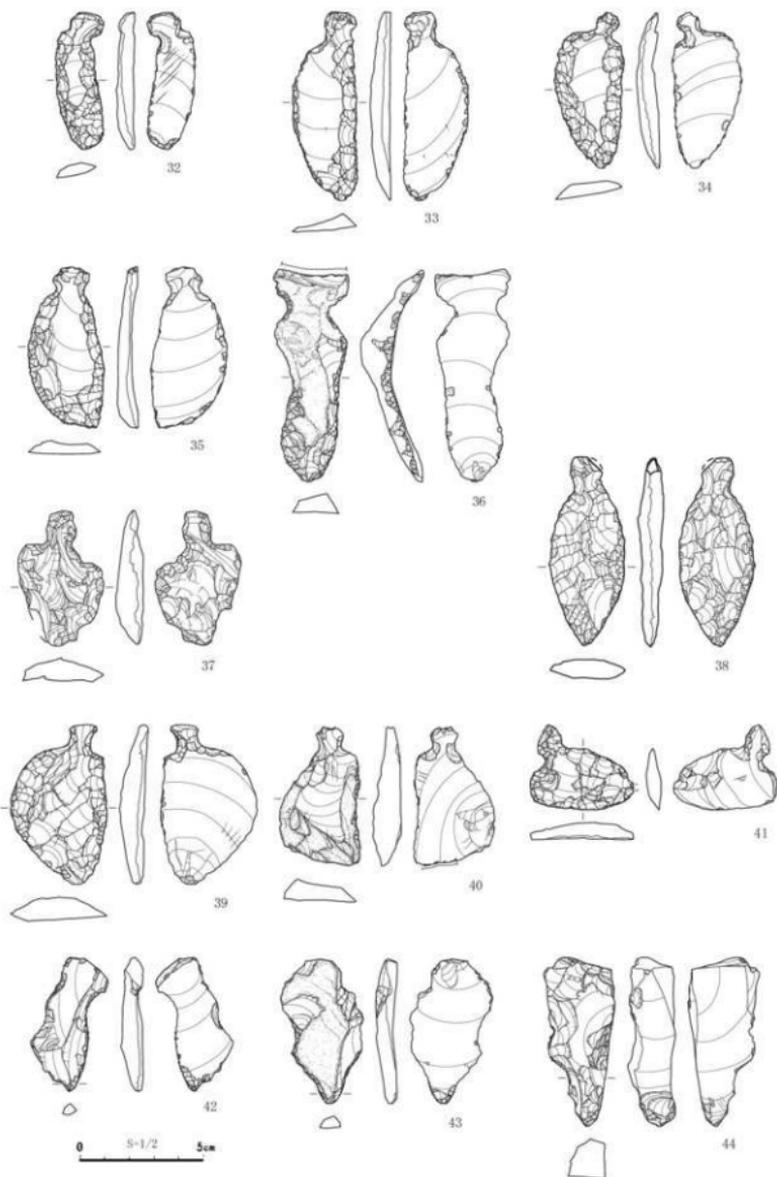


図100 沢出土石器(3)



図101 沢出土石器(4)

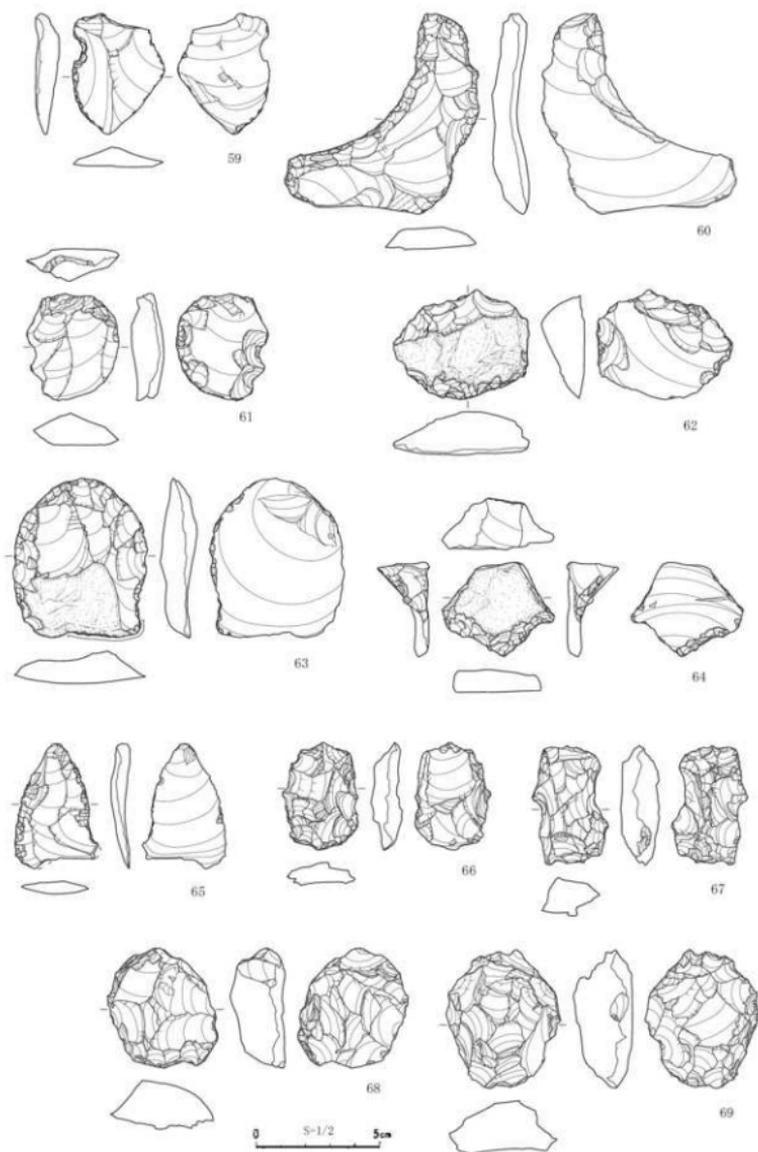


図102 沢出土石器（5）

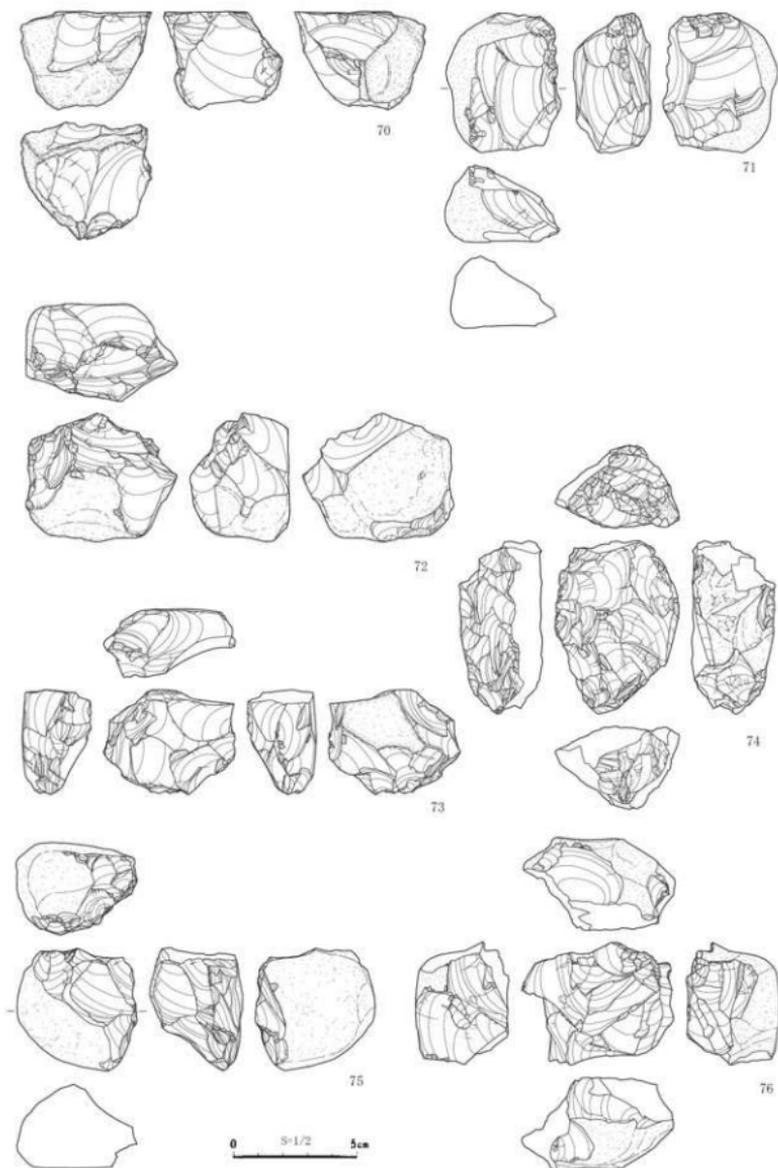


圖103 沢出土石器(6)

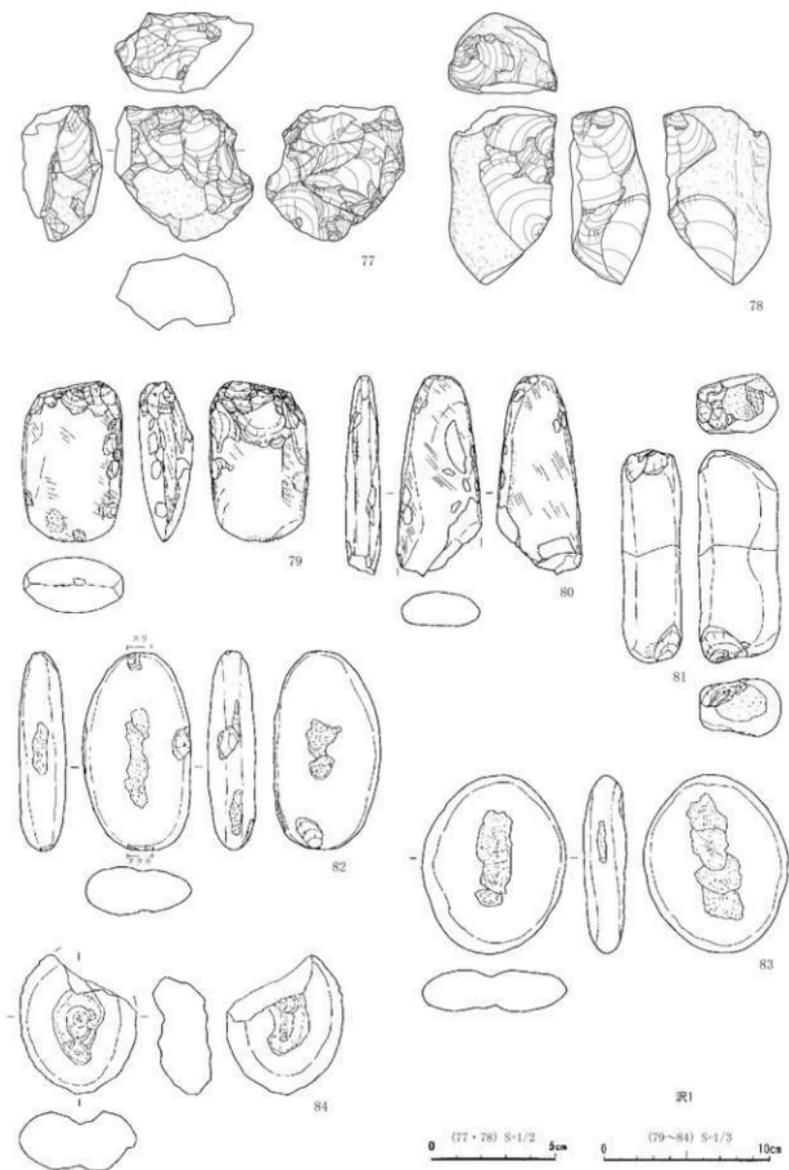


図104 沢出土石器(7)

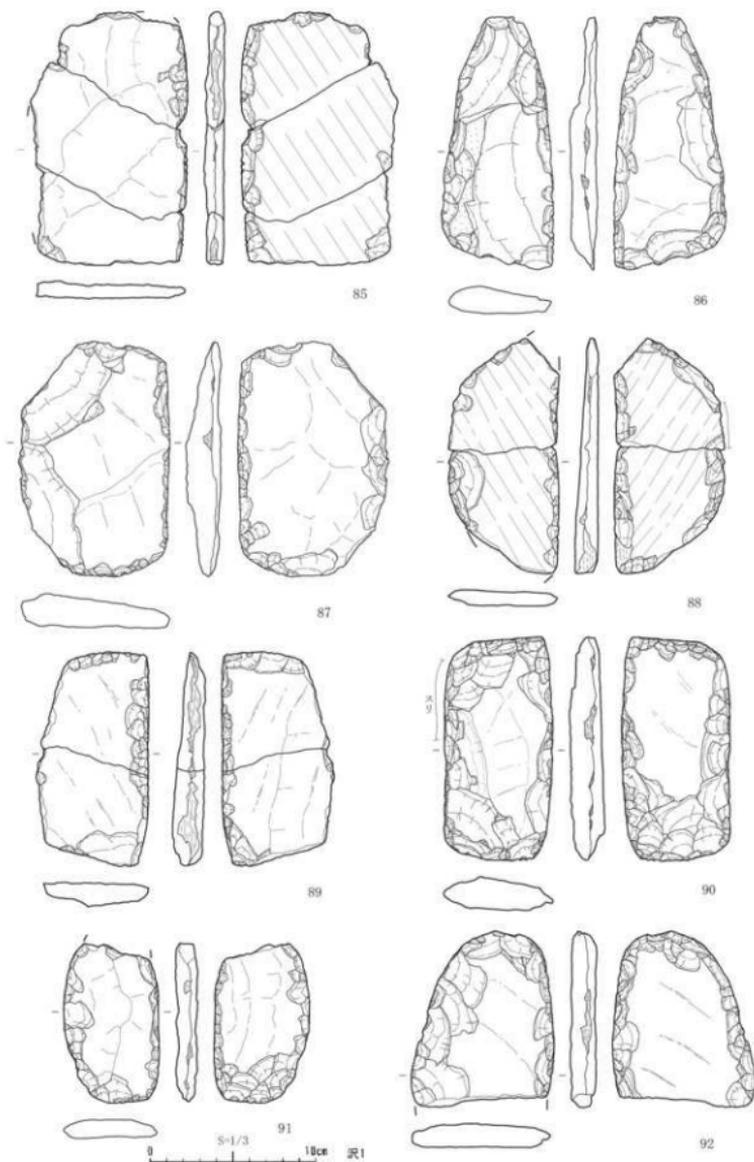


図105 沢出土石器(8)

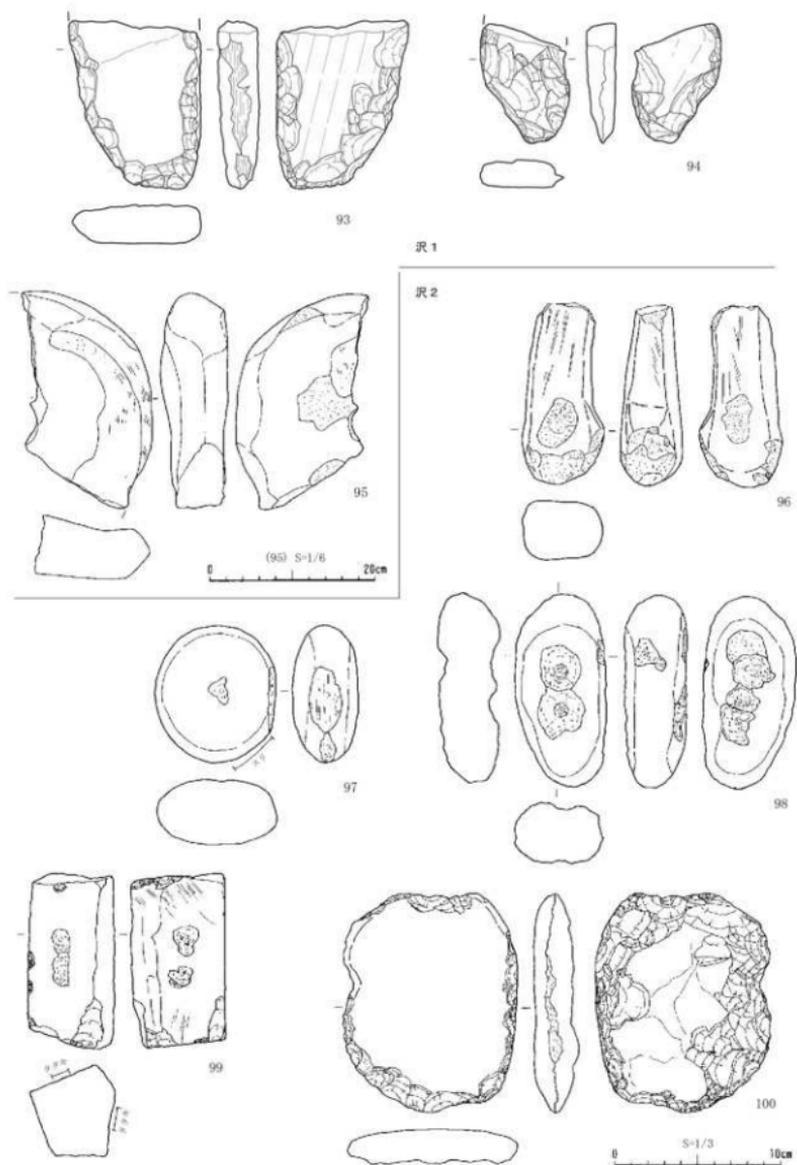


図106 沢出土石器(9)

第2節 遺構外出土遺物

I 土器・土製品

遺構外の土器・土製品は以下の分類を用いた。なお、遺構内も同分類を用いている。

- | | | | |
|--------|---|-------|---------------------|
| I 群 | 縄文時代早期の土器 | IV 群 | 縄文時代後期の土器 |
| I A | 物見台式に相当する土器 | IV A | 前十腰内Ⅰ式に相当する土器 |
| | | IV B | 十腰内Ⅰ式に相当する土器 |
| II 群 | 縄文時代前期の土器 | IV C | 十腰内Ⅱ式に相当する土器 |
| II A | 縄文時代前期前葉の土器 | IV D | 後期後葉～末葉に相当する粗製の縄文土器 |
| II B | 円筒下層 a 式に相当する土器 | V 群 | 縄文時代晩期の土器 |
| II B 1 | 地文の条が主に斜行、または横走する土器 | V A | 大洞 B C 式に相当する土器 |
| II B 2 | 地文の条が主に縦走する | V B | 大洞 A・A' 式に相当する土器 |
| II B 3 | 隆帯・口縁末端以外に刺突文様が面的かつ密に施される土器 | VI 群 | 弥生時代の土器 |
| II C | 円筒下層 b～c 式に相当する土器 | VI A | 砂沢式に相当する土器 |
| II D | 円筒下層 d 式に相当する土器 | VI B | 田舎館式に相当する土器 |
| | | VI C | 弥生時代後期に相当する土器 |
| III 群 | 縄文時代中期の土器 | VII 群 | 古墳時代以降の土器 |
| III A | 円筒上層 a 式に相当する土器 | | |
| III B | 円筒上層 b 式に相当する土器 | | |
| III C | 円筒上層 c 式に相当する土器 | | |
| III D | 円筒上層 d ₁ ・ ₂ 式に相当する土器 | | |
| III E | 円筒上層 e 式に相当する土器 | | |
| III F | 榎林式に相当する土器 | | |
| III G | 最花式に相当する土器 | | |
| III H | 大木 10 式に併行する土器 | | |
| III I | 大木 8 a 式に相当する土器 | | |
| III J | 大木 8 b 式に相当する土器 | | |
| III K | 中期後葉～末葉に相当する粗製の土器 | | |

土製品分類

- | | |
|---|-----------------|
| A | 中央部に貫通孔がある有孔土製品 |
| B | ミニチュア土器 |
| C | 菌形跡が残る粘土塊 |
| D | 土偶 |
| E | 土器片を利用した土製品 |
| F | 粘土塊 |

I群 縄文時代早期の土器

I A 物見台式に相当する土器 (図108-1~18)

5は、ゆるやかな波状を呈した波状口縁であり、3・4は平口縁を呈する。文様は5が貝殻縁文を充填し、4は沈線間に施文している。刺突は4が区画文の角付近に刺突し、5は沈線間に沿って施文している。3は口縁上端に連続刺突を施文している。7・8は平口縁で8は胴部から口唇部に向かって外反する。7は口頸部が内反する。文様は横位方向に連続の山形の沈線文様を一条および四条に施文している。7は裏面の口唇部寄りに連続の貝殻刺突を施文している。

II群 縄文時代前期の土器

II B 円筒下層 a 式に相当する土器 (図108-19~24 図109-25~27・33~36)

19・20・22~26は、平口縁で外反する口頸部に一条の粘土紐を巡らしている。粘土紐の上には縄文を施文しているが、20は素文・22は燃糸圧痕を施文している。27は平口縁で胴部から口唇部にかけて外反する深鉢形である。器面には縄文を施文し、23は複節、25は直前段反転りを用いている。33~36は底面に施文がある。36は円形に施文し、34は圧痕(不明)がみられる。平底が主体であるが、33は若干あげ底を呈する。

II D 円筒下層 d₁・d₂式に相当する土器 (図109-28~32)

平口縁で口頸部が内反する31と外反する器形がある。29・30は口頸部に粘土紐を巡らし、文様区画帯を構成している。口縁部文様帯には、横位および山形状に燃糸圧痕を施文し、胴部文様帯には羽状縄文を施文している。31は単軸絡条体1類が横位に施文される。32は波状口縁の垂下部にボタン状突起を貼り付けている。

III群 縄文時代中期の土器

III B 円筒上層 b 式に相当する土器 (図110-44・47・48)

斜位及び横位に粘土紐を貼り付け、燃糸圧痕(馬蹄形)を連続に施文している。粘土紐の上には連続した燃糸圧痕を施文している。48は波状口縁で頂端が二股状である。文様は、燃糸圧痕を波頂部の側縁に連続して、中央部には弧状に押圧している。

III C 円筒上層 c 式に相当する土器 (図109-38・39 図110-45 図111-50・51)

38・39は粘土紐を横位・斜位に貼り付け、半裁竹管による連続刺突を、45は原体末端による圧痕が施文されている。粘土紐は、ヘラ刻みの入る38・39と、燃糸圧痕の45・50がみられる。

III D 円筒上層 d 式に相当する土器 (図109-37 図111-52~54・56・57・60)

形態は、口頸部が内反し波状口縁を有する深鉢形である。口縁形状は、54で台形を、56でゆるやかな波状を呈する。口唇部間隙には、56のような連続の燃糸圧痕が、それ以下には縄文地に縦位及び斜位の粘土紐を貼り付けている。粘土紐は素文(上端及び側縁を押圧)のものが主体であるが、60は例外的に粘土紐の上に縄文を施文している。54は裏面に楕円形の刺突がみられる。

III E 円筒上層 e 式に相当する土器 (図110-40~42・46 図111-55・58・59・61~64・66~71 図115-100)

本類は、沈線を施文するグループと縄文を施文するグループとに分けられる。沈線を施文するグ

ループは、波状口縁の頂端部が鋭利となる形態が多く、62では三角形を呈する。波状部には粘土紐を用いて斜位及び弧状に貼り付けており、垂下部には蛇行の粘土紐や縦位の・線を施文し、これらを中心として斜位及び横位に胸骨文を施文している。口唇部寄りには連続の摺糸圧痕がみられるが、66のように連続の短沈線もみられる。縄文を施文するグループは波頂部が鋭利なものと台形の形状がみられ、46・71はボタン状の貼付を施している。62は顔面と蛇を模したと考えられる土器である。

Ⅲ F 榎林式に相当する土器 (図111-65・72)

72は、波状口縁の深鉢形で波状口縁の波頂部に渦巻沈線文を施文し、縄文地に横位方向の沈線を施文している。

Ⅲ G 最花式に相当する土器 (図111-73)

73は深鉢形の口縁部である。

Ⅲ H 大木10式に併行する土器 (図111-74)

74は深鉢形の口頭部であり、楕円形文の内部に円形の連続刺突文を施文している。

Ⅲ I 大木8 a式に相当する土器 (図111-75・76)

平口縁で口唇部の上面に二股状突起を有し、口頭部が張り出すキャリパー形を呈する。縄文施文後に横位方向の摺糸圧痕によって文様区画帯を構成している。区画帯の内部に斜位及び渦巻文様を施文している。75・76は同一個体の可能性が考えられる。

Ⅲ J 大木8 b式に相当する土器 (図110-43・49)

49は器外面に横位の8字状文の隆沈線を施文し、下位に摺糸文を施文している。焼成は良好である。

Ⅲ K 中期後葉～末葉に相当する粗製の深鉢形土器 (図112-77 図113-80・82・83・84 図117-120 図118-128)

80は平口縁で口唇部寄りが内傾する。

Ⅳ 群 縄文時代後期の土器

Ⅳ A 前十腰内I式に相当する土器 (図112-78・79 図113-81 図114-85 図115-87～99・101～103 図116-104～110)

本類は、後期初頭期～十腰内I式以前の土器を一括した。

91は口唇部の真下に円形のボタン状貼付と斜位の摺糸圧痕を施文している。文様施文から後期初頭の牛ヶ沢式に相当する土器と思われる。89・90・94・98は、磨消縄文(充填縄文)を用いている土器である。89・94は方形文様、90は蛇行文の文様構成である。94は波状口縁から粘土紐が垂下する。総じてスズ状炭化物の付着が多い。78・79・87は波状口縁を有する深鉢形である。地文縄文に沈線で施文しており、二～三条の沈線を巡らして文様区画帯を構成し、山形文様の内部に渦巻文及び蛇行文を施文している。87は山形文がみられず平行沈線と渦巻文のみの施文である。85は単軸絡条体第5類を縦位施文している。平口縁で口唇部寄りが内傾する深鉢形である。104は平口縁の深鉢形を呈する。

Ⅳ B 十腰内I式に相当する土器 (図116-111・112)

十腰内Ⅰ式に相当する土器の出土量は少ない。112は波状口縁で斜位の帯状文を磨消縄文（充填技法）で施文している。十腰内Ⅰ式前段階の小牧野Ⅲ群とも考えられる。111は文様帯に粘土紐を貼り付けており、十腰内Ⅰ式の前段階に位置づけられると思われる。

IV C 十腰内Ⅱ式に相当する土器（図117-113・114・119・121・124）

横位沈線で区画した帯状文で内部に弧状文を縦位に施文している。124は無文の深鉢形であるが、焼成は良好である。

IV D 後期後葉～末葉に相当する粗製の縄文土器を本類に分類する。（図114-86 図117-115・117・118・122）

118・122は深鉢形で同一個体と思われる。口唇部に対の突起を有し縄文施文後に沈線を弧状文に施文し一部を磨消しており、器外面にスス状炭化物が付着している。86は口頭部が口唇部に向かって内反気味となる。

V群 縄文時代晩期

V A 大洞B C式に相当する土器（図117-116）

平口縁で胴部が張り出す壺形である。口縁部奇りに対の突起を有する。無文で焼成は良好である。

VI群 弥生時代の土器

VI A 砂沢式に相当する土器（図117-123・125・126）

文様は、横位及び斜位に施文した変形工字文であり、125は下位に縦走の縄文を施文している。

VI B 田舎館式に相当する土器（図118-130）

横位に沈線を施文しており、口唇部上面に連続する刺突を、内面に三条の横位沈線を施文している。

VI C 弥生時代後期に相当する土器（図117-127 図118-129・131～135）

131～135は同一個体の可能性が高い。三条の横位沈線を巡らして沈線間を連続刺突で施文し、文様区画帯を構成している。区画帯の内部には二条の沈線で山形文を施文し、内部に縄文を充填している。器外面には山形文に赤色顔料を塗布している。

VII群 古墳時代以降の土器

古式土師器と考えられる台付鉢が出土した（図118-136）。

外面および口唇部にハケ目による調整が確認できる。鉢部と台部の接合痕が明瞭に残る粗い製作であり、在地産の可能性が高い。

土製品

A 中央部に貫通孔がみられる土製品（図118-142・143）

143は欠損しているが、残存部から推定すると円形を呈し、中央部が貫通している。側縁部に凹みがあり縄文を圧痕している。

B ミニチュア土器（図118-137～141）

形状は平口縁で口唇部が内湾する138がみられ、底部は平底で鉢形を呈する。140は底辺部が張り

出しており壺形を呈すると思われる。文様は無文のものが多い。137は縄文を施文している。本類の土器の焼成は良好なものが多い。

E 土器片を利用した土製品 (図118-144)

深鉢形の胴部破片を用いて、周縁を打ち欠いて方形にしており周縁の一部は磨っている。時期は縄文後期前葉と考えられる。(成田)

2 石器・石製品

剥片石器231点(3325.8g)、礫石器85点(61997g)が出土した。

剥片石器 (図119, 120)

石鐮は4点出土した(図119-1~4)。全て有茎で、このうち3点は細身で縁辺は基部から先端に向かい直線的になる。これに対し2は身幅が広く、縁辺はやや鋸歯縁状で、二次調整は部分的である。基部欠損時に製作をやめた未製品である。3は上下先端部に摩擦があり、基部には黒色物が付着している。

石槍は第Ⅲ層の遺物集中地点HI-50グリッドから8点重なりあった状態で出土した(図120-1~8)。直接打撃剥離で器面全面を成形したのちに縁辺に細かい調整を加えている。いずれも長さ10cm、幅4cm、厚さ1.5cm以下と大きさに規格性がうかがえる。このなかでは15の形状が最も整っている。縁辺が鋭利であること、先端や基部に使用による痕跡がないことから未使用と考えられる。16~22は形状を整える段階まで完了しているが、刃部と基部を整える細部調整は部分的である。形状が大きくなるほどおおまかな調整に留まり、槍としての完成度は低い。これらは完成直前の未製品と考えられる。石材はいずれも珪質頁岩で、8点とも石質の特徴が類似することから同一の母岩から作られたことが想定される。これらは形状・製作方法から前期後半から中期前半のものに類似する。このほか、刃部・基部が欠損した破片が1点出土した。

石匙は6点出土し、3点図化した(図119-5~7)。3点とも細身の縦型で、湾曲した縦長剥片を素材としている。左側縁に比べ右側縁には急角度の調整が施されている。身部の稜は身部中心から右側に寄り、断面形が二等辺三角形に近い。5は表面中央に、6は裏面右側に光沢が認められる。

石錐は1点(図119-8)あり、刃部は表裏面とも両側縁から丁寧に連続した調整が施されている。

石筥は2点(図119-9・11)出土した。9は長さ3.4cmと小型で、表面下位が広範囲に摩擦している。いわゆる大石平型石筥に類似する。11は破損面を打面として再調整が行われている。下端部に細かい刃部調整がないことから、刃部に調整を施す前に破損したものと思われる。

スクレイパー類は7点出土し、4点図化した(図119-10・12~14)。10は両面調整により棒状を呈する。12は搔器で表面・裏面とも左側縁に急角度の刃部調整が施されている。13は急角度の連続した細部調整により刃部が形成されていることから搔器に区分した。14は両側縁に抉り状の加工があり、形状は13と似るが刃部の角度が12・13に比べ鋭角であることからC類(削器)とした。

このほか、図化していないが二次加工のある剥片48点、微細剥離痕のある剥片16点、石核9点、剥片129点出土した。石材は珪質頁岩121点、玉髓3点、メノウ2点、鉄石英2点、安山岩1点である。

礫石器・石製品 (図121・122)

磨製石斧3点、磨り石17点、敲き石7点、凹み石18点、半円状扁平打製石器15点、台石・石皿類13点、半円状扁平磨製石器1点、加工のある礫10点、石棒1点が出土した。

磨製石斧2点(図121-23・24)は緑色片岩製で、器面全体に研磨痕があり、刃先には使用による摩耗や潰れ・光沢がみられる。このほか刃部欠損のもの(青色片岩製)が1点出土した。

磨り石はやや扁平な円礫を素材とし側面と器面を使用したものが目立つ(図121-27~31)。器面の広い面には滑らかで光沢のある磨り面がある。側面の磨り面はざらつき平坦面をなす。石材は安山岩・凝灰岩のほか花崗閃緑岩・閃緑岩が用いられる。25は頁岩製で、先端部の両側面には先端で交差する擦痕がある。先端の断面形状は四角形となる。31は三角柱状磨り石で、一側縁を使用している。33は使用面から磨り石に区分したが、成形方法から半円状扁平打製石器の破損品とも考えられる。

敲き石は凝灰岩の円礫・棒状礫を素材とし、縁辺に使用による潰れ痕が部分的にみられる。図121-26は花崗閃緑岩の円礫を素材とした敲き石である。

凹み石は台石片を転用したもの7点、円礫素材もの9点である。図122-32は凝灰岩の円礫を素材とし、器面中央に深い摺り鉢状の凹みがある。凹み面が平滑で、器面に研磨痕があることから、使用による凹みでなく成形による可能性もあり、石製品の未製品とも考えられる。

半円状扁平打製石器は図122-34を除き全て破片である。石材は凝灰岩1点のほかは安山岩である。34は形状と成形方法から半円状扁平打製石器の一種または未製品と考えられる。

図122-35は半円状扁平磨製石器の破片で、刃部には使用による擦痕がみられる。

図122-36はSX-06の周辺から出土した台石で器面は被熱を受け変色している。37は安山岩製の台石で中央は使用により大きく凹む。側面は平らで裏面には凹凸がある。使用面は滑らかな面をなしているが、中央はざらつきがある。使用に伴う加撃により3分割に破砕したものと思われる。

加工のある礫は、縁辺に剝離成形が部分的にある礫片5点、敲打成形のある礫片6点である。

石棒(図122-38)石製品は石棒の端部破片1点のみである。頭頂部が凹み、同心円状の溝が2本彫刻されている。

(杉野森)

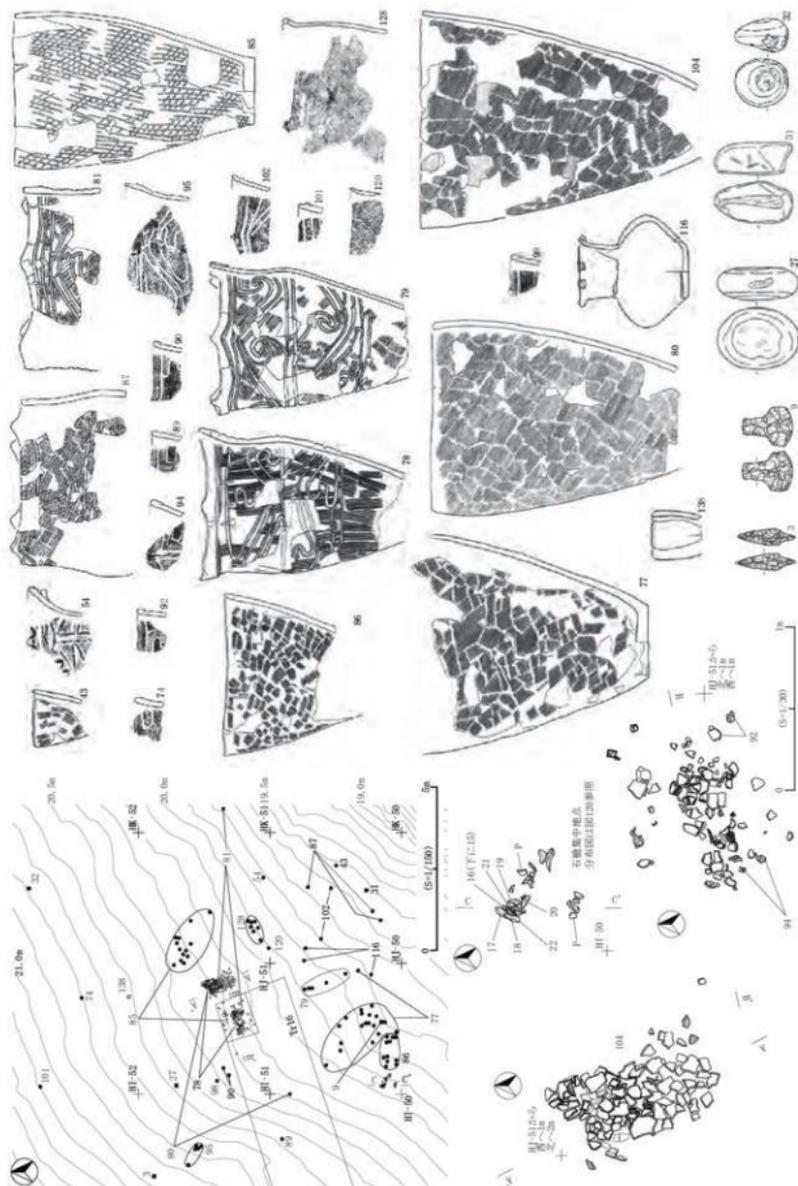


图107 遺物集中地点

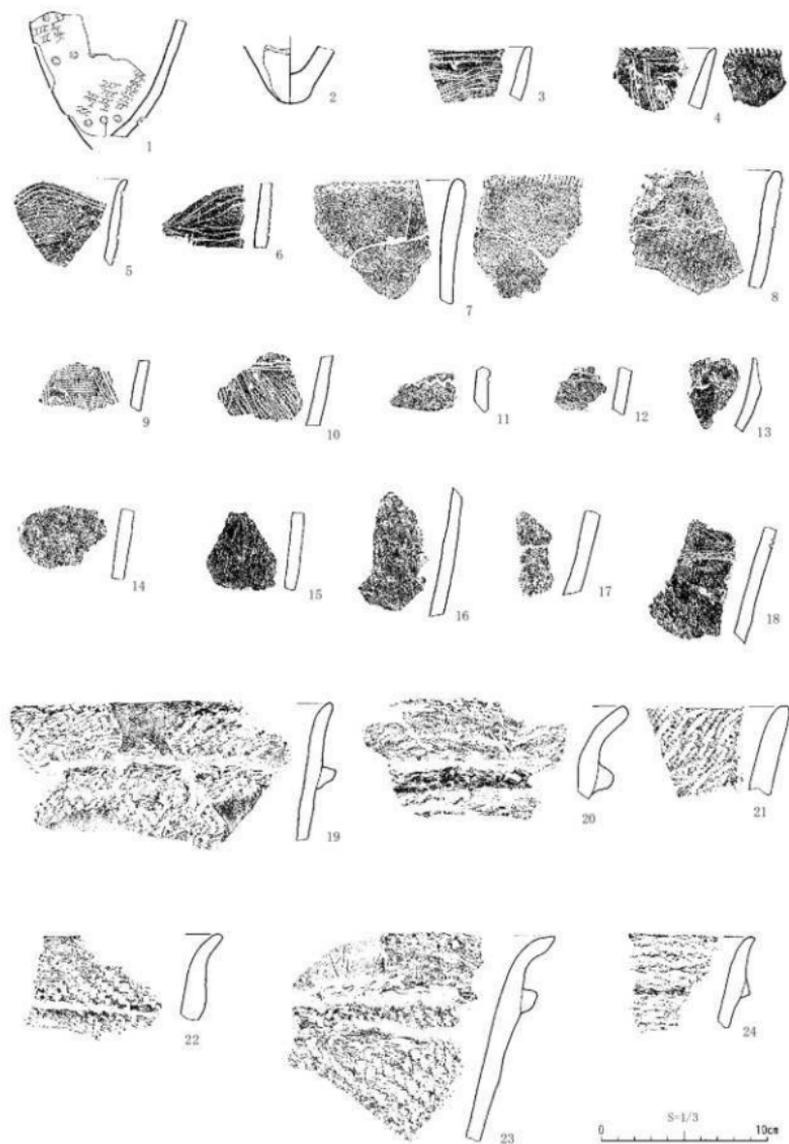


図108 遺構外出土土器（1）

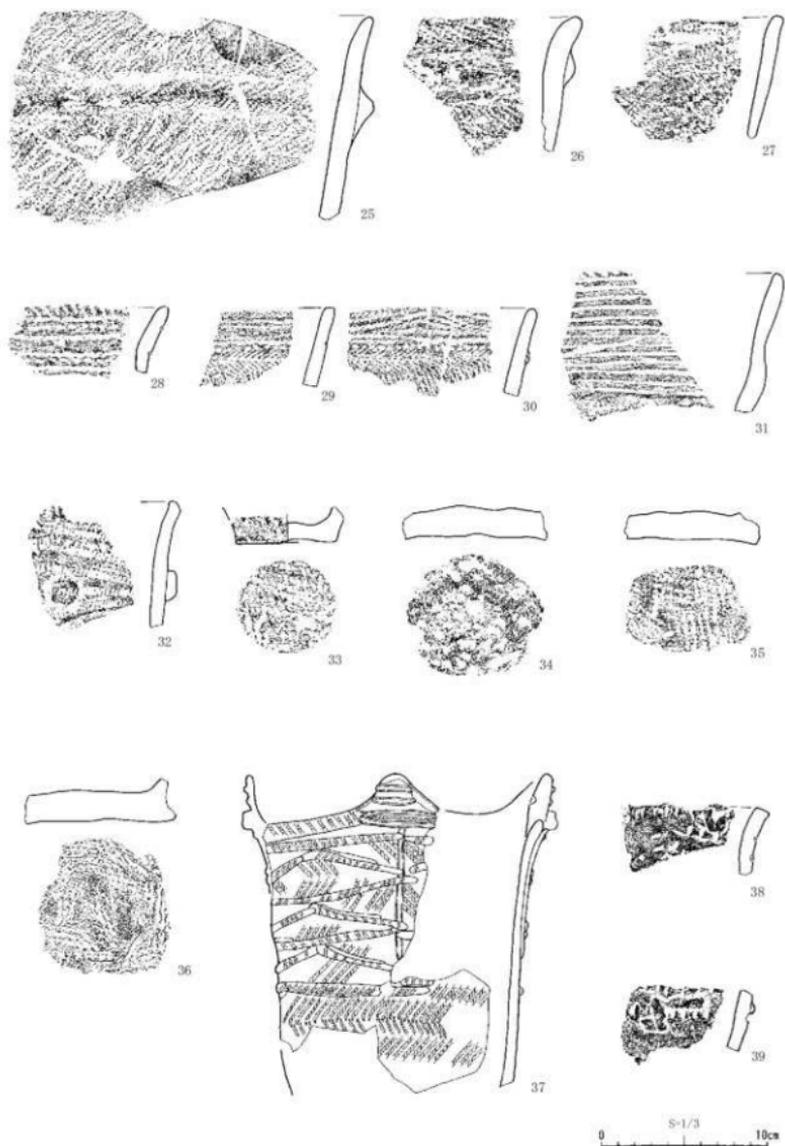


図109 遺構外出土土器 (2)

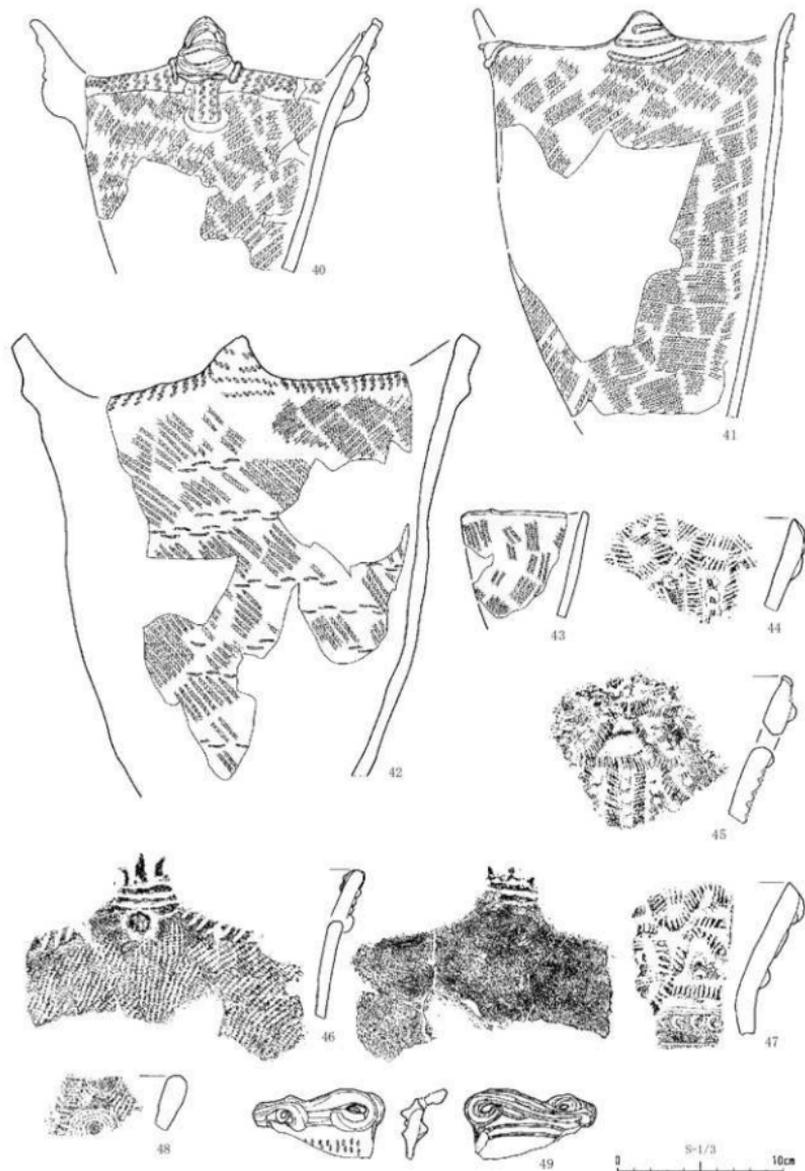


図110 遺構外出土土器(3)

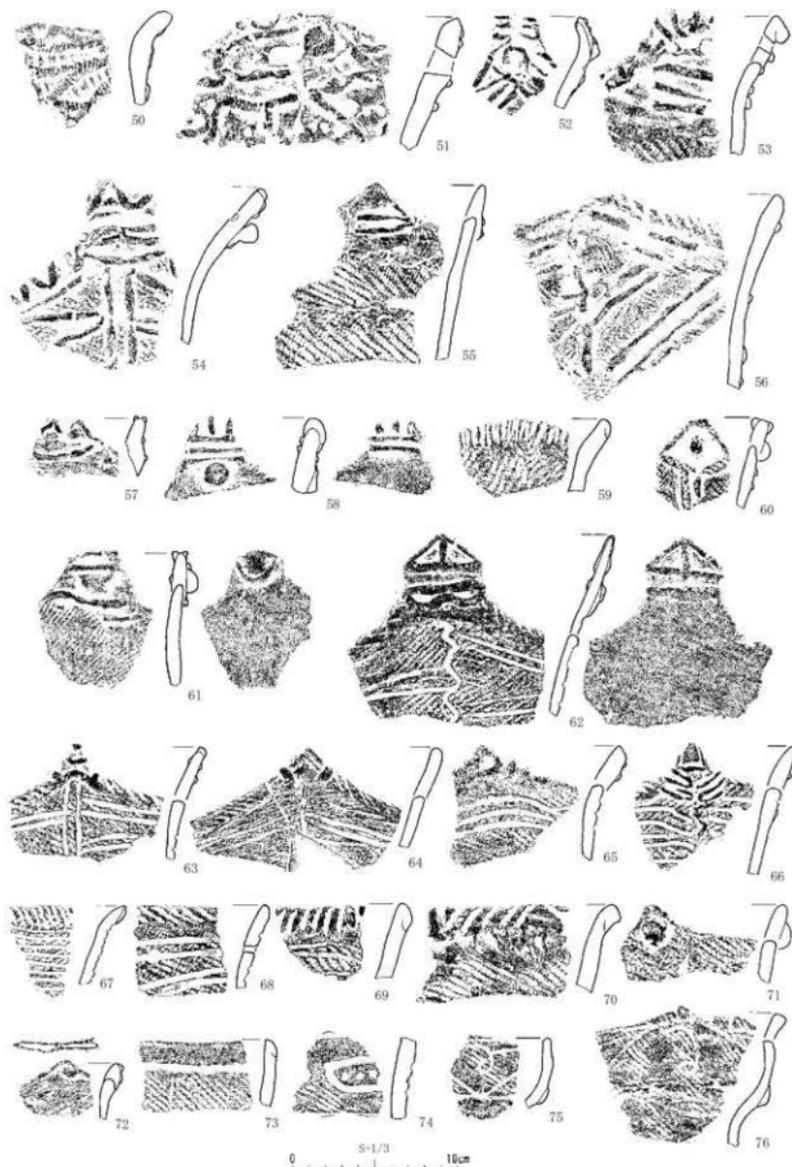


図111 遺構外出土土器 (4)

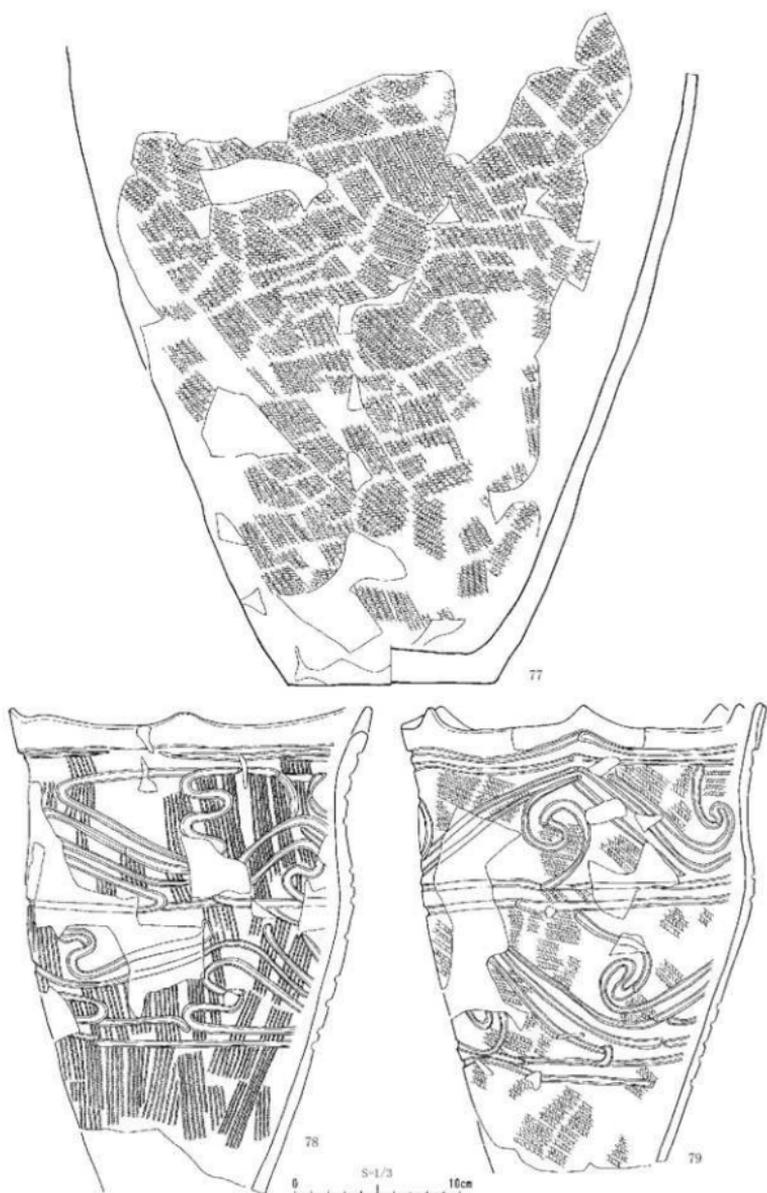


図112 遺構外出土土器 (5)

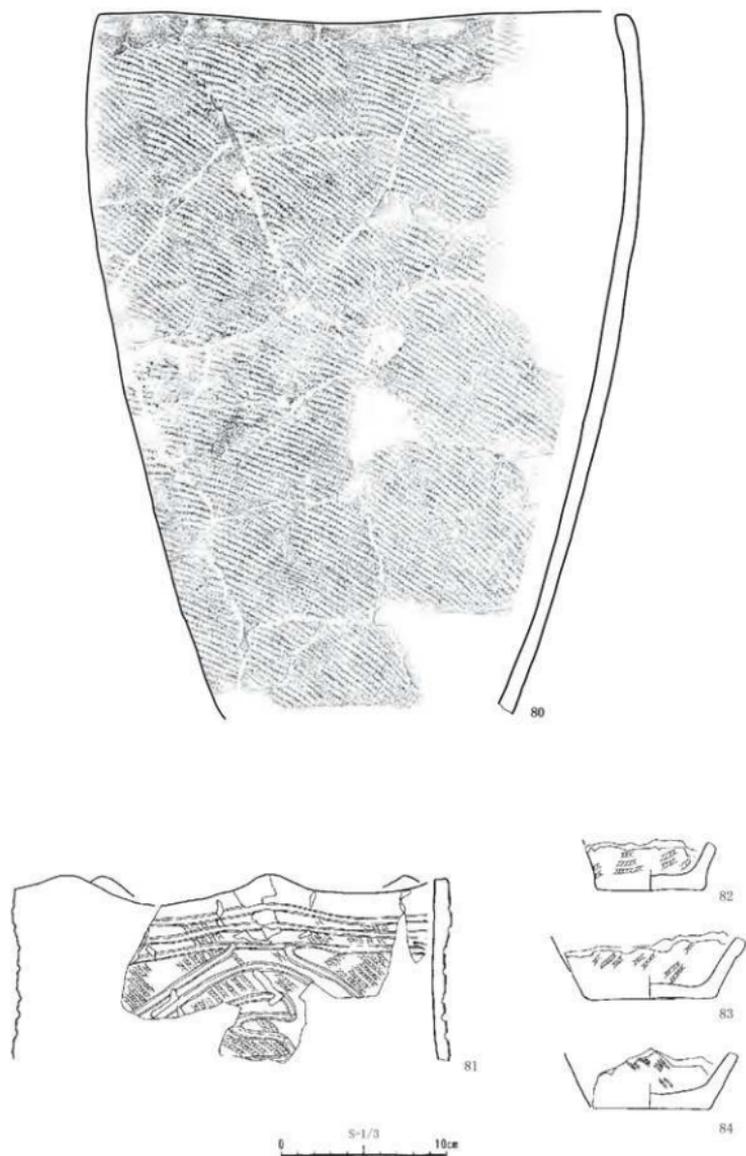


図113 遺構外出土土器(6)

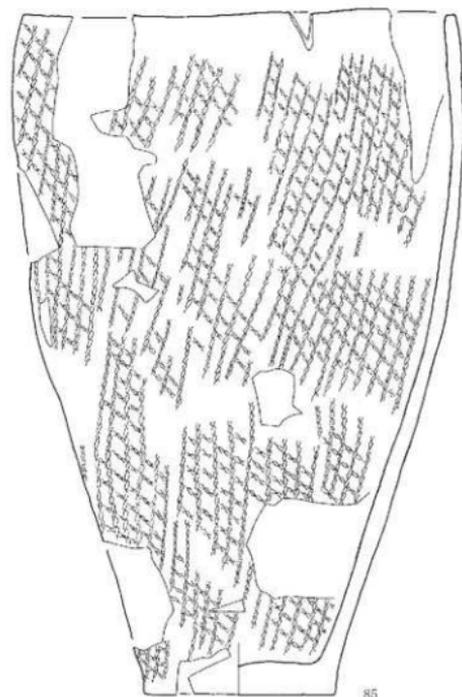


図114 遺構外出土土器（7）

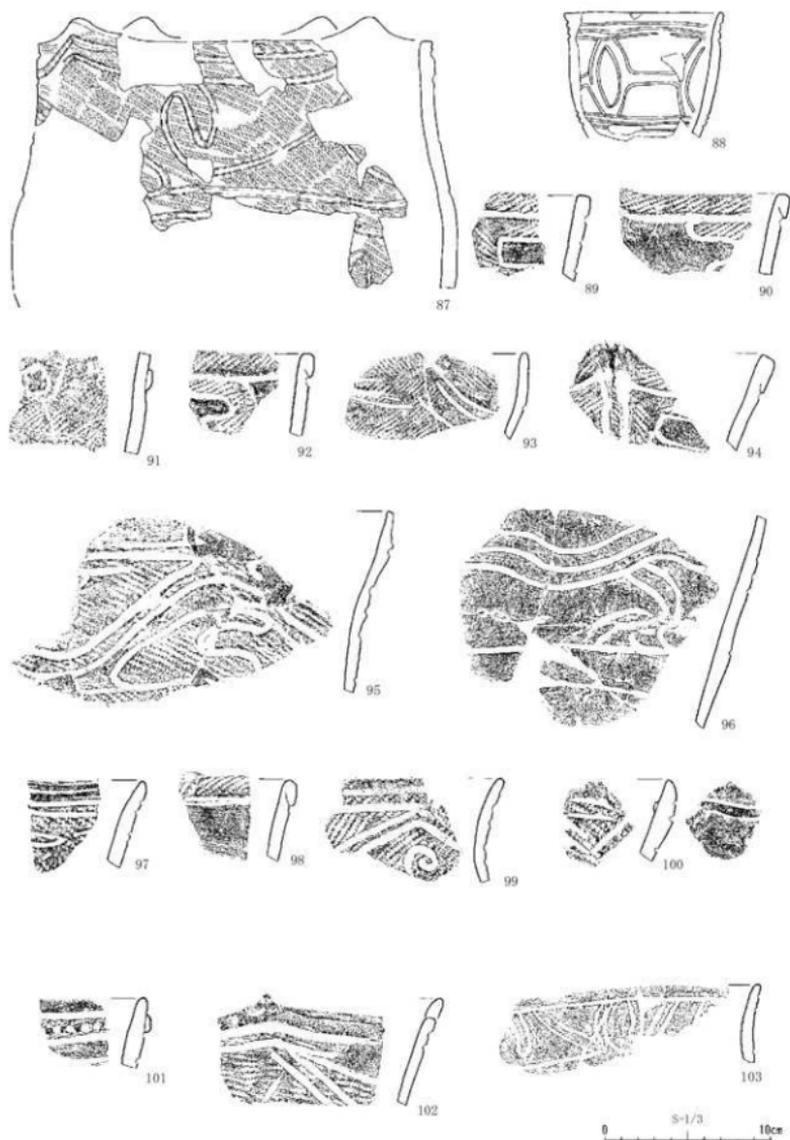


図115 遺構外出土土器(8)

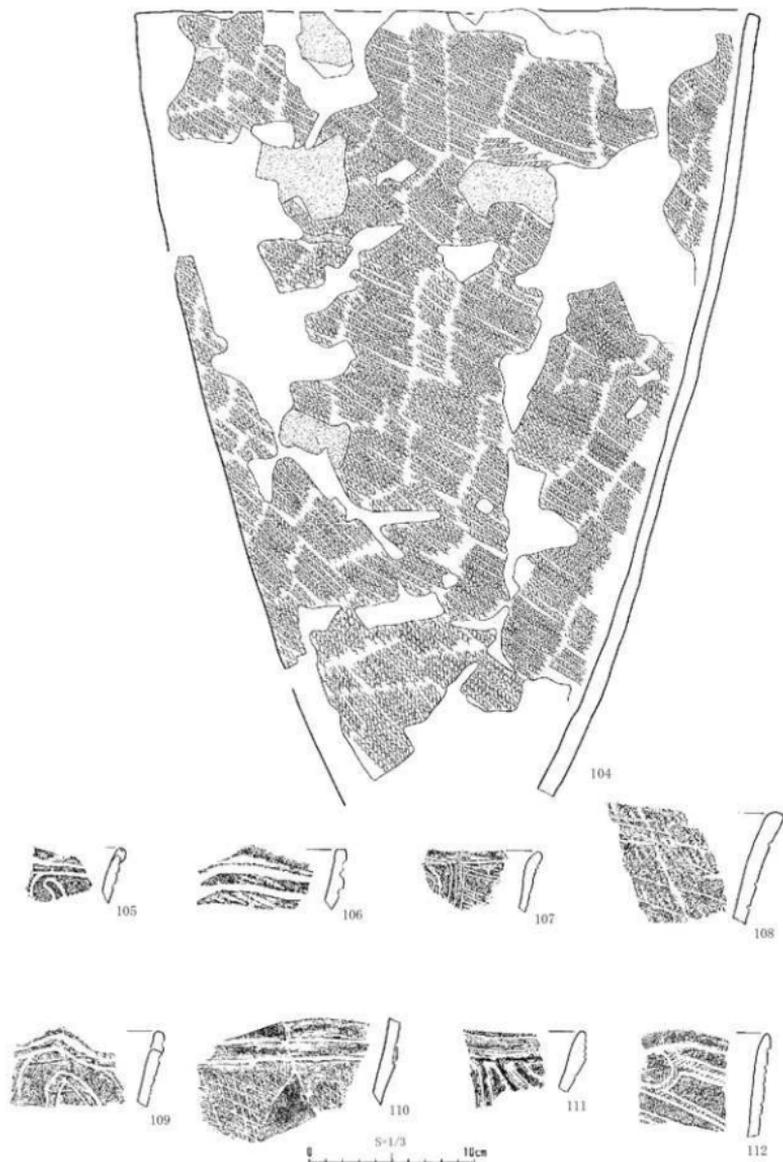


図116 遺構外出土土器(9)

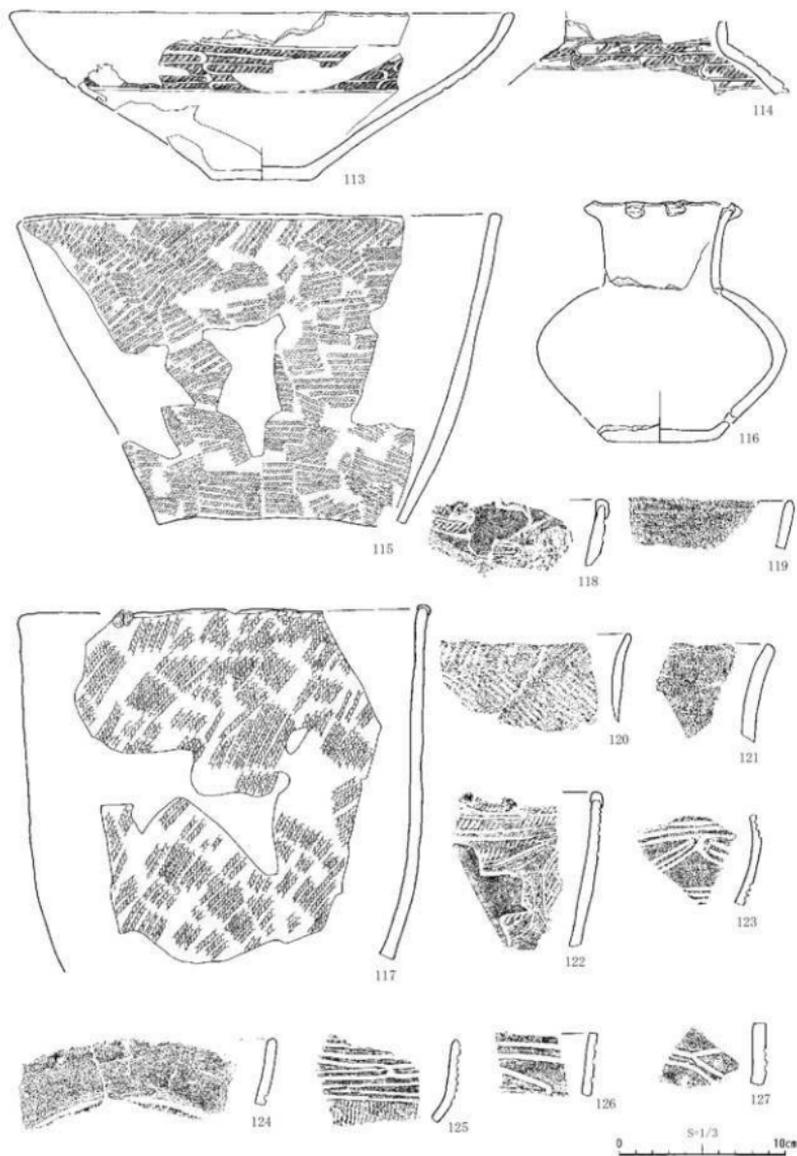


図117 遺構外出土土器(10)

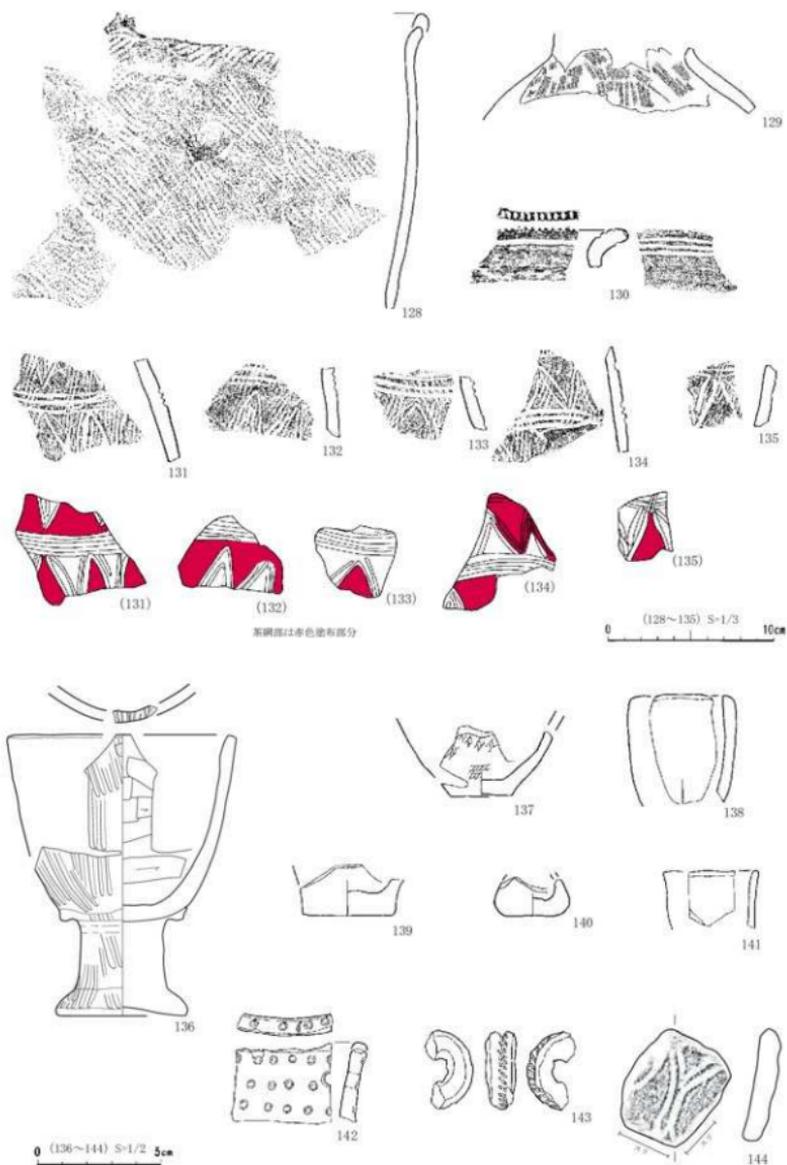


図118 遺構外出土土器(11)、土製品

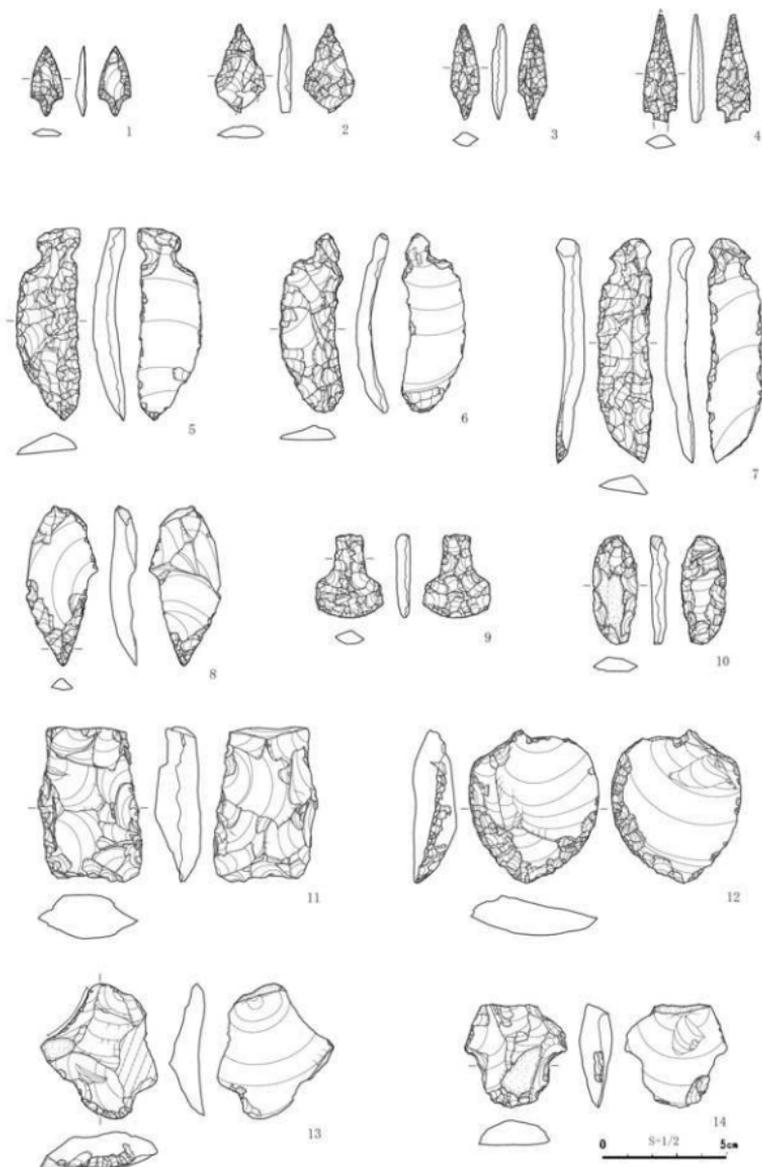


図119 遺構外出土石器 (1)

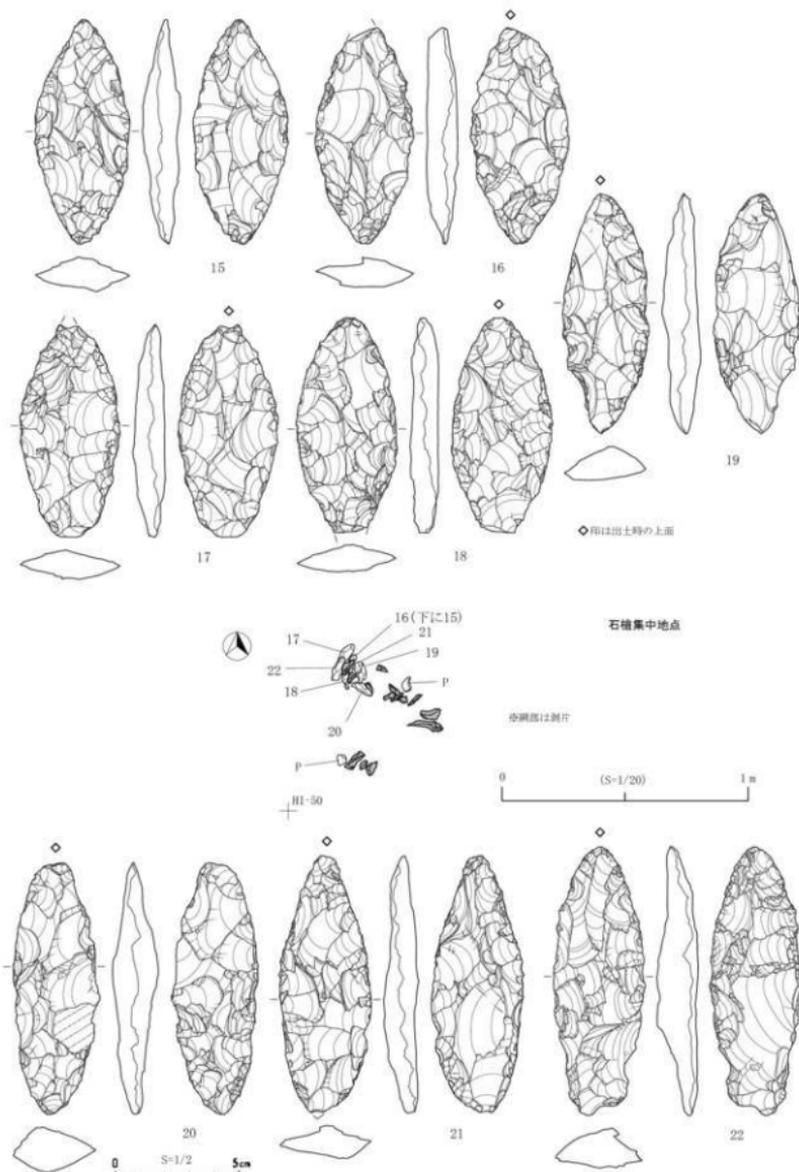


図120 遺構外出土石器(2)

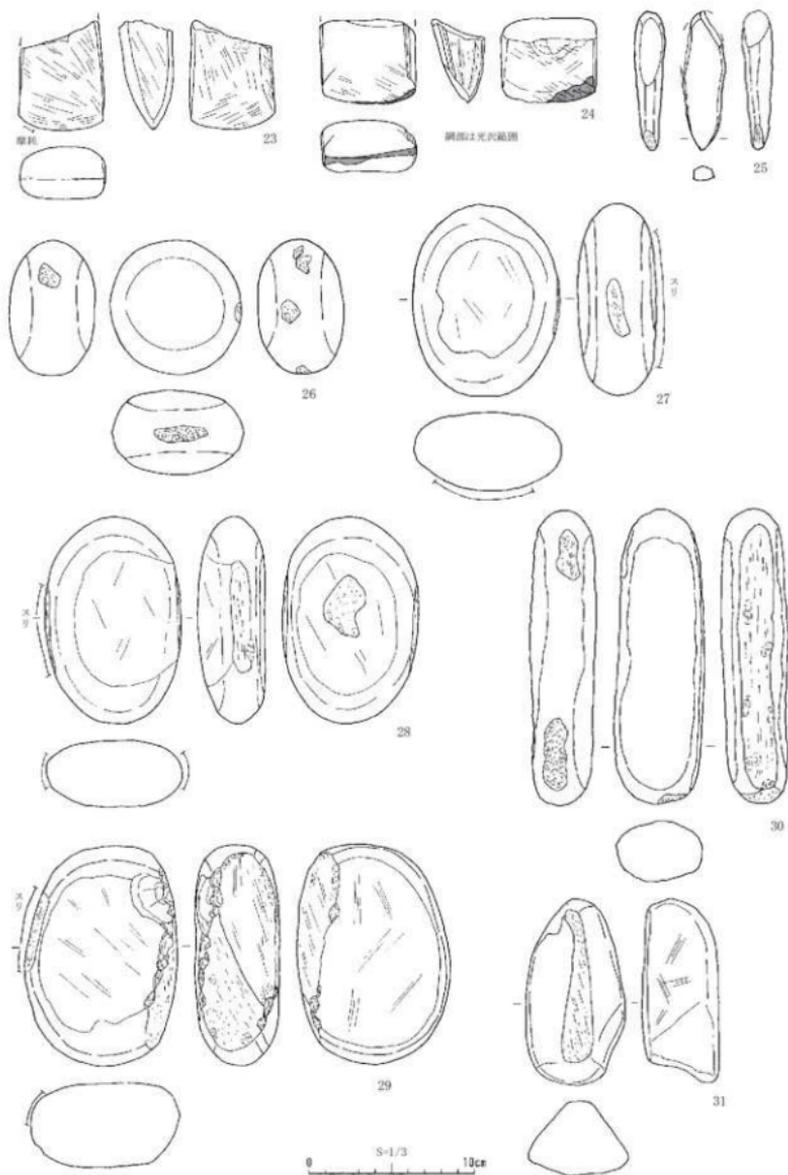


图121 遺構外出土石器 (3)

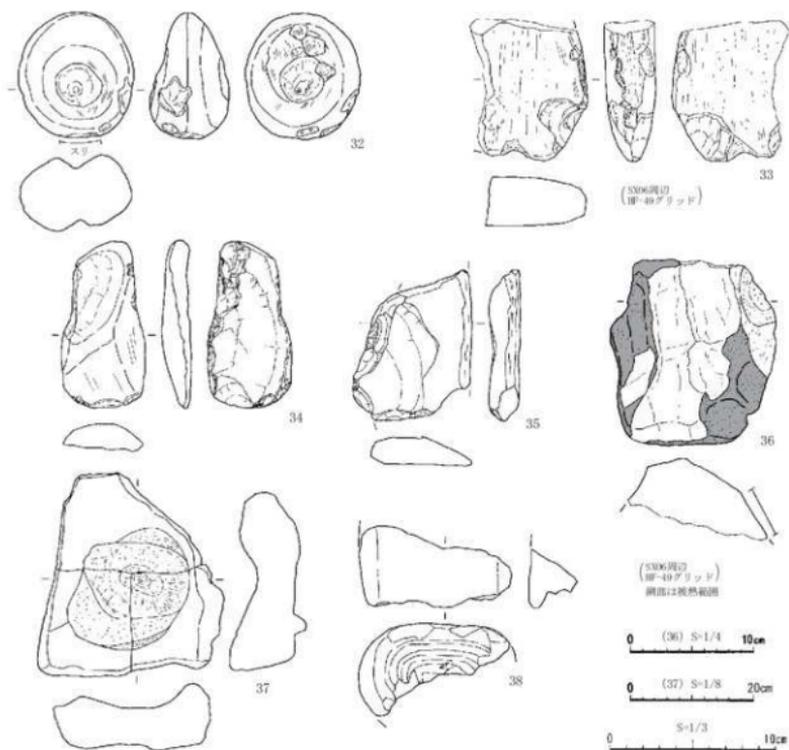


図122 遺構外出土石器(4)、石製品

第4章 理化学分析

第1節 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

神原(2)遺跡は、青森県弘前市大字小友字神原(北緯40°42'28", 東経140°24'00")に所在する。岩木山の岩屑なだれ堆積物からなる丘陵地に位置し、浸食谷に面した斜面上に立地する。測定対象試料は、第6号住居跡堆積土4層出土木炭(No.1:IAAA-111980)、第1号性格不明遺構堆積土4層出土木炭(No.2:IAAA-111981)、第38号土坑堆積土3層出土木炭(No.3:IAAA-111982)、第12号住居跡の床面近くで出土した木炭(No.4:IAAA-111983)、第13号住居跡の床面(近く)で出土した木炭(No.5:IAAA-111984)、第15号住居跡堆積土13層出土木炭(No.6:IAAA-111985)、第6号性格不明遺構堆積土8層出土木炭(No.7:IAAA-111986)の合計7点である(表1)。

第6号住居跡は出土遺物から縄文時代後期から晩期初頭と見られる。No.2は縄文時代に埋没した川床面より3cm上から出土し、縄文時代前期中葉の捨て場の直下に当たる。第38号土坑は、縄文時代の遺物包含層(Ⅲ層)を掘り込む遺構で、時期の手がかりになる遺物が出土していない。第12-A号住居跡は、埋設土器の特徴から縄文時代中期中葉と推定される。第13号住居跡では、住居内堆積土から縄文時代中期中葉の土器が出土したが、床面の出土遺物はない。第15号住居跡は焼失住居跡で、土器埋設炉の土器は縄文時代後期と推定されるが、無文なので詳しい時期を判断できない。第6号性格不明遺構は、皿状の窪みに炭化材、焼土の順に堆積している。出土遺物から縄文時代中期中葉から晩期初頭と見られる。

2 測定の意義

出土遺物が少ないなど、時期決定が難しい遺構の時期を判断する手がかりとする。また、出土土器の時期と年代値を比較検討する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除き、必要量の試料を採取、乾燥させ、秤量する(付表「処理前試料量」)。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA:Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させ、秤量する(付表「処理後試料量」)。AAA処理における酸処理では、通常 $1\text{ mol} / \ell$ (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。
- (3) 必要量を採取、秤量(付表「燃焼量」)した試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製、定量する。この二酸化炭素中の炭素相当量を算出する(付表「精製炭素量」)。

- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。測定回数と ^{14}C カウント数を付表に示す。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。 $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比は付表に記載する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma=68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma=95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC / AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、第6号住居跡堆積土4層のNo.1が $3900 \pm 20\text{yrBP}$ 、第1号性格不明遺構堆積土4層のNo.2が $6660 \pm 20\text{yrBP}$ 、第38号土坑堆積土3層のNo.3が $2380 \pm 20\text{yrBP}$ 、第12号住居跡の床面近くで出土したNo.4が $4490 \pm 20\text{yrBP}$ 、第13号住居跡の床面(近く)で出土したNo.5が $4440 \pm 20\text{yrBP}$ 、第15号住居跡堆積土13層のNo.6が $3350 \pm 20\text{yrBP}$ 、第6号性格不明遺構堆積土8層のNo.7が $3400 \pm 20\text{yrBP}$ である。

暦年較正年代(1 σ)は、No.1が2463~2348cal BCの間に3つの範囲、No.2が5622~5564cal BCの間に2つの範囲、No.3が486~397cal BCの間に3つの範囲、No.4が3328~3104cal BCの間に4つの範囲、No.5が3264~3026cal BCの間に3つの範囲、No.6が1668~1616cal BCの範囲、No.7が1740~1684cal BCの範囲で示される。No.1は縄文時代後期初頭頃、No.2は早期後葉から末葉頃、No.3は縄文時代晩期から弥生時代への移行期頃、No.4、No.5は縄文時代中期中葉頃、No.6、No.7は縄文時代後期中葉頃に相当する年代値で、いずれも出土遺物から推定される時期におおむね矛盾しない結果と見られる。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1

試料No	測定番号	取上No	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
							Libby Age (yrBP)	pMC (%)
No.1	IAAA-111980	SI06 C-1	第6号住居跡 (SI-06) 堆積土4層	木炭	AAA	-26.00±0.21	3,900±20	61.52±0.14
No.2	IAAA-111981	SX01 C-1	第1号性格不明遺構 (SX-01) 堆積土1層	木炭	AAA	-23.82±0.20	6,660±20	43.64±0.12
No.3	IAAA-111982	SK38 C-3	第38号土坑 (SK-38) 堆積土3層	木炭	AAA	-25.14±0.24	2,380±20	74.37±0.17
No.4	IAAA-111983	SI12 C-3	第12号住居跡 (SI-12) 床面近く	木炭	AAA	-23.13±0.26	4,490±20	57.18±0.14
No.5	IAAA-111984	SI13 C-2	第13号住居跡 (SI-13) 床面(近く)	木炭	AAA	-24.78±0.21	4,440±20	57.52±0.14
No.6	IAAA-111985	SI15 C-2	第15号住居跡 (SI-15) 堆積土13層	木炭	AAA	-27.71±0.27	3,350±20	65.93±0.16
No.7	IAAA-111986	SX06 C-2	第6号性格不明遺構 (SX-06) 堆積土8層	木炭	AAA	-25.40±0.23	3,400±20	65.48±0.15

[#4768]

表2 (1)

試料No	測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
		Age (yrBP)	pMC (%)			
No.1	IAAA-111980	3,920±20	61.39±0.14	3,902±18	2463calBC - 2431calBC (24.1%) 2424calBC - 2402calBC (17.4%) 2381calBC - 2348calBC (26.7%)	2469calBC - 2338calBC (91.8%) 2322calBC - 2308calBC (3.6%)
No.2	IAAA-111981	6,640±20	43.74±0.12	6,661±22	5622calBC - 5611calBC (19.4%) 5591calBC - 5564calBC (48.8%)	5631calBC - 5543calBC (95.4%)
No.3	IAAA-111982	2,380±20	74.35±0.16	2,378±18	486calBC - 461calBC (20.3%) 451calBC - 440calBC (6.6%) 418calBC - 397calBC (41.3%)	511calBC - 396calBC (95.4%)
No.4	IAAA-111983	4,460±20	57.40±0.14	4,489±19	3328calBC - 3264calBC (34.2%) 3243calBC - 3216calBC (14.1%) 3179calBC - 3156calBC (10.2%) 3123calBC - 3104calBC (9.7%)	3338calBC - 3207calBC (58.9%) 3195calBC - 3148calBC (18.4%) 3142calBC - 3096calBC (18.0%)

表2 (2)

試料No	測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
		Age (yrBP)	pMC (%)			
No.5	IAAA-111984	4,440±20	57.55±0.14	4,442±19	3264calBC - 3246calBC (13.1%) 3101calBC - 3081calBC (16.1%) 3069calBC - 3026calBC (39.0%)	3326calBC - 3234calBC (27.6%) 3223calBC - 3220calBC (0.2%) 3175calBC - 3160calBC (2.0%) 3120calBC - 3017calBC (65.6%)
No.6	IAAA-111985	3,390±20	65.56±0.15	3,346±18	1668calBC - 1616calBC (68.2%)	1690calBC - 1606calBC (85.4%) 1581calBC - 1536calBC (10.0%)
No.7	IAAA-111986	3,410±20	65.42±0.15	3,401±18	1740calBC - 1684calBC (68.2%)	1746calBC - 1660calBC (89.1%) 1654calBC - 1637calBC (6.3%)

[参考値]

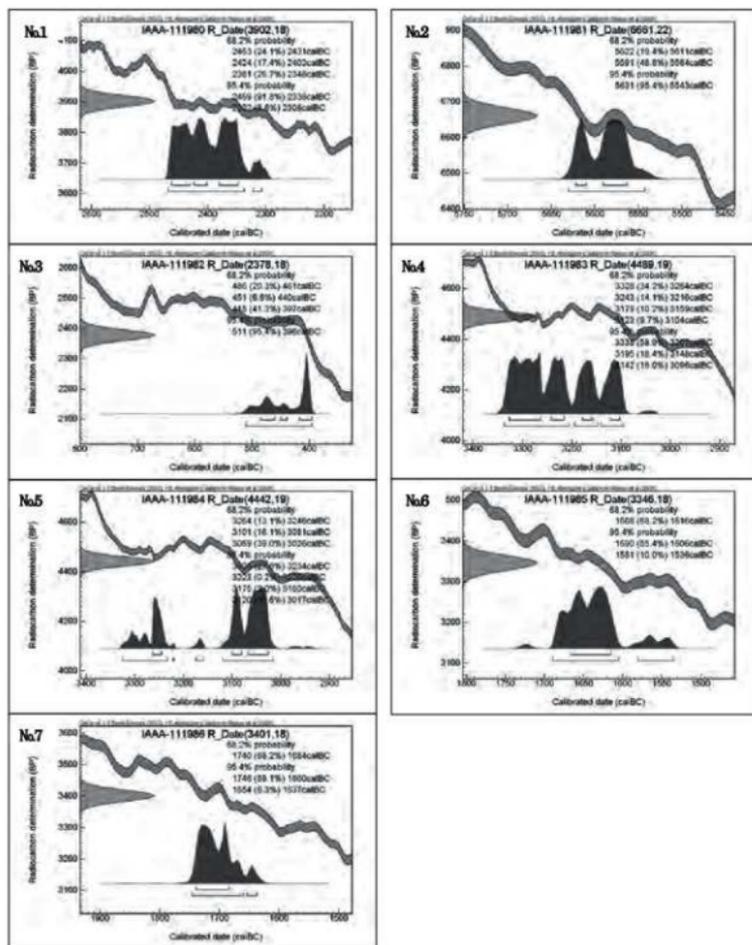
文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355–363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337–360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, *Radiocarbon*

51(4), 1111–1150



[参考] 暦年較正年代グラフ

第2節 出土炭化材の樹種同定

株式会社バレオ・ラボ

1. はじめに

神原(2)遺跡は、岩木山麓の大石川と侵食谷に挟まれて東西に延びる段丘の南側傾斜面に立地する遺跡である。ここでは、縄文時代の竪穴住居跡などから出土した炭化材の樹種同定を行なった。なお、同定試料の一部について、放射性炭素年代測定も行なわれている(第1節放射性炭素年代測定参照)。

2. 試料と方法

試料は、竪穴住居跡であるSI-06から1点、SI-12とSI-13、SI-14から各3点、SI-15から2点、土坑であるSK-38から3点、不明遺構であるSX-01から3点、SX-06から4点の、計22点の出土炭化材である。遺構の時期は、SX-01が縄文時代早期～前期、SI-12とSI-13が縄文時代中期中葉、SI-14が縄文時代中期、SI-15が縄文時代後期、SX-06が縄文時代中期中葉～晩期初頭、SI-06が縄文時代後期～晩期初頭、SK-38が詳細不明の縄文時代と考えられている。確認可能な試料については、樹種同定の前に、残存半径と残存年輪数の計測を行なった。残存半径は試料内で残存する半径を直接計測し、残存年輪数は残存半径内の年輪数を数えた。

炭化材の樹種同定は、試料をまず乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柃目)についてカミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスバタにて金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡(KEYENCE社製 VE-9800)にて検鏡および写真撮影を行なった。なお、同定試料の残りは青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

3. 結果

同定の結果、広葉樹のクリとコナラ属コナラ節(以下コナラ節と呼ぶ)、エノキ属、ニレ属、カツラ属、イヌエンジュ、サクラ属、トネリコ属シオジ節(以下シオジ節と呼ぶ)の、8分類群が産出した。クリが最も多く8点で、コナラ節とシオジ節が各4点、ニレ属が2点、エノキ属とカツラ属、イヌエンジュ、サクラ属が各1点産出した。

年輪数の計測では、試料No.15のコナラ節で残存半径1.4cm内に17年輪みられたり、試料No.11のコナラ節で残存半径3.6cm内に14年輪みられたりするような、年輪幅が比較的詰まった試料が多かった。同定結果を表1に、一覧を付表1に示す。

表1 神原(2)遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

樹種	時期(縄文時代)		早期～前期		中期中葉		中期		後期		中期中葉～晩期初頭		後期～晩期初頭		縄文時代		合計
	遺構	SX-01	SI-12	SI-13	SI-14	SI-15	SX-06	SI-06	SK-38								
クリ			3	3	2												8
コナラ属コナラ節							1								3		4
エノキ属													1				1
ニレ属												2					2
カツラ属											1						1
サクラ属								1									1
イヌエンジュ					1												1
トネリコ属シオジ節		3									1						4
合計	3	3	3	3	3	2	4	1	3								22

次に、同定された材の特徴を記載し、図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図版1 1a-1c (No.8), 2a (No.4), 3a (No.5), 4a (No.10)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩、日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高く、割裂性が良い。

(2) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版1 5a-5c (No.11)

年輪のはじめに大型の道管が1~2列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重くて強靱で切削加工はやや難しいが、割裂性が良い。

(3) エノキ属 *Celtis* ニレ科 図版2 6a-6c (No.1)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜め方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1~2列が直立する異性で、1~4列となる。放射組織は鞘細胞を有する。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬いが、現在ではまともて生育することはなく、薪炭材などに利用される程度である。

(4) ニレ属 *Ulmus* ニレ科 図版2 7a-7c (No.21)

年輪のはじめに大型の道管が1列並び、晩材部では径を急に減じた道管が、多数複合して接線~斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1~5列となる。

ニレ属にはハルニレやオヒョウなどが、温帯に分布する落葉高木の広葉樹である。ハルニレの材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。

(5) カツラ属 *Cercidiphyllum* カツラ科 図版2 8a-8c (No.19)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。道管は40段程度の階段穿孔を有する。放射組織は上下端1~2列が直立する異性で、1~3列となる。

カツラ属にはカツラとヒロハカツラがある。代表的なカツラは温帯の谷筋の肥沃な土地に生える日本固有種で、落葉高木の広葉樹である。材は軽軟で、切削加工は容易である。

(6) サクラ属 (広義) *Prunus* s.l. バラ科 図版3 9a-9c (No.12)

小型の道管が単独ないし多数斜め方向に複合し、密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、内壁には明瞭ならせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1列が直立する異性で、1~8列となる。

広義のサクラ属には、モモ属、スモモ属、アンズ属、サクラ属、ウワミズザクラ属、バクチノキ属

がある。樹種特定ではモモ属、バクチノキ属以外は他のサクラ属と識別できないため、広義のサクラ属とした。

(7) イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. マメ科 図版3 10a-10c (No.9)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では径を徐々に減じた道管が、単独ないし数個複合して散在する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状、成長輪界状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は同性で、1~5列となる。接線断面において軸方向柔細胞、道管要素は層界状構造をなす。

イヌエンジュは日本各地の低山地帯に多く分布する、落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、切削加工はやや困難である。心材の保存性は高い。

(8) トネリコ属シオジ節 *Fraxinus* sect. *Fraxinuster* モクセイ科 図版3 11a-11c (No.20)

年輪のはじめに大型の道管が1~3列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独ないし2~3個複合して散在する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1~3列となる。

トネリコ属シオジ節にはシオジとヤチダモがあり、現在の植生ではシオジは関東以西の温帯に分布し、ヤチダモは中部以西の亜寒帯から温帯の河岸や湿地などの肥沃な潤潤地に分布する落葉高木の広葉樹である。材の性質は類似して中庸ないしやや重硬で、乾燥は比較的容易、切削加工等は容易である。

4. 考察

今回の竪穴住居跡の炭化材では、縄文時代中期中葉のSI-12とSI-13でクリが各3点、縄文時代中期のSI-14でクリが2点とイヌエンジュが1点産出した。また縄文時代後期のSI15ではコナラ節とサクラ属が各1点、縄文時代後期~晩期初頭のSI-06ではエノキ属が1点産出した。いずれも出土状況から、炭化した建築材であると考えられている。クリとコナラ節、エノキ属、イヌエンジュは重硬な材質で、特にクリとコナラ節は割裂性が良く、建築材に適した樹種である。

青森平野では、縄文時代前期から後期の集落において人為的な植生変化が行われ、クリ林が管理されていたと想定されている(Noshiro and Suzuki, 2006)。神原(2)遺跡では1軒あたりの試料数が少なく、用材傾向までは確認できない。しかし縄文時代中期頃の竪穴住居跡ではクリが産出しているのに対し、縄文時代後期ないし後期~晩期初頭の竪穴住居跡ではクリが確認できていないのは、用材選択の傾向が変わった可能性もあるが、縄文時代中期頃には生育していた遺跡周辺のクリが、縄文時代後期~晩期初頭頃には数が減少していたことを反映している可能性もある。

住居跡以外の遺構では、縄文時代早期~前期の不明遺構であるSX-01ではシオジ節が3点、縄文時代中期中葉~晩期初頭のSX-06ではニレ属が2点、カツラ属とシオジ節が各1点、時期不明の縄文時代の土坑であるSK-38ではコナラ節が3点産出している。エノキ属やシオジ節は湿地などの水分の多い土地を好んで生育する樹種である。神原(2)遺跡内には沢も確認されており、遺跡周辺には湿性の樹木も生育していた可能性がある。

以上をまとめると、神原(2)遺跡では縄文時代早期~前期には遺跡周辺に生育していたシオジ節が利用され、縄文時代中期にはクリが建築材に利用され、縄文時代後期にはクリ以外の重硬な樹種を建築材に利用されていたが、縄文時代中期~晩期初頭頃には建築材や用材にエノキ属やシオジ節と

いった湿地性の樹木や、クリ以外の広葉樹も利用されていたと考えられる。

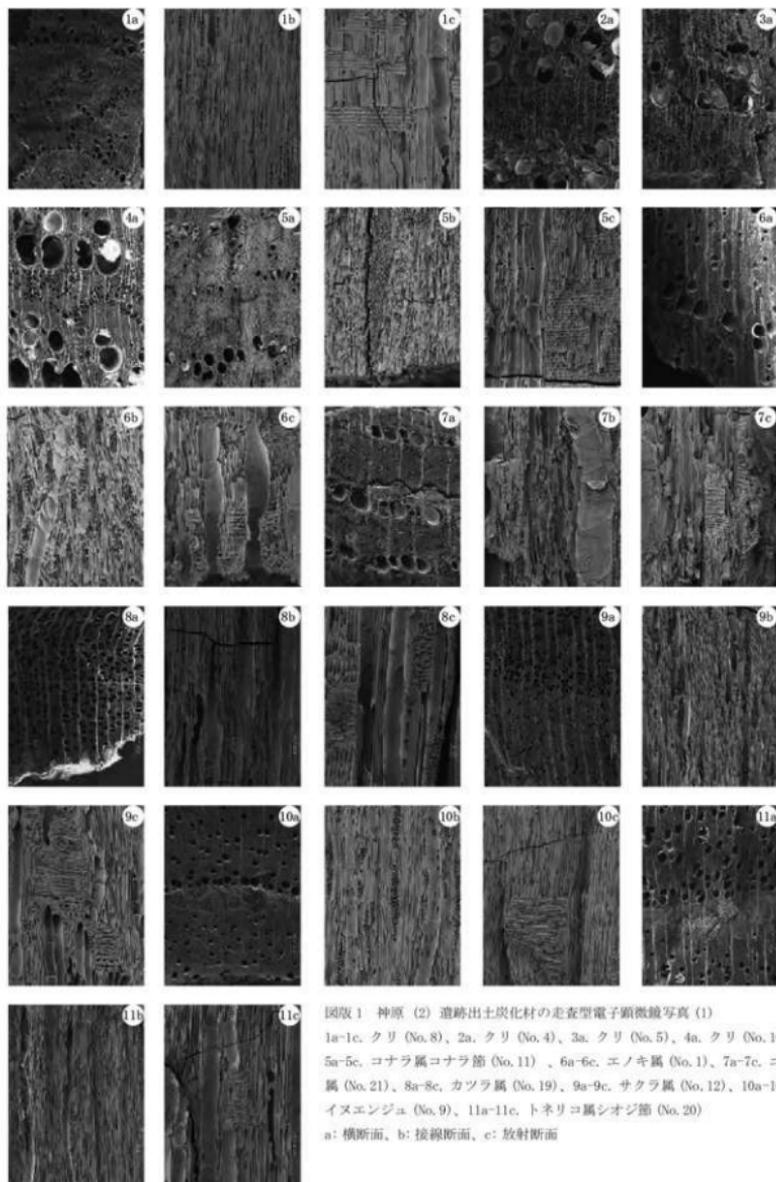
今回の樹種同定では、縄文時代早期～前期、中期～晩期には湿地性の樹木が生育していたのに対し、中期にはクリも遺跡周辺に生育していた可能性が考えられた。そのため当遺跡周辺でも、縄文時代中期には遺跡周辺にクリ林がみられた可能性がある。

引用文献

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 (2011) 日本有用樹木誌, 238p, 青海社.
 Noshiro, S., Suzuki, M. (2006) Utilization of forest resources in the early Jomon period at and around the Sannai-maruyama site in Aomori Prefecture, northern Japan. 辻 誠一郎・能城修一編「植生史研究 特別第2号」: 83-100, 日本植生史学会.

付表1 神原 (2) 遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料 No.	取土 No.	遺構	層位	樹種	残存半径 (cm)	残存年輪数	時期	年代測定番号
1	C-1	SI-06	6	エノキ属	0.6	4	縄文時代後期～晩期初頭	IAAA-111980
2	C-1	SI-12	4	クリ	0.6	3	縄文時代 中期中葉	
3	C-2			クリ	1.5	12		
4	C-3			クリ	0.7	3		IAAA-111983
5	C-1	SI-13	5	クリ	0.8	4	縄文時代 中期中葉	
6	C-2			クリ	1.5	5		IAAA-111984
7	C-3			クリ	0.5	2		
8	C-1	SI-14	2	クリ	0.8	3	縄文時代 中期	
9	C-2			イヌエンジュ	0.6	3		
10	C-3			クリ	1.2	9		
11	C-1	SI-15	2	コナラ属コナラ節	3.6	14	縄文時代 後期	
12	C-2		12	サクラ属	2.0	6		IAAA-111985
13	C-1	SK-38	3	コナラ属コナラ節	1.4	13	縄文時代	
14	C-2			コナラ属コナラ節	1.3	6		
15	C-3			コナラ属コナラ節	1.4	17		IAAA-111982
16	C-1	SX-01	4上	トネリコ属シオジ節	-	-	縄文時代 早期～前期	IAAA-111981
17	C-2		3	トネリコ属シオジ節	0.6	3		
18	C-3		4下	トネリコ属シオジ節	-	-		
19	C-1	SX-06	8	カツラ属	0.3	2	縄文時代 中期中葉～ 晩期初頭	
20	C-2			トネリコ属シオジ節	2.1	10		IAAA-111986
21	C-3			ニレ属	0.5	4		
22	C-4			ニレ属	0.8	5		



図版1 神原 (2) 遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 (1)
 1a-1c. クリ (No.8), 2a. クリ (No.4), 3a. クリ (No.5), 4a. クリ (No.10),
 5a-5c. コナラ属コナラ節 (No.11), 6a-6c. エノキ属 (No.1), 7a-7c. ニレ
 属 (No.21), 8a-8c. カツラ属 (No.19), 9a-9c. サクラ属 (No.12), 10a-10c.
 イヌエンジュ (No.9), 11a-11c. トネリコ属シオジ節 (No.20)
 a: 横断面, b: 接線断面, c: 放射断面

第3節 花粉分析

株式会社バレオ・ラボ

1.はじめに

青森県弘前市に所在する神原（2）遺跡で、遺跡周辺の古植生を検討する目的で土壌試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一地点の試料を用いてプラント・オパール分析と珪藻分析も行われている（第4節プラント・オパール分析・第5節珪藻分析参照）。

2.試料と方法

分析試料は、沢1の1トレンチから採取された6試料である（表1）。これらの試料から次の手順で花粉化石を抽出した。

表1 分析試料一覧

調査区	位置	層位	時期	土層
沢1 B-B' (トレンチ1)		9層上部	縄文時代前期中葉	黒色 (10Y R1.7/1) 粘性のある土壌
		9層下部		黒色 (10Y R2/1) 粘性のある土壌
		10-12層		黒色 (10Y R2/1) 粘性のある土壌 植物繊維や多い
		12層		黒褐色 (10Y R3/1) 粘性のある土壌
		13層		黒褐色 (10Y R2/3) 粘性のある礫混じり土壌
		14層		

試料（湿重量約3～4g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。今回の分析試料に含まれる花粉化石は非常に数が少なく、数枚のプレパラートを観察しても産出率の検討に必要な量が得られないと予測されたため、作製したプレパラート1枚の全面を検鏡するに留めた。なお、プレパラートは青森県埋蔵文化財調査センターに保管されている。

3.結果

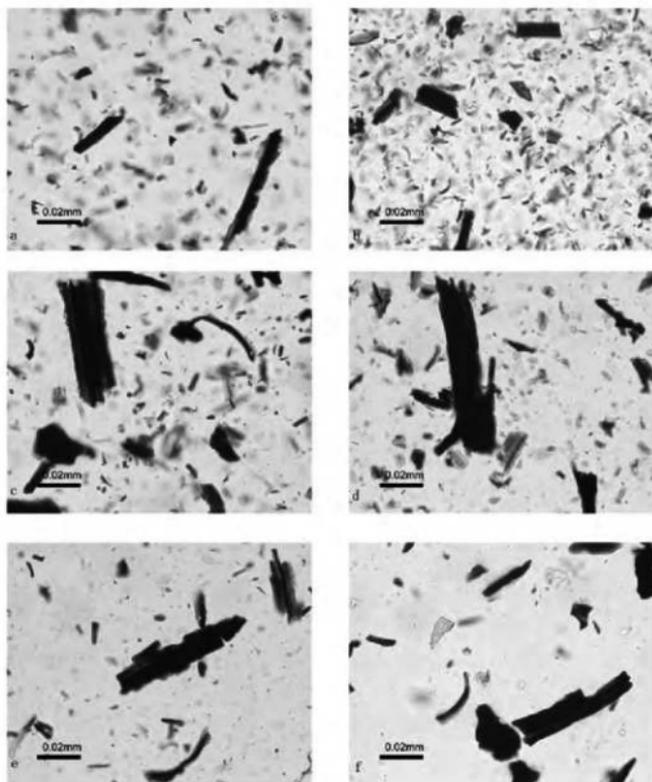
今回の分析試料には、花粉化石がほとんど含まれていなかった。6試料から検出された花粉は、樹木花粉ではマツ属複雑管束亜属とハンノキ属、クリ属、シナノキ属、草本花粉ではイネ科とヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科である（表2）。なお、今回は分析試料に含まれる花粉量が極端に少ないため、分布図は示していない。

表2 産出花粉化石一覧表

学名	和名	9層上部	9層下部	10層	12層	13層	14層
樹木							
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	-	-	-	-	-	2
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	-	-	-	2	-	1
<i>Castanea</i>	クリ属	2	-	-	-	-	-
<i>Filix</i>	シナノキ属	1	-	-	-	-	-
草本							
Gramineae	イネ科	-	-	-	1	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	2	4	-	-	-
Tubuliflorae	キク亜科	-	-	-	-	-	1
Liguliflorae	タンポポ亜科	1	-	1	-	-	1
樹木花粉							
Arboreal pollen	樹木花粉	3	-	-	2	-	3
草本花粉							
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	2	5	1	-	2
花粉総数							
Total Pollen&Spores	花粉総数	4	2	5	3	-	6
不明花粉							
Unknown pollen	不明花粉	-	-	-	-	-	-

4. 考察

今回の試料には花粉化石がほとんど含まれていなかった。10層と沢の最下層にあたる14層の珪藻分析によれば、環境指標種群の産出が確認されておらず、ジメジメとした陸域環境で生育する珪藻化石が含まれていないことから、乾燥した環境と考えられている（第5節珪藻分析の項参照）。花粉は乾燥した環境であれば、紫外線やバクテリアによって分解され、消失してしまう。沢の堆積物は最下層の14層から上層の9層上部まで乾燥的な環境の下で堆積したため、花粉化石が残っていないと思われる。



図版1 神原(2)遺跡(沢1)におけるプレバートの検鏡状況

- a. 9層上部 b. 9層下部
- c. 10-2層 d. 12層
- e. 13層 f. 14層

第4節 プラント・オパール分析

株式会社バレオ・ラボ

1.はじめに

青森県弘前市に所在する神原（2）遺跡で、遺跡周辺の古植生を検討する目的で土壌試料が採取された。以下では、試料について行ったプラント・オパール分析の結果を示し、遺跡周辺の古植生について推定した。なお、同一地点の試料を用いて花粉分析と珪藻分析も行われている（第3節花粉分析・第5節珪藻分析参照）。

2.試料と方法

プラント・オパール分析に用いた試料は、沢1の1トレンチの9層下部と10層、14層の3試料である（表1）。これらの試料について、下記の手順にしたがってプラント・オパール分析を行った。

秤量した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に試料約1g（秤量）をトールピーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ（直径約0.04mm）を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣より、グリセリンを用いて適宜プレバートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。プレバートは青森県埋蔵文化財センターに保管されている。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで、写真を図版に載せた。

表1 分析試料一覧

調査区	位置	層位	時期	土層
沢1 B-B' (1トレンチ)		9層下部	縄文時代前期中葉	黒色 (10Y R1.7/1) 粘性のある土壌
		10-2層		黒色 (10Y R2/1) 粘性のある土壌
		14層		黒褐色 (10Y R2/3) 粘性のある礫混じり土壌

3.結果

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め（表2）、それらの分布を図1に示した。以下に示す各分類群のプラント・オパール個数は試料1g当りの検出個数である。

表2 試料1g当りのプラント・オパール個数

	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)
9層下部	4,400	172,400	2,200	37,600	28,700
10-2層	0	279,900	0	94,700	23,700
14層	5,600	422,100	0	20,800	6,900

検鏡の結果、ネザサ節型機動細胞珪酸体とササ属型機動細胞珪酸体、他のタケ亜科機動細胞珪酸体、キビ族機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の5種類が確認できた。ネザサ節型機動細胞珪酸体は9層下部と14層から産出しており、それぞれ4,400個と5,600個である。ササ属型機動細胞珪酸体はすべての試料から産出しており、172,400個～422,100個である。他のタケ亜科機動細胞珪酸体は9層下部から産出しており、2,200個である。キビ族機動細胞珪酸体はすべての試料から産出しており、20,800個～94,700個である。ウシクサ族機動細胞珪酸体もすべての試料から産出しており、6,900個～28,700個である。

4. 考察

黒色を呈する9層と10-2層は縄文時代前期中葉にあたり、黒褐色を呈する14層はそれよりも前の時期になる。沢の最下層である14層で最も多く産出しているのはササ属

型機動細胞珪酸体である。花粉化石が産出しないため周辺植生は不明だが、縄文時代前期中葉より前には遺跡周辺に広がる森林の下草などにササ属のササ類が多く生育していたと思われる。縄文時代前期末中葉の10-2層堆積時期になるとササ属型機動細胞珪酸体は減少し、代わってキビ族やウシクサ族の機動細胞珪酸体の増加が見られる。おそらく、縄文時代前期末中葉には遺跡周辺の森林が縮小し、キビ族やウシクサ族などのイネ科植物が増えたのではなかろうか。なお、キビ族には、アワやヒエ、キビといった栽培種と、エノコログサやスズメノヒエ、イヌビエなどの雑草類の両方が含まれ、ウシクサ族にはオギなど湿地の環境に生育する種と、ススキやチガヤなど乾燥の環境に生育する種の両方が含まれるが、いずれも機動細胞珪酸体の形態から区別するのは難しい。9層になるとさらにササ属型機動細胞珪酸体の産出が減少しており、時期を経るに従って、ササ属型のササ類が分布を縮小したのが窺える。

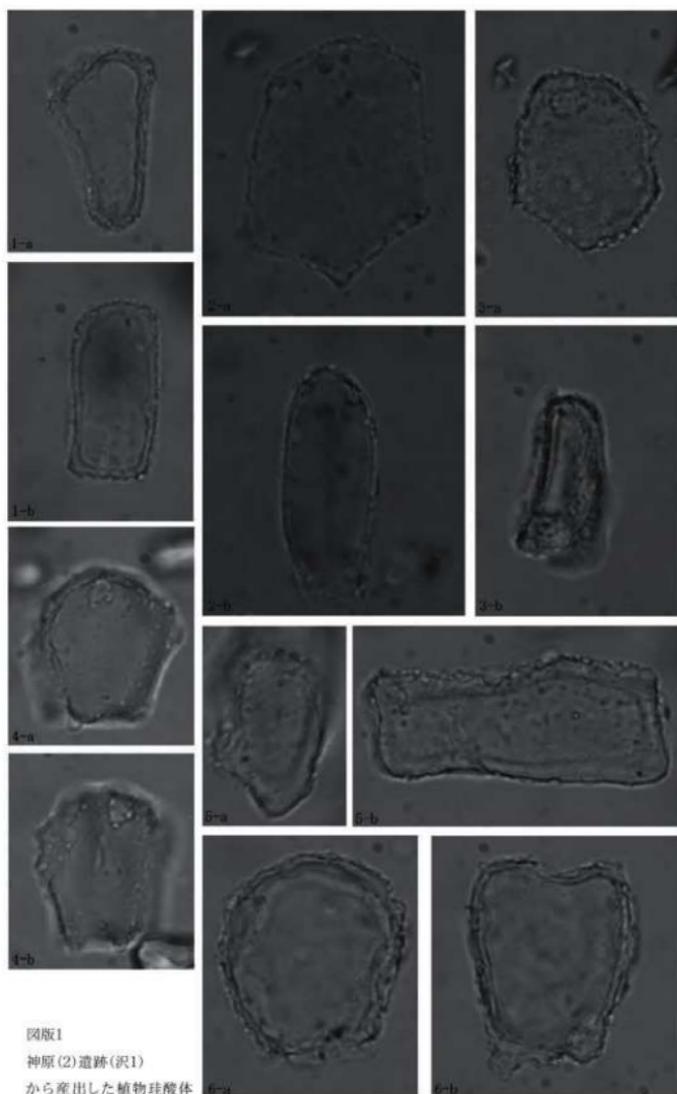
同じ青森県の三内丸山遺跡では、縄文時代前期中葉（約5050年前）以前に黒ボク土層が生成されるが、黒ボク土層中の植物珪酸体群では、下位の褐色土層で極めて優勢であったタケ亜科（ササ属が主体）が減少し、非タケ亜科が増加している。これは、ササ属を主とするタケ亜科群を林床に伴う落葉広葉樹林が変化し、草原的環境が出現したことを意味し、このような植生変化は人為的な森林破壊によって引き起こされたとされている（佐瀬ほか, 2008）。三内丸山遺跡の結果と本遺跡の分析結果を比べると、黒褐色土にはササ属型機動細胞珪酸体の含有量が多く、黒色土になるとササ属型機動細胞珪酸体が減少し、非タケ亜科が増加するという点が非常に似ている。本遺跡では、黒色土が形成される確実な時期は縄文時代前期中葉であるが、それ以前にも黒色土があり、縄文時代前期中葉以前にも黒色土が生成されていたといえる。三内丸山遺跡の例を参考にすれば、本遺跡では、人の活動により縄文時代前期中葉以前に森林から草原的環境への変化が起こり、これに伴い黒色土が形成された可能性が考えられるが、周辺植生や人為的活動の影響など不明な点が多い。今回の分析では、土壌と植物珪酸体の関係や植物珪酸体の組成の変化が明らかになったが、三内丸山遺跡とのより詳細な比較検討を行うためにも、イネ科以外の周辺植生や人の活動と周辺環境への影響、黒色土の形成時期などを明らかにすることが今後の課題であろう。

引用文献

佐瀬 隆・細野 衛・高地セリア好美 (2008) 三内丸山遺跡の土壌生成履歴-植生環境、人の活動および黒ボク土層の関係-。植生史研究, 16, 37-47。



図1 神原(2)遺跡(R1)における機動細胞珪酸体分布図



図版1

神原(2)遺跡(沢1)

から産出した植物珪酸体

1. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (9層下部)

2. ササ属型機動細胞珪酸体 (10-2層)

3. ササ属型機動細胞珪酸体 (9層下部)

4. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (14層)

5. キビ族機動細胞珪酸体 (9層下部)

6. 他のタケ亜科 (9層下部) a:断面 b:側面

0.02μm

第5節 珪藻化石群集

株式会社パレオ・ラボ

1.はじめに

珪藻は、10~500 μ mほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で、殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている(小杉, 1988; 安藤, 1990)。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び、中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても、わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などに生育する珪藻種(陸生珪藻)が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して、堆積物中の珪藻化石群集の解析から、過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

神原(2)遺跡は、岩木山の北東麓で大石川と浸食谷に挟まれて東西に延びる標高約20~40mの段丘南側斜面に立地する、縄文時代と平安時代の遺跡である。ここでは、沢1の1トレンチセクションにおいて採取された縄文時代前期中葉およびそれ以前の堆積物中の珪藻化石を調べ、珪藻化石群集から水環境について検討した。なお、同一地点の試料を用いて花粉分析およびプラント・オパール分析も行われている(第3節花粉分析・第4節プラント・オパール分析参照)。

2.試料と方法

分析試料は、沢1の1トレンチセクションの堆積物2試料である(表1)。14層の沢の最下層で、10層は遺物を多く包含する層である。

表1 珪藻分析を行った試料の詳細

分析No.	位置	層位	時期	堆積物の特徴
1	沢	10-2層	縄文時代前期中葉	黒色(10YR2/1)粘性のある土壌
2	B-B'(1トレンチ)	14層		黒色(10YR2/3)粘性のある礫混じり土壌

各試料について、以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1) 各試料は、堆積物に応じて適量(湿潤重量)を取り出し、秤量した後ピーカーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。(2) 反応終了後、水を加え1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。(3) 懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入しプレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下600~1000倍で観察し、珪藻化石について同定・計数した。珪藻殻は、完形と非完形(半分以上残っている殻)に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。また、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。なお、今回の試料は珪藻殻が少なかったためプレパラート全面を観察した。

3.珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に安藤(1990)が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の淡水種の珪藻種については、広布種(W)として扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明(?)として扱った。以下に、安藤(1990)が設定した淡水域

における環境指標種群の概要を示す。

[上流性河川指標種群 (J)]：河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にびったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

[中～下流性河川指標種群 (K)]：河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。

[最下流性河川指標種群 (L)]：最下流部の三角洲の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角洲地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。

[湖沼浮遊生指標種群 (M)]：水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。

[湖沼沼沢地指標種群 (N)]：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢地の環境を指標する可能性が大きい種群である。

[沼沢地付着生指標種群 (O)]：水深1m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態では優勢な出現が見られる種群である。

[高層湿原指標種群 (P)]：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。

[陸域指標種群 (Q)]：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻とよばれている）。

4.珪藻化石の特徴と堆積環境およびその変遷

2試料から検出された珪藻化石は、海水種1分類群1属、淡水種6分類群5属2種で、ほとんど検出されなかった。また、環境指標種群は出現しなかった。

海水種珪藻化石は、10層試料中に1個体のみ出現し、その他の珪藻化石は、淡水種であった。

珪藻分析用のプレパラートを観察すると、分析No.1（10-2層）では、鉱物粒子のほか、火山ガラスや植物珪酸体化石が比較的多く、炭片も少量含まれていた（図版1-1）。また、分析No.2（14層）では、鉱物粒子のほか、植物珪酸体化石が比較的多いが、火山ガラスは分析No.1（10-2層）ほどは多くなかった（図版1-2）。

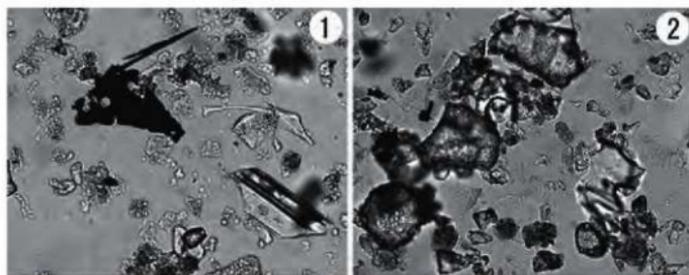
分析対象とした堆積物は、いずれも黒味の強い粘性のある土壌であり、風成堆積物と考えられる。珪藻分析の結果は、こうした堆積物の特徴を反映した結果である。なお、ジメジメとした陸域環境で生育する珪藻化石が含まれなかったことから、水分の多い環境ではなく、14層と10-2層の堆積時期は乾いた環境であったと考えられる。

表2 堆積物中の珪藻化石一覧表

分類群	種群	No. 1(10-2層)	No. 2(14層)
<i>Coscinodiscus</i> spp.	?	1	1
<i>Cymbella</i> spp.	?		2
<i>Diploneis</i> spp.	?		1
<i>Eunotia</i> <i>lunaris</i>	W	1	
<i>E.</i> spp.	?	1	
<i>Nitzschia</i> <i>parvula</i>	W	1	
<i>Pinnularia</i> spp.	?	1	3
海水種	?	1	0
広布種	W	2	0
不明種	?	2	6
合計		5	6
完形殻の出現率 (%)		20.0	0.0
堆積物1g中の殻数 (個)		2.1×10^3	1.9×10^3

引用文献

- 安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
 小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.



図版1 珪藻分析試料のプレパラート状況写真（スケール：50μm）

1. 分析No 1（10-2層） 2. 分析No 2（14層）

第6節 出土黒曜石製石器の産地推定

株式会社パレオ・ラボ

1. はじめに

弘前市大字小友字神原に所在する神原（2）遺跡は、岩木山の北東麓に位置し、大石川と浸食谷に挟まれて東西に延びる段丘の南側斜面（標高約20~40m）に立地している。本遺跡より出土した縄文時代前期中葉の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

2. 試料と方法

分析対象は、沢1より出土した黒曜石製石器8点である（表1）。

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、測定面表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム（Rh）、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径8mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月，1999など）。本方法は、まず

表1 分析対象

分析No	出土位置	取上No	層位	種類	特徴	備考	重さ
1	沢1	FE-29	9層	石匙		図100-37	14.8g
2	沢1	S-393	10層	削片			1.8g
3	沢1	S-178	9層	削片	原礫面あり		15g
4	沢1	S-113	9層	削片	原礫面あり		18.4g
5	沢1	S-234	9層	削片			1.1g
6	沢1	FC-27	9層	削片			2.9g
7	沢1	FC-28	9層	削片			0.5g
8	沢1	S-64	10層	削片			0.1g

各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム (K)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe) とルビジウム (Rb)、ストロンチウム (Sr)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) の合計7元素のX線強度 (cps: count per second) について、以下に示す指標値を計算する。

1) $Rb\text{分率} = Rb\text{強度} \times 100 / (Rb\text{強度} + Sr\text{強度} + Y\text{強度} + Zr\text{強度})$

2) $Sr\text{分率} = Sr\text{強度} \times 100 / (Rb\text{強度} + Sr\text{強度} + Y\text{強度} + Zr\text{強度})$

3) $Mn\text{強度} \times 100 / Fe\text{強度}$

4) $\log (Fe\text{強度} / K\text{強度})$

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図 (横軸Rb分率-縦軸Mn強度 $\times 100 / Fe$ 強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸 $\log (Fe\text{強度} / K\text{強度})$ の判別図) を作成し、各地の原石データと遺跡出土物のデータを照合して、産地を推定するものである。

この方法は、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせて算出しているため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊である出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響を免れないといわれる (望月, 1999)。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log (Fe\text{強度} / K\text{強度})$ の値が減少する。また、風化試料の場合でも、 $\log (Fe\text{強度} / K\text{強度})$ の値が減少する (同上)。そのため、試料の測定面にはなるべく奇麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、ある

表2 北海道・東北地方黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地 (点数)	
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢遺跡(15)	
		白滝2	7の沢川支流(2)、IK遺跡(10)、十勝石炭露頭(下河床11)、アジサイの滝遺跡(10)	
	赤井川	赤井川	曲川・木川(24)	
	上士幌	上士幌	十勝三股(4)タウシュベツ川右岸(42)、タウシュベツ川左岸(10)、十三ノ沢(32)	
	釧路	釧路山	釧路山(5)	
	釧路	所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦	豊浦(10)	
	旭川	旭川	宮文(8)、道粉(2)	
	名寄	名寄	忠烈布川 (19)	
	秩父別	秩父別1		
		秩父別2	中山(66)	
		秩父別3		
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(10)	
	留辺蘂	留辺蘂1		
留辺蘂2			ケシヨマップ川河床(9)	
網走	網走	網走市宮スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)		
青森	木造	出来島	出来島海岸(15)	
	深浦	八森山	岡崎沢(7)、八森山公園(8)	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
		塩本	塩本海岸(4)	
岩手	北上川	北上折戻2	北上(9)	
山形	羽黒	月山	月山荘(10)	
宮城	宮崎	藤ノ倉	藤ノ倉(40)	
	色麻	塩岸	塩岸(40)	
	仙台	秋保1		
		秋保2	土蔵(18)	
	塩竈	塩竈	塩竈(10)	



図1 北海道・東北地方黒曜石原石分布図

いはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。

原石試料も、採取原石を割って新鮮な面を表出させた上で産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表2に判別群一覧とそれぞれの原石採取地点および点数を、図1に各原石の分布図を示す。

3. 分析結果および考察

図2および図3に、黒曜石原石の判別図に遺物のデータをプロットした図を示す。各図では、視覚的にわかりやすくするために各判別群を楕円で取り囲んである。試料8点のうち、3点が赤井川群、4点が出来島群、1点が八森山群の範囲にプロットされた。測定値および産地推定結果を表3に示す。

4. おわりに

神原（2）遺跡出土の黒曜石製石器8点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、3点が赤井川エリア産、4点が木造エリア産、1点が深浦エリア産と推定された。

表3 測定値および産地推定結果

分析No	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率	Mn*100 Fe	Sr分率	log $\frac{Fe}{K}$	判別群	エリア
1	234.9	177.5	1394.0	48.42	535.5	336.8	628.0	24.40	12.73	26.98	0.77	出来島	木造
2	211.0	159.1	1271.7	420.3	461.6	285.5	527.7	24.80	12.51	27.23	0.78	出来島	木造
3	226.7	170.5	1322.7	475.7	516.7	327.5	604.2	24.72	12.89	26.85	0.77	出来島	木造
4	312.6	107.8	1944.1	700.5	326.5	344.0	730.1	33.34	5.55	15.54	0.79	赤井川	赤井川
5	289.8	122.1	4085.0	587.5	82.7	542.1	3654.3	12.07	2.99	1.70	1.15	八森山	深浦
6	210.0	159.6	1292.3	442.7	559.8	308.8	582.7	23.37	12.35	29.56	0.79	出来島	木造
7	265.2	92.4	1662.8	669.6	310.5	335.2	706.5	33.12	5.56	15.36	0.80	赤井川	赤井川
8	150.7	53.5	987.3	352.9	163.0	170.4	365.6	33.55	5.41	15.50	0.82	赤井川	赤井川

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育局委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 一上和田城山遺跡篇一」：172-179。大和市教育局委員会。

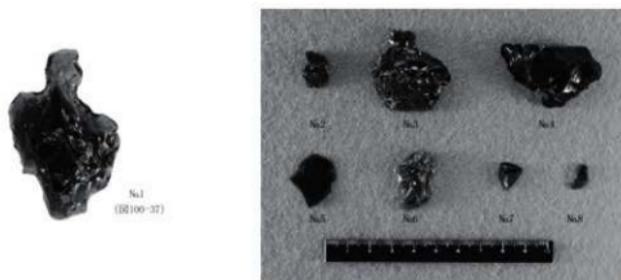


写真 分析試料

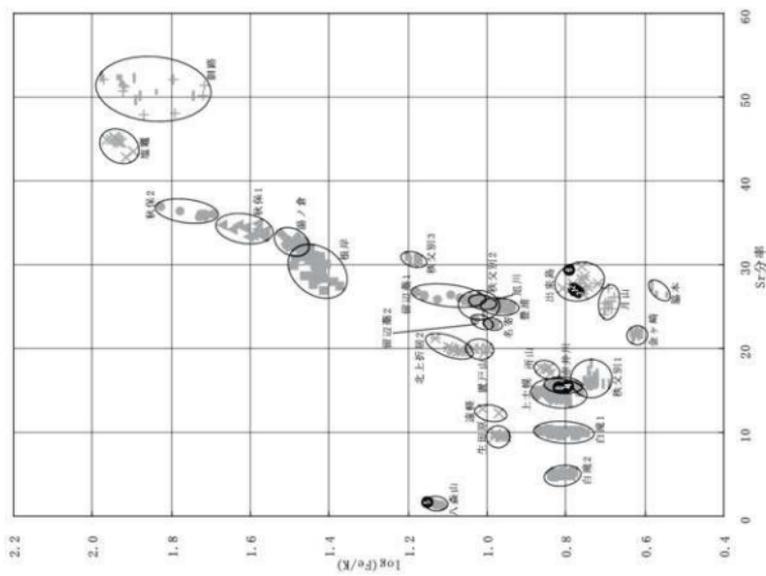


图3 黑曜石產地推定判別図(2)

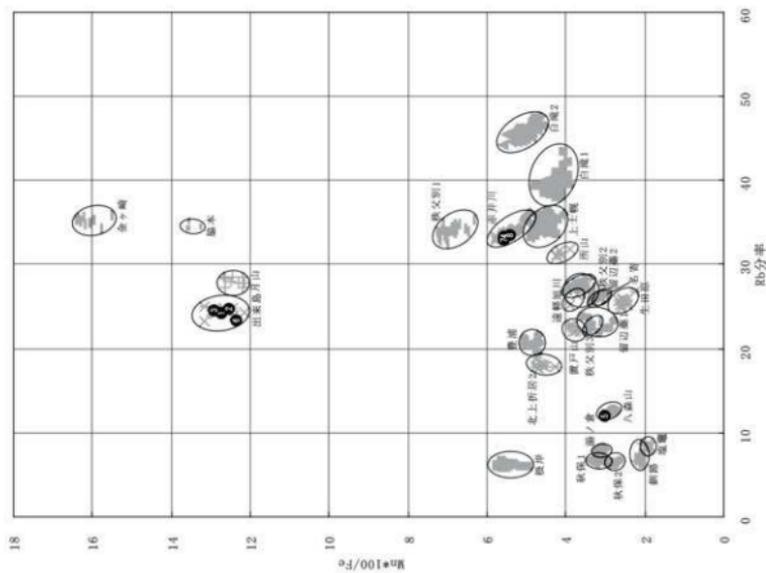


图2 黑曜石產地推定判別図(1)

第5章 総括

【立地・環境】

神原(2)遺跡は、岩木山の北東約10kmに位置し、大石川と浸食谷に挟まれて東西に延びる段丘の南側斜面に立地する遺跡である。今回の調査区は、浸食谷に面した段丘縁辺部にあたり、遺跡全体の中では南端部分に該当している。

遺跡が立地する同段丘および周辺丘陵上には、縄文時代前期から弥生時代、平安時代の遺跡である宇田野(2)・(3)遺跡、神原(3)・(4)遺跡、貝沢(4)遺跡、山ノ越(2)遺跡など数多くの遺跡が所在しており、縄文時代前期から平安時代にかけて断続的に遺跡が営まれている地域である。

【検出遺構】

今回の発掘調査で検出した遺構は、縄文時代の遺構は竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡2棟、土坑157基、溝状土坑3基、土器埋設遺構1基、屋外炉3基、焼土遺構1基、柱穴(ピット)146基、性格不明遺構3基、捨て場2カ所、遺物集中地点1カ所である。

竪穴住居跡は、炉体土器および堆積土から出土した土器から、SI09・12-Bが中期前葉、SI05・07・12-A・13・14・16が中期中葉、SI01・SI02・04・15が中期末葉から後期前葉、SI06が後期末葉から晩期初頭と考えられ、中期中葉を主体としながらも、中期前葉から晩期初頭頃にかけて、断続的に集落が営まれたことが明らかとなった。土坑は、時期不明のものも多いが、中期中葉を主体としながら後期前葉に所属するものが確認でき、竪穴住居跡の年代に対応している。縄文時代前期中葉の遺構として、調査区西端近くで検出した沢1及び沢2に形成された捨て場2カ所がある。

時期ごとの遺構の分布状況を概観すると、縄文時代前期中葉には、捨て場以外の遺構としては、この時期の土器片を包含する遺構が主に沢1および沢2に面した丘陵上でわずかに確認できるものの明瞭ではなく、調査対象区外である北側に延びる丘陵上にこの時期の集落跡が存在する可能性が高いと考えられる。

中期前葉の遺構は、主に沢3東側の急傾斜面を東背にした緩斜面から丘陵縁辺部に分布する。中期中葉になると中期前葉と同じ場所を主体としながらも、今回の調査区全域に分布する。中期末葉から後期になると、主に、沢3西側の丘陵上および丘陵縁辺部と調査区東端の急傾斜面を西背にした緩斜面から丘陵縁辺部に分布し、この時期、利用場所に変化が生じたようである。なお、調査区東端部は後期初頭から後期中葉までの遺構・遺物が分布するが、沢3西側では後期中葉の遺構・遺物の分布は少なく、相違がみられる。後期末葉から晩期初頭にかけてに位置付けられる遺構はSI06とSX06のみであるが、遺物は量的に少ないながらも調査区内から散在して出土しており、土地利用の状況は不明である。

さらに、今回の調査では、縄文時代早期および弥生時代に属する土器片が数点出土しているが、当該期の様相は不明である。

遺構が多く確認できた中期中葉においては、遺構の配置状況から、丘陵頂部を背にして、縁辺部の緩斜面に住居、さらにその外側に土坑を配置し、浸食谷に面した丘陵縁に沿って細長く延びる集落構造であったと考えることができる。

古代の遺構としては、溝跡3条、土坑1基が検出されたが、様相は不明である。(鈴木)

【縄文時代前期中頃の土器について】

沢1・2からは、第Ⅱ群B類とした縄文時代前期中頃と考えられる繊維土器が数多く出土した。明瞭なくびれを持たないバケツ形に近い器形、比較的少数に巡る頸部隆帯、複節斜縄文が主流となる胴部地文、結節回転文や燃糸圧痕からなる狭い口縁部文様帯、少数の口唇部文様、地文のみの一群の存在、沈線文様の欠如、底面で7割を超える縄文施文率、粗雑な内面調整の多さなどから、概ね三内丸山遺跡第6鉄塔地区Ⅵa・Ⅵb層から出土した円筒下層a式土器(青森県教, 1998)の範疇と見なせる。

一方で、主に量的傾向においては以下の相違点が認められる。本遺跡第Ⅱ群B類土器は、胎土・焼成に関しては①暗灰色から明褐色の明るい外面色調及び固形炭化物の付着の少なさ、器形においては②隆帯を持たないものにも口縁部が緩やかに外反するものが含まれ、③直立または横に張り出す底部がやや目立ち、④上げ底が多く、また上げ幅も大きい。文様では⑤口唇文様が2割に達する、⑥複節斜縄文の比率が1/3と低く、相対的に⑦燃り戻し原体の占める割合が1/3、⑧単軸絡条体第1類原体の占める割合が1/4程度、⑨単軸絡条体第5・6類の欠落、⑩特殊な施文原体の存在、⑪0段で θ が優勢となる縄文、⑫条方向が横走に近い、または施文方向にまとまりの無い地文の存在、⑬地文のみの個体の多さ、⑭主に胴部下半に見られる縄文の磨り消しの存在などが挙げられる。

相違が生じる要因には時期差、または地域差が考えられるが、ここでは時期差に起因するものと仮定して幾つか比較検討を行い、新旧の方向性を探る。まずは三内丸山遺跡第6鉄塔の各層との比較において、⑨は同Ⅵb層的、③・④はⅥa～Ⅵb層的、⑥・⑦・⑧は同Ⅵa～Ⅵc層的な傾向にあるとも見なせる。特殊な個体では⑩のうち仮称廻転刺突文B類の土器は同Ⅵc層に、胴部に最大径のある小型の土器(図88-134)は同Ⅵb層に類例がある。この比較のみでは本遺跡第Ⅱ群B類土器が三内丸山遺跡層位事例の何れか1層に限定できない幅のある資料のようにも見て取れる。

次に本遺跡の第Ⅱ群B類土器群内部の時期的傾向を探る。本遺跡第Ⅱ群B類土器は地文の条方向によって細分しているが、三内丸山遺跡第6鉄塔地区の報告書で示された円筒下層aからb式にかけての変遷過程(青森県教, 前掲)を踏まえてのことである。これによると本遺跡の第Ⅱ群B類土器群はB1類=斜行縄文主体の地文=円筒下層a式寄りが主体であり、条が縦走する縄文・単軸絡条体第1類が主体=B2類=円筒下層b式寄りとは比較的少数となる。B1類では燃り戻しと複節斜縄文で8割強を占めるのに対し、B2類では大きく減少し、代わって単軸絡条体第1類が優勢となる。これも三内丸山遺跡で確かめられた変遷と軌を一にする。前述の相違点のうち③、④はB1類でやや優勢となり、②、⑩の仮称前々段附加条による文様と⑬、⑭はB1類にのみ認められる。三内丸山遺跡との比較で得られた相違点の多くは、円筒下層a～b式の比較的古いとされる区分に含まれることになる。また②・③・④・⑩およびB1類に散見される内面条痕、附加条縄文、胴部に斜位・横位に施文される単軸絡条体第1類、地文のみの土器は、深郷田式(白崎, 1941他)とされた碓ヶ岡村永野遺跡出土の縄文時代前期第4類土器(青森県教, 1980b)にも共通する特徴でもある。深郷田式が円筒下層様式の直前であるとする位置付け(武藤, 1991他)が正しいとすれば、本遺跡の第Ⅱ群B1類土器は三内丸山遺跡第6鉄塔Ⅵb層と同時期あるいはやや先行し、かつ円筒下層土器様式成立期にまで及

ぶ資料群であると解釈できる。単軸絡条体第1類が希ではないことも、この仮定において理解できよう。

Ⅱ群B1～3類相互の関係について、B1類・B2類ともに円筒下層a式の範疇であり、B1類が円筒下層a式の古期、B2類が円筒下層b式に近いa式新期に相当する可能性については上述した通りである。しかしながらB1→B2を時期的推移と見なした場合、各属性は量的推移主体かつ漸移的で、隔絶や他の土器群の介在を想定することが困難である。B1・B2は連続する新旧を示すものとして捉えるべきかと考える。ここで視点を区分から連続する動態へと移してみる。縄文時代前期前半の土器群から円筒下層様式の確立期にかけて生じた最大の変化は、円筒形器形の確立と口縁部文様帯の成立であろうと推測される。本遺跡のⅡ群B1類→B2類をこの観点で概観すると、口縁部文様帯の発生から分離・独立にかけての過程を示すかのような個体がB1類で認められ、B2類にかけて本格化するとの見方が可能である。文様帯系統論的見地からもB1→B2の連続は支持できる。なお、この観察ではB1類での頸部隆帯は口縁部文様帯の分離・独立にあまり関与していないかのように見て取れる。隆帯の形状・発達程度とも相関関係が認められない。円筒下層式の編年の研究ではしばしば隆帯の捉え方について意見が分かれたが、上述のような性格が影響しているものと思われる。B3類の位置付けについては、廻転刺突文A・B類がⅡ群B1類と個体内共存でしている例があることから、本遺跡ではB1類とB3類は並行するものと見なせる。ただし函館市戸井貝塚(戸井町教, 1994)と三内丸山遺跡第6鉄塔地区(青森県教, 1997b)では廻転刺突文B類と円筒下層b1式が同一層で出土しており、出現は古いのがその消長には幅があるものと考えられる。

以上から神原(2)遺跡Ⅱ群B類土器の編年の位置は、茅野嘉雄の円筒下層a1式(茅野, 2008)、小笠原雅行の円筒下層a式(小笠原, 2000)、村越潔の円筒下層a式第1～3類土器と同b式第1類(村越, 1974)に相当し、深郷田式直後から円筒下層b1式(小笠原前掲)直前に渡る範囲に位置付けられる土器群と考えられる。同様の内容を持つ土器群としては、本遺跡の北側1km圏内に位置する宇田野(3)遺跡(青森県教, 1997a)の谷出土土器、秋田県大館市茂屋下岱遺跡Bトレンチ2～3層主体の土器、函館市戸井貝塚包含層第VIIb層(戸井町教, 前掲)から第IX層(戸井町教, 1993)のⅡ群B1類土器、同八木A遺跡Ⅳ～Ⅶ層(南茅部町埋蔵文化財発掘調査団, 1995)と西盛土Vb層出土土器(同1997)、木古内町釜谷遺跡の49号住居跡他と土器捨て場A・B・C出土Ⅱ群A・AB類土器(木古内町教, 1999)、青森県碓ヶ関村大面遺跡の第I・Ⅱ群とⅢ群土器の一部(青森県教, 1980a)などが挙げられる。ただし本遺跡では道南地方の諸遺跡と異なり、明瞭な白座式(陸上町教, 1989)が伴わない。

補足として、本遺跡で目立った特殊な文様について触れておきたい。一つは交互に節の深さに変化する斜行縄文で、B1類でのみ認められる。条の一本を模式化すると $\theta = \theta = \theta =$ のようになる。一見すると前々段での異条・異段の合然りによる文様のようだが、条に斜行する節(上模式図の θ)が然り戻されず、深い圧痕となる点で異なる。斜行する条が明瞭であることから組紐類の可能性も除外される。これらを踏まえて原体の製作実験を行ったところ、以下の原体が用いられた可能性が高まった。先ず正燃2段の片条を閉端側に抜き上げて「自縄自巻」(佐原, 1981: コイル状原体)をつくり、条間が等間隔かつ疎らになるように抜き戻す。この段階で燃糸圧痕に用いると、円筒下層d1・d2式の口頭部文様のそれと似た圧痕が得られる。これを更に二つ折りにして然り合わせたもので

ある。自縄自巻も附加条の一種と見なし、この原体を「前々段附加条」と仮称する。山内清男の原体標本写真（山内、1979）に例示がなく、その後の出土例も報告されていないようである（註1）。もう一つは「廻転刺突文」と仮称した刺突に似た文様で、指頭状・爪形状の圧痕が胴部などに面的かつ密に施されたものである。各刺突の向き・配列・重複には一定の方向性が見られるため、施文には何らかの廻転体の使用が想定された。うち廻転刺突文A類は連続して結節した0段を絡げた絡条体（写真56-6）によって、刺突内部にリング状圧痕を持つB類については漆の枝などを用いた「枝回転文」（矢野、1993・2008）の重複施文によって近似の文様を得られるが、爪形など廻転文様では再現できなかった例が残る。廻転刺突文A類は秋田県大館市茂屋下岱遺跡で「指押文のような太い目の一種の廻転文」（奥山他、1971）と報告されたBトレンチ2層他出土の第3類土器、青森県つがる市石神遺跡出土の円筒下層a1式土器第2類のうち「特殊な太い縄文原体を廻転押圧したもの」（江坂、1970）、大面遺跡のⅢ群5類a土器（青森県教、前掲）に類例を見出せる。廻転刺突文B類については三内丸山遺跡第6鉄塔地区Vc層の他、戸井貝塚のⅧ層出土のⅡB1類e土器（戸井町教、前掲）、青森県南郷村畑内遺跡（青森県教、2002）、秋田県大館市上ノ山I遺跡第Ⅶ層出土土器（秋田県教委、1988）、岩手県横間II遺跡捨て場出土土器（岩手埋文、1999）の中に類似の刺突文土器が報告されている。これら、これまでになく施文手法が発生し、次型式に引き継がれない様も様式成立期の試行錯誤の様子を示しているのかもしれない。（秦）

註1 戸井貝塚のⅧ層、上ノ山I遺跡のⅦ層出土遺物に同種の原体を疑われる例（戸井町教委1994、69図245、秋田県教前掲151図13）が示されているが、実見に至っていないため判断を保留した。

【縄文時代早期・中期～後期、弥生時代の土器について】

縄文時代早期については、物見台式の範疇と見なせる土器が少量出土した。津軽地域の縄文時代早期の遺跡は、最近の発掘調査で土器が出土した遺跡は増加したものの、遺構に関しては青森市蛭沢遺跡（青森市1979）の土坑のみである。住居跡ははまだ検出しておらず、本遺跡からも検出していない。

縄文時代中期では、円筒上層a式～大木10式併行期に至るまで、各型式の個体量は少ないものの、すべての土器型式が出土している。このことは、津軽地域（陸奥湾側を除く）におけるつがる市石神遺跡（大木10式併行期は出土していない）と同様に継続期間が長い拠点型集落の可能性も考えられる。

特殊な土器として、円筒上層e式土器の中に顔面付土器が含まれていた。顔面と蛇の組み合わせは青森市近野遺跡（青森県2005）の第E30号住居跡からも出土している。このような顔面付土器に関しては、関東・中部地域の出土事例から顔面装飾と理解しているが、抽象化された顔面については否定される場合が多い。しかし、青森県内の円筒上層式期の中では顔面表現を抽象化する事が一つの文様パターンであり、本遺跡から出土した表現も顔面付土器と認識すべきであると考えたい。特に円筒上層末期にあたる円筒上層d・e式の深鉢形に、小型化する波状口縁の内外面に施文される事例が多くみられる。

他の土器様式圏からの影響に関しては、東北地方南半部の大木式土器の青森県への影響、特に大木7b式の浅鉢形、大木8a式のキャリパー形の器種が目立っている。青森県内では太平洋岸及び陸奥湾地域で多く出土しているものの、津軽地域では石神遺跡(江坂1970)のみの出土であり、出土例は少なく、奥羽山脈を境として土器の様相を異にするものである。

IV群土器では以下の特徴が見られた。深鉢・鉢形を主要な器種組成とし、口縁部が波状口縁で、文様帯を二段に構成し、地文縄文地に沈線で山形文様と縦の渦巻文・蛇行文を施文する点を特徴とし、図112-78・79、図113-81が代表的な例である。図115-87・88は非山形文の文様構成である。このような類例を津軽地域で概観すれば本遺跡と同様に二通りの文様構成が指摘できる。本遺跡の山形文を中心とするものは、黄金山遺跡(渡辺1966)にあり、三段の文様区画帯を構成している。また、山形文がみられず横位方向に文様が展開する長坂(1)遺跡(黒石1999)では二種の文様構成を呈している。これは、蛭沢遺跡(青森市1979)および川代遺跡(川内町1981)においても二種の文様構成が確認されており、時期差というより同時期における山形文・非山形文の二種の文様の共存が指摘できる。

弥生時代の土器では、特に県内での出土例が少ないVI群C類の弥生時代後期が注目される。これらは六ヶ所村家ノ前遺跡第VII群土器(青森県1994)に相当するものと考えられる。(成田)

【石器について】

調査の結果、剥片石器1390点、礫石器284点が出土し、沢と遺構内では石器の器種組成が異なる傾向が認められた。沢では、剥片石器(剥片・石核を除く)の中で石匙が14%・抉りのあるスクレイパーB類が10%を占め、石鏃は無茎で小型のものが特徴的である。礫石器では半円状扁平打製石器が7割を占め、敲き石・凹み石がこれに続く。これらの石器には円筒下層a式土器が相伴しており、これまで報告された円筒下層式期の石器組成との類似点が窺える。青森市三内丸山遺跡では第6鉄塔地区第Va層の円筒下層b式期に、青森市岩渡小谷(4)遺跡や八戸市畑内遺跡では円筒下層a式期に同様の器種組成が指摘されており、本遺跡の円筒下層a式期における石匙や半円状扁平打製石器を主要とする器種構成が普遍的傾向として追認される。一方、遺構内では、剥片石器の器種が多様で特定の器種に偏る傾向は認められず、石鏃は有茎の細身のものが特徴的となる。スクレイパー類にも特定の形態に偏る傾向はない。礫石器は台石・石皿類が4割、磨り石が2割を占め、これに北海道式石冠が加わる。磨り石と北海道式石冠の磨り面は平坦面をなし幅が3~5cmの広い平坦面を形成し、特定の方向に擦り減るものもある。台石類も中央が広く凹むものが多く使用痕跡が明瞭なものが目立つ。また、石製品では土坑出土の石冠のほか、遺構外ではあるが石棒も出土している。このような北海道式石冠を含む器種構成は中期後半に特徴的であり、三内丸山遺跡や六ヶ所村富ノ沢(2)遺跡A区においても提示されている。以上のように沢と遺構内で、石器組成が異なる事象はこれらの石器を基盤とする生業活動が時期により異なっていたことを反映しているものと考えられる。

遺構外から出土している石槍8点は形態的特徴と整形技術が前期後半から中期前半の特徴に類似する。周辺の遺物集中地点から出土した土器は後期前葉を主体とし、中期末葉から晩期の破片が出土している。尾根を挟んで反対側の斜面には中期前葉・中葉の住居跡が位置していることから、居住域とやや離れた場所に石槍を意図的に置いた可能性が考えられる。また、出土している石器や石核の形状

等から遺跡周辺で採取できる原石は小形に限定される。石槍の周辺には同一母岩と識別される大形の剥片も数点出土している。製作途中の工程にある未製品を遺跡内に搬入したものと想定される。

(杉野森)

引用・参考文献

- 青森市蛭沢遺跡発掘調査団 1979『青森市蛭沢遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1980a『大面遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第55集
- 青森県教育委員会 1980b『永野遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第56集
- 青森県教育委員会 1981『弥栄平（2）遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第81集
- 青森県教育委員会 1994『家ノ前遺跡Ⅱ・鷹架遺跡Ⅱ発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第160集
- 青森県教育委員会 1997a『宇田野（2）遺跡・宇田野（3）遺跡・草薙（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第217集
- 青森県教育委員会 1997b『三内丸山遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第230集
- 青森県教育委員会 1998『三内丸山遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
- 青森県教育委員会 2002『畑内遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
- 青森県教育委員会 2005『近野遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第394集
- 青森県教育委員会 2006『東道ノ上（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第424集
- 青森県教育委員会 2011『山田（2）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第508集
- 青森県教育委員会 2011『青森県遺跡詳細分布調査報告書23』青森県埋蔵文化財調査報告書第510集
- 秋田県教育委員会 1988『国道103号大館南バイパス建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－上ノ山Ⅰ遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡－』秋田県文化財調査報告書第173集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999『横間Ⅱ遺跡・谷地田Ⅰ遺跡・有矢野遺跡・有矢野館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集
- 江坂輝彌編 1970『石神遺跡』ニューサイエンス社
- 小笠原雅行 2000『円筒下層 a 式といわゆる白座式について－現状とその問題点の把握－』『村越潔先生古希記念論文集』
- 奥山潤・秋田大館鳳鳴高等学校社会部考古班 1971『茂屋下岱式土器群』
- 川内町教育委員会 1981『川代・邪馬尻遺跡発掘調査報告書』
- 木古内町教育委員会 1999『木古内町 釜谷遺跡』
- 黒石市教育委員会 1999『長坂（1）遺跡』黒石市埋蔵文化財調査報告書第10集
- 佐原眞 1981『縄紋施文法入門』『縄文土器大成 3 後期』
- 白崎高保 1941『青森県中里出土の条痕土器』『古代文化』第12巻7号
- 茅野嘉雄 2008『円筒下層式土器』『総覧 縄文土器』(株)アム・プロモーション
- 戸井町教育委員会 1993『戸井貝塚Ⅱ』
- 戸井町教育委員会 1994『戸井貝塚Ⅳ』

- 階上町教育委員会 1989『白座遺跡 野場（3）遺跡』
- 弘前市教育委員会 2003『弘前市内遺跡発掘調査報告書7』
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1995『八木A遺跡Ⅱ・ハマナス野遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団第5
輯報告
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1997『八木A遺跡Ⅲ・八木C遺跡』南茅部町埋蔵文化財調査団第6輯報告
- 武藤康弘 1991「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究Ⅱ－円筒下層a式直前の土器群をめぐって－」『考古学雑誌』第76巻第3号
- 村越潔 1974『円筒土器文化』雄山閣
- 矢野健一 1993「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」『研究紀要』2 三重県埋蔵文化財センター
- 矢野健一 2008「施文具・施文手法② 押型文手法」『縄文時代の考古学 7 土器を読み取る』同成社
- 山内清男 1979『日本先史土器の縄文』先史考古学会刊
- 渡辺兼康 1966「黄金山遺跡」『岩木山麓古代遺跡発掘調査報告書』弘前市教育委員会

堅穴住居跡一覧

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土層重畳 (g)	石層重畳 (g)	番種	備考
			長軸	短軸・深さ				
0E13	SI01	FY・GA-38	(354) × (122) × 35		2043.8			
0E14・15	SI02	FI-33	275 × (240) × 56		764.5	測0.7, 測1083.0		地床材 (岡定砂)
	SI03 (次番)							
0E16・17	SI04	GI・GM-44・45	(345) × 296 × 35		4076.7	測859.8	SK121 > SI04 > SK120	
0E18・19	SI05	GR・GL-44・45	407 × 346 × 40		2654.7	測37.8, 測18618.6	SK05 > SK111	土層埋設砂
0E20	SI06	GJ・GK-45・46	(393) × 318 × 32		609.0		SK06 > SK106	石層材・地床材
0E21・22	SI07	GH・GI-44・45	427 × 366 × 36		5967.8	測02.4, 測7400.0	SP67 < SK07 < SK06・SK100・SK110・SK170	土層埋設砂
0E23	SI08	GI・GJ-44・45	350 × (132) × 20		94.1	測11.1, 測218.7		
0E24	SI09	GG・GH-42・43	331 × 220 × 50		1225.4	測85.4, 測117.3	SP73・SP74 < SK09 < SK99, SP57	
	SI10 (次番)							
	SI11 (次番)							
0E25~27	SI12-A	GN・GO-43・44	390 × 331 × 28		2490.1	測164.1, 測17218.2	SI12-A > SI12-B	
0E25~27	SI12-B	GN・GO-44	418 × (308) × 25					SI12-B < SI12-A
0E28	SI13	GX・GY-45・46	370 × (155) × 55		267.3	測3.0, 測8500.0		
0E29	SI14	HF・HG-50・51	326 × 285 × 30		2528.8	測30.7, 測6900.0		土層埋設砂
0E30・31	SI15	IH・IJ-48・49	396 × 351 × 43		860.8	測52.6, 測14502.0	SI15 > SK165・SK167・SK174	土層埋設砂
0E32	SI16	HK・HL-52	186 × 145 × 26		1341.9	測33.6	SI16 > SK158	土層埋設砂

土坑一覧

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土層重畳 (g)	石層重畳 (g)	番種	備考
			長軸	短軸・深さ				
0E33	SK01	GC-39	96 × 72 × 37					
0E33	SK02	FY-38	(80) × (71) × 60					
0E33	SK03	GB-38・39	115 × 104 × 29					
0E33・49	SK04	GB-38	85 × 80 × 21		4.2			
	SK05 (次番)							
0E33・49	SK06 (次番)							
0E33・49	SK07	FY-36	113 × 99 × 17		64.6	測1168.1		加工のある礎1
0E33・49	SK08 (次番)							
0E33・49	SK09	GB-37	118 × 110 × 33		14.2		SK09 < SK10	
0E33・49	SK10	GB-37	70 × (48) × 26		419.7	測4.7	SK09 < SK10 < SK11	
0E33・49	SK11	GB・GC-37	116 × 110 × 26		1166.7	測55.2	SK11 > SK10	石層1, 二次加工鋼片1, 鋼片7
0E33・49	SK12	GA-37	100 × 94 × 31		75.0			
0E33・49	SK13	FY-36	89 × 82 × 16		21.3			
0E33	SK14	GC-38	67 × 66 × 17					
0E34・50・51	SK15	FX・FY-35	164 × 96 × 116		4498.2	測16.2, 測7700		風倒木の可能性も有。二次加工鋼片1, 鋼片2, 台石1
0E34・49	SK16	FX-35・36	200 × 160 × 74		307.4	測3.7		風倒木の可能性も有。石層1
0E34・49	SK17	GA-36・37	111 × 90 × 45		90.4			
0E34・51	SK18	FY-36	233 × 199 × 60		2295.7	測132.2, 測90.0		石層1, スクレイバー2, 鋼片13, 半円状扁平打製石層1
0E34	SK19	GB-37	117 × 65 × 20					
0E34	SK20	GB-37・38	107 × 76 × 24					
0E34・52	SK21 (次番)							
0E34・52	SK22	FW-37	225 × 138 × 52		1461.5	測5.7		鋼片1
0E35・52	SK23	FW・FX-34・35	183 × (120) × 42		1023.2			
0E35・52	SK24 (次番)							
0E35・52	SK25 (次番)							
0E35・52	SK26	FW-34・35	103 × 94 × 63		6.4			
0E35・52	SK27	FW-35	77 × 77 × 36		83.9			
0E35	SK28	FV・FW-35	102 × 96 × 44					
0E35	SK29	FW-35・36	94 × (75) × 30					
0E35	SK30	GA-38・39	(122) × (-) × 58					
0E35	SK31	EV・FW-37	(83) × (-) × 54				SK31 > SP53	
0E35・52	SK32	FS・FT-36	78 × 76 × 36		96.2			
0E35・52	SK33	FT・FU-36	112 × (86) × 26		305.0	測351.9		磨り石1
0E36	SK34	FS-36	113 × 88 × 40		51.6			
0E36	SK35	FT・FU-35	-		1540.7			底面を確認し、形態等不明
0E36	SK36	FV-34・35	76 × 72 × 19					
0E36	SK37 (次番)							SV01へ変更
0E36	SK38	FN-35	(183) × (108) × 35					
0E36	SK39	FM・FN-34	97 × 74 × 23					
0E36	SK40 (次番)							
0E36	SK41 (次番)							
0E36	SK42	FJ-34	74 × 65 × 81					SB01-Pt.3へ変更
0E36	SK43 (次番)							

神原(2)遺跡

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土層番種 (g)	石層番種 (g)	発掘	備考
			長	幅				
	SK44 (穴番)							
0E36	SK45 (穴番)							
0E36	SK46	FA・FB-29	88	79	36			
	SK47 (穴番)							
	SK48 (穴番)							
0E36	SK49	FA-28	112	95	40		SK49>SK62	
0E36	SK50	EY・FA-28	124	71	38			
0E37	SK51	EY-28	78	75	28	12.4		
0E37・53	SK52	EY-28	120	108	13	164.0		
0E37・53	SK53	EY-27・28	89	82	33	38.4	溝218.9	溝り石1
0E37・53	SK54	EY-26・27	142	119	25	118.2		SK54>SK55
0E37・53	SK55	EY-27	86	50	18	60.7		SK55<SK54
0E37・53	SK56	EY-26	112	92	33	16.0		
	SK57 (穴番)							
0E37	SK58	EN-23	112	89	29			
0E37・53	SK59	EM-22・23	144	120	32	13.6		
0E37・53	SK60	FX・FY-35	112	95	65	75.6		
0E37・53	SK61	EP-23・24	154	135	65	26.3		
0E37	SK62	FA-28	105	52	14			SK62<SK49
0E37	SK63	FA-27	251	140	86			
0E38・53	SK64	GH-47	127	90	57	10.9		
0E38・53	SK65	GI-46	126	98	47			SK65<SK66
0E38	SK66	GI-46	100	94	32			SK66>SK65
0E38・53	SK67	GI-45	78	136	62	21.7		
0E38	SK68	GH-45	68	56	13			
0E38	SK69	GH-44	126	88	21			
	SK70 (穴番)							
0E38・53	SK71	GG-43	98	84	48	6.6	溝1639.8	SV03へ変更
0E38・53	SK72	GL-41・42	352	180	44	36.1	溝15.8	台石2
0E39・53	SK73	GI・GJ-46	124	106	41	151.9		二次加工削片1
0E39	SK74	GI・GJ-46	95	90	24			
0E38	SK75	FR-29	79	63	27			
	SK76 (穴番)							
0E39	SK77	GF・GG-42	81	70	27			
0E39・53	SK78	GG・GH-40	182	154	40	67.4		
0E39	SK79	GF・GG-41・42	121	75	32	127.1		SK79<SK178
0E39・53	SK80	GM-42	113	89	50	70.4	溝65.8	削片3
0E39・53	SK81	GG-40	121	103	9	11.5		SK81<SP94
0E39	SK82	GK・GL-43	116	96	20			
0E39・53	SK83	GI-43	71	62	18		溝1744.4	台石1
0E39・53	SK84	GR-45	106	95	42	23.4		
0E40	SK85	GH-40	100	92	22	90.2		
0E40	SK86	GI-45	94	60	52	15.6		SK86>S107, SP82・SP106
	SK87 (穴番)							
0E40	SK88	GG-42	106	86	15		溝770.9	石種未製品1
0E40・54	SK89	GK-44	99	81	24	41.9		
0E40・54	SK90	GR-44	78	62	32	523.8		SK90>S105
0E40・54	SK91	GJ-44	153	118	43	29.0		
0E40	SK92	GH-43	94	90	40			
0E40・54	SK93	GJ・GK-43	100	80	48	145.3		
0E41・54	SK94	GI-43	134	128	61	80.5		
0E41・54	SK95	GK-41	149	112	28	774.8		
0E41・54	SK96	GJ・GK-43・44	128	116	41	112.5		SK105<SK96<SK104
0E41・54	SK97	GK-43・44	135	100	64	123.8	溝29.9	両側削片1, 削片3
0E41・54	SK98	GH-42・43	91	85	55	242.2	溝10.8	SK98<SP59
0E41	SK99	GH-43	50	47	18			SK99>S109
0E41・54	SK100	GI-44	110	75	32	36.8	溝54.0	SK100>S107
0E42	SK101	GH・GI-40	151	143	27			SK101>SK102
0E42	SK102	GI-40	128	99	20			SK102<SK101
0E41	SK103	GI-43	78	65	11			
0E41・55	SK104	GJ-43・44	75	75	24		溝43560.0	SK104>SK96
0E41・55	SK105	GK-43・44	50	38	13		溝972.2	SK105<SK96
0E41・55	SK106	GJ-45・46	105	90	40	16.7		SK106<SK96
0E42・55	SK107	FS-36	127	87	46	381.3	溝379.4	SK107<SK108
0E42・56	SK108	FS-36	170	71	63	384.6		SK108>SK107
0E42	SK109	FR・FS-36	156	133	68			SK109>SK116
0E42・56	SK110	GI-44	92	66	25		溝1.4, 溝212.4	SK110>S107, SK116
0E43・56	SK111	GL-44	84	80	50	44.6		SK111<S105
0E43	SK112	FQ-35	56	56	31			
0E43・56	SK113	GF・GG-40	76	71	15	496.7		
0E43	SK114	GJ・GK-41	96	67	24			SK114<SD03
0E43・56	SK115	FS-38	165	74	46	1251.0	溝2.2	削片1
0E42・56	SK116	FR-36	112	95	34	39.7	溝528.3	SK116<SK109・SK118

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土留重量 (g)	石留重量 (g)	乗置	備考
			長軸×短軸×高さ					
0042	SK117	FR-36		96×69×40			SP62>SK117>SK118	
0042	SK118	FR-36		138×(79)×21			SK116<SK118<SK117	
0043・56	SK119	GI-40		96×87×27	1785.4			
0043	SK120	GL-44		104×88×26	15.6		SK120<S104	
0043	SK121	GM-44・45		105×80×58			SK121>S104	
0043・57	SK122	GF-40		52×50×14	8.5		SK122>SD03	
0042・57	SK123	GI-40		(97)×(39)×37	91.7		SK123>SP63	
0043・57	SK124	FS・FT-37		114×109×53	15.8			
0043	SK125	GA・GB-40		91×78×29				
0044・57	SK126	GI-42		222×108×40	-	測1.6、礎45.3		測片1、既知原石1
0044	SK127	GF-41		76×75×16				
0044・57	SK128	GG・GH-42		87×79×36	64.3			
0044・57	SK129	GM-44・45		172×76×34	26.2			
0044	SK130	GN-45		113×113×45				
0044・57	SK131	GM-44		87×82×29	31.5			
0044・57	SK132	GM-44		105×95×56	259.1			
0044	SK133	GB-39		76×67×28				
0044・57	SK134	GO-47		137×130×55	11.7			
0044	SK135	GW-48		89×82×47				
0044	SK136	HL-53		(90)×(37)×36				
0045・57	SK137	HL-53		124×96×44	23.9	礎5300.0		台石1
0045・57	SK138	HL-52・53		116×98×80	123.2	礎62.3		加工の赤石礎1
0045・57	SK139	HK-51		104×102×68	193.4			
0045・57	SK140	HJ-49・50		130×120×64	373.3			
0045	SK141	HK-51		122×80×24	165.8			
0045・57	SK142	HK-51・52		97×93×69	22.0	測11.4	SK142>SP114	測片1
0045・58	SK143	HK-50		96×92×69	112.8	礎477.7		磨り石1、凹み石1
0045・58	SK144	IJ・HK-49		120×83×48	197.4			
0046・58	SK145	HK-51		76×76×40	12.5		SP110<SK145	
	SK146 (欠番)							
0046・58	SK147	HK-50		100×91×54	73.1			
0046	SK148	HK・HL-51		93×(60)×26				
0046・58	SK149	IJ・HJ-50		99×93×49	33.9	測7.1、礎675.6		両極測片1、北海道式石冠1
0046・58	SK150	HK-50		87×83×52	470.4	測6.4、礎215.7		二次加工測片1、磨り石1
0046	SK151	GM-44		72×69×23				
0046・59	SK152	HG・HH-49		97×82×49	200.0			
0046・59	SK153	HG-48・49		100×89×38	244.5			台石1
0046・59	SK154	HN-52・53		(103)×93×42	118.5	測14.9、礎58.3		測片2、メノウ原石1
0047	SK155	HN-53		76×40×37			SK156<SK155<SK168、SX08	
0047・59	SK156	HN-53		63×(50)×44		測5.5、礎1154.9	SK157<SK156<SK155・SK168、SX08	測片1、磨り石1
0047・59	SK157	HN・NO-53		84×(46)×42	152.0		SX07<SK157<SK156、SX08	
0046・59	SK158	HK・HL-52		100×97×44	26.7	礎334.4	SK158<S116	半円状扁平打割石礎1
0047・59	SK159	HH-48		93×(53)×68	23.3	礎2112.3		台石1
0047・59	SK160	HG-48		78×(45)×57	55.2	礎1663.5		台石1
0047・60・61	SK161	HG-48		102×(85)×72	4005.3	測35.8、礎16489.5	SK161>SK177	石礎1、測片4、台石4、巖き石1
0047・62	SK162	HF-48		86×(54)×50	660.6			
	SK163 (欠番)							
0048・62	SK164	HO-53		(58)×39×32	392.2	礎208.3	SX07<SK164<SP136	台石片1
0048	SK165	HJ-49		92×(90)×42			SK165<S115	
0048	SK166	HH-49		92×82×53	5.3		SK166<第2号層外甲	
0048	SK167	HJ-49		84×74×42			SK167<S115	
0047	SK168	HN・NO-52・53		242×(210)×67			SK168>SK155・SK156	
0048	SK169	HN-53		(91)×(20)×88				
0048・62	SK170	HM-53		(170)×(65)×62	17.2	礎913.2	SK170<SK171	磨り石1
0048	SK171	HM-53		(61)×(43)×55			SK171>SK170	
0048・62	SK172	HJ-49		101×88×52	143.5	礎1259.3	SK172>SK173	台石1
0048	SK173	HJ-49		(58)×47×20			SK173<SK172	
0048・62	SK174	HI-48・49		71×(58)×22	1540.0		SK174<S115	
	SK175 (欠番)							
0042	SK176	GI-44		(135)×108×15			S107<SK176<SK110	
0047	SK177	HG-48		(55)×(22)×38			SK177<SK161	
0039	SK178	GF・GG-41・42		137×86×11			SK178>SK79	

溝状土坑一覽

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土器重量 (g)	石器重量 (g)	重層関係	備考
			長軸×短軸×深さ					
D63	SV01	FO-35	286×66×97					BISK37
D63	SV02	GM-42	217×58×37		31.2			
D63	SV03	GG-44	(73)×83×92			總12000.0		BISK70、台石1

土器埋設遺構一覽

調査号	遺構名	グリッド	断面規模 (cm)		土器重量 (g)	石器重量 (g)	重層関係	備考
			長軸×短軸×深さ					
D64	SR01	GG-40	27×24×19		812.2			

屋外炉・焼土遺構一覽

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土器重量 (g)	石器重量 (g)	重層	備考
			長軸×短軸×深さ					
D64	第1号屋外炉	GK-42	73×62×10		84.8			
D64	第2号屋外炉	HJ-49	70×55×8			總5629.1	第2号屋外炉>SK166	台石2
D64	第3号屋外炉	FL-33	36×35×4					
D64	SN01	HE-48	(102)×(68)×18					

掘立柱建物跡一覽

調査号	遺構名	グリッド	規模	付帯施設規模 (cm)		土器重量 (g)	石器重量 (g)	重層関係	備考
				長軸×短軸					
D65・67	SB01	FL・FM-32・33	1×1間 (3.1×2.8m)						
	SB01-Pit 1			50×42					
	SB01-Pit 2			46×40					
	SB01-Pit 3			54×48				Pit 3 > Pit 4	BISK40
	SB01-Pit 4			65×49				Pit 4 < Pit 3	
	SB01-Pit 5			37×36	68.8			Pit 5 < Pit 6	
D65・67	SB01-Pit 6			46×39				Pit 6 > Pit 5	
	SB02	FX・FY-39・40	1×1間 (2.3×1.7m)						
	SB02-Pit 1			43×37	436.4				
	SB02-Pit 2			47×41					
	SB02-Pit 3			38×32					
	SB02-Pit 4			35×33					

性格不明遺構一覽

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土器重量 (g)	石器重量 (g)	重層	備考
			長軸×短軸×深さ					
D70	SX01	FA・FB-26-28	215×144×26				SX01 < 表1	
	SX02 (欠番)							
	SX03 (欠番)							
	SX04 (欠番)							
	SX05 (欠番)							
D68・69	SX06	HE・HF-49・50	391×326×25		593.7	總304.2、總567.4	SX06 > SP122	石核1、二次加工剥片2、微細剥離剥片1、剥片1、砕片5、凹石1、磨石1
D68	SX07	HO-53	(210)×(13)×20		117.1		SP126 < SX07 < SK157・SK164、SP125・SP127・SP131・SP136・SP138	壁6住居の可能性あり
D68	SX08	HN・HO-53	(270)×(-)×35				SX08 > SK155・SK156・SK157	

溝跡一覽

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm)		土器重量 (g)	石器重量 (g)	重層	備考
			長軸×短軸×深さ					
D8・70・73	SD01	ET・FI-26-30	(5,930)×110×52		212.0			
D8・70・73	SD02	EJ・FJ-26-30	(4,100)×56×15					
D10	SD03	GF・GR-40・41	(2,020)×110×41		1569.5			SD03 > SK114・SK122

柱穴一覽

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	出土遺物・痕跡・備考
SP01 (欠番)				
SP02 (欠番)				
SP03 (欠番)				土層11層
SP04	GR-42		30×25×45	柱礎有
SP05	GR-42		37×26×30	柱礎有
SP06	GR-42		22×21×48	柱礎有
SP07	GR-42		43×28×28	
SP08	GR-42		28×25×33	柱礎有
SP09	GR-42		32×30×33	柱礎有
SP10	GR-42		47×34×29	柱礎有
SP11	GJ-41		41×33×22	
SP12	GJ-42		28×24×16	柱礎有
SP13	GJ-42		31×21×17	
SP14	GJ-42		27×18×9	柱礎有
SP15	GJ-42		40×27×28	柱礎有
SP16	GJ-42		34×30×21	柱礎有
SP17	GJ-42		33×28×21	
SP18	GJ-42		54×48×34	柱礎有
SP19	GI-42		49×35×27	柱礎有
SP20	GI-42		27×23×15	柱礎有
SP21	GH-42		26×23×11	柱礎有
SP22	GH-42		21×20×10	柱礎有
SP23	GJ-41		26×24×26	柱礎有
SP24	GI-42		34×25×19	柱礎有
SP25	GH-41		39×36×26	柱礎有
SP26	GG-42		44×34×23	柱礎有
SP27	GH-44		43×42×28	柱礎有
SP28	GH-43・44		35×33×20	柱礎有
SP29	GH-44		39×26×18	柱礎有
SP30	GH-44		37×34×22	柱礎有
SP31	GJ-41		27×25×26	
SP32	GH-41		35×31×19	
SP33	GE-43	(51)	59×36	
SP34	GG-40		36×32×27	SP34>SK81
SP35 (欠番)				
SP36	GJ-44		28×25××	石層・磨り石1 (397.0g)
SP37 (欠番)				
SP38	GJ-48		25×19×15	柱礎有
SP39 (欠番)				SI08-P10 3へ変更
SP40	GI-42		34×31×19	
SP41	GI-42		29×22×41	
0606・67 SP42	GI-42		29×23×26	土層1.6.5g
SP43	GJ-45・46		33×28×34	
SP44	GJ-44		30×27×13	
SP45	GJ-45		30×28×14	SP45>SP46
SP46	GJ-45	(30) × (15) ×16	SP45>SP46	
SP47	GI-45・46		28×25×13	柱礎有
SP48	FW-38		35×30×35	
SP49	FW-38		31×29×27	
SP50	FW-38		29×26×12	
SP51	FW-37		49×45×34	
SP52	FW-37		46×31×19	
SP53	FW-37		29×26×12	SP53<SK31
SP54	PI1・PI-37		38×38×23	
SP55	GH-43		24×19×78	SI09-P10 2へ変更
SP56	GH-42		28×25×40	SI09-P11へ変更
SP57	GH-42		29×19×28	SP57>SI09, SP58
SP58	GH-42	(16)	25×28×28	SP57>SP58
0606・67 SP59	GH-43		27×23×29	土層1.18.1.9g, SP59>SK66
SP60	FW-37		34×27×32	
SP61	GI-44		34×30×22	
SP62	FR-36		50×31×39	SP62<SK117
SP63	GI-40	(44) × (22) ×42	SP63<SK123	
SP64	GH-42		34×30×18	
SP65	GH-42		29×21×19	
0606・67 SP66	GR-41		33×29×22	土層1.48.8g
0606・67 SP67	GI-44		40× (32) ×20	土層1.280.5g, SP67<SK07
0606・67 SP68	GR-42		38× (27) ×17	土層1.193.0g, SP68>SP66, 柱礎有
SP69	GR-42		33×27×22	SP69>SP68, 柱礎有
SP70	GG-41		29×26×33	
SP71	GH-41		29×25×27	石層1.割り2 (9.2g)
SP72	GH-41		47×35×26	
SP73	GH-42		36×20×12	SP74<SP73<SK09
SP74	GH-42	(25) ×21×11	SP74<SK09, SP73	
SP75	GH-43		21×17×13	SP80>SP68
SP76	GG・GH-43		35×32×16	
SP77	GG-42・43		33×28×27	
SP78 (欠番)				
SP79	GP-40		28×25×11	
SP80	GJ-43		26×18×15	

調査号	遺構名	グリッド	規模 (cm) 長軸×短軸×深さ	出土遺物・痕跡・備考
SP81	GI-43		32×20×8	SP81>SK94
SP82	GI-45		24×19×11	SP82<SK96
SP83	GI-44・45		46×35×16	SP83>SP84
SP84	GI-45		28× (12) ×10	SP84<SP83
SP85	GI-45		19×17×9	
SP86	GJ-45		39×32×21	
SP87	GJ-42		47×42×28	柱礎有
SP88	GI-41		45×41×30	
SP89	GJ-41		43×37×28	
SP90	GH-41	(75)	51×39	SP90<SK03, 柱礎有
SP91	GH-42		36×30×40	SP91>SP95
SP92	GH・GI-41		49×45×30	柱礎有
SP93	GJ-44	(26)	25×16	
SP94	GH-44	(25) × (32) ×16		
SP95	GH-42	(24) × (16) ×30	SP95<SP94	
SP96	GP-44		57×45×16	
SP97	GQ-44		35×31×14	
SP98	FW-37・38		32×25×31	
SP99	FW-37		26×25×31	
SP100	PI・FW-38		50×37×42	
SP101	FP-35		26×22×59	
SP102	FP-35		33×28×50	
SP103	FX-38		29×22×17	
SP104				
SP105	GI-45	(24) × (13) ×25		
SP106	GH-45	(20) × (5) ×11	SP106<SK86	
SP107	HI-50		17×12×53	
SP108	HI-50		35×29×34	
SP109	HK-50	(37) ×29×36	SP109<SK147	
SP110	HK-51	36× (16) ×24	SP110<SK145	
SP111	HL-52		30×29×30	
SP112	HL-52		29×21×31	
SP113	HK-51		36×29×25	
SP114	HK-52	(31) × (32) ×25	SP114<SK142	
SP115	HL-52		33×22×17	
SP116	HM-53		44×26×43	
SP117	HK-51		18×17×42	
SP118	HK-50・51		31×31×41	
SP119	HL-52		29×27×41	
SP120	HJ-51		23×18×19	
SP121	HE-49		29×21×25	
SP122	HE-49		23×17×17	SP122<SK06
SP123	HP-53・54	54× (52) ×59		
SP124	HK-53	(44) × (20) ×34		
SP125	HO-53		50×29×61	SP125>SK07
SP126	HO-53	(22) × (23) ×54	SP126<SK07	
0606・67 SP127	HO-53		26×24×30	土層1.192.1g, SP127>SP130
SP128 (欠番)				
SP129	HO・HP-53		29×25×34	
0606・67 SP130	HO-53	(39) ×33×25		土層38.1g, SP130<SP127
SP131	HO-53	(25) × (9) ×37		SP136, SK07<SP131
0606・67 SP132	HO-53		16×12×60	土層2.255g, SP132>SK07
SP133	HO-53		20×15×17	
SP134	HM・HN-53		44×26×68	
SP135	HI-49		27×20×42	
SP136	HO-53	(15) × (5) ×33	SK164, SP131>SP136<SK07	
SP137	HO-53		18×14×24	
SP138	HO-53	(23) × (16) ×15	SP138>SK07	
SP139	HP-53	15× () ×38		
SP140	HI-48		23×21×11	
SP141	HI-49		22×15×28	
SP142	HI-50		19×17×12	
SP143	HI-50		16×14×10	
SP144	HI-50		21×21×24	
SP145	HJ-51		30×21×18	
SP146	HO-53	(23) × (16) ×27		
SP147	HI-53	(22) × (9) ×16		
SP148	HI-49		30×25×34	
SP149	HI-49		19×16×13	HS155-P10
SP150	PI-33		21×18×15	HS103-P15
SP151	PI-33		21×18×25	HS103-P16
SP152	PI1・PI-33		34×31×17	
SP153	PI1-33		18×14×11	
SP154	PI1-33		15×12×14	
SP155	PI1-34		23×19×11	
SP156	PI1-34		23×19×11	

表1 土器(遺構内)観察表

図番	遺構名	層位	器種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考 (内面装文などいろいろ)	口徑 cm	底径 cm	高さ cm
13 1	SI-01	堆積土	P-3+4-16	深鉢	波状口縁(頂部内外面に粘土粒、L.R.)、L.R.横位	L.R.横位	群群E	器外面に煤状炭化物付着	15.9		(14.4)
13 2	SI-01	2	P-1	深鉢	平口縁(L.R.押)、L.R.横位	L.R.横位	群群E	器外面に煤状炭化物付着			
13 3	SI-01	2	P-7-10	深鉢	平口縁(口唇部突起欠損)、R.L.横位	R.L.横位	群群E				
13 4	SI-01	1	P-12	深鉢	平口縁(へう割み)、L.R.横位		群群E	器外面に煤状炭化物付着			
13 5	SI-01	1	P-14	深鉢	平口縁(へう割み)		群群E				
13 6	SI-01	2	P-8	深鉢	波状口縁(頂部内外面に粘土粒)		群群E				
13 7	SI-01 pit1	堆積土		深鉢		方形波線文様の巻酒罇文(L.R.光線)	IV群A				
15 1	SI-02	6床直	P-1	深鉢	6波状口縁、弧状・渦巻波線	縦位弧状波線文	IV群B	器外面に煤状炭化物付着	(21.8)		(30.6)
17 1	SI-04 pit	4堆積土	P-1+2	深鉢	波状口縁、L.R.、横位の文様区画波線	L.R.、4単位・対の方形波線文	IV群A			12.7	(35.0)
17 2	SI-04	4	P-1	深鉢	平口縁、黒文(ケズリ)	ケズリ	IV群A	器外面に煤状炭化物付着	(25.9)		(21.8)
17 3	SI-04	2		深鉢		R.L.斜位	群群K	器外面に煤状炭化物付着			
17 4	SI-04	4	P-2	深鉢	平口縁、L.R.横位、方形波線文		IV群A	器外面に煤状炭化物付着			
17 5	SI-04	4	P-1	深鉢	折り返し口縁、L.R.横位		IV群A	器外面に煤状炭化物付着			
18 1	SI-05	8	P-1	深鉢		R.L.横位、横位の胸骨波線文	IV群E	器外面に煤状炭化物付着		10.7	(25.2)
18 2	SI-05	堆積土		深鉢	4波状口縁(一部所台欠、L.R.押、ボタン状突起、波線の内外面に粘土粒)	L.R.横位	若千欠損 IV群E	器外面に煤状炭化物付着	19.3	8.2	21.2
19 3	SI-05	1	P-19	深鉢		R.L.横位、胸骨文貼付	IV群D				
19 4	SI-05	2	P-16	深鉢		R.L.横位、平行貼付帯	群群D	器外面に煤状炭化物付着			
19 5	SI-05	1		深鉢	波状口縁(折り返し状、R.L.押)、L.R.横位		群群E				
19 6	SI-05	8	P-21+22	深鉢	波状口縁(L.R.押)、波線内外面に粘土粒)	L.R.横位、縦位の波線	群群E	器外面に煤状炭化物付着			
19 7	SI-05	2	P-10	深鉢	平口縁(L.R.押)、横位の粘土粒貼付		群群D	器外面に煤状炭化物付着			
19 8	SI-05	8	P-25	深鉢	波状口縁(R.L.押)、R.L.		群群E				
19 9	SI-05	2	P-15	深鉢	平口縁(R.L.押)、R.L.横位、横位の波線		群群E				
19 10	SI-05	2	P-4	深鉢		縦位の粘土粒(L.R.押)、連続刺突	群群C				
19 11	SI-05	1	P-1	深鉢		弧状の粘土粒(L.R.押)、連続刺突	群群B				
19 12	SI-05	8	P-23	深鉢	平口縁(R.L.押)、R.L.、横位の波線		群群E				
19 13	SI-05	2	P-13	深鉢	平口縁、L.L.R.横位		群群E				
20 1	SI-06 pit1	5堆積土	P-13	深鉢	平口縁、L.R.		IV群D	器内面に煤状炭化物付着	18.3		(6.9)
20 2	SI-06	5	P-12	鉢	平口縁(二文状貼付突起)、縦位波線、連続刺突		V群A	器内面に煤状炭化物付着	(14.8)		(3.8)
20 3	SI-06	1	P-5	深鉢		L.R.横位	IV群D				
20 4	SI-06	1+3	P-4+10	壺		R.L.横位・斜位	IV群D				
20 5	SI-06	堆積土		壺		R.L.横位・斜位	IV群D				
20 6	SI-06	1	P-2	深鉢	平口縁(L.R.押)、横位の粘土粒(L.R.押)、L.R.横位・押		群群D				
21 1	SI-07	床土	P-1	深鉢	平口縁(L.R.押)、L.R.横位	L.R.横位	平底 群群E		(13.5)	6.3	14.0
21 2	SI-07 8	砂・堆積土		深鉢		0段多条L.R.横位、縦位の粘土粒(へう割み)	群群E	器外面に煤状炭化物付着			
22 3	SI-07 8	堆積土		深鉢		L.R.横位	群群D	器外面に煤状炭化物付着			
22 4	SI-07 8	堆積土		深鉢		L.R.横位	群群D	器内面に煤状炭化物付着	12.0		(7.8)
22 5	SI-07	3	P-13	深鉢	R.L.横位、縦位の平行波線		群群G	器外面に煤状炭化物付着			
22 6	SI-07	1	P-5	深鉢	R.L.(白濁白帯) 縦位		群群D	器内面に煤状炭化物付着			
22 7	SI-07 8	堆積土		深鉢	波状口縁(突起縁貼付、L.R.押、L.R.横位)、L.R.横位		群群E				
22 8	SI-07	堆積土		鉢		L.R.、横位の波線	群群E				
22 9	SI-07	2	P-12	深鉢		L.R.横位	群群K				
22 10	SI-07	2	P-14	小型土器	L.R.横位、方形・山形の波線区画文(内面人形文様?)	L.R.横位、方形・山形の波線区画文(内面人形文様?)	平底 群群F	対の縁飾孔	3.1	2.9	4.6
23 1	SI-08	堆積土		深鉢	L.縁回横位	L.縁回1斜位	群群B I	縁線没入			
23 2	SI-08	堆積土		深鉢		L.R.横位	群群B I	縁線没入、器内面に煤状炭化物付着			
23 3	SI-08	堆積土		深鉢		R.L.横位	群群K				

図番号	遺構名	層位	図種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考 (内外面色などいろいろ)	口径 cm	底径 cm	高さ cm
24 1	SI-09	1-4 P-1-4-6-7	深鉢	高状口縁 (L・R押)、縦位の横位の粘土紐 (L・R押)、L・R平行、横状押	結窓(L・R・R・L) 横位		Ⅱ群B	器内外面に煤状炭化物付着	22.1		(20.0)
24 2	SI-09	1	深鉢	高状口縁、横位の斜位の粘土紐(L・押)、L(白縁白粉)、C字押			Ⅱ群B				
24 3	SI-09	2	深鉢	高状口縁、具段階縁文、円形沈線上に刺突列			I群A				
24 4	SI-09	1+2	深鉢		縦位の押痕		I群A				
24 5	SI-09	3	深鉢		器外面縦位・器内面横位の具位条痕		I群A				
24 6	SI-09	3	深鉢		無文		I群A				
24 7	SI-09	2	深鉢	高状口縁 (L・押)、R・L並列押			Ⅱ群D				
26 1	SI-12 埋没2		深鉢	高状口縁 (R・押)、L・R平行・爪形押	結窓(L・R・R・L) 横位		Ⅱ群B	器外面に煤状炭化物付着			
26 2	SI-12 埋没1		深鉢		R・L横位、沈線胸骨文		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
26 3	SI-12 埋没2		深鉢	高状口縁、横位・縦位の粘土紐(L・R押)、L・R平行・爪形押			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
26 4	SI-12 堆積土	P-9-39	深鉢	口唇突起 (内外面粘付)、ボタン状突起、R・L横位、沈線			Ⅱ群E	器内面に粘土紐、器外面に煤状炭化物付着			
26 5	SI-12 埋没1		深鉢	口唇突起 (欠陥)、R・L横位、ボタン状突起、R・L横位、沈線			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
26 6	SI-12 堆積土	P-10-14	深鉢	口唇突起 (欠陥)、口唇 (R・L押)、R・L横位	R・L横位		Ⅱ群E	器内面に燃赤圧痕、器外面に煤状炭化物付着			
26 7	SI-12 堆積土	P-10	深鉢	平口縁 (へう梨み)、L・R横位	L・R横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
26 8	SI-12 堆積土	P-5	鉢	平口縁、横位の平行沈線間に刺突、R・L横位			Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
26 9	SI-12 堆積土	P-17	深鉢	高状口縁 (R・L押)、R・L横位、斜位の沈線			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
26 10	SI-12 堆積土	P-23	深鉢	口唇突起 (R・L押)、口唇部R・L押、R・L横位			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
26 11	SI-12 堆積土		深鉢		R・L横位	平底、R・L	Ⅱ群E			8.0	
26 13	SI-12 埋没2		鉢			平底、無文	Ⅱ群D			5.6	(2.8)
28 1	SI-13 5-堆積土	P-6-12、13	深鉢	口唇突起 (内外面に粘土紐)、L・R横位・押圧、横位・斜位の沈線			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	25.6		(7.5)
28 2	SI-13 堆積土	P-7	深鉢		R・L横位、横位の沈線		Ⅱ群E				
28 3	SI-13 堆積土	P-5	深鉢	平口縁、R・L横位、横位の沈線			Ⅱ群E				
28 4	SI-13 2		深鉢		横位の燃赤圧痕、L・R		Ⅱ群D				
28 5	SI-13 堆積土	P-2-3、4-5	深鉢		R・L横位、沈線胸骨文		Ⅱ群E				
29 1	SI-14 確認面	P-2-17	深鉢		R・L横位、横位の粘土紐		Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
29 2	SI-14 確認面	P-3-13	深鉢	高状口縁、ボタン状突起、貼付胸骨文			Ⅱ群D	器内面に円形刺突、器外面に煤状炭化物付着			
29 3	SI-14 確認面	P-15	深鉢	高状口縁、楕状把手、扇歯状・ボタン状貼付			Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
29 4	SI-14 確認面	P-18	深鉢	平口縁、口唇部断歯状粘付、L・R横位			Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
29 5	SI-14 堆積土		深鉢	平口縁、口唇部断歯状粘付			Ⅱ群D				
31 1	SI-15 堆積土		深鉢		無文	平底	Ⅱ群C			9.6	(13.2)
31 2	SI-15 新	P ⁰ -1+新	深鉢		無文	平底	Ⅱ群C			8.2	(7.6)
31 3	SI-15 堆積土		浅鉢	平口縁、L横位押			Ⅱ群I				
31 4	SI-15 3	P-2	深鉢	燃赤圧痕、連続爪形文			Ⅱ群B	器外面に煤状炭化物付着			
31 5	SI-15 堆積土		深鉢	平口縁、R・L横位、横位の沈線			Ⅱ群A	器外面に煤状炭化物付着			
31 6	SI-15 2		深鉢	R・L横位、横位の沈線			Ⅱ群A				
31 7	SI-15 堆積土		深鉢	高状口縁 (縦の粘土紐、横下に横位の粘土紐粘付)			Ⅱ群D	器内面に粘土紐			
31 8	SI-15 堆積土		深鉢		R・L横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
32 1	SI-16 新本体	P-12	深鉢		R・L横位	あけ底	Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	7.8		(24.0)
32 2	SI-16 床面	P-3	深鉢	口唇部燃赤圧痕、R・L、横位の沈線			Ⅱ群E				
49 1	SK-04 堆積土		深鉢	磨滑胸文			Ⅱ群A				
49 2	SK-07 堆積土		深鉢	高状口縁、ボタン状突起、R・L横位			Ⅱ群E				
49 3	SK-09 堆積土		深鉢		L・R横位		Ⅱ群A	器外面に煤状炭化物付着			
49 4	SK-10 堆積土		鉢	平口縁、無文帯	横位の蛇行沈線文	平底、無文	Ⅱ群B	器外面に黒色付着		12.6	4.3
49 5	SK-10 1	P-1+2	鉢	平口縁、無文帯	横位の蛇行沈線文	若干あけ底	Ⅱ群B		14.4	6.0	14.6
49 6	SK-11 1	P-1+4+9-10-11-12-14	深鉢	4 高状口縁、沈線胸骨文(L・R突起)			Ⅱ群B	器外面に煤状炭化物付着	(29.0)		(16.3)
49 7	SK-11 1	P-5	浅鉢	平口縁、横位の平行沈線	横位連結の沈線胸骨文	あけ底	Ⅱ群B	器内面に赤色顔料塗布	24.4	16.0	7.8
49 8	SK-11 堆積土		深鉢	平口縁 単結1横位			Ⅱ群A	器外面に煤状炭化物付着			

図番	造形名	部位	図種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考 (内面調整などいろいろ)	口径 cm	底径 cm	高さ cm	
49 9	SK-11	4	深鉢			あけ底 無文	Ⅱ群			10.0	(1.6)	
49 11	SK-12	堆積土	深鉢		単純1 (L+R) 縦位		Ⅱ群K	器外面に煤状炭化物付着				
49 12	SK-13	堆積土	深鉢		R.L. 沈線胸骨文		Ⅱ群E					
49 13	SK-16	堆積土	深鉢		R.L. 横位の粘土線		Ⅱ群D					
49 14	SK-16	堆積土	深鉢		R.L. (縦線筋目)、垂直平行・弧状沈線文		Ⅱ群G					
49 15	SK-16	堆積土	浅鉢	平口縁、沈線弧状文			Ⅱ群B					
49 16	SK-16	堆積土	深鉢	平口縁、無文			Ⅱ群B					
49 18	SK-17	堆積土	深鉢	L.R.横位			Ⅱ群K	胴部片				
50 1	SK-15	1・3・9・堆積土	P91-1 P91-2 P-19 P-23	深鉢	波状口縁、R.L.横位・押圧、粘土線胸骨文	R.L.横位、粘土線胸骨文	平底	Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着、波状の内面に貫孔	18.0	6.6	21.4
50 2	SK-15	1・3	P-19 P91-1	深鉢	折り返し口縁 (横位の粘土線筋付)、L.R.横位			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	20.7		(14.9)
50 3	SK-15	1・3・堆積土、I		深鉢	平口縁、横位の粘土線 (ナゾの沈線有り)	L.R.横位		Ⅱ群D		18.4		(17.2)
50 4	SK-15	I、1・10	P-11 P-13-28	深鉢	波状口縁 (波首面外面に粘土線・筋付面に押し沈線)	R.L.横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	22.2		(24.7)
50 5	SK-15	3	P-32	深鉢	波状口縁 (波首部に粘土線)、垂直下部に沈線胸骨文、L.横位・押圧	L.横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
50 6	SK-15	堆積土		深鉢	波状口縁、縦位・横位の粘土線 (L.押、R.平行・C字形押)	筋1 (L.R.+R.L.) 横位		Ⅱ群B	器外面に煤状炭化物付着			
50 7	SK-15	堆積土		深鉢	波状口縁 (R.押)、L.R.横位、平行沈線	L.R.横位、平行沈線		Ⅱ群E				
50 8	SK-15	堆積土		深鉢	波状口縁 (沈線・波首部粘土線)、R.L.、蛇行・弧状沈線文	R.L.横位、蛇行・弧状沈線文		Ⅱ群F				
50 9	SK-15	堆積土		深鉢	平口縁・折り返し口縁 (へう割み)、R.L.横位、横位の平行沈線	R.L.横位、横位の平行沈線		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
50 10	SK-15	堆積土		深鉢		R.L.横位、沈線胸骨文		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
51 3	SK-18	1・2・堆積土、1・10	P-19 P-2-1	深鉢	平口縁、R.単純5縦位	R.単純5縦位		Ⅱ群A	器外面に煤状炭化物付着	26.4		(27.0)
51 4	SK-18	1・4、I	P-2-1 P-2-2	深鉢	平口縁、R.単純5縦位			Ⅱ群A		28.6		(9.2)
51 5	SK-18	1・4・堆積土、I	P-10 P-15	深鉢	平口縁、横ミガキ	R.単純5縦位		Ⅱ群A	器外面に煤状炭化物付着	22.2		(12.0)
51 6	SK-18	堆積土		深鉢	波状口縁、弧状沈線(充満)			Ⅱ群B	器外面に煤状炭化物付着			
51 7	SK-18	堆積土		深鉢	平口縁、縦位・斜位の沈線文			Ⅱ群B				
51 8	SK-18	1・4・堆積土、I	P-1-22	浅鉢		渦巻沈線文	若干あけ底	Ⅱ群B	器外面に黒色付着	8.0		(7.8)
52 1	SK-22	堆積土		深鉢	波状口縁 (R.L.押・粘土線)、R.L.横位、弧状沈線文			Ⅱ群E				
52 2	SK-22	堆積土		浅鉢	波状口縁 (R.L.押・粘土線)、R.L.横位、縦位沈線			Ⅱ群I				
52 3	SK-25	堆積土		深鉢		L.R.横位		Ⅱ群K				
52 4	SK-25	3	P-1	深鉢	波状口縁 (波首部ボタン状突起)、L.R.横位	L.R.横位	あけ底	Ⅱ群E		17.0	7.8	23.0
52 5	SK-26	堆積土		深鉢		無文		Ⅱ群K				
52 7	SK-23	堆積土		深鉢	波状口縁 (波首部欠、粘土線・R.押)、L.R.横位、沈線胸骨文	L.R.横位、沈線胸骨文		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
52 8	SK-26	堆積土		深鉢	口筒突起 (粘土線、L.R.押)、口筒L.R.押、L.R.	L.R.横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
52 9	SK-25	1	P-1-1	深鉢	L.R.押・沈線、口筒突起 (細線沈線・内外面筋付)、L.R.横位、平行・山形沈線、粘土線	L.R.横位、平行・山形沈線、粘土線		Ⅱ群E		32.4		(18.6)
52 10	SK-22	堆積土		深鉢		R.L.横位		Ⅱ群B1	SK34土様合、縦線筋入			
53 1	SK-52	堆積土		深鉢		縦線筋入文B		Ⅱ群B3	縦線筋入			
53 2	SK-52	堆積土		深鉢	波状口縁波首部、内外面に凹形筋付、R.L.押			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
53 4	SK-54	堆積土		深鉢		L.R.横位・斜位		Ⅱ群K				
53 5	SK-55	堆積土		深鉢		縦線筋入文B		Ⅱ群B3	縦線筋入			
53 6	SK-56	堆積土		深鉢		L.R.横位		Ⅱ群K	器外面に煤状炭化物付着			
53 7	SK-59	堆積土		深鉢		R.L.R.横位		Ⅱ群B1	縦線筋入			
53 8	SK-60	堆積土		深鉢		L.R.横位		Ⅱ群K	器外面に煤状炭化物付着			
53 9	SK-61	堆積土		深鉢	平口縁 (折り返し状・突起欠・L.R.押、弧状粘土線筋付)	R.L.横位、粘土線		Ⅱ群D				
53 10	SK-64	堆積土		深鉢		R.L.R.横位		Ⅱ群A	縦線筋入			
53 11	SK-67	堆積土		深鉢	波状口縁波首部 (L.R.押・ボタン状突起)			Ⅱ群E				
53 12	SK-71	堆積土		深鉢		無文		Ⅱ群A	縦線筋入			
53 13	SK-72	堆積土		深鉢	波状口縁、斜位の粘土線 (L.爪形押)			Ⅱ群A	縦線筋入			
53 15	SK-73	堆積土		深鉢		単純1 (R+L) 縦位		Ⅱ群D	縦線筋入、16と同一個体			
53 16	SK-73	堆積土		深鉢		単純1 (R+L) 縦位		Ⅱ群D	縦線筋入、15と同一個体			

図番	遺物名	群位	図種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考 (内面調整などいろいろ)	口径 cm	底径 cm	高さ cm
53 17	SR-75	堆積土	深鉢		R R L 斜位		Ⅱ群B 2				
53 18	SR-80	堆積土	深鉢		粘土層 (R? 群)。ボ タン状貼付。L R 横位		Ⅱ群E				
53 19	SR-81	堆積土	深鉢		L R 横位・斜位		Ⅱ群C				
53 20	SR-84	堆積土	深鉢		R R L 横位		Ⅱ群B 1	確認没入			
53 21	SR-85	堆積土	深鉢		R L ?		Ⅱ群C	器外面に煤状炭化物付着			
53 22	SR-86	堆積土	深鉢		R L R 横位		Ⅱ群B 1	確認没入			
54 1	SR-89 1		深鉢			若干欠け 無文	Ⅳ群A		8.0		(5.0)
54 2	SR-90 1	P-1	鉢		結1 (L R・R L)。 横位の粘土層 (L 群)。	平底	Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着	5.6		(8.5)
54 3	SR-90	堆積土	鉢		L R 横位の粘土層 (L 群)。		Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
54 4	SR-90	堆積土	鉢	平口縁 (L 群)。横位の粘土層 (L 群)。連続刺突			Ⅱ群C				
54 5	SR-91	堆積土	深鉢		R L 横位。円形の粘土層		Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
54 6	SR-91	堆積土	深鉢		R L 横位		Ⅱ群K				
54 7	SR-90	堆積土	深鉢		弧状沈線突 (L R 充填)。 連続の円形刺突		Ⅱ群H	器外面に煤状炭化物付着			
54 8	SR-90	堆積土	深鉢		弧状沈線突 (L R 充填)。 連続の円形刺突		Ⅱ群H				
54 9	SR-94	堆積土	深鉢	波状口縁 (波頭部欠・縦位の粘土層・R L 群)。R L 横位			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着			
54 10	SR-90	堆積土	深鉢	平口縁 (折り返し状・交差状の粘土層)。R L 横位。横位の粘土層			Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
54 11	SR-95	堆積土	深鉢		横位・弧状粘土層。連続刺突		Ⅱ群C				
54 12	SR-95	堆積土	深鉢		R L 横位。横位・斜位粘土層		Ⅱ群D				
54 13	SR-95	堆積土	深鉢		R L 横位。横位・斜位沈線		Ⅱ群E				
54 15	SR-96	堆積土				若干欠け 無文	Ⅳ群A		7.6		(1.7)
54 16	SR-97	堆積土	深鉢		結1 (L R・R L) 横位		Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
54 17	SR-98	堆積土	深鉢	波状口縁 (R L 群)。弧状・ボ タン状貼付。R L 斜位			Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着。器内面に刺突			
54 18	SR-98	堆積土	鉢	平口縁。無文			V 群A	器外面に煤状炭化物付着			
54 19	SR-98	堆積土	小型 鉢	平口縁。無文			V 群A				
54 20	SR-100	堆積土	浅鉢	平口縁。円形・楕円形沈線突 (L R 充填)			Ⅳ群B				
54 21	SR-100	堆積土	深鉢		R L 横位。横位沈線		Ⅳ群A				
54 22	SR-100	堆積土	鉢	平口縁。無文			Ⅳ群B	外面に接合痕存在			
55 4	SR-100	堆積土	深鉢		L R (縦線L結面) 横位		Ⅱ群D				
55 7	SR-107	堆積土	深鉢	平口縁。L 結面横位			Ⅱ群B1	確認没入			
55 8	SR-107・108	堆積土	深鉢		R R L 横位		Ⅱ群B1	確認没入			
56 1	SR-109	堆積土	深鉢		L 結面横位。R R L 斜位		Ⅱ群B1	確認没入			
56 3	SR-111	堆積土	深鉢	平口縁。L L R ? 横位			Ⅱ群B1	確認没入			
56 4	SR-111	堆積土	深鉢	R 結面? 横位			Ⅱ群B1	確認没入			
56 5	SR-113 1	P-2-3-4	深鉢	平口縁 (折り返し状・R L 横位)。R L 横位			Ⅱ群E		25.5		(22.7)
56 6	SR-113 1+堆積土	P-1-2・4-5	深鉢	波状口縁 (R L 群・粘土層)。R L 横位。沈線刺突		あけ底	Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	6.6		(22.2)
56 7	SR-114	堆積土	深鉢	波状口縁 (横位把手等貼付)。			Ⅱ群D				
56 10	SR-119 1	P-4-5・9-9-10-11	深鉢	平口縁 (粘土層・R 群)。粘土層刺突 (L 群)。連続刺突		平底	Ⅱ群C		21.6	7.9	23.5
56 11	SR-119	堆積土	深鉢	波状口縁 (L R 群)。横位・縦位の粘土層 (L R 群)。瓦形L			Ⅱ群B				
56 12	SR-119	堆積土	深鉢	横位・弧状の粘土層 (L R 群)。平行・瓦形L R 群			Ⅱ群B				
57 1	SR-121	堆積土	小型 鉢	平口縁。無文			V 群B				
57 2	SR-123	堆積土	深鉢		R L 横位		Ⅱ群E				
57 3	SR-123	堆積土	深鉢	平口縁 (L R 群)。L R 横位			Ⅱ群E				
57 4	SR-124	堆積土	深鉢		L R ?。二条の沈線		Ⅱ群G	器外面に煤状炭化物付着			
57 5	SR-126	堆積土	深鉢	平口縁。二又状突起。弧状沈線突 (L R L 充填)			V 群D				
57 6	SR-128	堆積土	深鉢		L R 横位		Ⅱ群K				
57 7	SR-129	堆積土	深鉢		湾形刺突		V 群B				
57 8	SR-131	堆積土	深鉢	平口縁 (へうりみ)。R 白陶白粉群			Ⅱ群D				

神原 (2) 造形

図号	造形名	部材	図種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考 (内面調整などいろいろ)	口径 cm	底径 cm	高さ cm
57 9	SK-12	堆積土	深鉢	波状口縁 (内外面にR.L.押)。0段多条R.L.縁位			器群E				
57 10	SK-13	堆積土	深鉢	平口縁 (R.L.両端刺突)。R.L.縁位。縁位の沈線			器群E	器外面に煤状炭化物付着			
57 11	SK-13a	堆積土	深鉢		結目L.R.・R.L.縁位		器群D				
57 12	SK-17	堆積土	深鉢		結目L.R.・R.L.縁位		器群D				
57 14	SK-13b	堆積土	深鉢	平口縁。結目L.R.・R.L.縁位	結目L.R.・R.L.縁位		器群D				
57 15	SK-13c	堆積土	深鉢		L.単結目縁位		器群E				
57 16	SK-13d	1+堆積土	P-2	深鉢		R.L.縁位	平底, R.L.	器群A		8.4	(3.8)
57 17	SK-16	堆積土	深鉢	平口縁 (L.R.押)。L.R.縁位	L.R.縁位		器群E				
57 18	SK-16	堆積土	深鉢	波状口縁。ボタン状突起。L.R.?			器群E				
57 19	SK-14	堆積土	深鉢	波状口縁 (R.L.押)。R.L.縁位			器群E				
57 20	SK-14	堆積土	深鉢		R.L.縁位。縁位の沈線		器群E	器外面に煤状炭化物付着			
57 21	SK-14	堆積土	深鉢		L.R.斜位		器群D				
58 1	SK-14	堆積土	深鉢	脊状突起部。弧状縁付 (へう駒み)。貫通孔。凸形刺突			器群C				
58 4	SK-14	1	P-1	深鉢	平口縁 (R.L.押。ボタン状突起)。縁位・弧状の結目縁位付	R.L.?	器群D	器外面に煤状炭化物付着	18.0		(12.5)
58 5	SK-14	堆積土	深鉢		R.L.縁位		器群D	器内外面に煤状炭化物付着			
58 6	SK-16	堆積土	深鉢		結目 (L.R.・R.L.) 縁位		器群D				
58 7	SK-16	堆積土	深鉢		R.L.縁位。縁位の沈線		器群E				
58 8	SK-19	堆積土	鉢		無文		器群	器外面に煤状炭化物付着 A・B			
58 10	SK-15b	1	P-1	深鉢	口唇突起 (内外面に粘土結)。R.L.縁位	R.L.斜位・縁位	器群E	器外面に煤状炭化物付着	13.0	7.0	19.4
59 1	SK-12	堆積土	深鉢		単結目a (R・L) 縁位		器群D	器外面に煤状炭化物付着			
59 2	SK-12	堆積土	深鉢		結目L.R.・R.L.縁位		器群D	器内外面に煤状炭化物付着			
59 3	SK-13	堆積土	P-1	小型 鉢	平口縁 無文	無文	平底	器群B	器内外面に煤状炭化物付着	08.0	3.5 9.5
59 4	SK-13	堆積土	深鉢	波状口縁 縁位・斜位(粘土結)			器群D	器内面に未通孔			
59 6	SK-14	堆積土	深鉢		結目L.R.・R.L.縁位		器群D				
59 8	SK-17	堆積土	深鉢	波状口縁 (粘土結多条縁付・内面にへう駒状の凹み)			器群D	器面に顔面様裝飾			
59 9	SK-12	堆積土	深鉢	波状口縁 (縁位弧状粘土結・L.R.縁位)			器群D				
59 10	SK-15b	堆積土	深鉢		0段多条縁位		器群D				
59 12	SK-19	堆積土	深鉢	平口縁 (上面面取り・ミガキ仕上げ)。L.R.縁位			器群A	器外面に煤状炭化物付着			
59 13	SK-16	堆積土	深鉢		縁位・縁位の粘土結 (L.押)。結目(L.R.・R.L.)縁位		器群D				
60 1	SK-10	堆積土。Ⅲ	P-1-14	深鉢		結目 (R.L.・L.R.) 縁位。縁位・斜位の粘土結	器群D	器外面に煤状炭化物付着			
60 2	SK-10	11+堆積土	P-13-14	深鉢		L.R.縁位	あけ底	器群D		6.4	(17.1)
60 3	SK-10	11-12	P-14-15	深鉢	平口縁 (対の突起付)。L.R.縁位	L.R.縁位	器群D	器外面に煤状炭化物付着	28.0		(13.0)
60 4	SK-10	11, Ⅲ	P-12-14	深鉢	平口縁。L.R.縁位	L.R.縁位	器群D	器外面に煤状炭化物付着	28.0		(20.1)
60 5	SK-10	堆積土	P-9	深鉢	注口土器の口	口部の下面に対の突起	器群D				
60 6	SK-10	堆積土	深鉢	平口縁。脊状沈線文 (L.R.光線。連続の突起縁付)			器群D	器外面に煤状炭化物付着			
60 7	SK-10	堆積土	深鉢	平口縁。脊状沈線文 (L.R.光線。連続の突起縁付)			器群D				
60 8	SK-10	堆積土	深鉢		平口縁。脊状沈線文 (L.R.光線。連続の突起縁付)		器群D				
61 1	SK-10	11+堆積土。Ⅲ	P-10-11-13-14-15, P-2292	深鉢	平口縁。L.縁位	L.縁位	平底	器群D	器外面に煤状炭化物付着	6.6	(25.5)
61 2	SK-10	11	P-12	深鉢		器内外面ともにへう駒文?	あけ底	器群E		5.5	(10.2)
61 3	SK-11	堆積土	深鉢	平口縁。内外面ともに縁位ミガキ調整			器群C				
62 1	SK-12	堆積土	深鉢		L.R.縁位		器群D				
62 2	SK-12	堆積土	深鉢	平口縁 (折り返し状。L.R.縁位。波状縁付)			器群D				
62 3	SK-14	堆積土	深鉢	平口縁 (折り返し状。L.R.押)。R.L.縁位	R.L. (両端結縁) 縁位		器群E				
62 4	SK-14	堆積土	深鉢		L.R.縁位。縁位沈線		器群E	器外面に煤状炭化物付着			
62 5	SK-17b	堆積土	深鉢	波状口縁。L.R.縁位			器群E	器外面に煤状炭化物付着			
62 7	SK-17	堆積土	深鉢		結目 (L.R.・R.L.) 縁位。縁位粘土結付		器群D				

図 番号	遺構名	層位	図種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考 (内面調整などいろいろ)	口径 cm	底径 cm	高さ cm
62	9 SK-174	1・堆積土	P-1	深鉢	平口縁（L・R押）、結1（L・R・R・L）横位	結1（L・R・R・L）横位	Ⅱ群D		22.0	10.5	28.5
63	1 SV-02	堆積土		深鉢		縦位方向の擦糸文	Ⅳ群A				
64	1 埋設1		P-1、埋設1	深鉢	平口縁、L・R押	多軸筋条体(R・L)	Ⅱ群D		16.9		(14.4)
64	2 埋設4			深鉢		滑消線文（R・L・R・L）	Ⅱ群H				
67	1 SD-01	堆積土		深鉢		結1（L・R・R・L）横位	Ⅱ群D	器外面に煤状炭化物付着			
67	2 SD-02 pit1	1	P-1	深鉢		L・R横位	Ⅱ群E			8.7	(11.9)
67	3 SP-42	堆積土		深鉢	口唇突起部（内外面粘土類粘付、L・R押）		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着、内面に粘土類			
67	4 SP-59	1	P-1	鉢	平口縁、無文	無文	若干赤土質 Ⅳ群	器外面に煤状炭化物付着	9.3	6.0	10.5
67	5 SP-66	堆積土				縦位の筋条体	Ⅱ群C	縦筋器入			
67	6 SP-67	堆積土			平口縁（折り返し状、L・R押）、L・R横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着、(7)と同一個体			
67	7 SP-67	堆積土			流状口縁（L・R押）、L・R横位		Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着、(6)と同一個体			
67	8 SP-66	堆積土		深鉢	平口縁、滑消目、R・R・L横位	R・R・L横位	Ⅱ群B1	縦筋器入、器外面に煤状炭化物付着			
67	9 SP-17	堆積土		深鉢		L・R横位、三条の横位の粘土類	Ⅱ群D				
67	10 SP-17	堆積土		深鉢	横位の粘土類（L・押）、連続の原体未確認瓦	結1（L・R・R・L）横位	Ⅱ群C	器外面に煤状炭化物付着			
67	11 SP-17	堆積土		深鉢		L・R横位	Ⅱ群D		6.5		(2.7)
67	12 SP-130	堆積土		鉢		R・L横位	Ⅳ群A				
67	13 SP-132	1	P-1	鉢	流状口縁（L・R押）、L・R、横位の流筋	L・R横位	Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	7.4		(15.1)
69	1 SX-06	下位、Ⅲ	P-2812	鉢	流状口縁（L・R押）、L・R、横位の流筋	R・L横位	Ⅱ群E	器外面に煤状炭化物付着	13.0	6.5	12.3
69	2 SX-06	3	P-18	鉢	平口縁、無文帯	L・R横位	Ⅳ群C	器外面に黒色付着物	12.6	4.8	12.4
69	3 SX-06	堆積土		深鉢	流状口縁（折り返し状、L横位）	L横位	Ⅳ群A				
69	4 SX-06	堆積土		鉢	平口縁、三条の横位流筋	縦位の条筋	Ⅳ群B	器外面に煤状炭化物付着			

表2 土器(沢1・2)

図	№	出土 地区	出土 グリッド	出土 層位	取上げP-№	口縁部文様	底面	内面 調整	分類	備考
74	1	沢1		9・16	35	R.R.L.横位	上げ気味	ミガキ	0-B1	織織・粗砂混入。
74	2	沢1		9	25	R.R.L.横位、R.L.結回横位	上げ気味、ミガキ	ミガキ	0-B1	織織混入。
74	3	沢1		9・田	21・40	前附斜位・横位	上げ気味、ミガキ	ミガキ	0-B1	織織混入。
74	4	沢1		10	115・117	R.L.単絡1斜位・横位	上げ気味、R.L.R.	ミガキ	0-B1	稀粒孔有り。
74	5	沢1		9	110	隣帯入、口唇(前附)、前附横位、横ナデ		ミガキ	0-B1	織織・粗砂混入。
75	6	沢1		9	83	隣帯入(前附斜位)、前附横位	前附	ナデ	0-B1	織織混入。
75	7	沢1		10・12	124	隣帯入、前附横位	上げ気味、前附、ナデ	ナデ	0-B1	織織・粗砂混入、稀粒孔有り。
75	8	沢1		9	55	隣帯入、直立横位		ナデ	0-B1	織織混入。
76	9	沢1		10	99	R.R.L.(+R.織織結締)横位	上げ気味、R.R.L.	ナデ	0-B1	織織混入。
76	10	沢1		9	60	L.R.結回横位	上げ気味、L.R.結回、 接地面ナデ	ミガキ	0-B1	織織混入。
76	11	沢1		9	24	L.L.R.横位、R.L.R.横位、短沈線		ミガキ	0-B1	織織混入。
76	12	沢1		9・10		縦い波状口縁、R.R.L.横位	上げ気味、R.R.L.	ナデ	0-B1	織織混入、炭化物付着。
76	13	沢1		10	110・114・117	L.R.単絡1斜位、L.R.結回横位	上げ気味、L.R.結回	ナデ	0-B1	織織混入、稀粒孔有り。
77	14	沢1		10	116	R.L.横位	上げ気味、R.L.、ナデ	ミガキ	0-B1	織織混入。
77	15	沢1		10	109	小波状口縁、r.単絡1斜位	r.単絡1	ナデ	0-B1	織織混入。
77	16	沢1		田・9・ 10	32・1218・ 1219・1221・ 1226-1228	2波状口縁(爪刺)、L.単絡1斜位、R.結回横位、内形刺突		ナデ	0-B1	織織混入、扁平器形。
77	17	沢1		9	38・57	R.L.R.横位・押圧	ミガキ	ナデ	0-B1	織織混入。
78	18	沢1		9・10	128・130	隣帯目(L.R.横位)、L.R.横位	上げ気味、ミガキ	ミガキ	0-B1	織織混入。
78	19	沢1		9	52・53	R.L.横位	R.L.?, ミガキ	ミガキ	0-B1	織織混入。
78	20	沢1		9	57	R.附加帯目L.R.横位、前附、L.R.横位	上げ気味、R.附加帯目 L.R.	ミガキ	0-B1	織織混入。
78	21	沢1		9		L.R.横位	L.R.、ナデ消し	ナデ	0-B1	織織混入。
78	22	沢1		9・10	60・127・129	L.R.横位・押圧	上げ気味、ミガキ	ミガキ	0-B1	織織混入。
79	23	沢1		9	87	口唇(爪刺)、R.単絡1斜位、R.L.結回横位		ナデ	0-B1	織織混入。
79	24	沢1		9	39	L.L.R.横位	上げ気味、L.L.R.	ナデ	0-B1	織織混入、小型土器。
79	25	沢1		9	18	隣帯目、R.単絡1横位		ミガキ	0-B2-a	織織混入。
79	26	沢1		6	1063・1122・ 1127・1128・ 1131・1141	L.単絡1横位・横位	L.単絡1、ナデ	ナデ	0-B2-a	織織混入、稀粒孔有り。
79	27	沢1		田・9・ 10	16・17・45・ 114	隣帯目、L.R.単絡1横位・斜位	上げ気味、L.R.単絡1、 ミガキ	ナデ	0-B2-a	織織混入。
80	28	沢1		9	24	口唇(刺突目)、L.単絡1横位・斜位、R.L.R.	上げ気味、R.L.R.、 ミガキ	ミガキ	0-B2-a	織織混入。
80	29	沢1		1・ 田・9・ 76		隣帯目(C.R.単絡1横位)、R.単絡1横位、R.結回横位		ミガキ	0-B2-a	織織混入。
80	30	沢1		9・10	60・60-2	R.R.L.斜位・横位	上げ気味、ナデ	ナデ	0-B2-b	織織混入。
80	31	沢1		9・10	32	R.R.L.斜位・横位	上げ気味、R.R.L.	ナデ	0-B2-b	織織混入。
81	32	沢1		9・10	34	隣帯目(L.L.R.)、L.L.R.斜位、R.結回横位		ミガキ	0-B2-b	織織混入。
81	33	沢1		9	34	隣帯目(R.L.R.横位)、R.L.R.横位・斜位	上げ気味、ミガキ	ナデ	0-B2-b	織織混入、稀粒孔有り。
81	34	沢1		9・10	74・91・115・ 117	口唇(爪刺)、R.R.L.斜位・横位・押圧	上げ気味、R.R.L.	ナデ	0-B2-b	織織混入。
81	35	沢1		9	15	隣帯目(R.R.L.斜位)、R.R.L.横位・斜位		ミガキ	0-B2-b	織織混入。
81	36	沢1		9		L.単絡1横位・横位、R.R.L.押圧		条痕	0-B2-c	織織混入。
82	37	沢1		9・10	25・110・ 111	直合(r.織織結締)斜位・押圧	上げ気味	ナデ	0-B2-b	織織混入。
82	38	沢1		田・9・ 10	1197・1199・ 1240・1309・ 1312・1314・ 1330・1354	隣帯目(C.R.横位)、L.R.横位、回転刺突目(B.半月)		ミガキ	0-B3	織織・粗砂混入。
82	39	沢1	FB-27	9		R.L.R.横位	上げ気味、R.L.R.	ミガキ	0-B1	織織混入。
82	40	沢1	FC-28	9		L.L.R.横位	格子状沈線文	ナデ	0-B1	織織混入。
82	41	沢1	FA-26	9		R.L.R.横位	連続短沈線	ミガキ	0-B1	織織混入。
82	42	沢1	9	79		R.L.R.横位	上げ気味、R.L.R.、ナデ	ミガキ	0-B1	織織混入。
82	43	沢1	FE-28	9		L.L.R.横位	張り出し	条痕	0-B1	織織混入。
82	44	沢1	FC-28	9		R.R.L.横位	上げ気味、R.R.L.	ミガキ	0-B1	織織混入。
82	45	沢1		10	110	L.R.単絡1横位・横位	上げ気味、L.R.単絡1	ミガキ	0-B2-a	織織混入。
82	46	沢1	FR-27	7		R.L.R.横位	上げ気味、ミガキ	ミガキ	0-B1	織織・粗砂混入。
83	47	沢1		10・16	141	R.L.R.横位、R.結回横位	R.単絡1	ミガキ	0-B1	織織混入。
83	48	沢1	FF-29	16		波状口縁、折返口縁、刺突目、L.押		条痕	1	
83	49	沢1	FC-29	6・9		口唇無縁直筋、条痕、刺突		条痕	1	
83	50	沢1	FC-28	9		口縁突起、条痕、沈線		条痕	1	
83	51	沢1		9	34	太沈線		ミガキ	0-A	織織混入。
83	52	沢1	FA-27	7		R.L.R.、連続短沈線		条痕	0-A	織織混入。
83	53	沢1		9	58	隣帯入、直立横位		ミガキ	0-B1	織織混入。
83	54	沢1	FC-28	田		隣帯入、R.L.R.横位		ナデ	0-B1	織織・粗砂混入。
83	55	沢1	FB-27	9		隣帯入、R.L.R.横位、L.R.L.横位		ミガキ	0-B1	織織混入。07と同一個体
83	56	沢1		9	61	隣帯入、R.L.R.横位		ミガキ	0-B1	織織混入。
83	57	沢1	FB-27	7		隣帯入、R.L.R.横位、L.R.L.横位		ミガキ	0-B1	織織混入。05と同一個体
83	58	沢1	FB-27	9		隣帯入(凹状沈線)、L.L.R.横位		ミガキ	0-B1	織織混入。
83	59	沢1	FC-29	9		隣帯入(凹状沈線)、L.L.R.横位		条痕	0-B1	織織混入。
83	60	沢1	FC-28	9・10		隣帯入・口唇(竹刺)、L.L.R.横位、R.R.L.横位		ナデ	0-B1	織織混入。

図	№	出土 地区	出土 グリップ	出土 層位	取り上げP-№	口縁部文様	底部	内面 文様	分類	備考
83	61	沢川	FE-29	Ⅲ		陸帯A (R.L.R.)、R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
83	62	沢川	FE-29	Ⅲ		陸帯B、L.L.R.縦位、R.単線1縦位・縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
83	63	沢川	FC-28	Ⅲ		陸帯B、無文帯、R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	64	沢川	FC-28	Ⅲ		陸帯B (前附)、前附縁位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	65	沢川		9	25・33	陸帯C、R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	66	沢川	FB-28	9		陸帯C (R.L.R.)、R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	67	沢川	FC-28	9・10		陸帯C、L.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	68	沢川		9	34	波状口縁、直合 (O線+結節) 横位、陸帯C・口唇 (円形刺突)		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	69	沢川	FB-28	9		陸帯B、L.L.R.縦位、口唇+口縁部・陸帯 (竹刺)		ナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	70	沢川	FB-27	7		陸帯B、L.L.R.縦位、口唇+口縁部 (竹刺)		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	71	沢川	FE-23	9		口唇 (爪刺)、L.R.結回縁位、R.単線1斜位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	72	沢川		9	10	L.L.R.結回縁位、L.単線1縦位・斜位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。74と同一個体。
84	73	沢川	FC-29	6		R.L.R.縦位、L.L.R.結回縁位		委組	Ⅱ-B1	織線底入。
84	74	沢川	FB-27	9		L.L.R.結回縁位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。72と同一個体。
84	75	沢川		9	87	口唇 (爪刺)、L.結回縁位、R.単線1斜位		ナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	76	沢川		9	82	L.R.縦位、R.結回縁位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	77	沢川	FF-29	16		R.R.L.R.縦位・押圧		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	78	沢川		9	15	L.L.R.縦位・押圧		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	79	沢川	FC-28	9		L.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
84	80	沢川		9・10	100	L.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。補綴孔有り。
84	81	沢川	FB-27・29	9		R.L.R.縦位・押圧		委組	Ⅱ-B1	織線底入。
84	82	沢川	FC-28	9		R.R.L.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	83	沢川	FA-27	6		R.R.L.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	84	沢川	FB-28	Ⅲ		口唇R.L.R.、R.L.R.斜位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	85	沢川		9	10	口唇R.L.R.、R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	86	沢川	FG-29	9		R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	87	沢川	FD-28	10		L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	88	沢川	FF-28	9		L.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	89	沢川	FC-28	Ⅲ		R.L.R.縦位		ナギ	Ⅱ-B1	織線・無文帯底入。
85	90	沢川		10	128	R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	91	沢川	FC-29	10・16	141	R.L.R.縦位、R.単線2縦位		ミナギ	Ⅱ-B1	織線底入。
85	92	沢川	FA-27	7		陸帯A、L.単線1縦位・縦位、無文帯		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
85	93	沢川	FC-28	9		陸帯A (爪刺)、R.単線1縦位		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
85	94	沢川		9	60・2	陸帯B、L.単線1縦位・押圧		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
85	95	沢川	FE-29	Ⅲ		R.単線1縦位		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
85	96	沢川	FF-29	16		小波状口縁、R.単線1縦位、R.R.L.押圧		ナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
85	97	沢川		9・10	56・112	R.単線1縦位		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
85	98	沢川		9	61	L.R.単線1縦位		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
86	99	沢川	FB-27	9		L.L.R.単線1縦位		ミナギ	Ⅱ-B2-a	織線底入。
86	100	沢川	FD-28	9・10		陸帯C (R.L.R.)、R.R.L.縦位・斜位		ナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	101	沢川		10	99	R.結回縁位・横位		ナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	102	沢川	FE-28	9		R.L.R.斜位		ミナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	103	沢川		9	56	L.R.L.斜位		ミナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	104	沢川		9		R.R.L.斜位・横位		ミナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	105	沢川		10	144	R.R.L.斜位		ミナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	106	沢川	FC-27	9		R.L.R.縦位		委組	Ⅱ-B1	織線底入。
86	107	沢川	FB-27	9		L.L.R.縦位・斜位		ミナギ	Ⅱ-B2-b	織線底入。
86	108	沢川		9		陸帯C、口唇・陸帯 (円形刺突)、R.L.R.縦位・無文帯・刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	109	沢川	FB-27	9		無刺突底入A		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	110	沢川		7	5	無刺突底入A		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	111	沢川	FB-20	Ⅲ		無刺突底入A		ナギ	Ⅱ-B3	織線底入。補綴孔有り。
86	112	沢川		7	5	陸帯A、無刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	113	沢川	FC-28	9		陸帯A? (欠損)、無刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	114	沢川		9	72	無刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	115	沢川	FC-28・27	10		無刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
86	116	沢川		7	3	無刺突底入B (半月)、L.L.R.縦位		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	117	沢川	FE-28	9		口唇 (爪刺)、無刺突底入B (爪形)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	118	沢川		6	1171・1173・1174	無刺突底入B (爪形)、ナギ消し		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	119	沢川		6	1168・1158	R.L.R.、無刺突底入B (爪形)		Ⅱ-B3	織線底入。	
87	120	沢川		9		無刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	121	沢川	FC-29	Ⅲ		無刺突底入B (爪形)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	122	沢川		9	40	無刺突底入B (半月)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	123	沢川		6・9	1174・1286	無刺突底入B (爪形)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。接合痕確認。
87	124	沢川		6	1165	無刺突底入B (爪形)		ミナギ	Ⅱ-B3	織線底入。
87	125	沢川	FC-30	6		横状取手・黏付帯、L.押圧、刺突、結1縦位		ミナギ	Ⅲ-C	
87	126	沢川	FC-30	6		棒状突起、L.R.、黏付帯、沈痛		ミナギ	Ⅲ-E	
87	127	沢川		2・3	1005	口唇+突起、黏付帯、R.L.		ミナギ	Ⅲ-E	
87	128	沢川	FF-29	9		口唇 (R.L.刺)、R.L.L.、沈痛		ミナギ	Ⅲ-E	突起内面に黏付帯。
87	129	沢川	FB-27	9		口唇 (爪刺)、R.L.R.縦位		ミナギ	Ⅲ-E	
87	130	沢川		6	1026	口唇 (突起突起)、凹状沈痛、L.R.縦位		ミナギ	Ⅲ-F	
87	131	沢川	FD-27	1		波状口縁、沈痛		ミナギ	Ⅲ-B	

神原 (2) 遺跡

課	No	出土 地区	出土 グリッド	出土 層位	取り上げP-%	口縁部文様	底面	内面 調態	分類	備考
87	132	FB-27		9		並行沈線		ミガキ	ⅥA	
88	133	FB2		5・6	100	隆帯A (R.L.R.縁位), R.L.R.縁位・押圧, 胴部下位~底面に横ナデ		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
88	134	FB2		5	105	隆帯A, R.L.R.縁位, 縦位の磨り消し	上げ気味, ミガキ	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。完形。
88	135	FB2		3・5	90・105	隆帯B (L.L.R.縁位・押圧), L.L.R.縁位	上げ気味, ナデ	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
88	136	FB2	Ⅲ・4	14・21・25・52・30・48・60・75		隆帯B (L.L.R.縁位・R.L.R.縁位), L.L.R.縁位	上げ気味, ミガキ	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り。
88	137	FB2	Ⅰ・Ⅲ・3・5	15・31・59		口唇 (指刺), 隆帯B, L.L.R.縁位, 磨り消し縁位	上げ気味, ミガキ	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
89	138	FB2		5	4	隆帯C (爪刺), R.L.R.縁位		ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
89	139	FB2		5	106	R.L.R.縁位	上げ気味, R.L.R., ナデ	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
89	140	FB2		5	98・102・104	L.L.R.縁位・斜位	L.L.R.	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
89	141	FB2		3・4	2・74・85	口唇 (L.R.), L.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
90	142	FB2		5	98・102・104	R.L.R.縁位・横位	上げ気味, R.L.R.	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り。
90	143	FB2		5	98・100	R.L.R.縁位・押圧	上げ気味, R.L.R., ナデ	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
90	144	FB2	Ⅲ・4・5	26・83		R.L.R.縁位・押圧	上げ気味, R.L.R.	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
90	145	FB2		5	102	L.L.R.縁位・押圧		ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
90	146	FB2		5		小波状口縁, R.L.R.縁位, L.L.R.縁位	上げ気味, ナデ, ミガキ	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り
91	147	FB2		5	102	R.L.R.縁位, 結回縁位	上げ気味, ミガキ	ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
91	148	FB2	Ⅲ・3・4	1・12・72		L.L.R. (L.編織網目) 縁位		ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り。
91	149	FB2	3・4・5	89・94・100		前縁位・ナデ消し		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り。
91	150	FB2		4	4	R.附加帯R.L.R.縁位・押圧		ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
91	151	FB2	Ⅲ・3	62・81		R.L.R.縁位・横位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維 (少), 粗砂痕入。
91	152	FB2		5	99・101・102	口唇 (爪刺), R.L.R.縁位・押圧	上げ気味, 繊維痕, ナデ	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り。
92	153	FB2		4・5	22・49・76	口唇 (R.L.R.), R.L.R.縁位・押圧		ナデ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
92	154	FB2		5	104	R.L.R.? ナデ消し・ミガキ	上げ気味, R.L.R.	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
92	155	FB2		5	90	隆帯C, L.R.単純1縁位	ナデ	Ⅱ-B2-a	繊維痕入。	
92	156	FB2		5		R.単純1縁位	R.L.	ナデ	Ⅱ-B2-a	繊維痕入。
92	157	FB2		5	102	R.L.R.斜位・横位・縦位	上げ気味, ミガキ	ナデ	Ⅱ-B2-b	繊維痕入, 補修孔有。
92	158	FB2		5		隆帯B (直合縁位・斜位), 直合斜位		ナデ	Ⅱ-B2-b	繊維痕入。
92	159	FB2		4	24	隆帯B, R.L.R.縁位, 廻転刺突文B (半月)		ミガキ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	160	FB2		5	100	R.L.R.縁位, 廻転刺突文A縁位	上げ気味?	ナデ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	161	FB2		4	86	廻転刺突文B (半月)	上げ底, 廻転刺突文B, ミガキ	ナデ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	162	FB2	EW-25	5		L.R.縁位	上げ気味, L.R.	ミガキ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	163	FB2		5	89	口唇 (指刺?), 廻転刺突文B (半月)		ナデ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	164	FB2	EW-25	5		L.R.縁位	上げ底, L.R., ミガキ	ミガキ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	165	FB2		5		廻転刺突文A	廻転刺突文A	ミガキ	Ⅱ-B3	繊維痕入。
93	166	FB2		5	100	廻転刺突文A	上げ気味, 廻転刺突文A	ナデ	Ⅱ-B3	繊維痕入, 補修孔有り。
93	167	FB2		5	102	R.L.R.のちナデ	上げ気味, ミガキ	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
93	168	FB2	EW-25	5・6		R.L.R.縁位	R.L.R.	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	169	FB2	EW-25	3		R.L.R.縁位のちナデ・ミガキ		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	170	FB2	EW-25	5		R.L.R.縁位・斜位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	171	FB2	EW-25	4・5	16	隆帯B, L.L.R.縁位	磨り出し, ミガキ	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	172	FB2	EW-25	Ⅲ		R.L.R.縁位	L.L.R., 上げ気味	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	173	FB2		4	73	R.附加帯R.L.R.縁位	上げ底,	ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	174	FB2	EW-25	5	73	R.附加帯R.L.R.	上げ気味, ミガキ	ミガキ	Ⅱ-B1	粗砂痕入。
94	175	FB2		5		L.L.R.単純1縁位・押圧		ミガキ	Ⅱ-B2-a	繊維痕入。
94	176	FB2		5	100	R.単純1縁位	R.単純1	ナデ	Ⅱ-B2-a	繊維痕入, 小型土器。
94	177	FB2		Ⅲ・4	57・80	R.L.R.縁位, 結土編織文		ナデ	ⅢD	
94	178	FB2	EW-25	Ⅲ		結土 (R・L) 縁位	ミガキ	ミガキ	ⅢB	
94	179	FB2		4・5		口唇 (爪刺), 隆帯A, R.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	180	FB2		5	100	隆帯A (L.L.R.縁位), 口唇 (指刺), L.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
94	181	FB2		4	83	隆帯A, 口唇・隆帯 (指刺), 委組, R.L.R.縁位		委組	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	182	FB2		3	64	隆帯A (R.L.R.押圧), R.L.R.縁位・押圧		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維・粗砂痕入。
95	183	FB2		5	100	隆帯A, R.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維・粗砂痕入。
95	184	FB2		Ⅲ		隆帯A, R.L.R.縁位・斜位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	185	FB2		Ⅲ		隆帯A (編織入), 結回縁位? のちナデ		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	186	FB2	EW-25	5		隆帯A, R.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	187	FB2		5		隆帯A (爪刺), R.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	188	FB2		5		隆帯A, 口唇・隆帯 (指刺), L.L.R.縁位・斜位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	189	FB2	EW-25	5		口唇・隆帯 (爪刺), 隆帯A, R.単純1縁位, R.L.R.縁位・斜位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	190	FB2		3		R.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入, 補修孔有り
95	191	FB2		5		L.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	192	FB2	EW-24	5	4	R.L.R.縁位・押圧		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
95	193	FB2	ES-25	黒色土		口唇 (指刺), L.R.結回縁位, L.R.単純1縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
96	194	FB2		3	63・67	L.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
96	195	FB2		5	41	前縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
96	196	FB2		4	24	口唇 (指刺), 前縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
96	197	FB2	EW-25	5	24	R.L.R.? 縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。
96	198	FB2	ES-25	黒色土		R.L.R.縁位		ミガキ	Ⅱ-B1	繊維痕入。

図	No	出土 地区	出土 グリッド	出土 層位	取り上げP-%	口縁部文様	底面	内面 文様	分類	備考
96	199	22	EW-24・25	5	4	R L R 横位		ミガキ	II-B1	編織器入。
96	200	22	EW-25	6		直合 L (RLR-LR) 横位		ミガキ	II-B1	編織器入。
96	201	22	EW-25	III・3		R L R 横位		—	II-B1	編織器入。
96	202	22	III			L R 附加条及 L R 横位		ミガキ	II-B1	編織器入。
96	203	22	EW-25	III		R 単結1横位・縦位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
96	204	22	EW-25	5		隣帯入、L 単結1横位・縦位、無文帯		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
96	205	22	5	44		隣帯入、L 単結1横位、口唇・隣帯(爪刺)、L R 単結1横位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
96	206	22	III			R 単結1横位・斜位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
96	207	22	III			R 単結1横位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
96	208	22	EW-25	5	93	R 単結1横位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
96	209	22	5			R 単結1横位		ナデ	II-B2-a	編織器入。
96	210	22	5	94		R L 単結縦位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
97	211	22	4	27		L L R 斜位		ナデ	II-B2-b	編織器入。
97	212	22	III			R 附加条 L R 斜位		ミガキ	II-B2-a	編織器入。
97	213	22	ES-25	III		R 附加条 L R 横位		ミガキ	II-B2-b	編織器入。
97	214	22	5	89		隣帯(刺条)、口唇(指刺)、細刺突文A		ミガキ	II-B3	編織器入。
97	215	22	4			細刺突文A		ミガキ	II-B3	編織器入。
97	216	22	4・5	33・35・83		細刺突文B(半月)		ミガキ	II-B3	編織器入。
97	217	22	5	100		R L R 横位、細刺突文A縦位、R L R 押圧		ミガキ	II-B3	編織器入。
97	218	22	4	84		隣帯A、口唇・隣帯(指刺)、細刺突文B(半月)		ミガキ	II-B3	編織器入。
97	219	22	EV-25	III		細刺突文B(半月)		ミガキ	II-B3	編織器入。
97	220	22	EV-25	III		隣帯A、L R L		ナデ	II-B1	編織器入。小型土器。

表3 土器(遺構外)観察表

図	番号	出土位置	層位	取上%	器種	口縁部文様	胴部文様	底面	分類	備考	口径 cm	底面 cm	高さ cm
108	1	HP-48-49	III	P-2200	深鉢		隣文(LR) 横位の連続円形刺突	尖底	1群A	器内面に堆積灰化物質			
108	2	FY-36	III		深鉢			尖底 無文	1群A		1.0	(3.5)	
108	3	GA-39	III		深鉢	平口縁、山形文(具位敷縁文)			1群A	器内面の口唇部寄りに具位敷縁文			
108	4	GC-37	I		深鉢	平口縁、方形文(具位敷縁文)の形刺突			1群A	器内面の口唇部寄りに連続具位刺突			
108	5	GJ-45	III		深鉢	狭状口縁、楕円形文(隣帯と刺突)、文様区画内に具位敷縁文を充滿			1群A				
108	6	GA-40	III		深鉢		楕円形文(具位敷縁・連続刺突)		1群A				
108	7	FY-36	I		深鉢	口唇部寄りに一糸の山形文			1群A	器内面の口唇部に連続の具位刺突文			
108	8	FY-40	III		深鉢	平口縁、9条の連続山形文			1群A				
108	9	GA-38	I		深鉢	方形文(隣帯・刺突)、文様区画の内部に具位敷縁文			1群A				
108	10	PX-35	III		深鉢	方形文(具位敷縁文・刺突)			1群A				
108	11	遺構外SK-21	連続上				一糸の連続山形文		1群A				
108	12	GA-40	III		深鉢	横位・斜位の具位敷縁文			1群A				
108	13	GA-40	I		深鉢		無文		1群A				
108	14	GA-40	III		深鉢		無文		1群A				
108	15	GA-40	III		深鉢		無文		1群A	器外面に堆積灰化物質			
108	16	GA-40	III		深鉢		無文		1群A				
108	17	GA-40	III		深鉢		無文		1群A				
108	18	GA-40	III		深鉢		横位・斜位の具位敷縁文		1群A				
108	19	EU-25	III		深鉢	平口縁、一糸の横位粘上縁、L R・RLの直合	L R・RLの直合横位		II群B1	編織器入			
108	20	EX-26	I		深鉢	平口縁、一糸の横位粘上縁及粘上横位			II群B1	編織器入			
108	21	GE-53	I		深鉢	平口縁、L R 横位			II群B1	編織器入			
108	22	ER-24	III		深鉢	平口縁、9条の横位粘上縁	L R 横位		II群B1	編織器入			
108	23	EW-25	III		深鉢	平口縁、横位の粘上縁、0段多条(RL R)	0段多条(RL R)		II群B1	編織器入			
108	24	GM-42	I		深鉢	平口縁、横位の粘上縁、L 粘上	L 粘上横位		II群B1	編織器入			
109	25	FG-29	I		深鉢	平口縁、横位一糸の粘上縁、L R 横位	L R 横位		II群B1	編織器入			
109	26	FF-29	III		深鉢	平口縁、横位の粘上縁	RL・L R 直合横位		II群B1	編織器入			
109	27	EW-25	III		深鉢	平口縁、L R 横位			II群B1	編織器入			
109	28	HI-52	III		深鉢	平口縁、横位の燃灰正底、連続刺突			II群C				
109	29	HF-49	IIIa		深鉢	平口縁、横位の燃灰正底	粘上(L R・RL)横位		II群C				
109	30	HE-49、HF-49	III		深鉢	平口縁、横位の粘上縁に連続刺突、山形文	粘上(L R・RL)横位		II群C				
109	31	GB-36	I		深鉢	平口縁、横位の燃灰正底			II群C				

神原 (2) 遺跡

図番	出土位置	層位	取上No.	器種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考	口径 cm	底部 cm	高さ cm
109	32 遺積5 -R4 HK-49			深鉢	波状口縁、ボタン状突起、 横位の連続刺突、5車輪1 押			Ⅱ群C				
109	33 F9-27	I		深鉢		RL,R	底面にRL	Ⅱ群B	縁部歪入、若干上げ底		6.1	
109	34 EW-26	Ⅲ		深鉢			底面に隅文(?) 平底	Ⅱ群B	縁部歪入			
109	35 EW-25	Ⅲ		深鉢			底面にRL	Ⅱ群B	縁部歪入、若干上げ底			
109	36 EW-28	Ⅲ		深鉢			底面にLR車輪 1押(刺突文)	Ⅱ群D	縁部歪入、平底		(10.0)	
109	37 EO-22- EK-24	I・Ⅱ		深鉢	4段状口縁、胸骨文(粘土)	結文(LR・RL)		Ⅱ群D	器外面に横状刺突物付着	18.0		(19.6)
109	38 遺積5 -SD03	1	P-44	深鉢	縦位・斜位の粘土組、連続 刺突			Ⅱ群C	器外面に横状刺突物付着			
109	39 遺積5 -SD03	2	P-42	深鉢	横位・縦位の粘土組、連続 刺突			Ⅱ群C	器外面に横状刺突物付着			
110	40 FU-35	視風			波状口縁、横状把手、口 唇部に懸垂在底、LR	LR横位		Ⅱ群E	器内面に波状部に粘土組	20.9		(15.6)
110	41 FY-35	I		深鉢	波状口縁、波状の垂下部 に粘土組、LR	LR横位		Ⅱ群E		19.0		(24.8)
110	42 HK-32- IE、G-32	Ⅲ	P-205-207- 309-214- 232-279	深鉢	波状口縁、波状部及び 口唇部に懸垂在底、結文 (LR・RL)	結文LR・RL・横位		Ⅱ群E		28.3		(32.3)
110	43 HJ-50	Ⅲ	P-2424	小型鉢	平口縁、LR	LR		Ⅱ群J		7.0		(6.5)
110	44 FW-35	I		深鉢	波状口縁、横位・斜位の粘 土組、L連続刺、連続L馬 蹄形押			Ⅱ群B				
110	45 ER-24	Ⅲ		深鉢	波状口縁、貫通孔、横位 ・斜位の粘土組にL連続刺 圧、連続刺突			Ⅱ群C				
110	46 FX-35	I		深鉢	波状部に粘土組とボタン 状突起、LR	LR横位		Ⅱ群E	波頂部内面に粘土貼付			
110	47 FY-35	I		深鉢	横位・斜位の粘土組、連続 (L押馬蹄形)			Ⅱ群B				
110	48 HF-53 付道			深鉢	波状口縁(L押)、円形文(L押)			Ⅱ群B				
110	49 FY-35	I		深鉢	Sの字状の隆状部、5車輪1 横位			Ⅱ群J	器内面に段を有する			
111	50 GK-41	I		深鉢	横位・弧状の粘土組、L連 続刺、連続刺突			Ⅱ群C				
111	51 16439	I		深鉢	横位・斜位の粘土組、縦馬 蹄形、貫通孔			Ⅱ群C				
111	52 HJ-48- 49			深鉢	波状口縁、横位・斜位の粘 土組			Ⅱ群D				
111	53 HJ-52	Ⅲ		深鉢	対の貫通孔、波状口縁、 横位粘土組、0段多車輪			Ⅱ群D				
111	54 HJ-51	Ⅲ		深鉢	波状口縁、胸骨文(粘土) 、RL			Ⅱ群D	器外面に横状刺突物付着、 突起内面に馬蹄形刺突			
111	55 3H3 PS-34	Ⅲ		深鉢	波状口縁、波状部に粘土 組、縁部文、0段多車輪 (縦馬蹄形)			Ⅱ群E	器外面に横状刺突物付着			
111	56 HJ-49	Ⅲ		深鉢	波状口縁(L押)、縦位・斜 位の粘土組、RL横位			Ⅱ群D	器外面に粘土組			
111	57 FX-35	Ⅲ		深鉢	二段状突起、弧状の粘土 組			Ⅱ群D				
111	58 FX-35	I		深鉢	横位の粘土組、ボタン状 突起			Ⅱ群E	器内面に粘土組			
111	59 FK-33			深鉢	平口縁、口唇部に連続の 短状部、LR横位			Ⅱ群E	器外面に横状刺突物付着			
111	60 FY-35	I		深鉢	波状口縁、ボタン状突起 横・斜位の粘土組、RL横位			Ⅱ群D				
111	61			深鉢	波状口縁、横位粘土組 横状把手(貫通せず)、LR			Ⅱ群E	波頂部内面に粘土組			
111	62 ER-24	Ⅲ		深鉢	波頂部に粘土組、垂下部 に短状部を粘土組、L横位			Ⅱ群E	器外面に横状刺突物付 着、内面に粘土組			
111	63 FI-30	I		深鉢	波状口縁、横状部に粘土組 胸骨文(沈線)、RL横位			Ⅱ群E				
111	64 FI-30	I		深鉢	波状部に粘土組、RL、胸 骨文(沈線)			Ⅱ群E				
111	65 FY-35	I		深鉢	波状口縁、弧状沈線文、 RL			Ⅱ群F				
111	66 FX-35	Ⅲ		深鉢	波状口縁(短状部)、波頂の 垂下部に粘土組、横位の 沈線、RL横位			Ⅱ群E	器外面に横状刺突物付 着、器内面に粘土組			
111	67 GM-44	I		深鉢	平口縁、口唇部寄りにRL 押、RL、横位沈線			Ⅱ群E				
111	68 GA-36	I		深鉢	平口縁、口唇部寄りにRL 押、RL、横位・斜位沈線			Ⅱ群E	補修孔			
111	69 FX-35	Ⅲ		深鉢	波状口縁、口唇部寄りに RL押、RL、横位弧状 沈線文			Ⅱ群E				
111	70 16439	Ⅲ		深鉢	平口縁、縦位突起、口唇 部寄りLR・RL押、RL・ RL			Ⅱ群E				
111	71 HF-48	Ⅲ		深鉢	波状口縁、ボタン状突起、 RL横位			Ⅱ群E				

図	番号	出土位置	階位	取上No.	器種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考	口径 cm	底部 cm	高さ cm
	111	72	HF-53	I	P-2810	深鉢	波状口縁、波状部に渦巻沈線文、LR縦位						
	111	73	遺検Ⅱ- R3 HF-49			深鉢	折り返し口縁、縦位の沈線、LR縦位						
	111	74	HF-50	Ⅲ		深鉢		LR縦位、楕円形沈線文の内部に連続刺突					
	111	75	HF-48	Ⅲ		深鉢	LR地文に渦巻き・斜位のLR押	LR縦位					
	111	76	HG-48	Ⅲ		深鉢	二股状突起、LR地文に渦巻き・斜位のLR押	LR縦位					
	112	77	HF 50	Ⅲ	P-2707-2708-2709-2710-2711-2712-2713-2714-2715-2716-2717-2718-2719-2720	深鉢		LR縦位	平底			12.0	(41.0)
	112	78	1614-2 HF 51	Ⅲ	P-2806-2807-2808-2809-2810	深鉢	波状口縁、山形文の内部に蛇行沈線文、LR縦位	山形文の内部に蛇行沈線文、LR縦位				21.4	(29.8)
	112	79	HF 50	Ⅲ	P-2718-2719-2720-2721	深鉢	5股状口縁、山形沈線文の内部に渦巻文、LR縦位	山形文の内部に渦巻沈線文、LR縦位				22.0	(28.7)
	113	80	HF-50 HF 51	Ⅲ	P-2810-2811	深鉢	平口縁、LR縦位					32.4	(43.1)
	113	81	HF 51	Ⅲ	P-2810-2811-2812-2813	深鉢	5股状口縁、山形文の内部に蛇行文、RL縦位					26.2	(10.5)
	113	82	遺検Ⅱ- SD01	直線 直上	P-4	深鉢		LR	平底			6.2	(3.1)
	113	83	遺検Ⅱ- SD03	連続上 I	P-40	深鉢		LR縦位	平底			7.4	(4.1)
	113	84	遺検Ⅱ- SD01 FD-28	連続上 P-8	深鉢		RL縦位		平底			7.0	(3.7)
	114	85	1614-2 HF 51, HF 51	Ⅲ	P-2806-2807-2808-2809-2810-2811-2812-2813-2814-2815-2816-2817-2818-2819-2820	深鉢	平口縁、LR縦位		平底			26.4	9.6 42.1
	114	86	HF 50 HF-49	Ⅲ	SD01118 P-1, P-2806-2809-2810-2811	深鉢	平口縁、LR縦位・斜位、縦位の短沈線					28.0	(23.0)
	115	87	HF 50, HF 50	Ⅲ	P-3429-3430	深鉢	5股状口縁、二股の沈線区画線、波状沈線文、RL縦位					24.0	(16.5)
	115	88	FK-31	Ⅲ		深鉢	平口縁、縦位・楕円形沈線文					9.6	(7.9)
	115	89	HF1-50	Ⅲ		深鉢	平口縁、方形文(LR光沢)						
	115	90	HF 51	Ⅲ		深鉢	波状口縁、楕円形文、口縁部と直下にLR磨消線文						
	115	91	遺検Ⅱ- R3 GH-40	Ⅲ		深鉢	平口縁、ボタン状突起、LR押、LR縦位						
	115	92	HF 51	Ⅲ		深鉢	平口縁(折り返し状)、楕円形文(LR光沢)						
	115	93	GH-40	I		深鉢	二又状突起、RL地に波状沈線						
	115	94	HF 51	Ⅲ		深鉢	波状口縁、縦位の短沈線、RL楕円形押						
	115	95	HF1-51	Ⅲ		深鉢	RL、山形・蛇行沈線文						
	115	96	EO-22	I		壺		横位及び縦位の波状沈線文様					
	115	97	HL-52	Ⅲ		深鉢	平口縁、L押、RLR、楕円形沈線文						
	115	98	HF-51	Ⅲ		深鉢	折り返し口縁 (LR)						
	115	99		Ⅲ		深鉢	平口縁、山形文の内部に渦巻沈線文、RL縦位						
	115	100	FG-29	I		深鉢	波状口縁、縦位・斜位の沈線、RL縦位						
	115	101	HF 52	Ⅲ		深鉢	平口縁、縦位の短沈線、連続刺突、沈線						
	115	102	HF 50	Ⅲ		深鉢	口縁突起、LR斜位・縦位・斜位沈線						
	115	103	遺検Ⅱ- R3 GH-39	Ⅲ		壺	文様区画帯の内部に斜位・波状沈線文						
	116	104	HF 51, HF 51	Ⅲ	P-2793	深鉢		RL縦位				38.0	(42.3)
	116	105	FJ-30	I		鉢	口唇部に突起、RL、渦巻沈線文						
	116	106	1614-2	Ⅲ		深鉢	波状口縁、縦位沈線、RL縦位						
	116	107	GH-38	I		鉢	平口縁、方形・蛇行沈線文						
	116	108	PI-30	I		深鉢	波状口縁、LR地に横位沈線						

図番	出土位置	階位	取上No.	器種	口縁部文様	胴部文様	底部	分類	備考	口径 cm	底径 cm	高さ cm
116	109 GC-39	I		深鉢	波状口縁、縦位の隅形口縁文様			IV群A				
116	110 FK-31	III		深鉢		横位波線、華詰め縦位		IV群A				
116	111 FL-32	III		深鉢	縦位弧状の横波線			IV群B				
116	112 遺構6→ 穴3 GB-40	III		深鉢	波状口縁、方形文(L&R光潤)			IV群B				
117	113 HG-48、 HF-48			浅鉢	平口縁、横位・弧状波文(L&R光潤)	無文?	平底	IV群C		30.6	6.0	10.3
117	114 HF-49		P-2315	壺	横位・弧状文 (L&R光潤)			IV群C		9.8		(5.5)
117	115 HG-48、 HF-48-0	III	5306P-15、 P-2140-2131- 2139-2150	深鉢	平口縁、L&R横位・斜位			IV群D	器内面に横位の調整痕			
117	116 遺構5 穴3	III	P305-307- 305305-309- 301	壺	平口縁、対の突起	無文	平底	V群A	3/4ヘラ口縁・胴部・底部	8.2	6.2	(14.8)
117	117 FX-35	I		深鉢	平口縁、対の突起、L&R横位	L&R横位		IV群D		24.6		(21.5)
117	118 HK-51	III		深鉢	口唇部に対の突起、L&R			IV群D	122と同一個体			
117	119 HF-49	III		深鉢	平口縁、無文			IV群C				
117	120 HJ-51	III		深鉢	平口縁、L&R横位・縦位			IV群K				
117	121 GA-35	I		深鉢	平口縁、無文			IV群C	器外面に横位弧状物付着			
117	122 HK-51	III	P-2010-2017- 275	深鉢	対の突起、弧状の磨消溝文(L&R光潤)			IV群D	118と同一個体 器外面に横位弧状物付着			
117	123 遺構6→ 穴3		P-2	鉢	平口縁、変形工字文			VI群A				
117	124 HF-48-0		P-2322	深鉢	平口縁、横位波線			IV群C				
117	125 FH-29			鉢	変形工字文		RL	VI群A				
117	126 遺構6→ 穴4 HK-49			鉢	平口縁、横位・斜位波線			VI群A				
117	127 FY-35	I		深鉢	横位・変形波線文様、L&R			IV群C	器外面に赤色顔料塗布			
118	128 HJ-51			深鉢	波状口縁、L&R横位			IV群C	器外面に横位弧状物付着			
118	129 GA-36	I・III		壺			RL・斜位	IV群C				
118	130 FI-30	I		壺	平口縁、口唇部上面に連続突起、横位波線			IV群B	器内面に二重の横位波線			
118	131 FY-35	I		壺		二段の文様区画帯 山形文、RL・斜位		IV群C	器外面に赤色顔料塗布			
118	132 GA-36	I		壺		横位波線、山形文 RL・斜位		IV群C	器外面に赤色顔料塗布			
118	133 GA-36	III		壺		横位波線、山形文 RL・斜位		IV群C	器外面に赤色顔料塗布			
118	134 FY-36	III		壺		二段の文様区画帯 山形文、RL・斜位		IV群C	器外面に赤色顔料塗布			
118	135 FY-35	III		壺		横位波線 山形文		IV群C	器外面に赤色顔料塗布			
118	136 HF-48、 HF-49	III	P-219-268	台付鉢	平口縁、口唇部上面に刻み、縦位の縦目	縦位の縦目	上げ底	III群	古式土師器 内面ヘラナシ	(9.2)	5.2	11.7

表4 土製品観察表

図番	番号	出土位置	階位	器種	文様	分類	備考	口径 cm	底径 cm	高さ cm
29	8	SI-14	堆積土	土玉	断面形が台形 中央部に貫通孔 無文	A		(長)3.2	(幅)3.25	(厚)1.05
54	14	SK-95	堆積土	土玉	断面形が台形 中央部に貫通孔	A		(長)6.2	(幅)2.5	(厚)1.1
54	23	SK-100	堆積土	ミニチュア 鉢?	平口縁 無文	B	焼成良好	2.2		(3.8)
98	221	穴1 FB-27	9	粘土塊	粘土塊に幼児がかんだ歯形の痕跡	C		(長)3.95	(幅)2.8	(厚)1.25
98	222	穴1 FE-28	III	土鍋	地文磨文地に方形文・曲線文を施文	D	十字形土鍋の胴部	(長)4.0	(幅)4.4	(厚)1.3
98	223	穴1 FC-28	9	円盤状土製品	深鉢形口縁部片 両縁を打ち欠く 無文	E	縦線型入	(長)4.9	(幅)4.4	(厚)1.1
98	224	穴1 FB-27	9	円盤状土製品	深鉢形胴部片 縦線文	E	縦線型入	(長)4.1	(幅)3.6	(厚)1.1
98	225	穴1 FB-27	9	円盤状土製品	深鉢形胴部片 縦文(L&R)	E	縦線型入	(長)4.2	(幅)4.3	(厚)1.1
98	226	穴1 FB-27	9	有孔土製品	中央部に穿孔 無文	A	1/2穴損	(長)2.85	(幅)1.79	(厚)1.0
98	227	穴1	9	ミニチュア 鉢	合わせ標り一段と結面	B	赤げ底、ほぼ定形	4.1	1.7	4.1
98	228	穴1 FC-28	9	ミニチュア 底辺部 無文		B	赤げ底		2.0	(1.35)
98	229	穴2 EW-23	堆積土	ミニチュア 横文(L&R)		B	赤げ底		2.5	(1.8)
98	230	穴2 EW-25	3・5	ミニチュア 横文(L&R)		B	平底		3.2	(2.1)
118	127	FX-35	I	ミニチュア 横文(L&R)		B	若干赤げ底		2.5	(2.9)
118	138	HJ-52	III	ミニチュア 鉢?	平口縁 無文	B	取上No P-2110			
118	139	遺構6(穴3)	堆積土	ミニチュア 鉢 無文		B	平底		3.6	(2.1)
118	140	FE-28	堆積土	ミニチュア 鉢 無文		B	平底		2.4	(1.5)
118	141	FY-34	I	ミニチュア 鉢 平口縁 無文		B	焼成良好			
118	142	HF-49	III	ミニチュア 鉢 平口縁 横位方向に連続縦突		B				
118	143	EW-25	III	有孔土製品	中央部に円形の穿孔 縦線部に縦文	A	1/2穴損	(長)3.2	(幅)1.95	(厚)1.2
118	144	EU-26	I	方形状土製品	胴部片 横位方向の弧状文	E		(長)4.8	(幅)4.5	(厚)0.9

表5 剥片石器観察表

図番	部類	出土位置	グリップ	解状	取上No.	備考	石材	計測値			
								長さ	幅	厚さ	重量
15	2 スクレイバー	SI-02		堆積上		A軸極短、左側部の突起部は鏝として使用、右側欠損	珪質頁岩	45.5	(25.7)	7.6	7.6
19	18 石鏝	SI-05	GK-45	2層	S-5	有革、先端部欠損、アスファルト付着	珪質頁岩	(58.9)	12.8	7.3	4.9
19	19 石鏝	SI-05		1層		基部欠損、未製品	珪質頁岩	(28.7)	14.3	5.5	1.2
22	11 スクレイバー	SI-07	GI-44	3層	S-4	C軸、基部使用	珪質頁岩	28.1	35.6	13.1	10.8
22	12 石鏝	SI-07	GH-44	1層	S-2	両面に光沢あり	珪質頁岩	75.8	32.5	20.1	42.4
24	9 スクレイバー	SI-09		2層		C軸、左側欠損、縁辺に微細網織	珪質頁岩	55.4	(34.3)	9.4	13.6
24	10 スクレイバー	SI-09		2層		C軸、一部欠損	珪質頁岩	57.3	(86.9)	15.6	60.5
26	13 石鏝	SI-12	GO-44	堆積上	S-1	有革、基部欠損	珪質頁岩	(33.7)	10.7	6.3	2.1
26	14 石鏝	SI-12	GO-44	堆積上	S-4	基部欠損	珪質頁岩	(34.3)	15.1	5.3	2.4
26	15 石鏝	SI-12	GO-43	堆積上	S-15		珪質頁岩	64.1	86.0	28.6	131.9
29	6 石鏝	SI-14	HG-51	堆積上	S-1	有革、基部にアスファルト付着?	珪質頁岩	43.8	16.3	6.7	3.9
29	7 石鏝	SI-14	HF-51	堆積上	S-3	未製品、基部欠損	珪質頁岩	(32.5)	14.9	7.3	3.2
49	10 石鏝	SK-11	GB-37	1層	S-1		珪質頁岩	33.5	28.9	4.6	6.0
49	17 石鏝	SK-16		堆積上		有革、基部欠損	珪質頁岩	(41.5)	11.9	7.6	3.7
51	1 二次加工済み石鏝	SK-15	PX-35	1層	S-1	右側未製品	珪質頁岩	29.8	13.3	5.0	1.6
51	9 石鏝	SK-18		堆積上		基部欠損	珪質頁岩	(36.7)	29.0	13.6	15.5
51	10 スクレイバー	SK-18	PV-36	1層	S-3	C軸	珪質頁岩	42.9	29.1	7.8	10.3
53	14 二次加工済み石鏝	SK-72		3層		下半部縁辺磨鈍	珪質頁岩	55.1	19.0	14.9	15.8
61	5 石鏝	SK-161		11層	S-9	縦型	珪質頁岩	44.3	19.7	7.3	5.8
69	5 二次加工済み石鏝	SX-06	HF-49	堆積上	S-15	残核素材	珪質頁岩	70.7	94.0	26.2	134.4
69	6 石鏝	SX-06	HF-49	堆積上	S-4-5		珪質頁岩	78.7	59.8	27.1	97.9
98	1 石鏝	PC1	FA-27	9層		無象牙基	珪質頁岩	29.6	18.4	6.0	2.4
98	2 石鏝	PC1	FB-27	9層		無象牙基	珪質頁岩	31.4	17.9	5.4	3.0
98	3 石鏝	PC1	FD-28	10層	S-55	無象牙基	珪質頁岩	27.5	14.4	4.1	1.6
98	4 石鏝	PC1	FC-28	9層	S-56	無象牙基	珪質頁岩	30.3	20.0	4.2	2.2
98	5 石鏝	PC1	FF-28	10層	S-397	無象牙基	珪質頁岩	34.4	17.5	4.6	2.3
98	6 石鏝	PC1	FB-27	9層	S-10	無象牙基	珪質頁岩	38.2	15.5	4.4	1.9
98	7 石鏝	PC1	FE-28	10層	S-394-1	無象牙基	珪質頁岩	37.4	21.3	5.2	3.7
98	8 石鏝	PC1	FC-28	9層		無象牙基	メノウ	40.0	22.0	8.0	5.8
98	9 石鏝	PC1	FF-29	9層	S-241	先端部欠損	珪質頁岩	(33.4)	19.4	4.4	2.7
98	10 石鏝	PC1	FE-29	9層	S-87	無象牙基	珪質頁岩	53.5	18.2	4.8	3.9
98	11 石鏝	PC1	FE-28	10層	S-392	基部欠損	メノウ	(29.0)	(18.4)	3.9	1.7
98	12 石鏝	PC1	FF-29	10層	S-336	先端部・基部欠損	メノウ	(16.8)	(15.5)	6.5	1.3
98	13 石鏝	PC1	FF-29	9層	S-194	先端部欠損	珪質頁岩	(51.9)	23.4	8.2	12.2
98	14 石鏝	PC1	FD-28	10層			珪質頁岩	75.9	35.8	18.5	49.7
98	15 石鏝	PC1	FF-29	9層	S-188		珪質頁岩	90.7	32.7	11.7	36.9
98	16 石鏝	PC1	FB-27	1層		17と同一個体	珪質頁岩	(57.1)	34.9	14.7	25.3
98	17 石鏝	PC1	FE-29	9層		16と同一個体、縦断面に再調整あり	珪質頁岩	(41.3)	37.2	17.7	30.9
98	18 石鏝	PC1	FC-28	9層	S-29	基部欠損、縦断面に再調整あり	珪質頁岩	(46.8)	27.9	14.4	21.8
99	19 石鏝	PC1	FF-29	9層	S-100	縦型、先端わずかに磨鈍	珪質頁岩	80.8	25.8	15.2	22.4
99	20 石鏝	PC1	FF-29	10層	S-329	縦型、裏面に光沢あり	珪質頁岩	77.5	21.3	8.1	11.7
99	21 石鏝	PC1	FC-29	10層	S-334	縦型	珪質頁岩	91.0	24.4	11.2	20.2
99	22 石鏝	PC1	FD-28	10層	S-55	縦型、未製品?	珪質頁岩	50.7	22.1	12.8	22.1
99	23 石鏝	PC1	FE-29	9層	S-161	縦型、つまみ部欠損、先端に打面残存	珪質頁岩	(84.7)	26.1	16.1	24.3
99	24 石鏝	PC1	FB-27	9層		縦型、刃部に欠損、基部欠損	珪質頁岩	(82.1)	24.0	11.3	15.5
99	25 石鏝	PC1	FF-29	9層	S-112	縦型、裏面に光沢あり	珪質頁岩	102.3	27.9	11.3	21.5
99	26 石鏝	PC1	FE-29	9層		縦型、つまみ部に付着物あり?	緑色片岩	92.1	28.1	12.0	21.8
99	27 石鏝	PC1	FB-27	9層	S-9	縦型	珪質頁岩	83.2	23.1	13.9	16.2
99	28 石鏝	PC1	FB-28	7層	S-1028	縦型、先端磨鈍、鏝として使用、裏面に光沢あり	珪質頁岩	84.4	34.5	8.4	13.4
99	29 石鏝	PC1	FD-28	10層	S-271	縦型、裏面に光沢あり	珪質頁岩	79.5	23.4	9.4	15.1
99	30 石鏝	PC1	FA-27	9層		縦型、裏面に光沢あり	珪質頁岩	64.2	29.8	11.0	12.8
99	31 石鏝	PC1	FF-29	10層	S-323	縦型、先端磨鈍、鏝として使用	珪質頁岩	85.1	22.5	17.8	19.3
100	32 石鏝	PC1	FE-28	9層		縦型、先端磨鈍	珪質頁岩	56.2	19.7	7.5	7.8
100	33 石鏝	PC1	FB-27	9層	S-20	縦型、表面縁に光沢あり	珪質頁岩	77.1	26.5	8.6	13.9
100	34 石鏝	PC1	FF-29	9層	S-259	縦型、両面に黒色付着物	珪質頁岩	63.6	28.4	9.5	11.4
100	35 石鏝	PC1	FC-28	9層	S-267	縦型、両面に黒色付着物	珪質頁岩	66.0	31.1	8.6	13.0
100	36 石鏝	PC1	FE-29	9層	S-160	縦型、先端に打面残存	珪質頁岩	86.2	30.5	25.5	24.3
100	37 石鏝	PC1	FE-29	9層		縦型、産地推定分析資料1	黒曜石	54.4	34.8	11.0	14.8
100	38 石鏝	PC1	FC-28	9層		縦型、未製品	黒石炭	78.0	32.0	10.0	22.0
100	39 石鏝	PC1	FE-29	9層		縦型、幅広、裏面に光沢あり	珪質頁岩	65.2	39.3	11.6	21.0
100	40 石鏝	PC1	FC-27	9層		縦型、幅広、横長斜行素材、微細網織あり	珪質頁岩	56.8	32.9	11.5	17.7
100	41 石鏝	PC1	FC-28	9層	S-205	縦型、横長斜行素材、一部欠損	珪質頁岩	34.9	(41.9)	7.1	7.2
100	42 石鏝	PC1	FB-27	10層	S-23	先端部磨鈍あり	珪質頁岩	54.6	31.4	9.1	10.1
100	43 石鏝	PC1	FD-27	9層		先端部わずかに光沢あり	珪質頁岩	59.2	33.7	8.8	12.2
100	44 石鏝	PC1	FB-27	7層	S-16	先端部磨鈍あり	珪質頁岩	69.1	29.1	19.4	38.6
101	45 スクレイバー	PC1	FC-28	10層	S-53	A軸極短、裏面下端磨鈍に光沢あり	珪質頁岩	47.4	29.7	10.1	13.1
101	46 スクレイバー	PC1	FB-28	7層	S-14	A軸極短	珪質頁岩	30.0	20.7	7.7	4.8
101	47 スクレイバー	PC1	FC-28	9層	S-137	刃部欠失状、裏面磨鈍、微細網織あり	珪質頁岩	65.3	26.4	15.8	13.4
101	48 スクレイバー	PC1	FF-28	10層	S-301	刃部向軸状欠失	珪質頁岩	71.6	27.6	14.5	15.9
101	49 スクレイバー	PC1	FD-27	10層		刃部欠失状、微細網織あり	珪質頁岩	56.5	(32.6)	11.6	12.1
101	50 スクレイバー	PC1	FF-29	10層		刃部欠失状、基部欠損	珪質頁岩	(61.2)	36.6	15.0	21.3
101	51 スクレイバー	PC1	FF-29	9層	S-253	刃部向軸状欠失	珪質頁岩	48.1	43.5	10.7	13.8
101	52 スクレイバー	PC1	FE-29	9層		刃部欠失状、縁辺に微細網織あり、一部欠損	珪質頁岩	46.4	(60.4)	11.3	21.5

神原(2)遺跡

図番	図種	出土位置	グリッド	層位	取上No.	備考	石材	計測値				
								長mm	幅mm	厚mm	重量g	
101 53	スクレイパー	Ⅰ	FB-27	9層		B船-挟入状、黒磁河磨あり、一部欠損	埴貫頁岩	39.2	132.1	9.3	7.6	
101 54	スクレイパー	Ⅰ	FB-27	9層		B船-両側挟入状	埴貫頁岩	51.9	31.6	8.5	12.0	
101 55	スクレイパー	Ⅰ	FE-29	9層		B船-挟入状、黒磁河磨あり	埴貫頁岩	65.0	50.6	11.1	23.0	
101 56	スクレイパー	Ⅰ	1トレンチ	FD-29	10層		B船-両側挟入状	埴貫頁岩	51.9	42.2	16.5	15.3
101 57	スクレイパー	Ⅰ	FF-29	9層	S-103	B船-両側挟入状、先端わずかに摩耗、表面上部縁に光沢あり	埴貫頁岩	58.5	35.1	8.7	10.9	
101 58	スクレイパー	Ⅰ	FG-29	10層	S-103	B船-両側挟入状	埴貫頁岩	47.4	36.1	9.2	11.1	
102 59	スクレイパー	Ⅰ	FC-28	9層		B船-挟入状	埴貫頁岩	49.4	37.6	9.9	14.4	
102 60	スクレイパー	Ⅰ	FB-27	9層	S-1	B船-挟入状、表面左下端部に摩耗・光沢あり	緑色片岩	81.9	79.1	15.2	32.3	
102 61	スクレイパー	Ⅰ	FE-29	9層	S-156	C船	埴貫頁岩	43.9	37.5	13.2	19.5	
102 62	スクレイパー	Ⅰ	FC-28	10層	S-269	C船	埴貫頁岩	45.0	55.1	17.8	40.1	
102 63	スクレイパー	Ⅰ	FB-27	10層	S-22	C船	埴貫頁岩	65.3	54.6	15.1	45.1	
102 64	スクレイパー	Ⅰ	FF-29	16層		C船	埴貫頁岩	38.5	45.5	21.2	17.6	
102 65	スクレイパー	Ⅰ	FF-29	10層	S-321	C船、一部欠損	埴貫頁岩	51.0	33.9	7.8	7.8	
102 66	両面調整削片	Ⅰ	FF-29	10層	S-295	刃部鋭角	埴貫頁岩	43.9	30.9	12.8	14.6	
102 67	両面調整削片	Ⅰ	FF-29	9層		刃部急角度	埴貫頁岩	48.7	39.8	15.8	23.7	
102 68	両面調整削片	Ⅰ	1トレンチ	FE-29	9層		刃部急角度	埴貫頁岩	49.1	44.8	22.4	43.8
102 69	両面調整削片	Ⅰ	FB-27	9層	S-7	刃部急角度	埴貫頁岩	56.5	46.5	24.1	57.1	
103 70	石核	Ⅰ	FE-28	9層	S-86		埴貫頁岩	40.1	52.9	48.1	94.5	
103 71	石核	Ⅰ	PB-28	6層	S-1001		埴貫頁岩	57.0	46.5	31.3	80.4	
103 72	石核	Ⅰ	FB-27	9層		縦打痕あり、縦き石に転用	埴貫頁岩	52.6	61.5	40.6	138.1	
103 73	石核	Ⅰ	FE-28	9層			埴貫頁岩	42.7	53.3	28.0	59.3	
103 74	石核	Ⅰ	FB-27	9層	S-366		埴貫頁岩	70.8	50.4	34.0	123.8	
103 75	石核	Ⅰ	FB-27	7層	S-4		埴貫頁岩	50.4	49.1	37.7	102.5	
103 76	石核	Ⅰ	FF-29	10層	S-299		埴貫頁岩	50.0	61.7	38.1	118.3	
104 77	石核	Ⅰ	FC-28	9層			埴貫頁岩	55.6	56.1	32.8	99.6	
104 78	石核	Ⅰ	FF-29	9層	S-232		埴貫頁岩	72.8	43.8	33.1	107.8	
119 1	石核	遺構外(SK-25)		堆積上		有茎	埴貫頁岩	28.7	13.1	4.3	1.1	
119 2	石核	遺構外	HF-48	10層	S-2039	有茎、基部欠損	埴貫頁岩	36.4	20.5	5.4	3.2	
119 3	石核	遺構外	HH-51	10層	S-2011	有茎、基部欠損	埴貫頁岩	39.1	11.5	5.9	2.3	
119 4	石核	遺構外	FV-35	1層		有茎、基部・先端部欠損、黒色物付着	埴貫頁岩	44.2	13.8	5.7	3.1	
119 5	石核	遺構外	FG-29	1層		縦型、表面縁に光沢あり	埴貫頁岩	78.4	26.2	13.0	19.2	
119 6	石核	遺構外	EV-25	10層		縦型、裏面に光沢あり	埴貫頁岩	73.4	26.2	0.7	12.4	
119 7	石核	遺構外(OD-01)	FE-29	堆積上	S-5	縦型	埴貫頁岩	91.7	22.9	11.5	17.9	
119 8	石核	遺構外	EW-26	1層			埴貫頁岩	65.3	29.1	10.7	14.0	
119 9	石核	遺構外	HH-50	10層	S-2060	大石平型石核、表面下半部に摩耗あり	埴貫頁岩	34.2	27.4	6.0	5.3	
119 10	スクレイパー	遺構外	HG-48	10層	S-2042	C船-棒状、縁の未製品か	埴貫頁岩	44.6	18.3	7.6	5.8	
119 11	石核	遺構外	HG-48	10層		縦断面に再調整あり	埴貫頁岩	63.5	42.2	18.9	45.3	
119 12	スクレイパー	遺構外	GC-39	1層		A船-棒型、先端部わずかに摩耗あり	埴貫頁岩	62.5	52.8	17.7	55.1	
119 13	スクレイパー	遺構外	GA-35	1層		A船-棒型、片面調整、刃刃、表面左側縁に微細縦磨きあり	埴貫頁岩	55.5	47.4	15.7	38.1	
119 14	スクレイパー	遺構外	EN-22	1層		B船-両側挟入状	埴貫頁岩	42.4	41.6	13.3	29.8	
120 15	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2086	定形	埴貫頁岩	91.7	38.7	15.5	39.4	
120 16	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2085	先端欠損	埴貫頁岩	88.5	40.2	12.7	41.2	
120 17	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2084	先端欠損	埴貫頁岩	87.0	40.8	13.3	42.8	
120 18	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2082	基部欠損	埴貫頁岩	87.9	41.2	11.7	41.7	
120 19	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2078	定形	埴貫頁岩	98.1	35.3	15.8	43.6	
120 20	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2077	定形、未製品	埴貫頁岩	102.8	35.2	18.7	49.7	
120 21	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2079	先端一部欠損、裏面下半部に擦痕あり、わずかに摩耗?	埴貫頁岩	104.9	37.7	14.2	46.3	
120 22	石核	石輪壘中地点	HH-50	10層	S-2083	定形	埴貫頁岩	109.1	36.4	16.7	56.6	

表6 礫石器・石製品観察表

図 番号	出土位置	グリップ	形状	取上No.	部 種	備 考	石材	計 測 値				
								長mm	幅mm	厚mm	重量g	
13	8	SI-01	2割	S-1	磨り石	側面使用, 端部は磨り成形	安山岩	81.0	71.0	41.0	326.5	
13	9	SI-01	1割	S-2	磨り石・磨き石	表面・上面に磨り成形, 右側面に磨り痕	安山岩	158.0	77.0	44.0	827.8	
15	3	SI-02	4割(床面)	S-1	磨き石	球状礫素材	花崗閃緑岩	114.0	88.0	75.0	108.3	
19	14	SI-05	2割		磨り石	三角柱状, 2割側に磨り面	安山岩	86.0	74.0	53.0	363.6	
19	15	SI-05	2割	S-1	磨り石	左側面に磨り面, 表面左側の磨り痕は平面	安山岩	151.0	74.0	45.0	767.7	
19	16	SI-05	3割	S-4	半円状扁平打製石器	断面にハゲ状あり	凝灰岩	179.0	69.0	24.0	175.1	
19	17	SI-05	床土	台石1	台石	両面使用, 凹み明瞭	凝灰岩	334.0	313.0	130.0	1525.0	
22	13	SI-07	床土	台石1	台石	片面使用, 中央に浅い磨り痕	安山岩	287.0	211.0	76.0	7490.0	
23	4	SI-08	1割	S-4	半円状扁平打製石器	側面に磨り痕	安山岩	84.0	82.0	23.0	218.7	
24	8	SI-09	2割	S-4	半円状扁平打製石器	側面素材	安山岩	109.0	62.0	17.0	117.3	
27	16	SI-12	堆積土	S-3	北海道式石冠	側面に磨り, 磨り凹み通る	花崗閃緑岩	120.3	63.0	54.5	768.2	
27	17	SI-12	堆積土	S-14	北海道式石冠	断面は研磨成形, 側部は磨り成形, 右側の磨り痕は磨り痕	安山岩	128.0	88.0	50.0	930.5	
27	18	SI-12	堆積土	S-13	北海道式石冠	磨り凹み通る, 磨り面幅広	花崗閃緑岩	100.0	71.5	57.5	623.7	
27	19	SI-12 P10	堆積土	S-17	半円状扁平打製石器	磨り面幅狭い	安山岩	88.0	74.0	29.0	303.7	
27	20	SI-12	堆積土	S-5	凹み石	3面使用	凝灰岩	99.0	71.0	58.0	442.1	
27	21	SI-12	堆積土	S-9	台石	片面使用, 凹み明瞭	安山岩	345.0	283.0	140.0	14150.0	
28	6	SI-13	堆積土	S-3	台石	片面使用, 断面はざらつく, 中央部に浅い磨り凹み	安山岩	295.0	216.0	100.0	8500.0	
29	9	SI-14	堆積土	S-12	台石	片面使用, 使用面平面, 磨り痕主体	安山岩	215.0	237.0	101.0	6960.0	
31	9	SI-15	陥没	S-12	凹み石	2面中央に凹み	凝灰岩	104.0	67.0	66.0	388.4	
31	10	SI-15	2割		磨り石	右側面使用	安山岩	89.0	75.0	31.0	264.0	
31	11	SI-15	床面	S-30	凹み石	両面に磨り跡状の凹み, 側部に磨り痕と磨り痕	凝灰岩	114.0	84.0	38.0	368.8	
31	12	SI-15	陥没	S-19	磨き石	表面・側面に磨り痕	凝灰岩	101.0	84.0	57.0	480.1	
31	13	SI-15	陥没	S-14	磨き石	縁辺使用	凝灰岩	78.0	91.0	52.0	435.8	
31	14	SI-15	堆積土	S-2	台石	片面使用, 磨り凹み	安山岩	1146.0	2003.0	110.5	4364.9	
51	2	SK-15	3割	S-4	台石	片面使用, 浅い凹みの凹み, 表面縁切に研磨痕	安山岩	233.0	235.0	109.0	7760.0	
51	11	SK-18	1割	S-7	半円状扁平打製石器	表面中央に凹み痕, 両側面に磨り面	安山岩	99.0	45.0	15.0	90.0	
52	6	SK-33	1割	S-1	磨り石	右側縁・下縁に磨り痕	安山岩	102.0	64.0	40.0	351.9	
53	3	SK-53	堆積土		磨り石	右側縁・下縁部使用	安山岩	84.0	80.0	30.0	218.9	
53	23	SK-83	堆積土		台石	磨り痕あり, 断面欠損	安山岩	1166.0	112.0	67.0	1744.4	
54	24	SK-100	1割		磨製石斧	刃部欠損, 断面研磨, 側面に磨り痕残る	頁岩	159.0	31.5	21.6	54.0	
55	1	SK-104	堆積土	S-3	台石	両面使用, 凹み明瞭, 裏面一部欠損	凝灰岩	327.0	267.0	111.0	10450.0	
55	2	SK-104	堆積土	S-1	台石	片面使用, 中央の凹み明瞭	安山岩	254.0	284.0	12.0	14300.0	
55	3	SK-104	堆積土	S-2	台石	両面使用, 凹み明瞭, 磨り凹み	安山岩	296.0	315.0	154.0	18800.0	
55	5	SK-105	1割		北海道式石冠	断面全体研磨成形, 使用面凹み	安山岩	110.0	109.0	57.0	972.2	
55	6	SK-107	6割	S-1	石冠 【石製品】	断面打製成形, 一部研磨成形, 未製品	凝灰岩	97.0	60.0	71.0	379.4	
56	2	SK-110	堆積土		磨り石	断面三角柱状, 2割側に磨り面, 断面中央に浅い磨り痕	砂岩	104.0	50.0	32.0	212.4	
56	8	SK-116	堆積土	S-1	北海道式石冠	磨り凹み通る, 磨り面幅広	凝灰岩	62.0	53.0	48.0	189.6	
56	9	SK-116	3割	S-2	磨き石	上・下側面使用	凝灰岩	101.0	71.0	32.0	338.7	
57	13	SK-137	堆積土		台石	片面使用, 中央に浅い凹み	安山岩	254.0	1157.0	96.0	5300.0	
58	2	SK-143	堆積土		凹み石	両面中央に浅い凹み, 破損した半環を転用	砂岩	85.0	68.0	38.0	209.6	
58	3	SK-143	堆積土		磨り石	側面に磨り痕ざらつく, 端部に挟り	凝灰岩	83.0	67.0	29.0	268.1	
58	9	SK-149	堆積土		北海道式石冠	磨り凹み通る, 右側面の磨り面ざらつく	花崗閃緑岩	121.0	85.0	43.0	675.6	
58	11	SK-150	1割	S-1	磨り石	側面に磨り	凝灰岩	125.0	50.0	27.0	215.7	
59	5	SK-153	堆積土		台石	片面使用, 浅い凹み	安山岩	227.0	1146.0	92.0	3550.0	
59	7	SK-136	堆積土		磨り石	上端部に浅い磨り痕, 右側面に浅い磨り痕	花崗閃緑岩	125.0	96.0	73.0	1154.9	
59	11	SK-158	底面	S-2	半円状扁平打製石器	側面に磨り痕, 端部は挟り成形	安山岩	113.0	90.0	24.0	334.4	
59	14	SK-160	5割	S-1	台石	破損した礫片の平坦面を使用, 中央に浅い磨り痕	安山岩	143.0	132.0	81.0	1663.5	
61	4	SK-161	11割	S-7	磨き石	両面中央に浅い磨り痕	花崗閃緑岩	96.0	80.5	38.0	439.4	
61	6	SK-161	4割	S-2	台石	使用面は磨り凹みに, 裏面欠損	安山岩	202.0	219.0	94.0	4497.6	
61	7	SK-161	6割	S-8	台石	片面使用, 浅い磨り凹み	安山岩	29.5	25.0	10.5	1020.0	
62	6	SK-170	5割	S-1	磨り石	断面三角状, 側縁に磨り面	安山岩	242.0	76.0	39.0	913.2	
62	8	SK-172	堆積土		台石	片面中央部に凹み, 側面と裏面に焼熱あり	凝灰岩	140.0	146.0	58.0	1259.3	
63	2	SV-03	堆積土		台石	片面使用, 中央部欠凹み	安山岩	418.0	284.0	88.0	12000.0	
64	3	2号屋外炉	砂石	S-1	台石	片面使用, 中央の磨り痕磨り痕, 焼熱あり	安山岩	227.0	152.0	66.0	3310.0	
69	7	SK-06	3割	S-19	磨り石	側面に磨り, 端部は側削加工による挟り	花崗閃緑岩	74.0	70.0	31.0	235.7	
69	8	SK-06	3割	S-22	凹み石	断面三角状, 3面使用, 磨り跡状の凹み	凝灰岩	93.0	58.0	58.0	331.7	
104	79	表1	PE-28	10割	S-80	磨製石斧	断面全体研磨, 破損面に再調整あり	緑色片岩	98.0	60.0	33.0	258.2
104	80	表1	FE-29	9割	S-157	磨製石斧	刃部欠損, 全面研磨	青色片岩	122.0	51.0	21.0	202.8
104	81	表1	FD-29	9割	S-91・92	磨き石	縁状礫素材, 両端部に磨り痕あり, ハンマーとして使用	凝灰岩	130.0	50.0	36.0	378.7
104	82	表1	FC-28	9割	S-142	凹み石	両面中央に複数の浅い凹み(磨き), 上面に磨り痕, 下面に浅い磨り痕	凝灰岩	122.0	66.0	29.0	310.6
104	83	表1	PC-28	9割	S-34	凹み石	両面使用, 凹み複数, 右側面に磨り	凝灰岩	110.0	88.0	27.0	316.1
104	84	表1	FP-29	9割	S-306	凹み石	両面中央に深い窪り跡状の凹み	凝灰岩	86.0	71.0	37.0	157.9
105	85	表1	FF-29	9割	S-163	半円状扁平打製石器	側縁に磨り痕あり, 刃部磨製, 3分期に磨製	安山岩	158.0	97.0	13.0	239.1

神原(2)遺跡

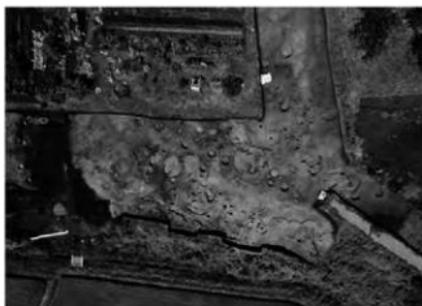
調査番号	出土位置	グリッド	層位	取土No.	器種	備考	石材	計測値			
								長さ	幅	厚	重量
105	86	表1	FB-28	9層	P-57	半円状扁平打製石器 完全、刃部角度鋭角、磨り面(摩耗)わずかにあり	安山岩	158.0	69.0	17.0	183.6
105	87	表1	FE-28	10層	S-117	半円状扁平打製石器 完全、磨り面(摩耗)わずかにあり	安山岩	147.0	93.0	22.0	313.5
105	88	表1	FC-28	9層		半円状扁平打製石器 磨り面(摩耗)あり、2分割に破損	安山岩	147.0	68.0	13.5	166.4
105	89	表1	FC-28	9層	P-16	半円状扁平打製石器 刃部の磨り面(摩耗)は広範囲、2分割に破損	安山岩	134.0	69.0	20.0	228.0
105	90	表1	FB-27	7層		半円状扁平打製石器 完全、両面縁刃加工、長方形状、磨り面(摩耗)わずかにあり、基部側縁にも磨り面あり	安山岩	140.0	67.0	22.0	279.7
105	91	表1	FF-28	10層	S-375	半円状扁平打製石器 磨り面(摩耗)あり、先端欠損	安山岩	100.0	59.0	14.0	115.2
105	92	表1	FF-29	9層	S-342	半円状扁平打製石器 磨り面(摩耗)あり、1/2欠損	安山岩	110.0	88.0	16.0	226.8
106	93	表1	FE-28	10層	S-79	半円状扁平打製石器 側面の磨り面はざらつく	安山岩	105.0	82.0	26.0	316.1
106	94	表1	FC-28		S-343	半円状扁平打製石器 ステップ状の側面目立つ	燧石	75.0	55.0	18.0	79.9
106	95	表1	FB-27	10層	S-123	台石 両面使用、縦打痕と磨り痕明瞭、側面を平削に成形	安山岩	268.0	162.0	83.0	4600.0
106	96	表2	EW-25	4層	S-5	巖き石 下縁部・両端面・上縁の破損面に磨き痕あり。ハンマーとして利用、磨面に擦痕あり	凝灰岩	111.0	50.0	38.0	266.7
106	97	表2		6層		磨り石 側面に磨り面、表面中央に浅い凹み(磨き)あり	砂岩	84.0	74.0	40.0	304.0
106	98	表2	EW-25	4層	S-9	凹み石 両面使用、磨り縁状の凹み複数、側面に浅い磨き痕あり	凝灰岩	118.0	56.0	38.0	306.9
106	99	表2	EW-25	5層	S-1	巖き石 2面使用、表面・右側面に浅い磨き痕	流紋岩	107.0	53.0	57.0	453.9
106	100	表2		4層		半円状扁平打製石器 完全、薄片素材、側面に磨り面あり	流紋岩	135.0	106.0	27.0	736.7
121	23	遺構外	GL-42	1層	S-1	磨製石斧 基部欠損、全体を研磨、刃先に摩耗・潰れあり	緑色片岩	67.0	52.0	32.0	168.4
121	24	遺構外(武3)	GF-38	堆積上	S-2	磨製石斧 基部欠損、磨り切り痕あり、刃先端部ざらつく、刃先に摩耗・潰れあり	緑色片岩	52.0	58.0	32.0	139.6
121	25	遺構外	161-17	1層		磨り石 先端使用、先端向き、先端部摩耗	灰岩	86.0	126.0	19.0	37.7
121	26	遺構SX 06周辺	HF-49	3層	S-10	巖き石 円盤素材、縁辺に部分的に磨き痕あり	花崗閃緑岩	82.0	80.0	52.0	492.7
121	27	遺構外	HJ-52	3層	S-2017	磨り石 両端面に広範囲に磨り面(磨らか、突起あり)	花崗閃緑岩	118.0	90.0	48.0	771.4
121	28	遺構外	FW-37	3層		磨り石 両端面に磨り痕(磨らか)広範囲、両側面の磨り(ざらつく)、磨面に浅い磨き痕	花崗閃緑岩	127.0	83.0	41.0	670.5
121	29	遺構外	HF-49	3層	S-2097	磨り石 両端面に広範囲の研磨痕(磨らか、右側面の上半部は磨らかな磨り、下半部はざらつく磨り痕)	安山岩	136.0	94.0	52.0	1022.5
121	30	遺構外	HG-48	3層	S-2043	磨り石 右側に磨り(ざらつく)、左側の上半部に磨り(ざらつく)、下半部に浅い磨き痕	安山岩	181.0	55.0	39.0	594.8
121	31	遺構外	HJ-50	3層	S-2095	磨り石 一側面に磨り、三角形状	凝灰岩	114.0	61.0	46.0	401.5
122	32	遺構外	HJ-52	3層	S-2010	凹み石 両面中央に磨り縁状の深い凹み	凝灰岩	78.0	70.0	48.0	241.9
122	33	遺構SX 06周辺	HF-49	3層	S-9	磨り石 側面に磨り、端部に研磨加工による抉り	安山岩	87.0	71.0	31.0	278.7
122	34	遺構外(武4)	HM-51	3層	S-1	半円状扁平打製石器 本製品、片側縁に刺磨調整で刃部成形、素材は流紋面付き燧石	砂岩	102.0	51.0	18.0	107.6
122	35	遺構外	FA-27	1層		半円状扁平打製石器 上下端部欠損、刃部に擦痕あり	安山岩	93.0	73.0	19.0	136.6
122	36	遺構SX 06周辺	HF-49	3層	S-8	台石 焼した礎を素材、中央に浅い磨り状の凹み	凝灰岩	154.0	124.0	67.0	1478.4
122	37	遺構外	HE-49	3層	S-2099・2100・2101	台石 片面使用、中央に深い磨り縁状の凹み、3分割に破損	安山岩	334.0	304.0	125.0	11428.6
122	38	遺構外	PI-30	1層		石棒【石製品】 両端面片、同心円状の溝2本彫刻	凝灰岩	149.5	9.3	5.7	134.4



調査区全景 (写真上が西)



左写真① (東から)



左写真② (写真上が北)



左写真③ (写真上が北)

写真1 全景



基本層序 FP-36 グリッド (南から)



基本層序 Ht-48 グリッド (北から)



第1号竪穴住居跡 完掘 (南西から)

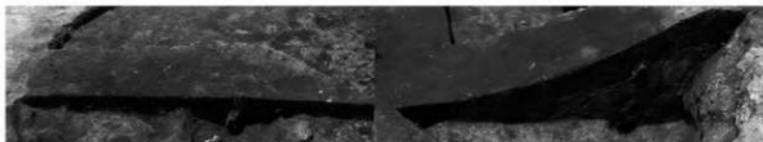


第1号竪穴住居跡 土層 (東から)

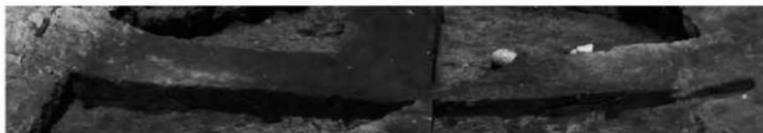


第1号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南西から)

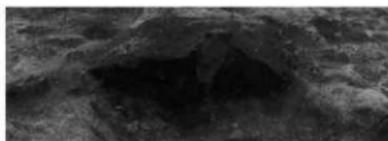
写真2 基本層序・竪穴住居跡(1)



第2号竪穴住居跡 土層 A-A' (東から)



第2号竪穴住居跡 土層 B-B' (南から)



第2号竪穴住居跡 炉土層 (東から)



第2号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



第2号竪穴住居跡 完掘 (南から)

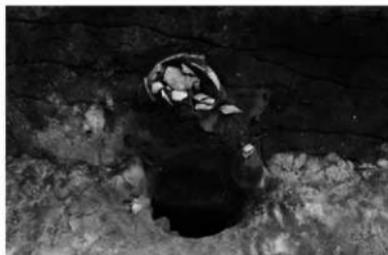
写真3 竪穴住居跡 (2)



第4号竪穴住居跡 土層(北から)



第4号竪穴住居跡 Pit等検出状況(西から)



第4号竪穴住居跡 Pit 1 上面遺物出土状況(西から)



第4号竪穴住居跡 遺物出土状況(西から)



第5号竪穴住居跡 遺物出土状況(北から)

写真4 竪穴住居跡(3)



第5号竪穴住居跡 土層A-A' (東から)



第5号竪穴住居跡 土層B-B' (北から)



第5号竪穴住居跡 炉断面 (北から)



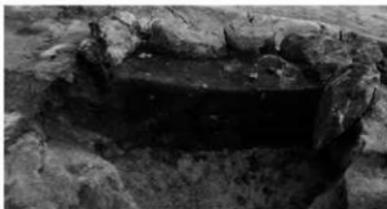
第6号竪穴住居跡 炉等検出 (西から)



第6号竪穴住居跡 土層A-A' (東から)



第6号竪穴住居跡 土層B-B' (南西から)



第6号竪穴住居跡 炉1土層 (北から)



第6号竪穴住居跡 炉2土層 (北から)

写真5 竪穴住居跡 (4)



第7号竖穴住居跡 遺物出土状況(西から)



第7号竖穴住居跡 土層(北から)



第7号竖穴住居跡 小型土器出土状況(南西から)



第7号竖穴住居跡 炉検出(北東から)

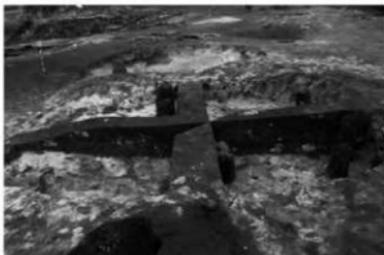


第7号竖穴住居跡 炉土層(北東から)

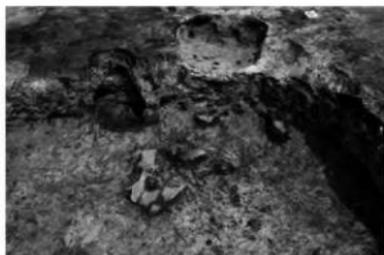
写真6 竖穴住居跡(5)



第9号竪穴住居跡 土層A-A' (北から)



第9号竪穴住居跡 土層B-B' (東から)



第9号竪穴住居跡 遺物出土状況 (南から)



第12号竪穴住居跡 土層A-A' (東から)



第12号竪穴住居跡 土層B-B' (南から)



第12-A号竪穴住居跡 Pit25検出 (東から)

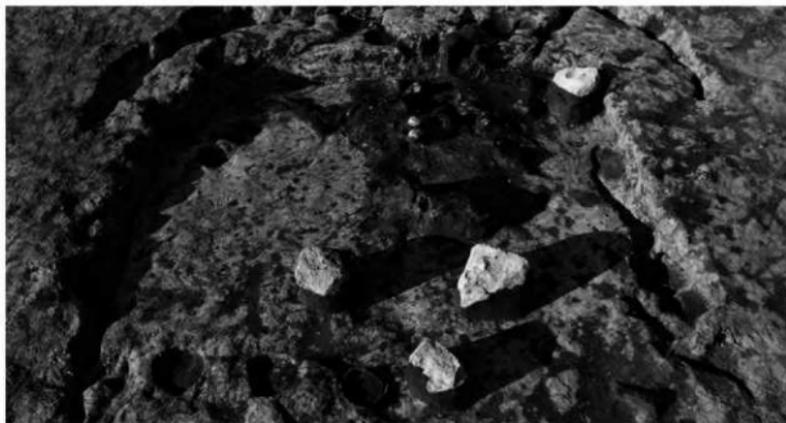


第12-A号竪穴住居跡 Pit25土層 (東から)

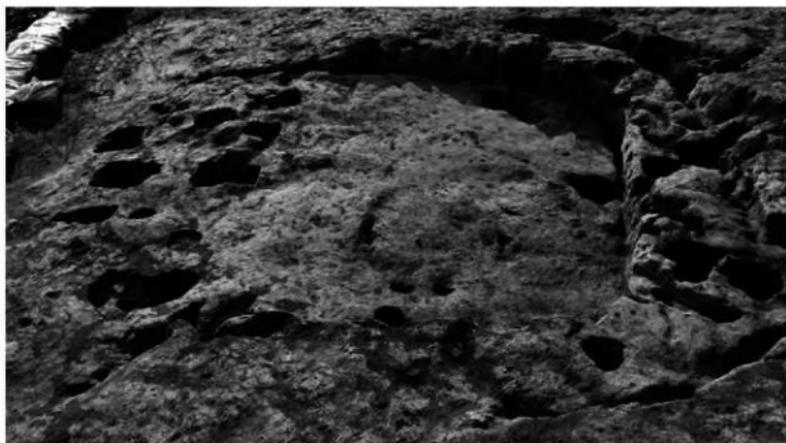


第12-B号竪穴住居跡 Pit26土層 (西から)

写真7 竪穴住居跡(6)



第12-A号竖穴住居跡 遺物・炭化材出土状況(南から)



第12-A・12-B号竖穴住居跡 完掘(東から)

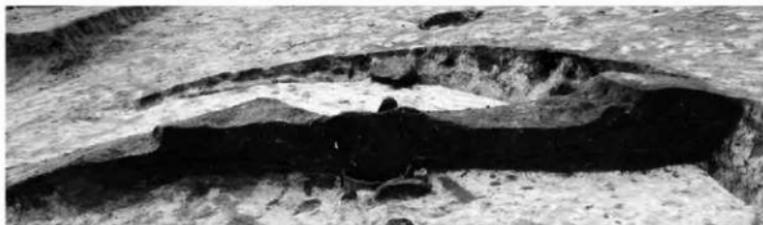


第13号竖穴住居跡 土層(北から)



第13号竖穴住居跡 炭化材検出状況(北東から)

写真8 竖穴住居跡(7)



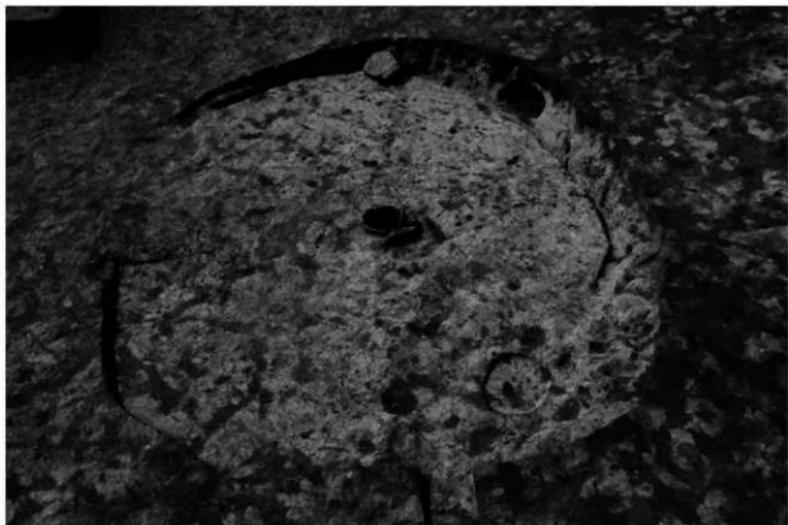
第14号竪穴住居跡 土層（東から）



第14号竪穴住居跡 炉検出（東から）



第14号竪穴住居跡 炉断面（東から）



第14号竪穴住居跡 完掘（東から）

写真9 竪穴住居跡（8）



第15号竪穴住居跡 土層 B-B' (南東から)



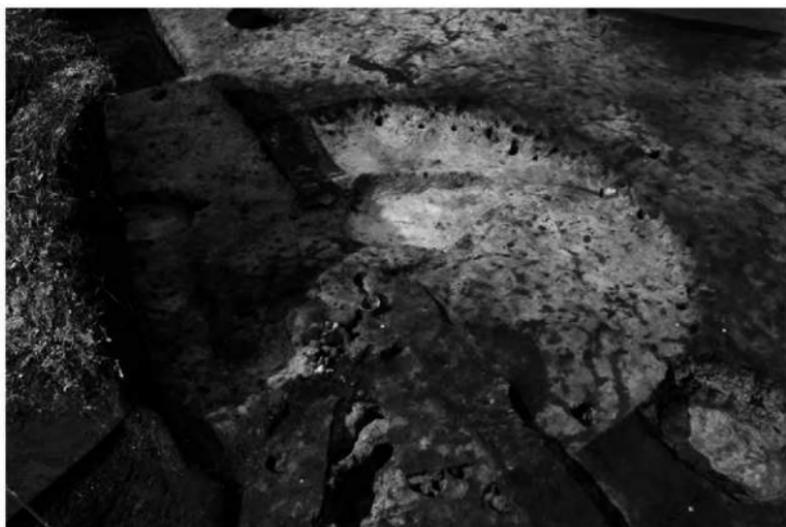
第15号竪穴住居跡 炉検出 (東から)



第15号竪穴住居跡 炉断面 (東から)



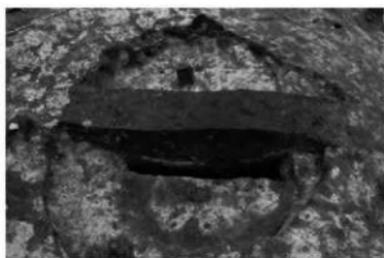
第15号竪穴住居跡 焼土・炭化材検出状況 (南東から)



第15号竪穴住居跡 完掘 (南東から)



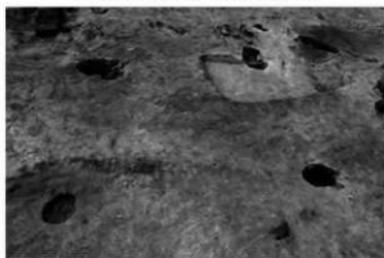
第16号竪穴住居跡 完掘（西から）



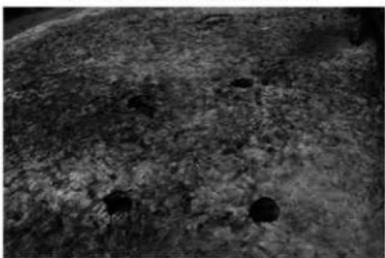
第16号竪穴住居跡 土層（南から）



第16号竪穴住居跡 炉断面（南から）



第1号掘立柱建物跡 完掘（南から）

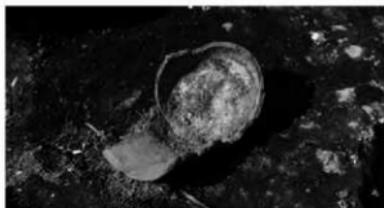


第2号掘立柱建物跡 完掘（南東から）

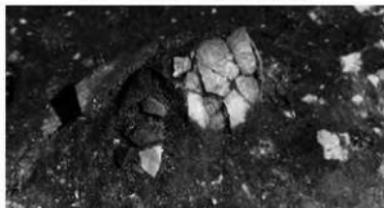
写真11 竪穴住居跡（10）・掘立柱建物跡



第9～11号土坑 土層(西から)



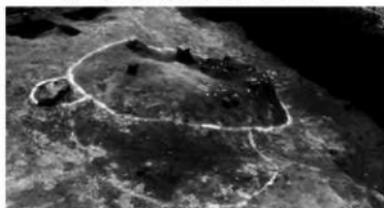
第10号土坑 遺物出土状況(西から)



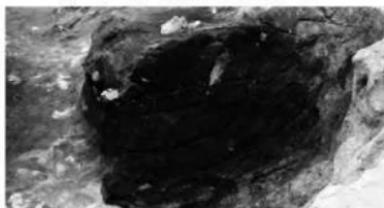
第10号土坑 遺物出土状況(西から)



第11号土坑 遺物出土状況(西から)



第15・16号土坑検出(北西から)



第15号土坑 土層(東から)



第15号土坑 遺物出土状況(東から)



第18号土坑 土層(北東から)



第18号土坑 遺物出土状況(北東から)



第23号土坑 土層(東から)

写真12 土坑(1)



第23号土坑 遺物出土状況 (北から)



第23号土坑 完掘 (北から)



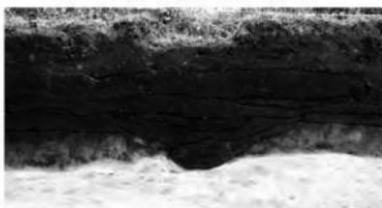
第33号土坑 土層 (東から)



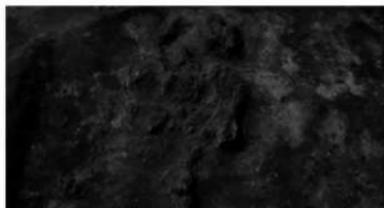
第33号土坑 遺物出土状況 (南から)



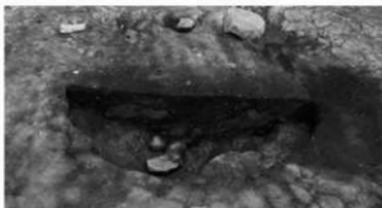
第35号土坑 遺物出土状況 (南から)



第38号土坑 土層 (南から)



第38号土坑 炭化材出土状況 (北西から)



第49号土坑 土層 (南から)

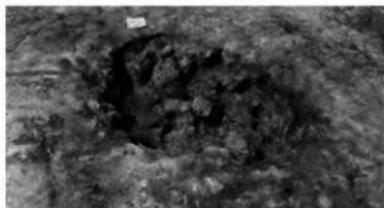


第49号土坑 礎出土状況 (南から)



第50号土坑 土層 (南から)

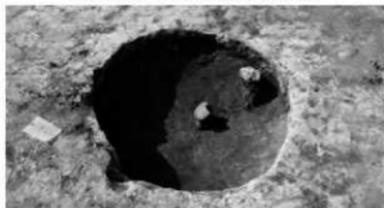
写真13 土坑 (2)



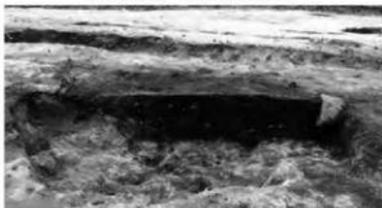
第50号土坑 曝出土状況(南から)



第53号土坑 土層(南東から)



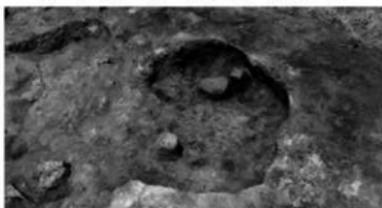
第53号土坑 曝出土状況(南から)



第54号土坑 土層・曝出土状況(南東から)



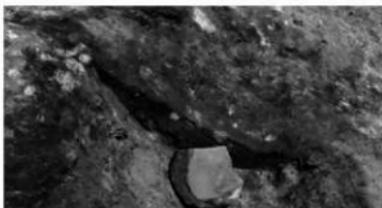
第55号土坑 土層(南から)



第55号土坑 遺物・曝出土状況(南西から)



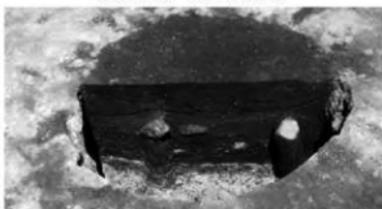
第59号土坑 土層・曝出土状況(東から)



第63号土坑 土層(南から)



第63号土坑 曝出土状況(東から)



第71号土坑 土層(西から)

写真14 土坑(3)



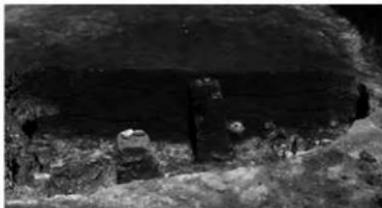
第71号土坑 礎出土状況（西から）



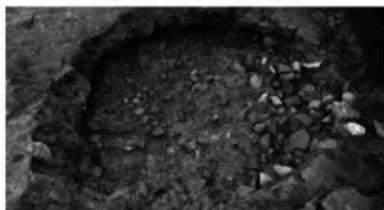
第77号土坑 土層（西から）



第77号土坑 礎出土状況（西から）



第78号土坑 土層（西から）



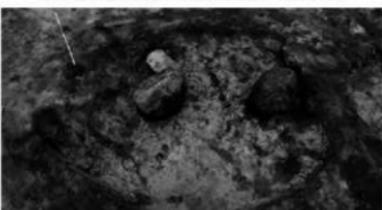
第78号土坑 完掘（西から）



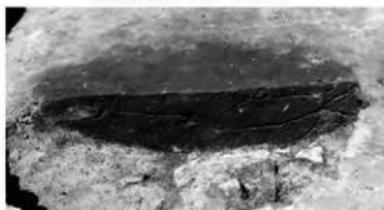
第79号土坑 土層・礎出土状況（南から）



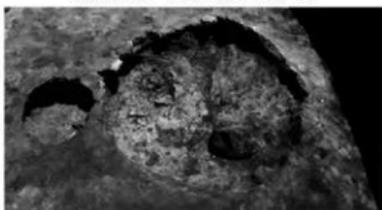
第82号土坑 土層（西から）



第82号土坑 礎出土状況（西から）



第85号土坑 土層（東から）



第85号土坑 礎出土状況（西から）

写真15 土坑（4）



第90号土坑 土層・遺物出土状況(北西から)



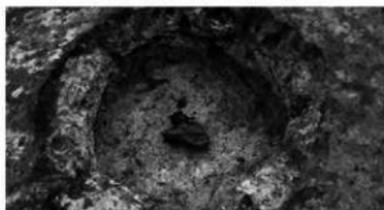
第91号土坑 土層(北西から)



第91号土坑 遺物・礎出土状況(北から)



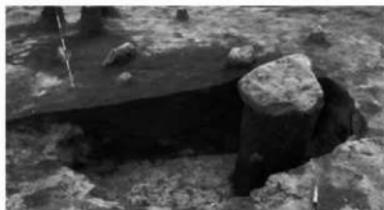
第94号土坑 土層(南東から)



第94号土坑 礎出土状況(南から)



第95号土坑 遺物・礎出土状況(北から)



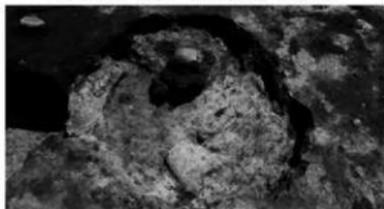
第96号土坑 土層・礎出土状況(東から)



第97号土坑 土層・礎出土状況(西から)

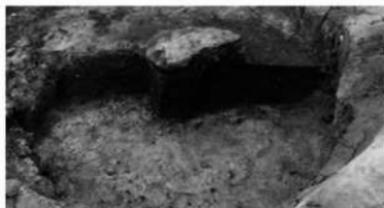


第104号土坑 土層・遺物出土状況(西から)



第104号土坑 礎出土状況(西から)

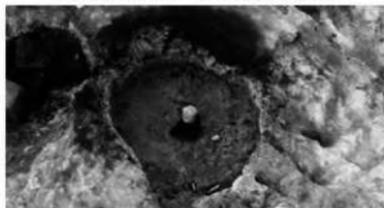
写真16 土坑(5)



第106号土坑 土層・礎出土状況（東から）



第109号土坑 土層（西から）



第109号土坑 礎出土状況（南東から）



第113号土坑 遺物出土状況（西から）



第115号土坑 土層（南東から）



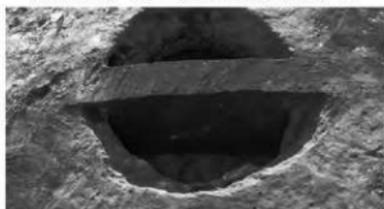
第115号土坑 遺物出土状況（南東から）



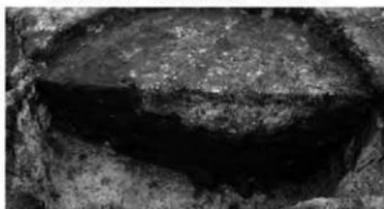
第115号土坑 土層・遺物出土状況（南東から）



第119号土坑 遺物出土状況（北西から）

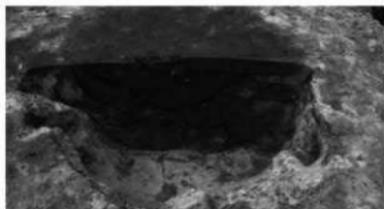


第124号土坑 土層（東から）



第132号土坑 土層（南東から）

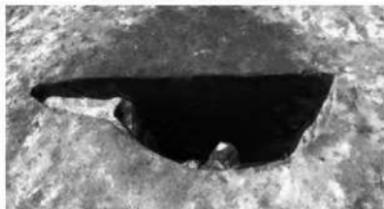
写真17 土坑（6）



第137号土坑 土層(東から)



第137号土坑 礎出土状況(東から)



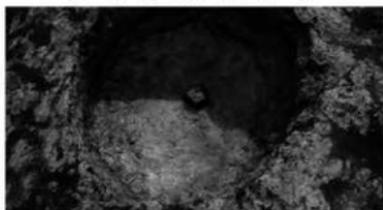
第138号土坑 土層(北東から)



第138号土坑 礎出土状況(東から)



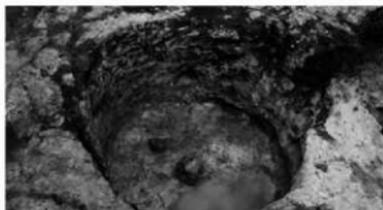
第140号土坑 土層(北から)



第140号土坑 礎出土状況(北から)



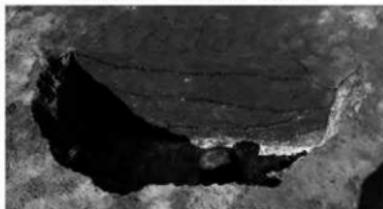
第143号土坑 土層(南東から)



第143号土坑 礎出土状況(東から)



第144号土坑 土層・礎出土状況(北から)

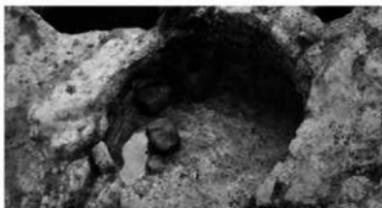


第149号土坑 土層・礎出土状況(東から)

写真18 土坑(7)



第150号土坑 遺物出土状況（南から）



第150号土坑 礎出土状況（北から）



第152号土坑 土層（東から）



第152号土坑 礎出土状況（東から）



第153号土坑 土層（東から）



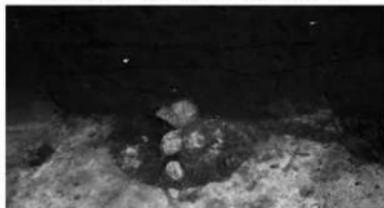
第153号土坑 遺物出土状況（東から）



第154号土坑 土層・礎出土状況（北東から）



第158号土坑 土層（南から）

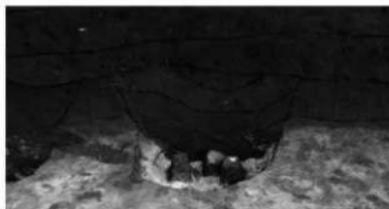


第159号土坑 礎出土状況（北から）

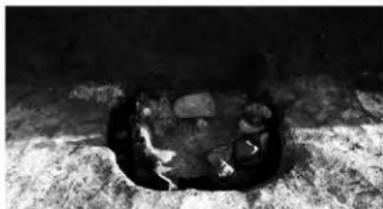


第159号土坑 土層（北から）

写真19 土坑（8）



第160号土坑 土層・遺物出土状況(北から)



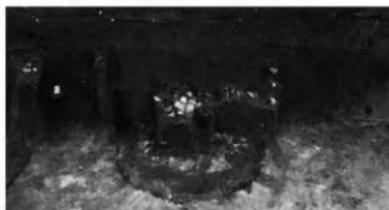
第161号土坑 焼土・遺物検出状況(北から)



第161号土坑 礎出土状況(北から)



第162号土坑 土層(北から)



第162号土坑 土層・遺物出土状況(北から)



第162号土坑 土層・礎出土状況(北から)



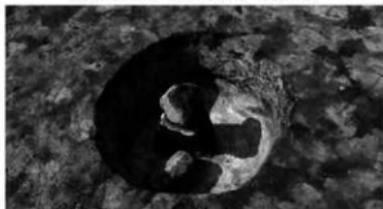
第165号土坑 土層・礎出土状況(東から)



第165号土坑 礎出土状況(東から)



第166号土坑 土層(東から)



第166号土坑 礎出土状況(東から)



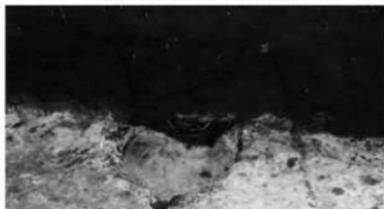
第167号土坑 土層・礎出土状況（北から）



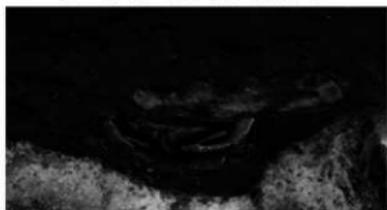
第173号土坑 土層（東から）



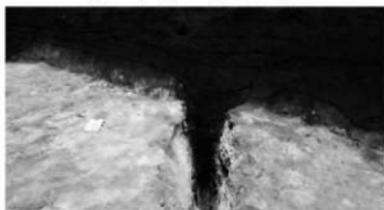
第173号土坑 礎出土状況（南東から）



第174号土坑 土層（北から）



第174号土坑 遺物出土状況（北から）



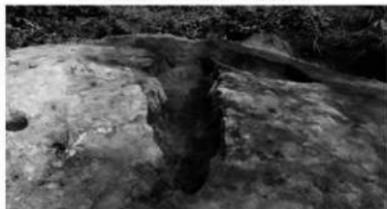
第1号溝状土坑 土層（南西から）



第1号溝状土坑 完掘（南東から）



第2号溝状土坑 土層（北西から）



第2号溝状土坑 完掘（北西から）



第3号溝状土坑 土層（南から）

写真21 土坑（10）・溝状土坑



第1号土器埋設遺構 検出(西から)



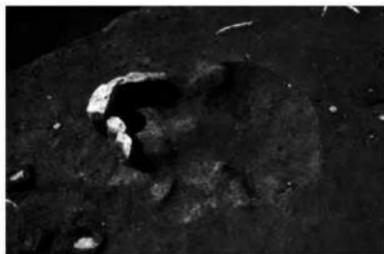
第1号土器埋設遺構 断面(西から)



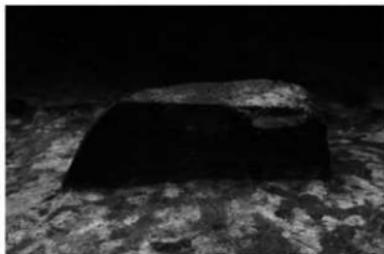
第1号屋外炉 土層(西から)



第2号屋外炉 土層(北から)



第2号屋外炉 火床(北東から)



第1号焼土遺構 土層(北から)

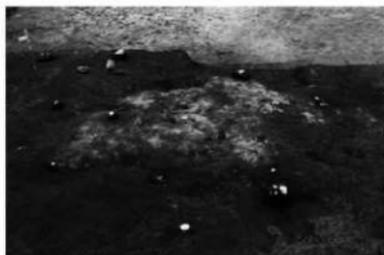


第1号性格不明遺構 礎・炭化材検出(西から)

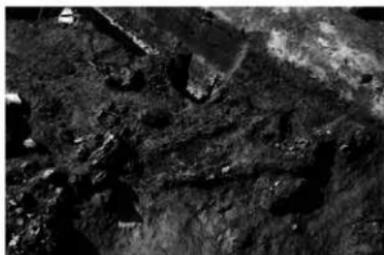


第6号性格不明遺構 焼土・炭化材検出(南から)

写真22 土器埋設遺構・性格不明遺構(1)



第6号性格不明遺構 焼土検出（東から）



第6号性格不明遺構 炭化材検出（南から）



第6号性格不明遺構 土層A-A'（東から）



第6号性格不明遺構 遺物出土状況（北から）



HI~HK-50~52遺物集中地点（南西から）



HI・HJ-51遺物集中地点（東から）

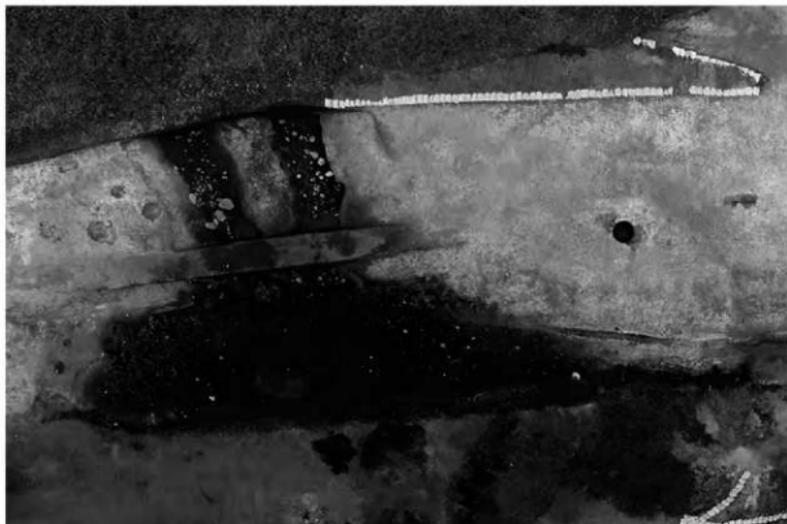


HI-50遺物集中地点 石器出土状況（南から）



左拡大

写真23 性格不明遺構（2）・遺物集中地点



沢1 遺物出土状況

(写真上が北)



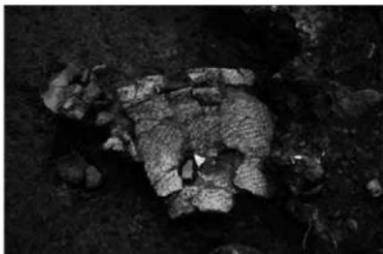
沢1 遺物出土状況(東から)



沢1 完掘（西から）



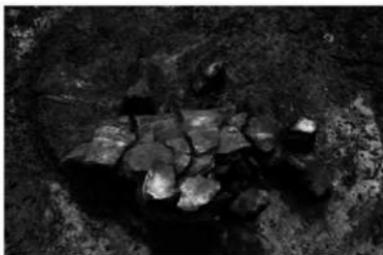
沢1 遺物出土状況 [P-116]（南から）



沢1 遺物出土状況 [P-95]（南から）



沢1 遺物出土状況（南から）



沢1 遺物出土状況 [P-124]（南から）



沢1 遺物出土状況 [P-60] (南から)



沢1 遺物出土状況 (南から)



沢1 谷2完掘 (南から)



沢1 谷1完掘 (南から)



沢1 土層 [FA-FB グリッド] (南東から)



沢1 土層 [FC-FE グリッド] (南から)



沢1 作業状況 (南東から)



沢1 作業状況 (西から)



沢2 遺物出土状況

(写真上が北)

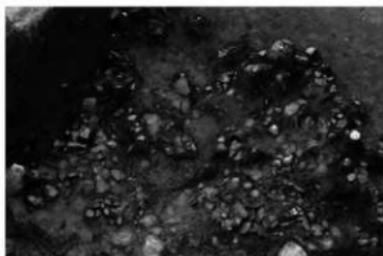


沢2 遺物出土状況 (南東から)

写真27 沢2 (1)



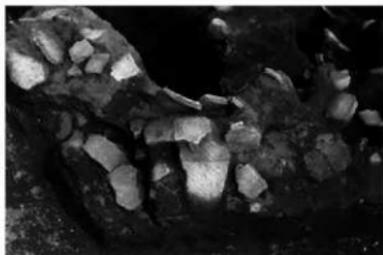
沢2 遺物出土状況(東から)



沢2 遺物出土状況(南東から)



沢2 遺物出土状況(南東から)



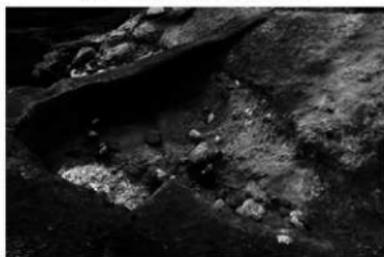
沢2 遺物出土状況(南東から)



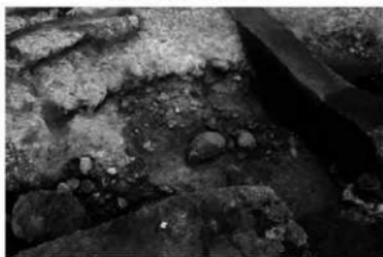
沢2 遺物出土状況(南東から)



沢2 土層(南西から)



沢2 完掘(南東から)



沢2 完掘(南西から)

SI-01



SI-04



写真29 竪穴住居跡出土遺物(1)

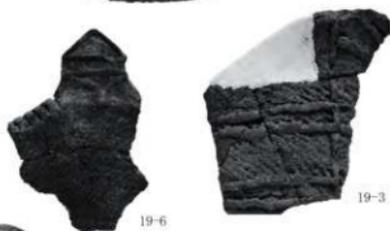
S1-05



18-2



18-1



19-6

19-3



19-18



19-15



19-17



S1-06



20-1

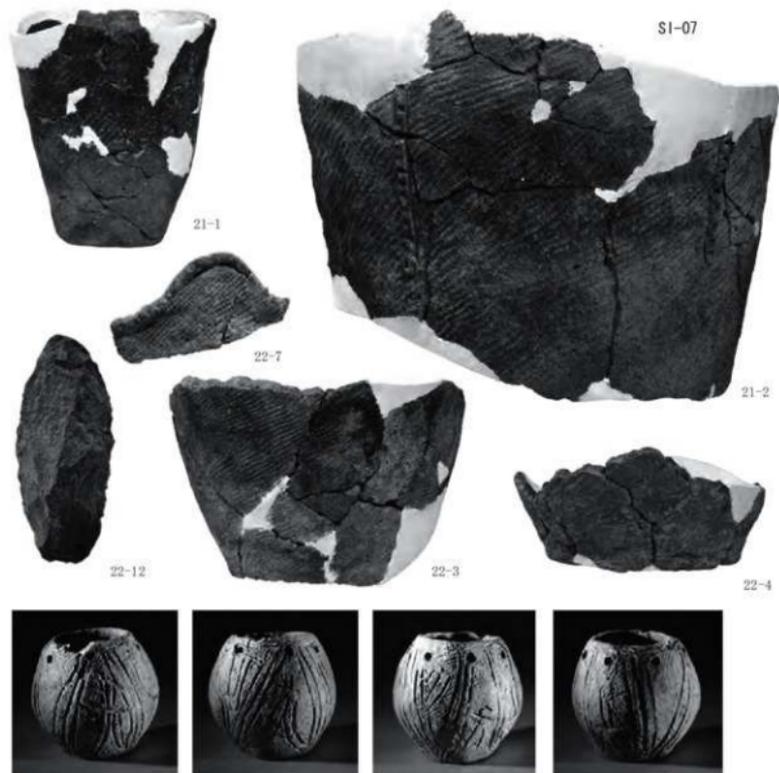


20-2



20-6

写真30 竪穴住居跡出土遺物(2)



22-10 (小川 忠博氏撮影)



写真31 竪穴住居跡出土遺物(3)

S1-12

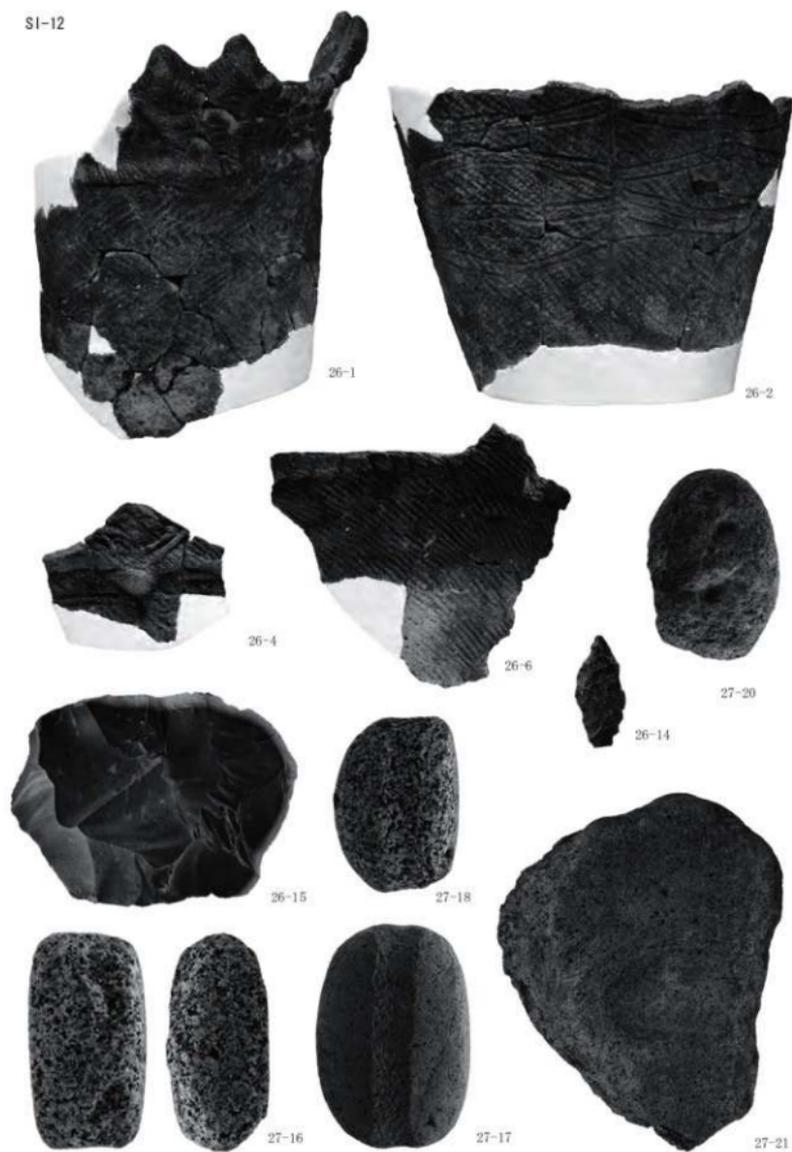


写真32 竪穴住居跡出土遺物(4)

SI-13



28-1



28-6

SI-14



29-1



31-1

SI-15



31-7



31-2



31-11



31-14



29-2



29-6



29-8



29-3



29-7

SI-16



32-1

写真33 竪穴住居跡出土遺物(5)

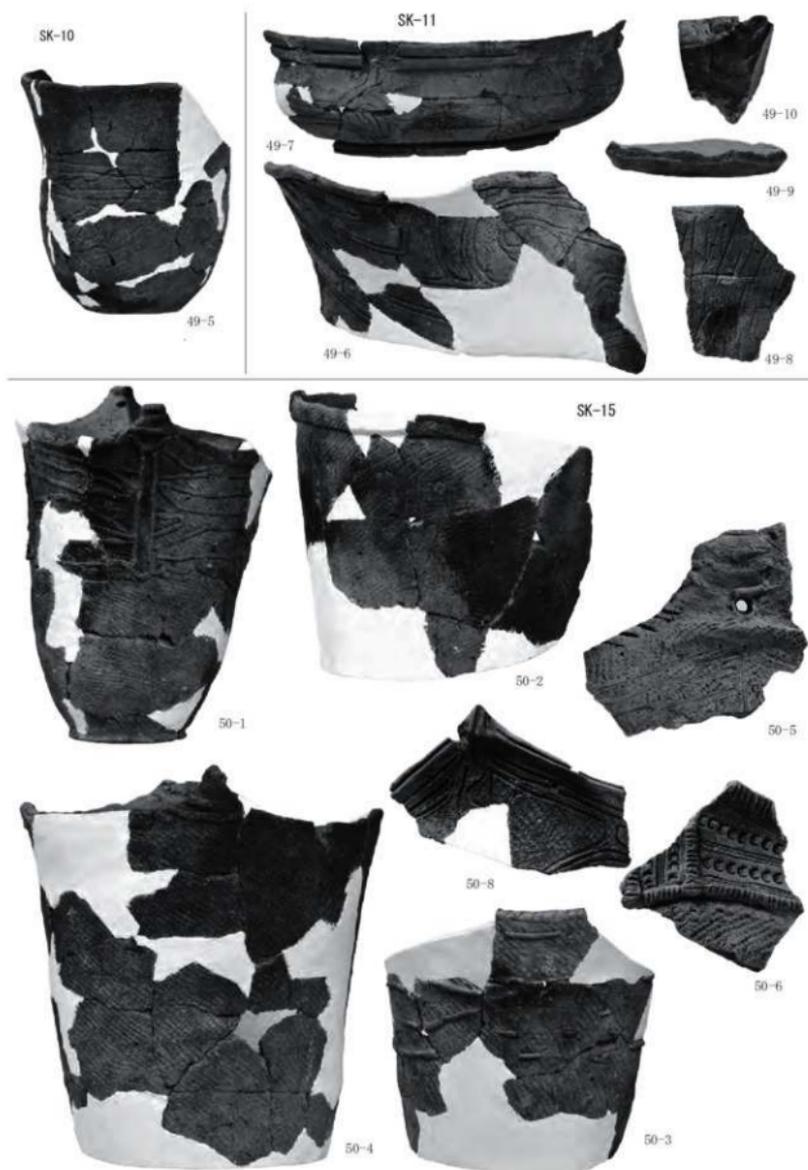


写真34 土坑出土遺物(1)



写真35 土坑出土遺物(2)

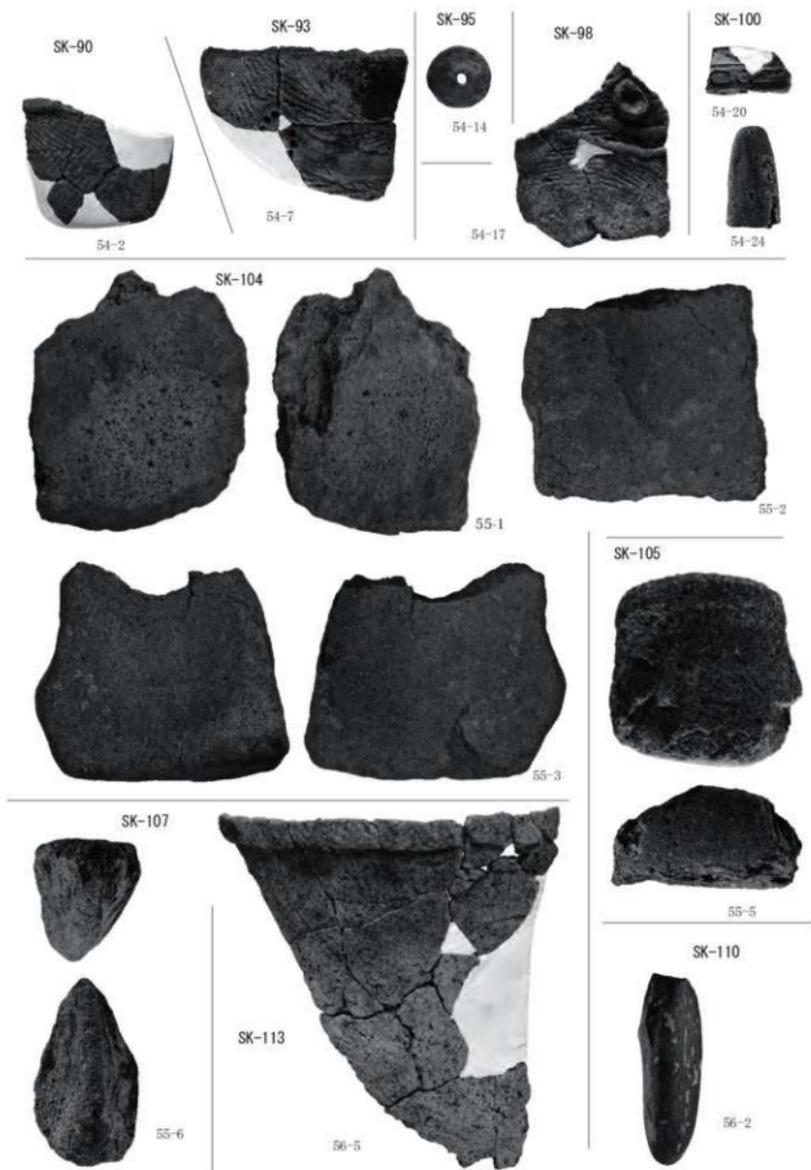


写真36 土坑出土遺物 (3)

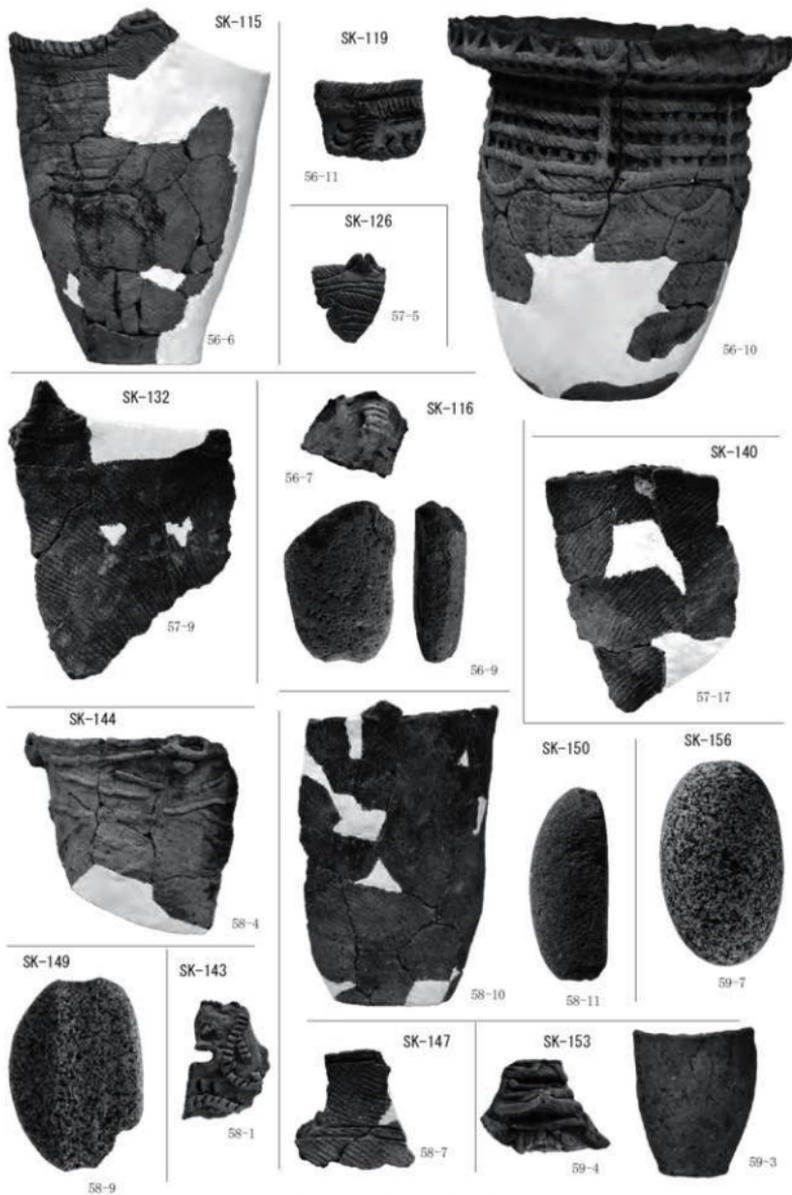


写真37 土坑出土遺物（4）

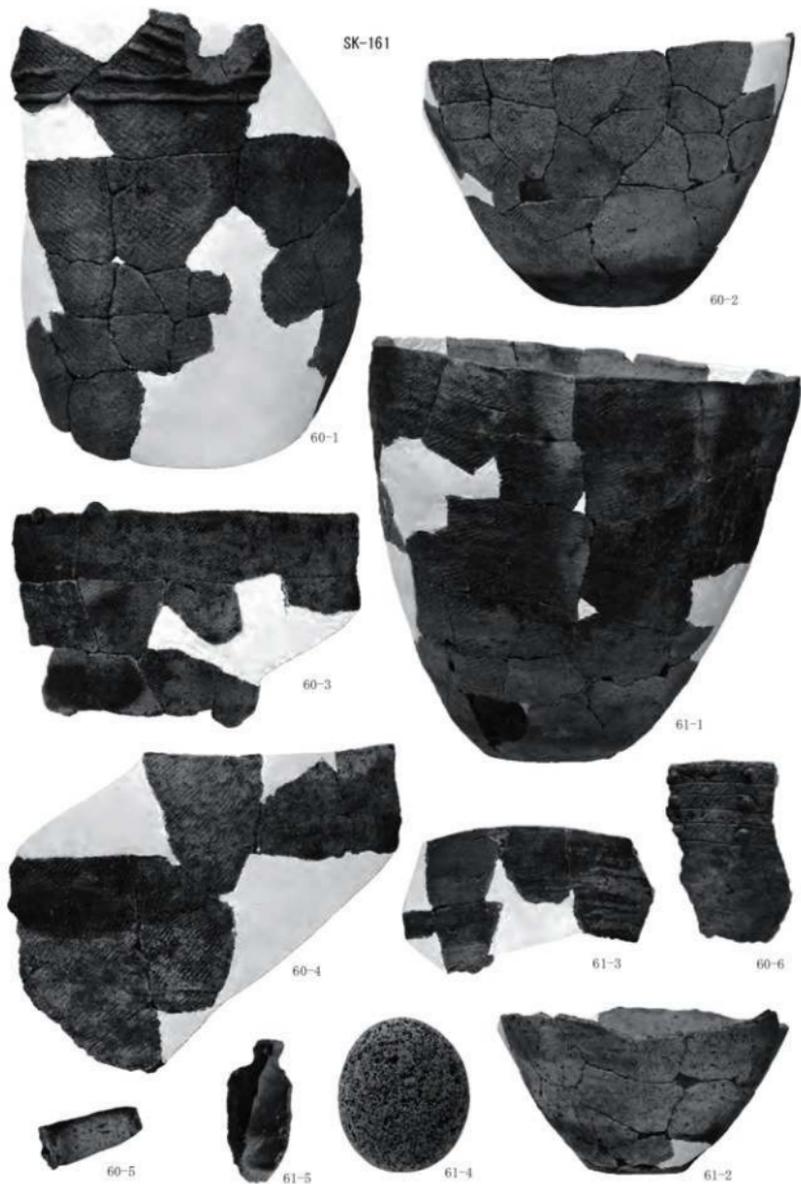


写真38 土坑出土遺物(5)

SK-170



62-6

SK-164



62-3

SK-172



62-7

SK-174



62-9

SB-02



67-2

SP-59



67-4

SP-67



67-7

SP-132



67-13

SP-68



67-8

SP-127



67-11

67-10



69-1

SX-06



69-4



69-6



69-8

写真39 土坑(6)、その他の遺構出土遺物

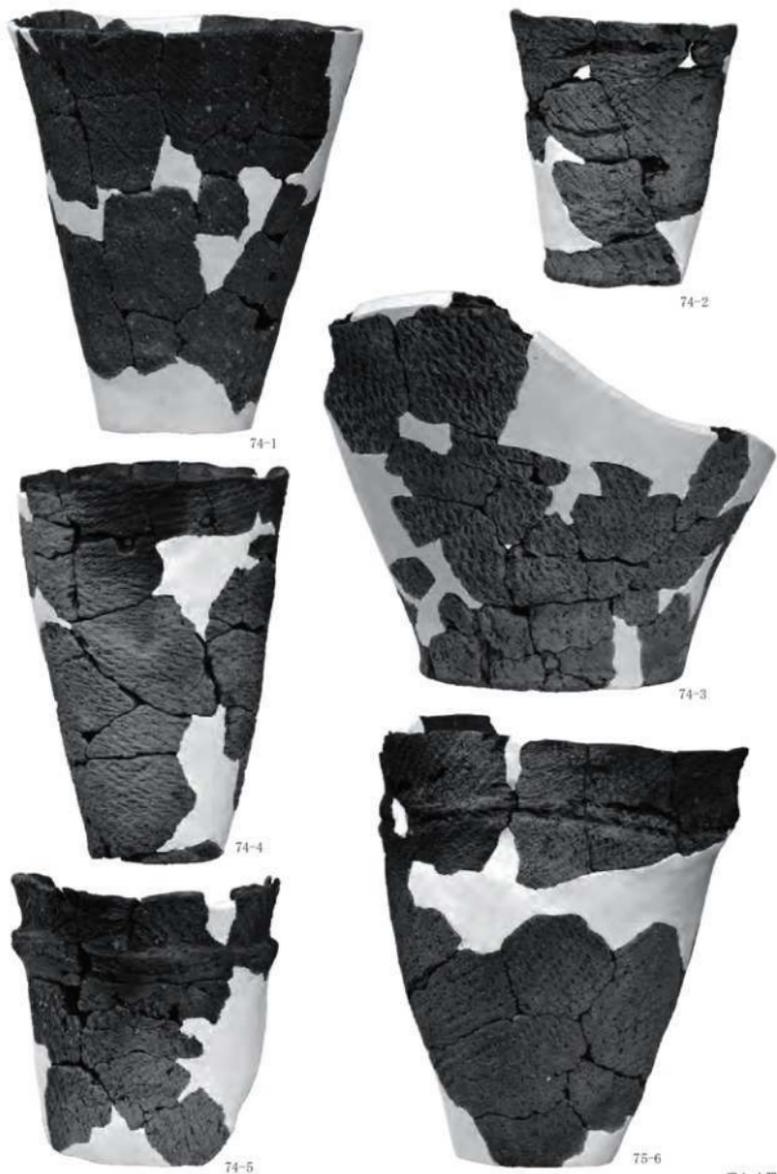


写真40 沢出土土器(1)

沢1土器



75-7



75-8



76-9



76-10

沢1土器

写真41 沢出土土器(2)



76-11



76-12



76-13



77-14



77-15



77-16



77-17



78-18

沢1土器

写真42 沢出土土器(3)



78-19



78-20



78-21



78-22



79-23



79-24



79-25

沢1土器

写真43 沢出土土器(4)



写真44 沢出土土器(5)

沢1土器



80-31



81-32



81-33



81-34



81-35

沢1土器

写真45 沢出土土器(6)

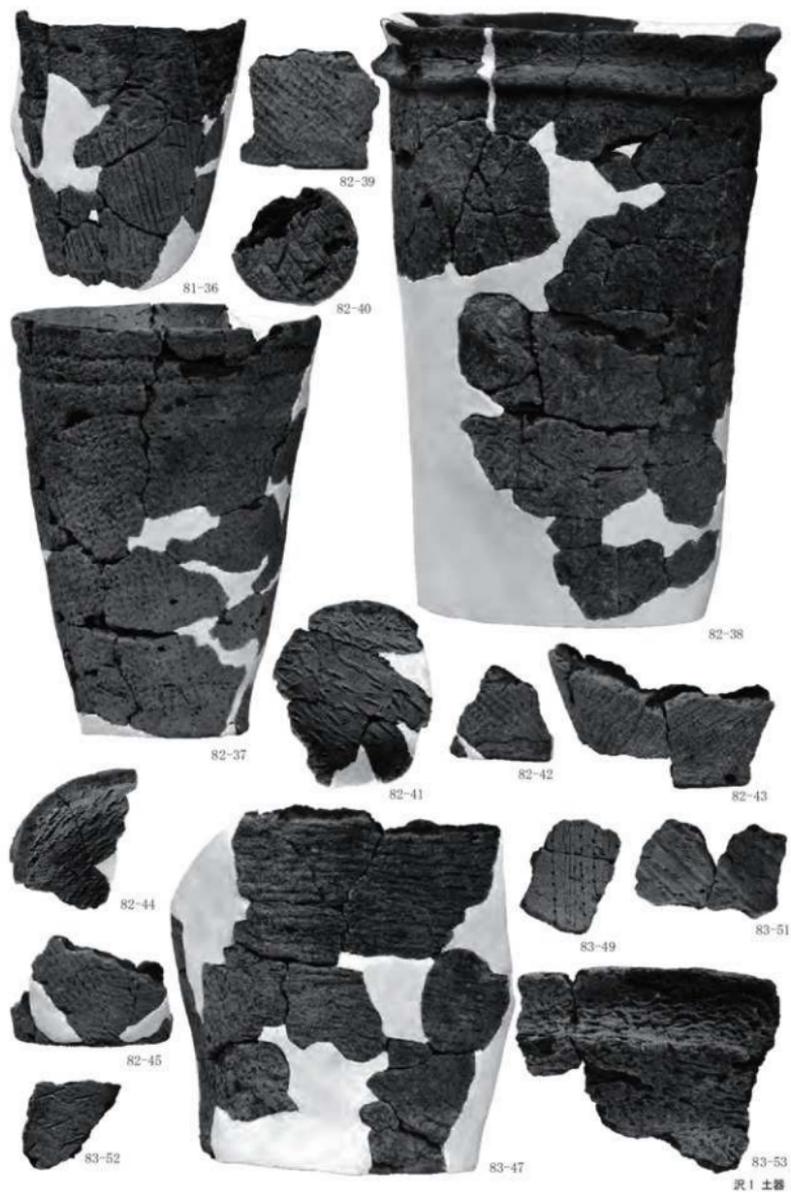


写真46 沢出土土器(7)



沢1 土器

写真47 沢出土土器(8)



沢1土器

写真48 沢出土土器(9)



88-133



88-135



88-134



88-136



88-137

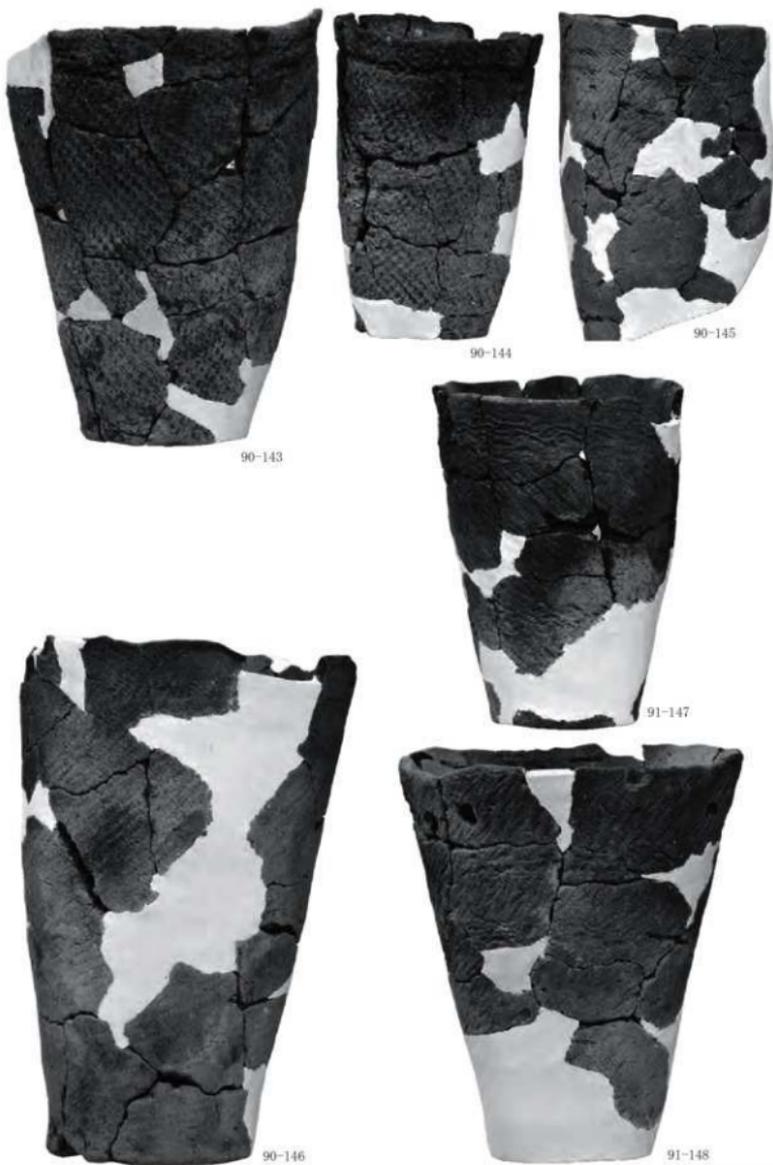
沢2土器

写真49 沢出土土器 (10)



沢2土器

写真50 沢出土土器(11)



沢2土器

写真51 沢出土土器 (12)



91-149



91-151



91-152



92-154



92-153



92-155

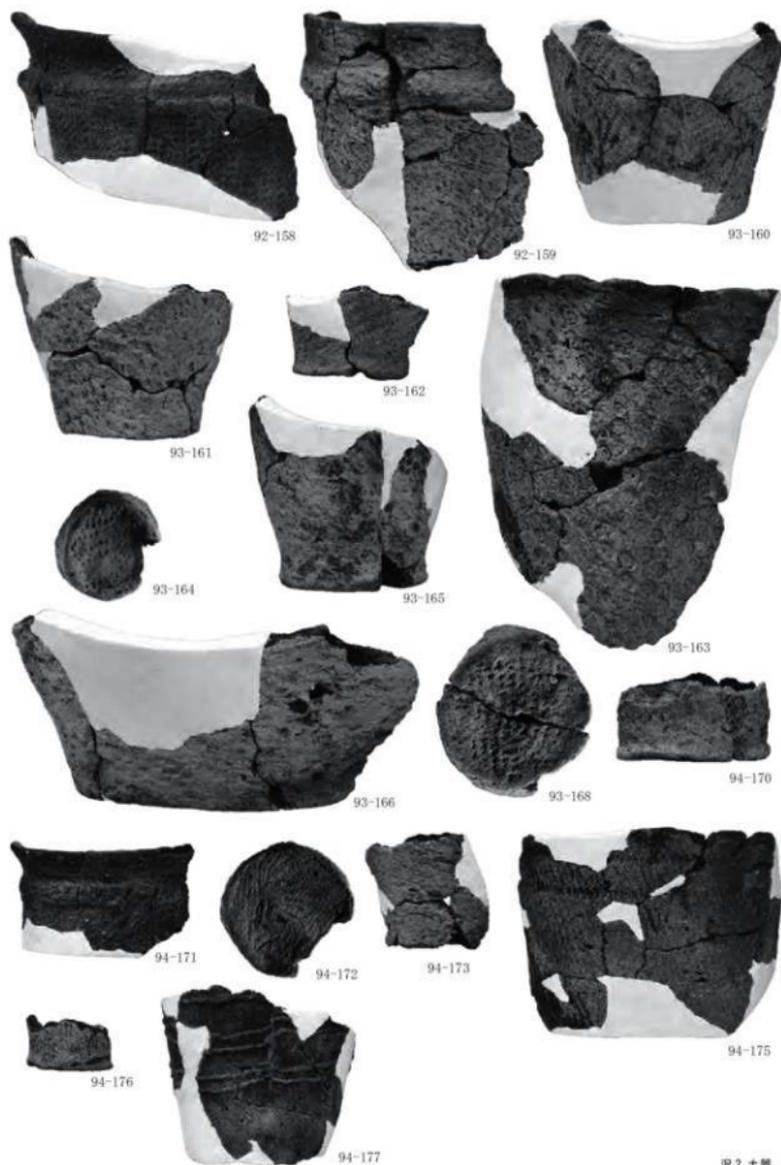


92-156



92-157
沢2土器

写真52 沢出土土器(13)



沢2土器

写真53 沢出土土器 (14)

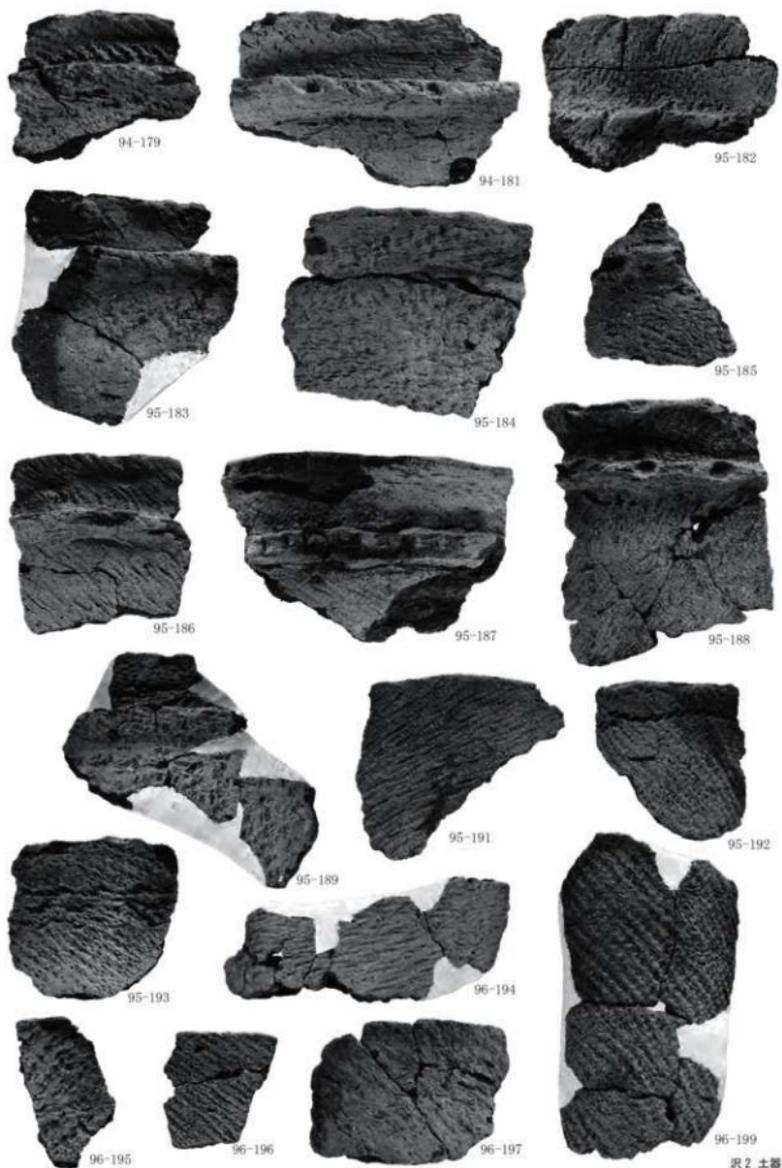


写真54 沢出土土器(15)

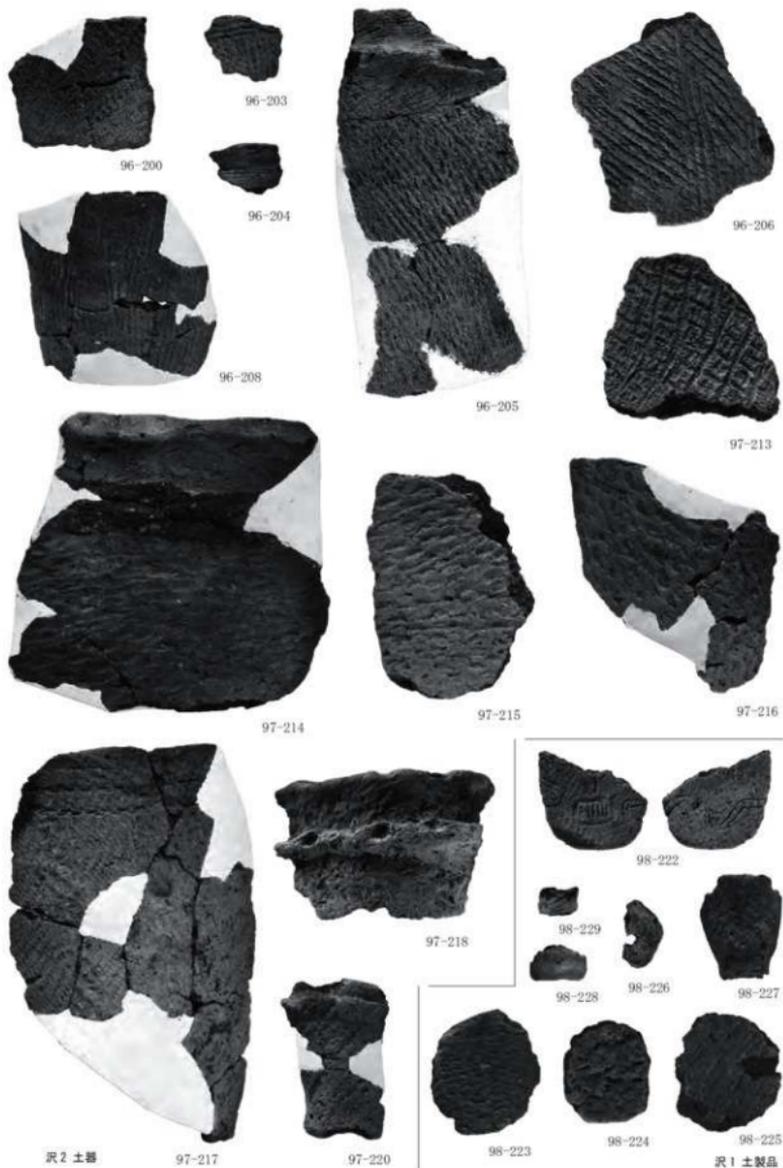
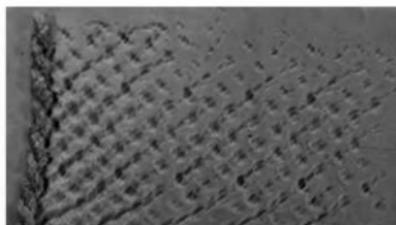


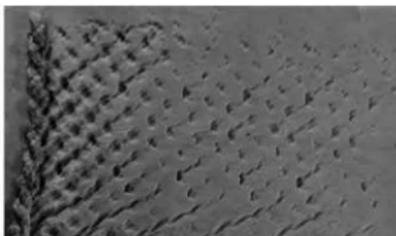
写真55 沢出土土器(16)、土製品



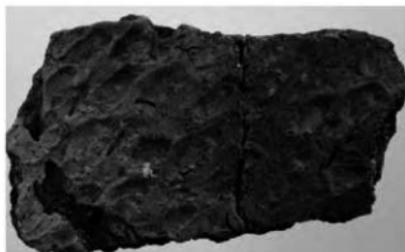
1 図96-196外面文様



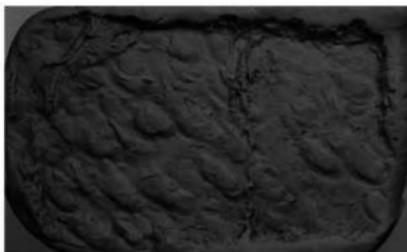
2 前々段附加条復元模型



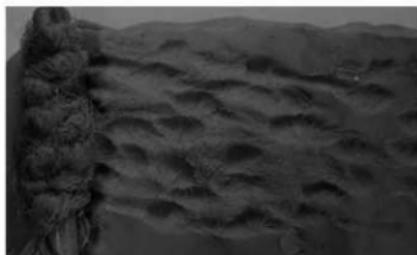
3 前々段附加条施文後ナデ消し



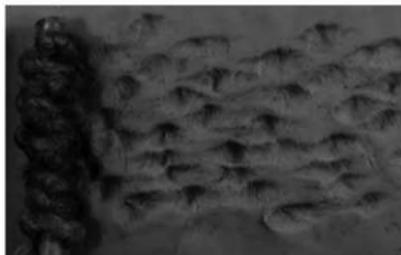
4 図86-109外面 廻転刺突文A



5 左 隣像



6 連続結節を用いた単軸綳条体1類復元模型
(緩い結びのO段結節使用)

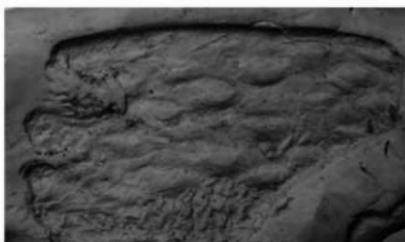


7 連続結節を用いた単軸綳条体1類復元模型
(固く結んだO段結節使用)

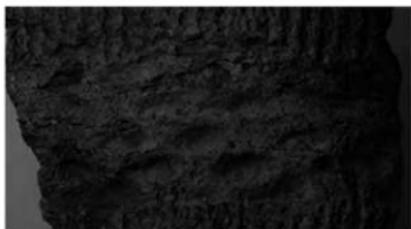
写真56 特殊な文様と施文原体 (1)



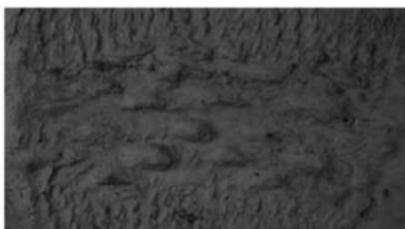
8 碓ヶ関村大面遺跡 217図1 廻転刺突文A



9 左 陽像



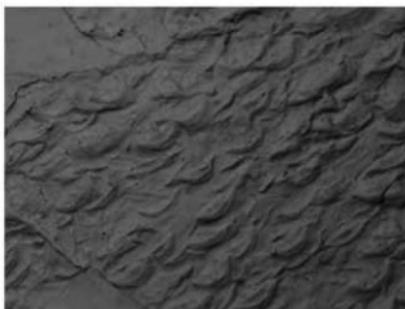
10 同上217図2 廻転刺突文A



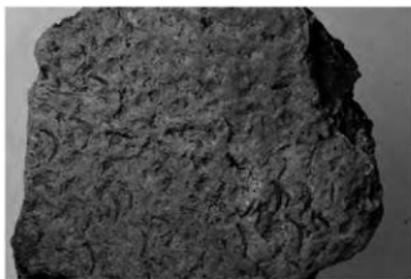
11 左 陽像



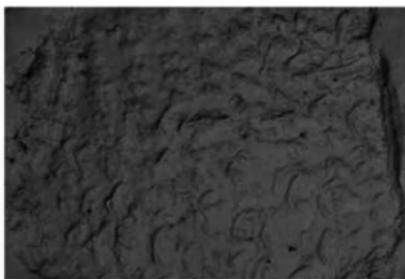
12 図86-115外面 廻転刺突文B (半月形)



13 左 陽像



14 図87-120外面 廻転刺突文B (爪形)



15 左 陽像

写真57 特殊な文様と施文原体(2)

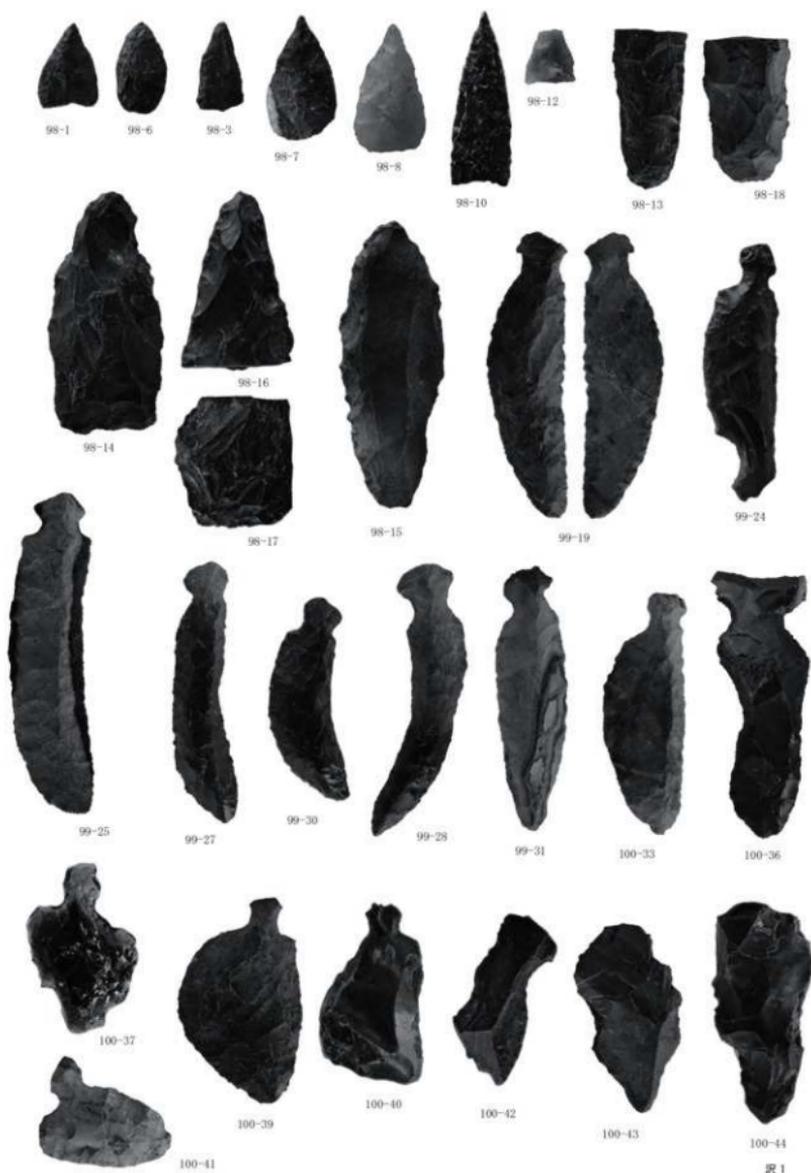


写真58 沢出土石器(1)



写真59 沢出土石器(2)

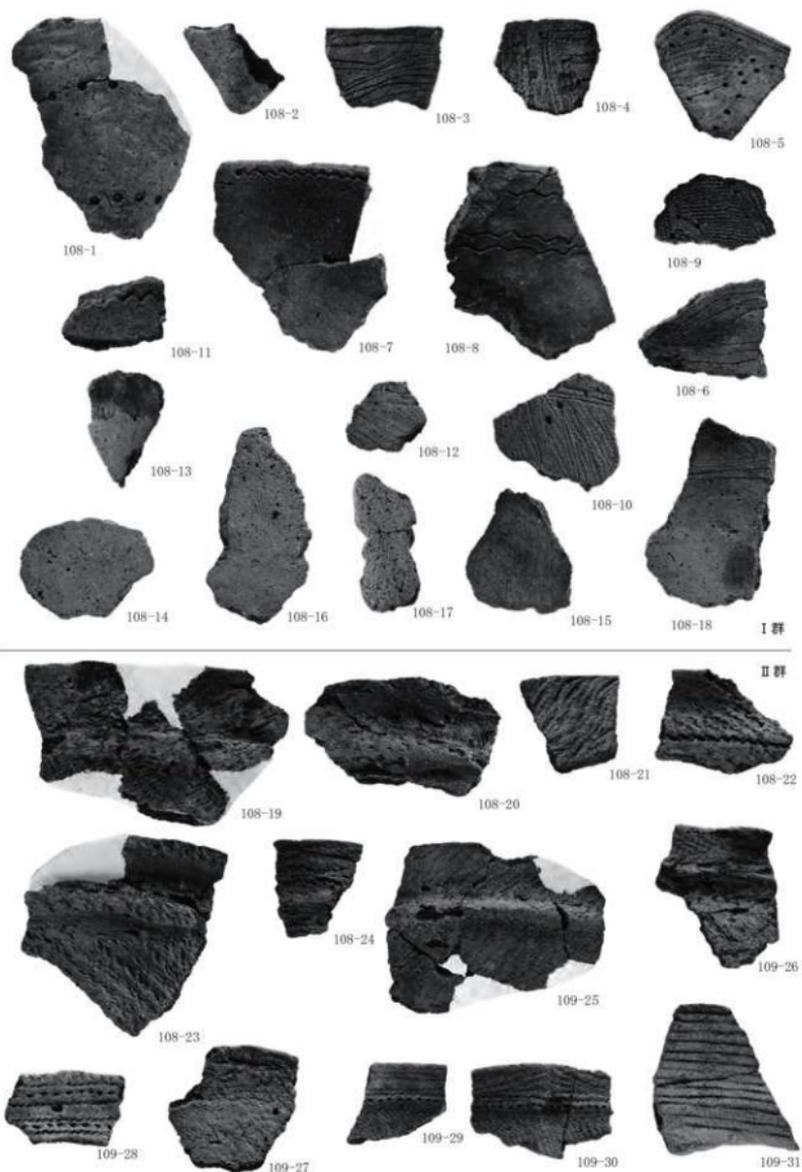


写真60 遺構外出土土器(1)



写真61 遺構外出土土器(2)



写真62 遺構外出土土器(3)



113-80

Ⅲ群



112-78



112-79

Ⅳ群

写真63 遺構外出土土器(4)

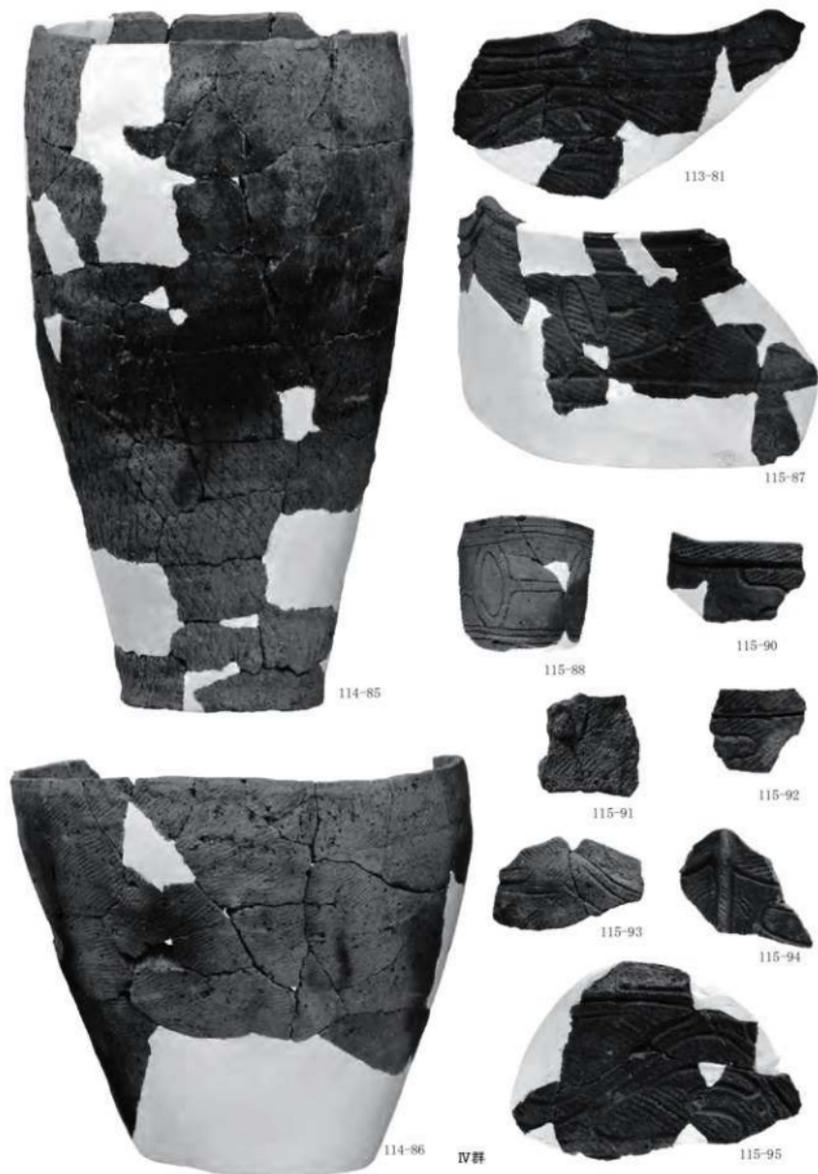


写真64 遺構外出土土器(5)



写真65 遺構外出土土器(6)

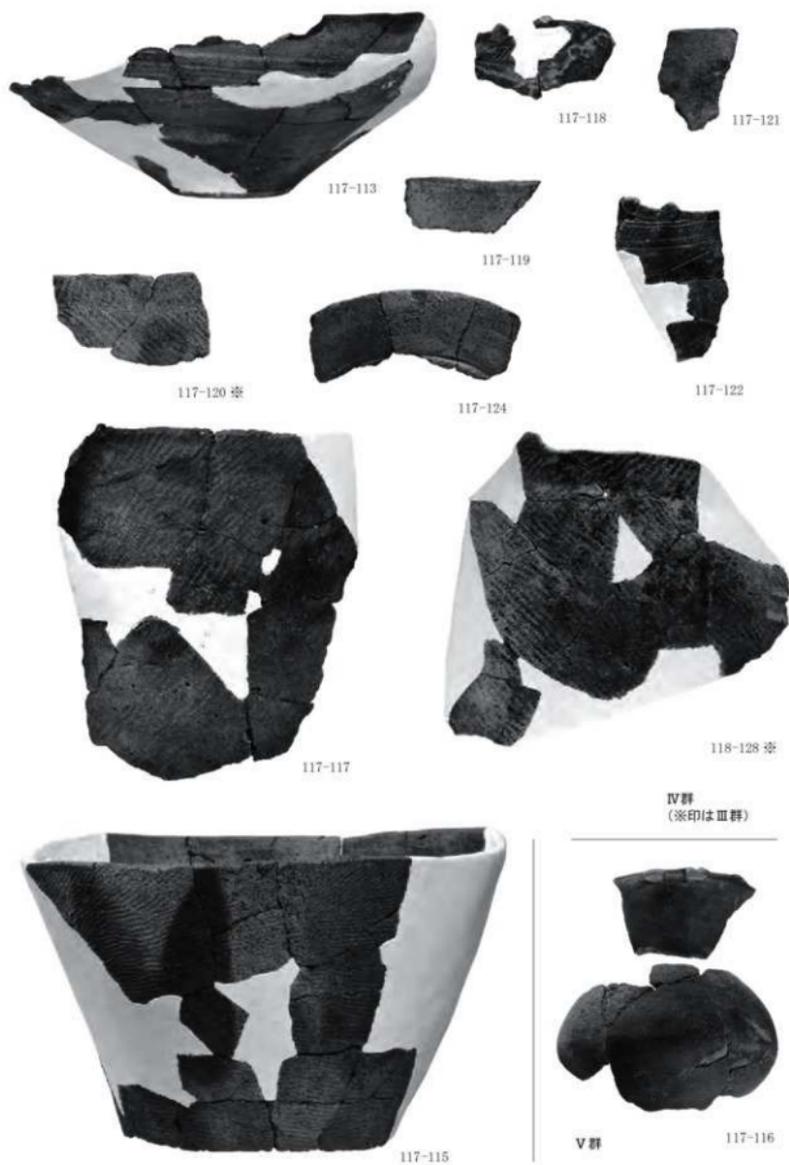


写真66 遺構外出土土器(7)

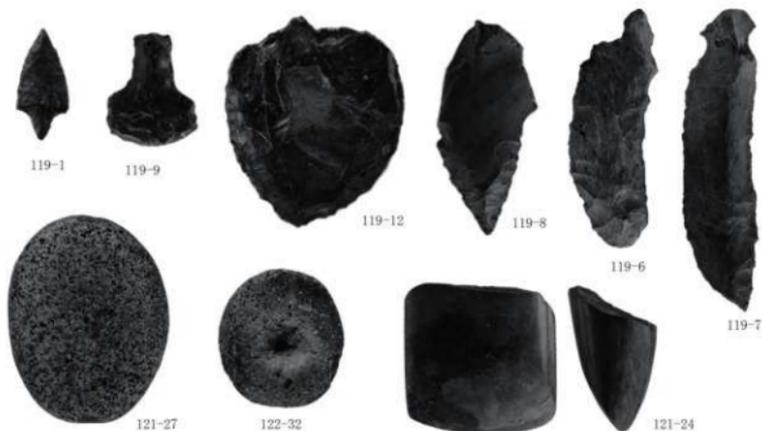
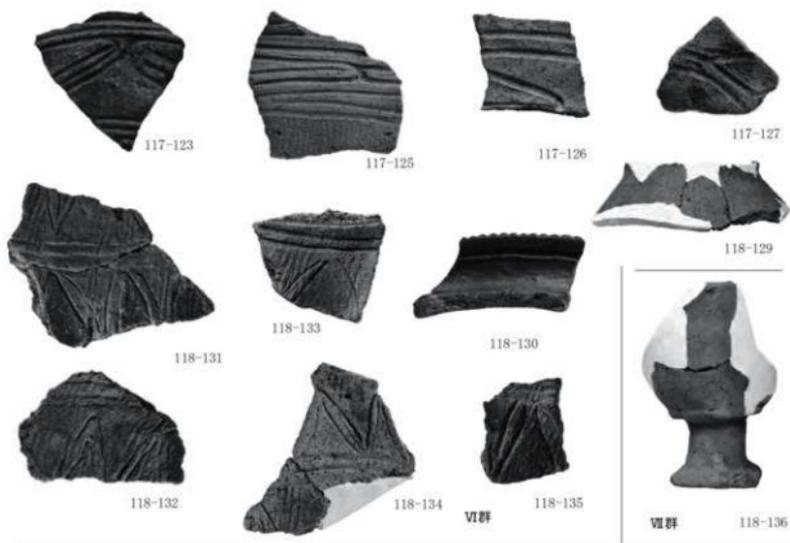


写真67 遺構外出土土器(8)・土製品・石器(1)



写真68 遺構外出土石器 (2)

報告書抄録

ふりがな	かんばらかっこにいせき
書名	神原(2)遺跡
副書名	県道小友板柳(停)線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第530集
編著者名	鈴木 和子・杉野森 淳子・秦 光次郎・成田 滋彦
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL 017-788-5701
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	2013年3月27日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
<small>かんばら</small> <small>か</small> 神原(2)遺跡	<small>あおもりけんひろのち</small> <small>あ</small> 青森県弘前市 <small>お</small> 大字小友字 <small>か</small> かんばら <small>の</small> 神原	02202	202281	世界測地系 (JGD2000)		20110512 ～ 20111026	5850	記録保存調査
				40°42'28"	140°24'00"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
神原(2)遺跡	集落	縄文	捨て場	縄文土器(早期～晩期) 土製品・石器・石製品	縄文時代前期中葉の捨て場 縄文時代中期中葉～晩期の集落
			2		
			竪穴住居跡		
竪立柱建物跡	2				
土坑	158				
溝状土坑	3				
土器埋設遺構	1				
屋外炉	3				
焼土遺構	1				
遺物集集中地点	1				
	不詳	弥生		弥生土器	
	不明	古代	溝 土坑	土師器・須恵器	
要約	<p>神原(2)遺跡は、弘前市大字小友字神原地内に所在し、岩木山の北東方約10kmに位置する。大石川と浸食谷に挟まれて東西に延びる段丘の南側斜面に立地しており、平成22年度調査区は、遺跡南端の浸食谷に面した段丘縁辺部にあたる。</p> <p>発掘調査によって、縄文時代前期から晩期にかけての竪穴住居跡や土坑などが検出された。集落の主体となる時期は、縄文時代中期前葉から後期にかけてであり、当該期には、縁辺部の緩斜面に住居、さらにその外側の縁際に土坑を配置し、丘陵縁に沿って細長く延びる集落であったことが明らかとなった。また、調査区内の2ヶ所の沢から縄文時代前期中葉の捨て場遺構が検出されたが、この時期の集落跡に関係する遺構は検出されていないため、調査区北側の台地上に存在する可能性が高い。</p> <p>古代では、丘陵縁辺部にそって延びる溝跡と土坑を検出したが、集落の存在など、様相は不明である。</p>				

青森県埋蔵文化財調査報告書 第530集

神原（2）遺跡

－県道小友板柳(停)線道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日 2013年3月27日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷 青森コロニー印刷
〒030-0943 青森県青森市幸畑字松元62-3
TEL 017-738-2021 FAX 017-738-6753
